

347
671



* 0057333000 *

0057333-000

特263-488

砲兵全書

[陸軍省]

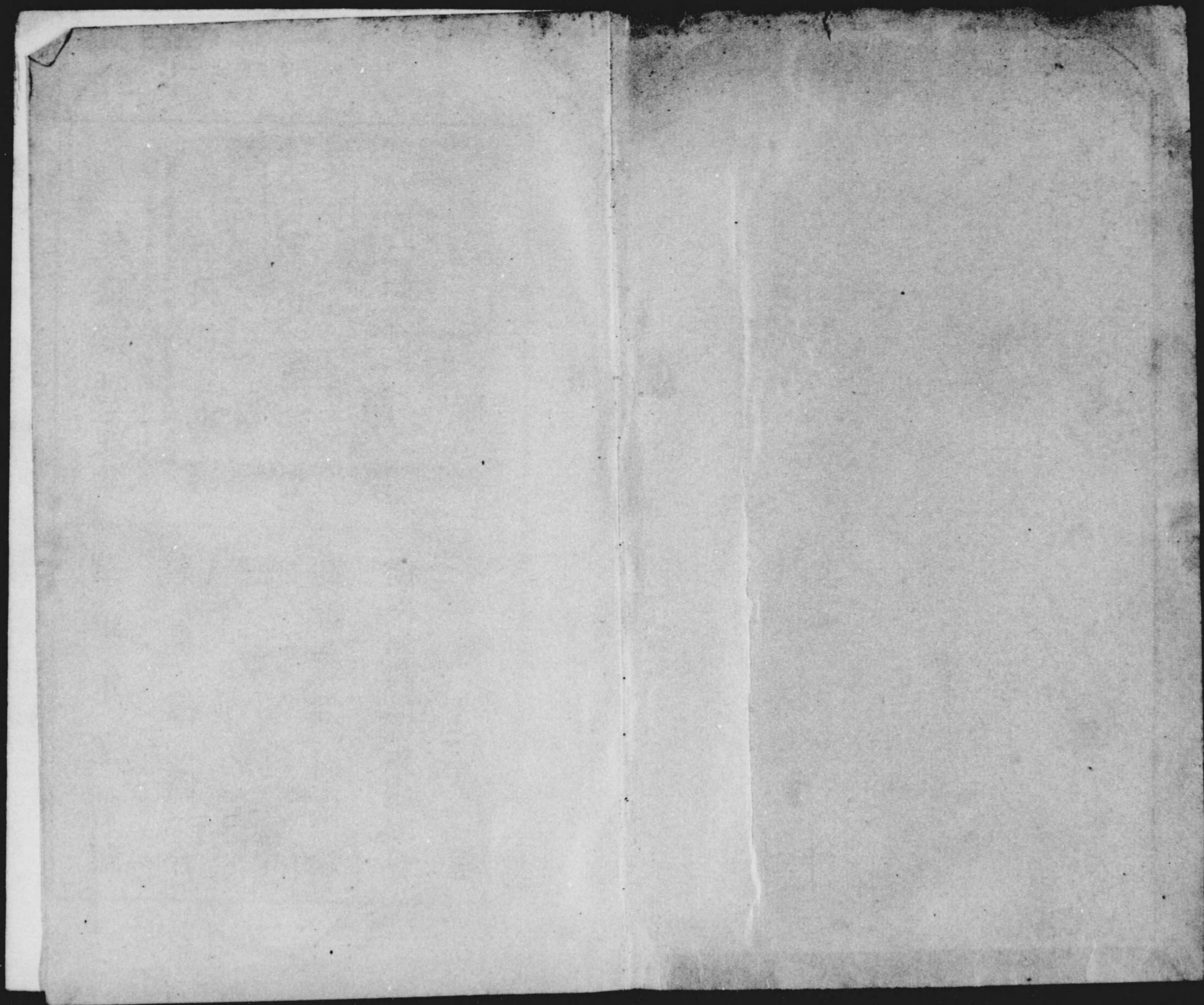
[昭和10]

AJF

347

671

新 最
式 照 對
書 全 兵 砲
出 見 項 條



特 263
488

砲	兵	全	書
砲	戰	陣	砲
兵	鬪	中	兵
射	綱	要	操
擊		務	典
教		令	
範		要	

野戰築城教範

軍隊內務書

衛戍條例、衛戍勤務令

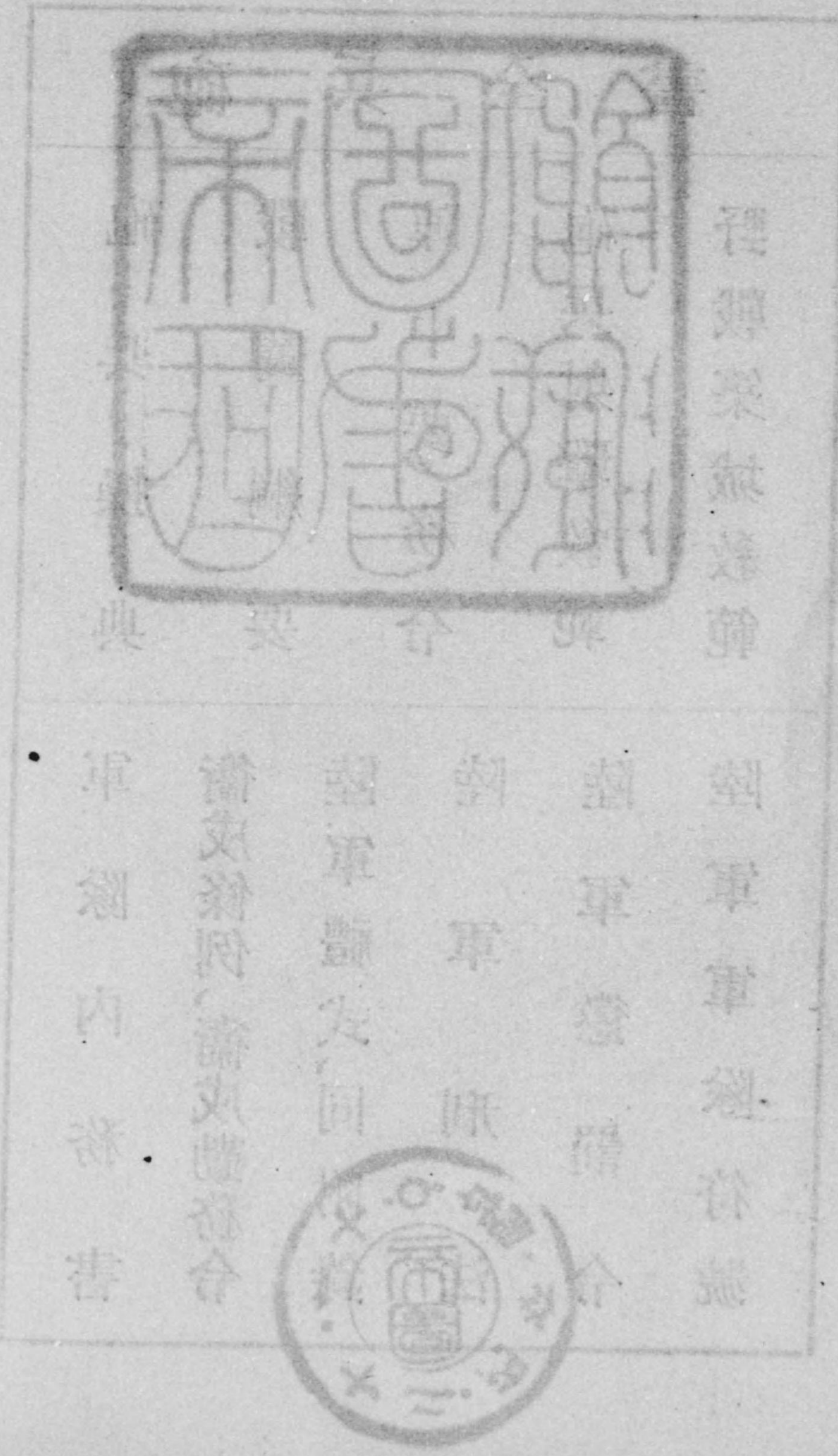
陸軍禮式、同附錄

陸軍刑

陸軍懲罰令

陸軍軍隊符號





凡例

- 一、本書中條項ノ末尾ニ在ル()内ノ數字ハ他ノ關係條項ノ番號ヲ示スモノナリ、例ヘ
 ハ第百七十ノ末尾ニ(二四六、二〇三、七一七、七九四)ト記セルハ各其數字ニ相
 當スル番號ノ條項ハ第百七十ト同様、或ハ之ニ關係アル記事ノアルコトヲ示スモノ
 トス
 - 又()内ニ數字ノミヲ記セルハ其書物自體ノ番號ナリ
 - 二、右()内ニアル數字外ノ文字ハ他ノ書物ノ略稱トス
- 例ヘ「戰一八」ハ戰國綱要「第百十八」ヲ示スカ如シ

朕砲兵操典ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名御璽

昭和四年二月六日

陸軍大臣 白川義則

軍令陸第二號

砲兵操典

砲兵操典目次

1 次 目

網領	一
總則	三
徒步教練	九
通則	九
第一章 各個教練	九
不動ノ姿勢	九
右(左)向後向	九
行進	九
第二章 中隊教練	〇
編成及隊形	二
整頓	二
右(左)向及後向	三
行進	三
方向變換	四
解散及集合	五
野戰砲兵	五
野戰砲兵	六

第一篇 分隊教練	一六
通則	一六
第一章 基本	一七
第一節 野、騎、山砲	一七
第一款 編成、隊形及分隊長以下ノ定位	一七
第二款 運動	二七
野、騎砲	三三
繫駕及脫駕	三三
下馬及乘馬	三三
行進	三三
乘車及下車	三三
放列布置及撤去	三五
山砲	三五
繫駕、脫駕、馱載及卸下	三六
行進及旋回	三九
放列布置及撤去	四一
第三款 射擊	四三
射擊用意及解除	四四

射向附與	四
彈藥及信管ノ準備	四
射角附與及信管測合	五
裝填	五
發射	五
諸元ノ變更	五
散布	五
掃射	五
表尺照準	五
諸元ノ保留及使用	五
射擊ノ中止、再興及停止	五
第二節 十五榴	五
第一款 編成、隊形及分隊長	五
(彈藥車長)以下ノ定位	五
第二款 運動	五
繫駕及脫駕	六
下馬及乘馬	六
行進	六
乘車及下車	六

放列布置及撤去	六
第三款 射擊	六
射擊用意及解除	六
裝填及照準	六
發射	六
諸元ノ變更	六
散布	六
諸元ノ保留及使用	六
射擊ノ中止、再興及停止	六
第三節 十加	六
第一款 編成及分隊長(彈藥車長)	六
以下ノ定位	六
第二款 運動	六
始動及運轉停止	六
牽引自動車ノ接續及離脫	六
行進	六
乘車及下車	六
射擊位置及途上位置	六
放列布置及撤去	六

第三款 射擊	九
射擊用意及解除	九
射向附與	九
彈藥及信管ノ準備	九
射角附與及信管測合	九
裝填	九
發射	九
諸元ノ變更	九
散布	九
掃射	九
諸元ノ保留及使用	九
射擊ノ中止、再興及停止	九
第二章 戰闘	一〇
要則	一〇
第一節 陣地占領及撤去	一〇
第二節 射擊	一〇
第三節 戰闘間兵卒一般ノ心得	一一
第二篇 中隊教練	一一
通則	一一

第一章 編成及隊形	一三
第二章 運動	一四
要則	一四
砲廠進入及退去	一五
整頓	一六
行進	一七
間隔ノ開閉、方向變換及隊形變換	一七
放列布置及撤去	一七
第三章 陣地偵察	一八
第四章 陣地占領	一八
要則	一八
第一節 射擊諸元ノ決定、敵情搜索	一八
射彈觀測及連絡ノ施設	一八
陣地進入及陣地設備	一八
第二章 射擊	一八
要則	一八
第一節 射擊操作	一八
第二節 射擊指揮	一八
第六章 陣地變換	一八

第七章 人馬、材料及彈藥ノ補充 一五一

第三篇 大隊教練 一五五

通則 一五五

第一章 集合隊形 一五五

第二章 陣地偵察 一五六

第三章 展開 一五七

第四章 射擊指揮 一六〇

第五章 陣地變換 一六〇

第六章 人馬、材料及彈藥ノ整備、補充 一六三

第四篇 聯隊及聯隊以上ノ教練 一六三

重砲兵第一篇乃至第四篇省略 一六六

戰闘原則 一六七

第一篇 野戰砲兵及攻城重砲兵 一六七

通則 一六七

第一章 軍隊區分、任務及戰闘區域 一六七

第二章 陣地偵察及展開 一六九

第三章 連絡 一七三

第四章 測地及氣象 一七九

第五章 情報 一八一

第六章 射擊指揮 一八二

第一節 射擊指揮ノ要則 一八四

第二節 各種目標ニ對スル射擊 一八四

第七章 陣地變換 一八九

第八章 人馬、材料及彈藥ノ整備、補充 一九六

附 錄

第二篇 要塞重砲兵ノ部省略 二〇〇

其一 敬禮及觀兵ノ制式並刀及喇叭ノ取扱法 二〇三

要則 二〇三

捧銃 二〇三

頭右(左) 二〇三

觀兵ノ制式 二〇三

刀及喇叭ノ取扱法 二〇三

其二 小銃ノ使用及戰闘法 二〇四

其三 拳銃ノ使用法 二〇六

其四 機關銃ノ使用法 二〇六

附 附

其五 三八式野砲ノ使用法 二三三

附 表 第一第二省略

附 圖

第一 閱兵式ノ隊形

其一 野砲兵聯隊

其二 騎砲兵大隊

其三 山砲兵聯隊

其四 野戰重砲兵(十五榴)聯隊

其五 野戰重砲兵(十加)聯隊

其六 重砲兵聯隊省略

第二分列式ノ隊形

其一 野、山砲兵聯隊及騎砲兵大隊

其二 野戰重砲兵(十五榴)聯隊

其三 野戰重砲兵(十加)聯隊

砲兵操典

綱領

第一 軍ノ主トスルトコロハ戰闘ナリ故ニ百事皆戰闘ヲ以テ基準トスヘシ而シテ戰闘一般ノ目的ハ敵ヲ壓倒殲滅シテ迅速ニ戰捷ヲ獲得スルニ在リ

第二 戰捷ノ要ハ有形無形上ノ各種戰闘要素ヲ綜合シテ敵ニ優ル威力ヲ要點ニ集中發揮セシムルニ在リ

訓練精到ニシテ必勝ノ信念堅ク軍紀至嚴ニシテ攻撃精神充溢セル軍隊ハ能ク物質的威力ヲ凌駕シテ戰捷ヲ完ウシ得ルモノトス

第三 必勝ノ信念ハ主トシテ軍ノ光輝アル歴史ニ根源シ周到ナル訓練ヲ以テ之ヲ培養シ卓越ナル指揮統帥ヲ以テ之ヲ充實ス

赫々タル傳統ヲ有スル國軍ハ愈々忠君愛國ノ精神ヲ砥礪シ益々訓練ノ精熟ヲ重ネ戰闘慘烈ノ極

所ニ至ルモ上下相信倚シ毅然トシテ必勝ノ確信ヲ持セサルヘカラス

第四 軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ戰線幾十里ニ亙リ到ル處境遇ヲ異ニシ且諸種ノ任務ヲ有スル幾萬ノ軍隊ヲシテ上將帥ヨリ下一卒ニ至ルマテ脈絡一貫克ク一定ノ方針ニ從ヒ衆心一致ノ行動ニ就カシメ得ルモノ即チ軍紀ナリ而シテ軍紀ノ要素ハ服從ニ在リ全軍ノ將卒ヲシテ至誠上長ニ服從シ其命令ヲ確守スルヲ以テ第二ノ天性ト成サシムルヲ要ス

第五 凡ソ兵戰ノ事タル獨斷ヲ要スルモノ頗ル多シ然レトモ獨斷ハ其精神ニ於テハ決シテ服從ト相反スルモノニアラス常ニ上官ノ意圖ヲ明察シ大局ヲ判斷シテ狀況ノ變化ニ應シ自ラ其目的ヲ達シ得ヘキ最良ノ方法ヲ選ビ以テ機宜ヲ制セサルヘカラス

第六 軍隊ハ常ニ攻撃精神充溢シ志氣旺盛ナラサルヘカラス

攻撃精神ハ忠君愛國ノ至誠ヨリ發スル軍人精神

ノ精華ニシテ鞏固ナル軍隊志氣ノ表徴ナリ武技之ニ依リテ精ヲ致シ教練之ニ依リテ光ヲ放チ戰鬥之ニ依リテ捷ヲ奏ス蓋シ勝敗ノ數ハ必スシモ兵力ノ多寡ニ依ラス精練ニシテ且攻撃精神ニ富メル軍隊ハ克ク寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ得ルモノナレハナリ

第七 協同一致ハ戰鬥ノ目的ヲ達スル爲極メテ重要ナリ兵種ヲ論セス上下ヲ問ハス戮力協心全軍一體ノ實ヲ舉ケ始メテ戰鬥ノ成果ヲ期シ得ヘク全般ノ情勢ヲ考察シ各々其職責ヲ重シ一任務ノ遂行ニ努力スルハ即チ協同一致ノ趣旨ニ合スルモノナリ而シテ諸兵種ノ協同ハ步兵ヲシテ其目的ヲ達成セシムルヲ主眼トシ之ヲ行フヲ本義トス

第八 戰鬥ハ輓近著シク複雑艱強ノ性質ヲ帶ヒ且資材ノ充實、補給ノ圓滑ハ必スシモ常ニ之ヲ望ムヘカラス故ニ軍隊ハ堅忍不拔克ク困苦缺乏ニ堪ヘ難局ヲ打開シ戰捷ノ一途ニ邁進スルヲ要ス

第九 敵ノ意表ニ出ツルハ機ヲ制シ勝ヲ得ルノ要道ナリ故ニ旺盛ナル企圖心ト追隨ヲ許ササル創意ト神速ナル機動トヲ以テ敵ニ臨ミ常ニ主動ノ位置ニ立チ全軍相戒メテ嚴ニ我力軍ノ企圖ヲ祕匿シ疾風迅雷敵ヲシテ之ニ對應スルノ策無カラシムルコト緊要ナリ

第十 指揮官ハ軍隊指揮ノ中樞ニシテ又其團結ノ核心ナリ故ニ常時部下ト苦樂ヲ俱ニシ率先射行軍隊ノ儀表トシテ其尊信ヲ受ケ劍電彈雨ノ間ニ立チ勇猛沈著部下ヲシテ仰キテ富嶽ノ重キヲ感セシメサルヘカラス

爲ササルト遲疑スルトハ指揮官ノ最モ戒ムヘキトコロトス是此兩者ノ軍隊ヲ危殆ニ陥ラシムルコト其方法ヲ誤ルヨリモ更ニ甚シキモノアレハナリ

第十一 砲兵ノ本領ハ威力強大ニシテ機動迅速ナル火力ニ依リ戰鬥ノ骨幹ヲ成形シテ敵ヲ壓倒震駭シ友軍ノ志氣ヲ鼓舞作興シ以テ全軍戰捷ノ途ヲ拓キ或ハ敵艦ヲ擊滅シテ其企圖ヲ破摧スル

ニ在リ

野戰砲兵及攻城重砲兵ハ他兵種特ニ步兵ト協同シ又要塞重砲兵ハ通常海軍ト協同シテ戰鬥スヘキモノトス故ニ砲兵ハ他兵種若ハ海軍ノ性能及戰鬥法ヲ熟知シ終始一心同體ノ信念ヲ以テ緊密ナル精神的連鎖ヲ確保シ協同ノ實ヲ舉ケ其本領ヲ發揮スルヲ要ス

砲兵ハ常ニ其戰鬥力ヲ充實スル爲兵器ヲ尊重シ彈藥ヲ節用シ馬匹ヲ愛護スルコト緊要ナリ

第十二 戰鬥ニ於テハ百事簡單ニシテ且精練ナルモノ能ク成功ヲ期シ得ヘシ典令ハ此趣旨ニ基キ軍隊訓練上主要ナル原則、法則及制式ヲ示スモノニシテ之カ運用ノ妙ハ人ニ存ス固ヨリ妄ニ典則ニ乖クヘカラス又之ニ拘泥スルコトナク常ニ工夫ヲ積ミ創意ニ勉メ以テ其實效ヲ揚ケサルヘカラス

總則

第一 教練ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ諸

制式及諸法則ニ習熟セシムルト同時ニ軍紀嚴正ニシテ精神鞏固ナル軍隊ヲ練成シ以テ戰鬥百般ノ要求ニ適應セシムルニ在リ

動作ノ熟達、武技ノ巧妙固ヨリ可ナリト雖精神充實セサルトキハ實戰ニ於テ其眞價ヲ發揮シ難シ故ニ教練ヲ實施スルニ方リテハ常ニ思フ實戰ニ致シ能ク軍人ノ本分ヲ自覺シ服從ノ本義ニ基キ誠意奮勵スルコト緊要ナリ

第二 中隊長以上ノ諸隊長ハ操典ヲ遵守シテ部下ヲ教育シ教練ノ目的ヲ達スヘキ責任ヲ有ス故ニ自ら適切ナル教育ノ手段、方法ヲ選定スヘシ然レトモ妄ニ細密ナル事項ヲ規定シ制式、法則ノ内容ヲ複雑ナラシムルヲ許サス

上官ハ絶エス部下教練ノ實施ヲ監督シテ其進歩ヲ圖ルヘシ之カ爲唯外形ノミニ著意スルコトナク深く其内容ヲ審ニスルコト緊要ナリ

第三 操典ノ制式及法則ニハ戰鬥ノ要求ニ從ヒ訓練ノ目的ニ應シ輕重アルノミナラス各制式、各法則中ニモ自ら主客ノ部分アリ故ニ諸隊長ハ

能ク之ヲ判別シ訓練ノ度ヲ適當ニ定メ以テ其本末ヲ誤ラサルコトニ留意セサルヘカラス

第四 戰闘ノ基礎タル諸教練ハ中隊ニ於テ之ヲ完了スルモノトス

大隊以上ニ在リテハ主トシテ諸般ノ戰況ニ於ケル統一指揮並各部隊ノ協同動作ヲ訓練スルモノトス

野戰砲兵ニ在リテハ他兵種特ニ步兵及他ノ砲兵ト、重砲兵ニ在リテハ他ノ砲兵及他兵種又ハ海軍ト連合スル教練ハ特ニ緊要ナリ故ニ勉メテ機會ヲ求メ之ヲ行フヲ要ス

第五 射撃ハ砲兵ノ爲最モ緊要ナリ故ニ之ニ關スル教練ハ特ニ留意シテ實施シ且實射ト相俟チテ其完成ヲ期スヘキモノトス

第六 砲兵ハ夜間ノ行動ニ熟達セサルヘカラス故ニ屢々夜間ノ教練ヲ行ヒ各指揮官ヲシテ困難ナル指揮掌握ニ慣レシムルト共ニ軍隊ヲシテ各種ノ狀況特ニ地形ニ於テ混雜スルコトナク靜肅且成ルヘク速ニ豫期ノ地點ニ到達シ戰闘準備ヲ

整ヘ戰闘ヲ實行シ得シムル如ク訓練スルヲ緊要トス

第七 命令、通報及報告ノ迅速確實ナル傳達ハ軍隊指揮ニ缺クヘカラサル要素ニシテ又各部隊ノ協同動作ノ爲必須ノ要件ナリ故ニ各指揮官ハ絶ニス連絡ニ深甚ナル注意ヲ拂ヒ困難ナル狀況ニ於テモ諸種ノ手段ヲ盡シテ其實施ヲ敏活且確實ナラシムル如ク演練スルヲ必要トス(陣三八乃至五九)

第八 戰場ニ在リテハ上空及地上又ハ海上ノ敵ニ對シ我カ企圖及行動ヲ秘匿スルコト特ニ緊要ナリ故ニ教練ノ實施ニ方リテハ陰影ヲ利用スル遮蔽、偽裝若ハ偽行動等ニ依リ其目的ヲ達スル如ク訓練スルヲ必要トス

第九 砲兵ハ敵ノ瓦斯攻撃ヲ受ケ或ハ撤毒地域ニ遭遇スルモ滯滞ナク戰闘ヲ遂行シ得サルヘカラス之カ爲晝夜ヲ問ハス瓦斯ニ對スル搜索、警戒及防護並防護ヲ施セル場合ノ動作ニ習熟セシムルコト緊要ナリ

第十 戰場ニ於ケル迅速確實ナル彈藥ノ補充ハ砲兵ノ戰闘力ヲ保持増進スル爲緊要ナルヲ以テ適宜此演習ヲ實施スルヲ要ス

第十一 兵器ノ取扱、保存ノ良否ハ砲兵ノ戰闘力ニ影響スルコト極メテ大ナリ故ニ幹部以下兵器ノ構造、機能ニ精通シ點檢、取扱ニ習熟シ以テ其威力ヲ發揚スルニ遺憾ナキヲ期スヘシ

第十二 馬匹ノ能力ハ野戰砲兵ノ戰闘力ニ至大ノ影響ヲ及スノミナラス兵卒教育ノ進歩ニ甚大ナル關係ヲ有ス故ニ幹部以下能ク馬匹ヲ調教保育シ且愛護ヲ加ヘ以テ必要ニ際シ其最大能力ヲ發揮セシムルヲ要ス

第十三 教練ニ際シテハ人馬、材料等ノ缺損セル場合ニ於テモ幹部及兵卒ノ適切ナル協同ト應急處置トニ依リ遺憾ナク戰闘ヲ遂行シ得ル如ク訓練スルコト緊要ナリ

第十四 教練ト共ニ諸教練ニ規定セル諸演習ヲ併セ行ヒ以テ幹部以下ヲシテ各、其本務ニ習熟セシムルヲ要ス

第十五 教練ハ順序ヲ逐ヒ簡ヨリ繁ニ入り其經過ヲ急遽ナラシムヘカラス之カ實施ニ方リテハ常ニ熱誠懇切ニシテ潑刺タル意氣ヲ以テシ且些末ノ事項ト雖苟モ軍紀ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スヘカラス

教練ノ課目ハ適當ニ之ヲ變換シ其時間及方法ハ人馬ノ能力及體力ニ適スル如ク顧慮セサルヘカラス然レトモ課目ヲ變換スルコト早キニ過キ事ヲ免ルニ在リテハ過劇ノ行動ヲ要求スルコトアルノミナラス長時間同一ノ動作ヲ連續施行スルコトアルヲ以テ教練ハ此要求ニモ應セシムルヲ緊要トス

第十六 基礎ノ教練ヲ行フニ際シテハ兵卒ニ其目的及精神ヲ説明シ其心得ヘキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ否スニハ教練ハ動モスレハ形式ニ陥リ終ニ戰闘ニ適セサルニ至ルヘシ

第十七 最初ノ教育ニ於テ生シタル弊習ハ常ニ

固著シテ之ヲ除去スルコト難シ故ニ最初ノ教育ハ特ニ綿密正確ニ之ヲ行ヒ要スレハ其動作ヲ分チ丁寧懇切ニ教育シ之ヲ會得スルニ至リ次ノ動作ニ及ヌ可トス

第十八 兵卒ノ教育ハ其能力ト體力トニ依リ手段ヲ異ニスヘキコト勿論ナリト雖要ハ巧妙ニアラスシテ熟練ニ在リ而シテ熟練ハ教育ノ懇篤適切ナルト復習ヲ厭ハサルトニ依リテ得ラルルモノトス

第十九 教練ヲ行フニハ先ツ目的ヲ定メ其實施ヲシテ之ニ副ハシメサルヘカラス就中戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ現地ニ就キ實施ノ要領ヲ攻究シ周到ナル準備ヲ整ヘ且其動作ヲシテ常ニ實戰的ナラシメ絶エズ潑刺タル企圖心ノ養成ニ留意スルコト緊要ナリ

第二十 教練ヲ行フニハ異ナリタル地形ニ於テ各種ノ動作ヲ演練スルコト緊要ナリ然レトモ實際ニ在リテハ土地ノ制限ヲ受クルコト多キヲ以テ巧ニ之ヲ利用シテ克ク教練ノ目的ヲ達スルコトニ留意セサルヘカラス

トニ留意セサルヘカラス

第二十一 想定ハ成ルヘク簡單ナル戰況ヲ基礎トシ特ニ併立シテ戰闘スル場合ヲ顧慮スルコト肝要ナリ而シテ其内容ハ教練ノ目的ニ適合シ繁簡其宜シキヲ得常ニ一定不變ノ狀況ヲ現出セシムルコトヲ避ケ教練ヲシテ模型ニ陥ラシムヘカラス

教練ノ爲ノ部隊ノ編成ハ其目的ニ適應セシムルコト必要ナリ

第二十二 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ實戰ノ光景及感想ヲ現スコトニ勉メ幹部以下ノ動作ヲシテ常ニ實戰的ナラシムルコト緊要ナリ之カ爲審判官ヲ設ケ適時ニ彼我ノ狀況特ニ射擊效力ヲ通告セシムルヲ可トス

第二十三 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ在リテハ目的ニ應シ少數ノ人馬及若干ノ擬砲火、爆包、標旗或ハ標的等ヲ以テ敵及友軍ノ狀態ヲ表ハシ又ハ實員部隊ヲ對抗セシムルヲ可トス

第二十四 戰況ヲ設ケテ行フ教練ニ方リ若動作

ノ適當ナラサルモノアラハ單ニ注意ヲ與フルニ止ムルコトナク爲シ得レハ之ヲ復行スル等各種ノ手段ヲ盡シ以テ其成果ヲ收メサルヘカラス

第二十五 砲兵ハ機能良好ナル兵器、材料ヲ以テ教練ヲ實施スルコト特ニ緊要ナリ是其機能ノ良否ハ教育ノ成果ニ影響スルコト大ナレハナリ

第二十六 幹部ハ特ニ其態度、服裝ヲ正シクシ常ニ自ラ活潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示スヘシ是幹部ノ率先躬行ハ兵卒ニ精神上多大ノ感響ヲ與フルモノナレハナリ

幹部ノ説明ニハ勉メテ平易ナル詞ヲ用フルコト必要ナリ

第二十七 教練間兵卒ハ各自各異ノ動作ヲ爲ササルヘカラサル場合多シ故ニ幹部ハ特ニ監督ヲ嚴ニシ常ニ軍紀ノ緊肅ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

第二十八 指揮官ハ教練ニ於テモ實戰ニ在リテ取ルヘキ姿勢ト位置トヲ選ヒテ部下ヲ指揮スルコトニ慣ルルコト必要ナリ

上級指揮官ハ教練上必要アルトキハ其欲スルトコロニ從ヒ姿勢ト位置トヲ選フコトヲ得又下級指揮官ニモ此ノ如キ自由ヲ許スコトアリ

第二十九 教練ニ際シ平時ノ顧慮上時トシテ實際ト異ナル處置、動作ヲ爲サシメサルヲ得サルコトアリ此場合ニ於テハ指揮官ハ要スレハ部下ニ其理由ヲ説明スヘシ又工事等ヲ實施シ得サルトキト雖其計畫ヲ立案シ且之カ準備作業ハ勉メテ之ヲ實行スヘシ

第三十 指揮官ノ意圖ハ號令若ハ命令ニ依リ告達ス

號令及命令ハ能ク部下ヲ驅リテ水火ヲモ敢テ辭セサラシムヘキモノナルヲ以テ堅確ナル決意、嚴肅ナル態度ヲ以テ下スヘシ而シテ號令ハ明快ナル音調ト適切ナル節度トヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ニシテ下達迅速ナルヲ要ス之カ爲ニハ勉メテ號令ヲ用フルヲ便トス

號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ニ於テハ豫令ト動令トノ間ニ適當ノ時間ヲ存シ且豫令ハ明瞭

ニ動令ハ最モ快活ニ發唱シ其音調ハ教練ノ種類ニ應シ長短緩急宜シキヲ得サルヘカラス操典中豫令ハ行書シテ區別ス

第三十一 指揮官ハ狀況ニ依リ記號若ハ號音ヲ以テ號令及命令ニ代ヘ又連絡ノ爲記號ヲ用フルコトアリ而シテ記號ハ手、刀、旗、火光、信號彈及音響等ヲ以テ行フモノトス

第三十二 數ニ關スル號令及報告ハ特ニ明瞭ニ發唱シ誤謬ヲ生セシメサルヲ要ス之カ爲方向及高低ノ諸分畫、信管修正分畫、信管分畫ニシテ十位數ニ續カサルモノ及十以下ニ屬スルモノハ一ツ、二ツ、三ツ、四ツ、五ツ、六ツ、七ツ、八ツ、九ツ、十ト唱ヘ其他ハ總テ一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十ト唱フモノトス

第三十三 諸教練ニ於テ車輛若ハ駄馬ト共ニ運動スル徒歩者ハ歩調ヲ取ルコトナク且歩ヲ揃フルヲ要セス

第三十四 野戰砲兵ノ諸教練ニ於テ砲手(山砲ヲ除ク)ノ背蓋ハ車輛ニ積載スルモノトス

第三十五 野戰砲兵ノ諸教練ニ於ケル間隔トハ併列セル車輛若ハ馬ノ中心ト中心トノ隔リヲ謂ヒ距離トハ先行セル車輛若ハ馬ノ後端ト後續セル車輛若ハ馬ノ前線トノ隔リヲ謂フ

第三十六 砲車ニ前車ヲ接續(山轆桿ヲ裝)シタルトキハ前後左右ノ稱呼ハ砲口ヨリ砲尾ニ面シテ之ヲ稱ヘ前車(山轆桿)ヲ離脱シタルトキハ之ニ反ス其他ノ車輛ニ在リテハ後車ノ車軸ヨリ車尾線ノ方ニ面シテ之ヲ稱フ

車輛ノ中心線ニ近キ方ヲ内方之ニ反スル方ヲ外方ト稱ス

第三十七 本操典ニ於テハ四年式十五糎榴彈砲ヲ十五糎榴、十四年式十糎加農ヲ十加、四五式二十四糎榴彈砲ヲ二十四榴、四五式十五糎加農ヲ十五加、三八式十二糎榴彈砲ヲ十二榴、三八式十糎加農ヲ三八式十加、二十八糎榴彈砲ヲ二十八榴、二十四糎加農ヲ二十四加、斯加式十二糎

速射加農ヲ十二速加ト略稱ス

第三十八 戰闘原則第一篇ニハ主トシテ野戰ニ於ケル野戰砲兵及攻城重砲兵ノ戰闘原則ヲ、第二篇ニハ要塞海正面ノ防禦ニ於ケル要塞重砲兵ノ戰闘原則ヲ記述ス

騎兵集(旅)團内ニ於ケル騎砲兵ノ戰闘ニ關シテハ本操典ニ據ルノ外主トシテ騎兵操典ニ據ルモノトス

要塞戰ニ於ケル戰闘ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外本操典ニ據ルモノトス

徒歩教練

通則

第三十九 徒歩教練ノ目的ハ特ニ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練リ諸教練ノ基礎ヲ作ルニ在リ而シテ各個教練ニ於テハ兵卒ヲ訓練シテ姿勢ヲ嚴正ニシ動作ヲ確實ナラシメ中隊教練ニ於テハ中隊ヲシテ中隊長ノ號令ニ從ヒ其意圖ノ如ク規定ノ動

作ヲ實行シ得ルニ至ラシムルヲ要ス

第四十 徒歩教練ハ教育ノ各期ニ互リ常ニ機會ヲ捉ヘテ嚴格ニ之ヲ實施シ其目的ヲ達スルコトニ勉ムルヲ要ス

第四十一 中隊教練ヲ準備スル爲若干伍、小隊ヲ以テ第二章ノ規定ニ從ヒ教練ヲ行フニハ號令中「中隊」ノ語ヲ「分隊」、「小隊」ニ換フ

第一章 各個教練

不動ノ姿勢

第四十二 不動ノ姿勢ハ軍人基本ノ姿勢ナリ故ニ常ニ軍人精神内ニ充溢シ外嚴肅端正ナラサルヘカラス

不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

氣ヲ著ケ

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝ハ凝ラスシテ之ヲ伸ハシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ脊ヲ伸ハ

シ且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍々後ロニ引キ一様ニ之ヲ下ケ兩臂ハ自然ニ垂レ掌ヲ股ニ接シ指ハ輕ク伸ハシテ之ヲ竝ヘ中指ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ頸及頭ヲ眞直ニ保チ口ヲ閉チ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前ノ方ヲ直視ス

廻はれ 右
右足ヲ其方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ケ兩踵ニテ後ロニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

行進

第四十三 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
先ツ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其場ニ立チテ休憩ス
休憩中ト雖許可ナク話スコトヲ禁ス

第四十六 行進ハ勇往邁進ノ氣概アルヲ要ス
第四十七 速歩ノ一步ノ長サハ踵ヨリ踵マテ七十五糎ヲ、其速度ハ一分時間ニ百十四歩ヲ基準トス
速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向及後向

第四十四 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)向け 右(左)
左足尖ト右足トヲ少シク上ケ左踵ニテ九十度右(左)ニ向キ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線上ニ揃フ
第四十五 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左股ヲ少シク上ケ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五糎ノ所ニ脚ヲ伸ハシツツ踏ミ著ケ同時ニ概ネ臍ヲ伸ハシ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著クルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ示セル如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケ行進ヲ續ケ頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル

第四十八 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分隊 止レ
後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止ル

ニテ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス
再ヒ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向け前へ進メ

第四十九 行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)向け前へ 進メ
左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

第五十二 駈歩ハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マテ約八十五糎トシ其速度ハ一分時間ニ約百七十歩トス
駈步行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩調取レ

第五十 行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
廻はれ右前へ 進メ
左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋回シ續キテ行進ス
第五十一 速步行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
歩調止メ
正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度ト

豫令ニテ右手ヲ握リ腰ノ高サニ上ケ肘ヲ後ロニスルト共ニ左手ニテ劍韜ヲ握ル
動令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其法兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ケ右足ヨリ約八十五糎ノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ兩臂ヲ自然ニ振り續キテ行進ス
「分隊 止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ右手ヲ下ロスト共ニ劍韜ヲ放ツ

(左)ノ眼ヲ以テ其右(左)隣兵ヲ視他ノ眼ヲ以テ全線ヲ視通スコトヲ得ルモノトス
 兵卒整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要トス特ニ足ノ位置正シカラサルトキハ之カ爲兩肩整頓線ニ在ラスシテ其害自己ニ止ラス必ス隣兵ニ及フモノトス
第五十八 横隊ニ在ル中隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 嚮導何歩前へ
 各小隊ノ翼下士ハ前進シ中隊長ハ其位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス
 右(左)へ 準へ
 直レ
 「準へ」ノ動令ニテ中隊ハ前進シ最後ノ一步ヲ縮メテ整頓線ノ少シク後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻ハシ小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就ク但翼下士及前後列兵ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張り後列及押伍列ニ在ル者ハ先ツ正シク前方ノ兵卒ニ重

リテ距離ヲ取り次ニ右(左)ノ方ニ整頓ス
 整頓翼ノ下士ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ下士ヲ目標トシ先ツ己ニ近キ二、三兵卒ノ位置ヲ正シ要スレハ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ下士ハ要スレハ己ニ近キ二、三兵卒ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ補助ス
 「直レ」ノ號令ニテ中隊ハ頭ヲ正面ニ復シ翼下士及前後列兵ハ左手ヲ下ロス
 其位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)へ 準へ、直レ」ノ號令ヲ下ス
 右(左)向及後向
第五十九 横隊ニ在ル中隊右(左)向ヲ爲セハ偶數兵(奇數兵)ハ奇數兵(偶數兵)ノ右(左)ニ出テ伍ヲ組ミ四兵卒相列ヒ小隊長、翼下士及押伍列ニ在ル者ハ各、其位置ニ在リテ右(左)向ヲ爲シ第五十六ニ定メタル位置ニ就キ側面縱隊トナル
 側面縱隊ニ在ル中隊左(右)向ヲ爲セハ伍ヲ解キ小隊長、翼下士及押伍列ニ在ル者ハ各、其位置

ニ在リテ左(右)向ヲ爲シ第五十五ニ定メタル位置ニ就キ横隊トナリ各自右(左)ノ方ニ整頓ス
第六十 横隊ニ在ル中隊後向ヲ爲セハ翼下士及缺伍ハ前列ニ就ク
 行進
第六十一 行進ハ側面縱隊ニ於テノミ之ヲ行ヒ先頭ニ在ル下士ヲ嚮導トス
 中隊長ハ號令ヲ下スニ先ダチ要スレハ嚮導ノ行進目標ヲ示スモノトス
 中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ眞直若ハ示サレタル目標ニ向ヒ行進シ舊正面ノ方ニ在ル兵卒及下士ハ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ其他ノ兵卒及押伍列ニ在ル者ハ舊正面ノ方ニ準ヒ前方ノ者ニ重リテ行進ス
 若距離ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ恢復ス
 足踏ヲ爲スニハ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交、兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ルモノトス

若歩ノ違ヒタルトキハ踏替ヲ爲ス踏替ヲ爲スニハ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著ケ前ノ足ヨリ行進ス
 駈歩ニ在リテハ片足ニテ二步行進ス足踏間ニ在リテハ駈歩間ノ方法ニ準ス
第六十二 「步調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リテハ必スシモ歩ヲ揃フルヲ要セス
第六十三 中隊ヲ停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 中隊 止レ
 中隊ハ停止シ動クコトナシ
第六十四 側面縱隊ニ在リテ行進シアル中隊ヲ止メ直ニ側面ニ向ヒ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 左(右)向け 止レ
 中隊ハ停止シ第五十九ニ從ヒ横隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス
 方向變換
第六十五 側面縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左

ノ號令ヲ下ス

伍々左(右)へ 進メ

先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ニ在ル兵卒ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル兵卒ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

解散及集合

第六十六 中隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解レ

第六十七 中隊ヲ集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

集レ

第一小隊ノ右翼下士ハ速ニ中隊長ノ前ニ來リ中隊ハ其左方ニ横隊トナリ各兵卒ハ番號ノ順序ニ從ヒ整頓ス

野戰砲兵

第一篇 分隊教練

通則

第六十八 分隊教練ノ目的ハ分隊長以下ヲ訓練シテ如何ナル狀況ニ於テモ互ニ相一致シ毫モ滯ナク確實敏活ニ動作シ得ルニ至ラシメ以テ中隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルニ在リ

第六十九 分隊教練ハ先ツ主トシテ兵卒ニ對シ基本ノ動作ヲ教育シ其進歩ニ伴ヒ分隊長以下ヲシテ各種ノ狀況ニ應スル動作ニ習熟セシムルモノトス

兵卒ニ對シテハ先ツ馭者(自動車手)ト砲手トノ動作ヲ各別ニ教育シ其連繫ヲ要スルモノハ適宜之ヲ合シテ教育スルモノトス

第七十 運動ハ先ツ平易ナル地形ニ於テ基礎ノ動作ヲ教育シ漸次各種ノ狀況特ニ地形ニ於テ演練シ且野、騎、山砲及十五榴ニ在リテハ馬ノ能

力ヲ發達増進セシムルヲ要ス
射撃ハ先ツ部分的ニ教育シテ操作ノ正確ヲ圖リ漸次之ヲ綜合シ且適宜各種ノ狀況特ニ地形ニ於テ演練スルヲ要ス

第七十一 夜間ノ教練ハ基本ノ教練ノ時期ヨリ之ヲ實施シ特ニ不齊地ノ行進、放列布置及撤去ニ於ケル馭者(自動車手)及砲手ノ連繫、射撃間ニ於ケル砲手ノ協同動作並分隊長ノ部下ノ掌握ニ習熟セシメ分隊長以下ヲシテ確實靜肅ニ動作シ得ルニ至ラシムルヲ要ス

第七十二 放列ニ在ル者ハ其操作ニ便ナル低キ姿勢(此姿勢ヲ折敷ト謂フ)ヲ取ル之ヲ起タシムルニハ「起テ」ト令シ再ヒ折敷ヲ爲サシムルニハ「折敷」ト令ス

射撃操作中位置ノ移動ハ勉メテ迅速ナルヲ要ス而シテ操作終レハ定位ニ就ク
第七十三 分隊長及砲側ニ位置スル砲手ハ其耳ヲ保護スル爲射撃開始ニ先タチ綿ヲ寬ク耳孔ニ裝ス(重分五〇六)

第一章 基本

第一節 野、騎、山砲

第一款 編成、隊形及分隊長以下ノ定位

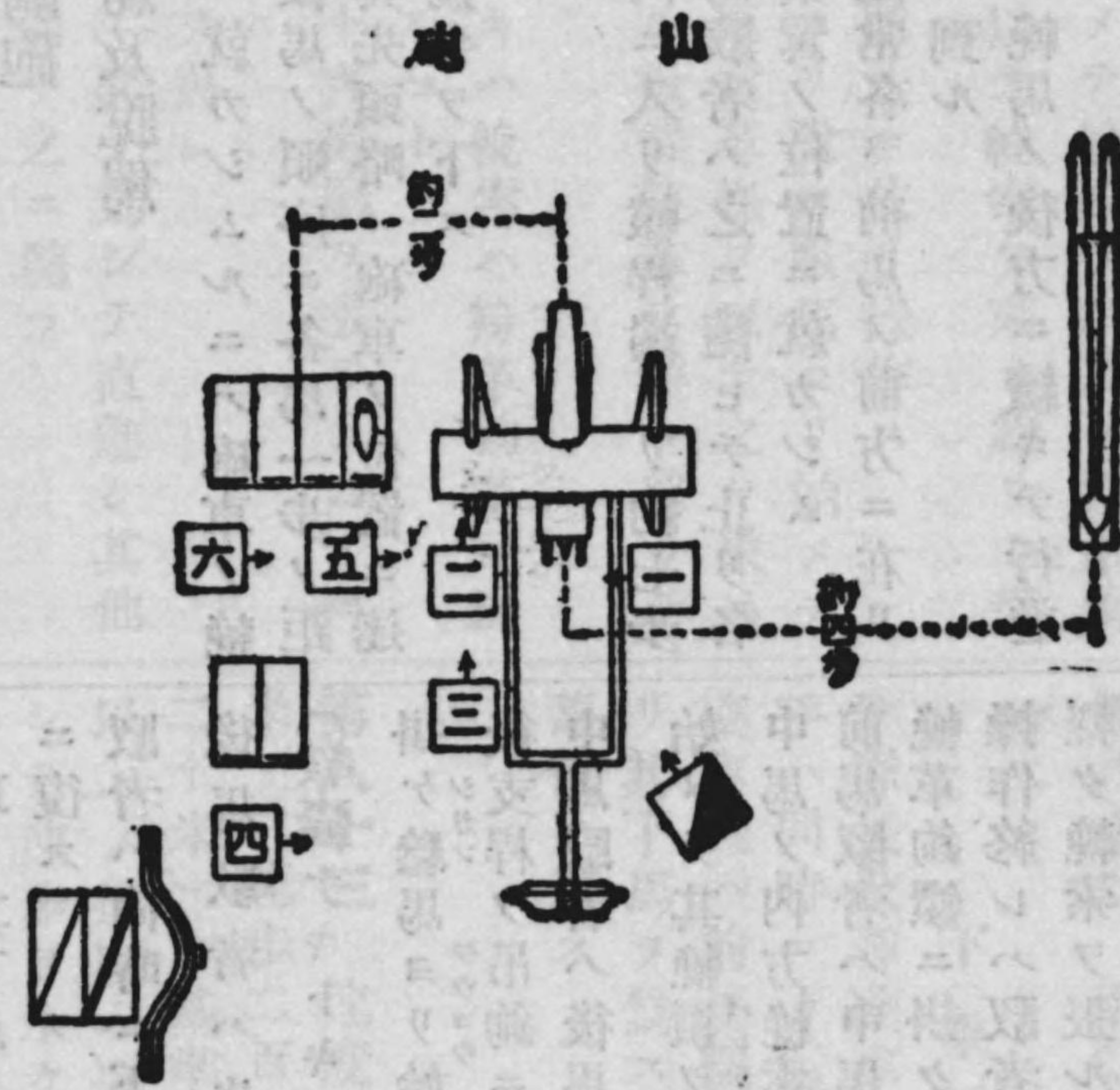
第七十四 野、騎砲ノ砲手ニハ一番ヨリ九番(砲十一番)ニ至ル番號ヲ附シ騎砲ノ八番乃至十

一番ヲ手馬兵ト謂フ又馭者ニハ前、中、後馬馭者、輓馬ニハ前、中、後馬ノ名稱ヲ附シ且馭者ノ乗ル馬ヲ服馬ト謂ヒ其手馬ヲ驂馬ト謂フ

山砲ノ砲手ニハ一番ヨリ十番ニ至ル番號ヲ附シ馭者ニハ輪、大架、搖架、托架、砲、防楯、第一乃至第五彈藥馬馭者、馭馬ニハ輪、大架、搖架、托架、砲、防楯、第一乃至第五彈藥馬ノ名稱ヲ附ス

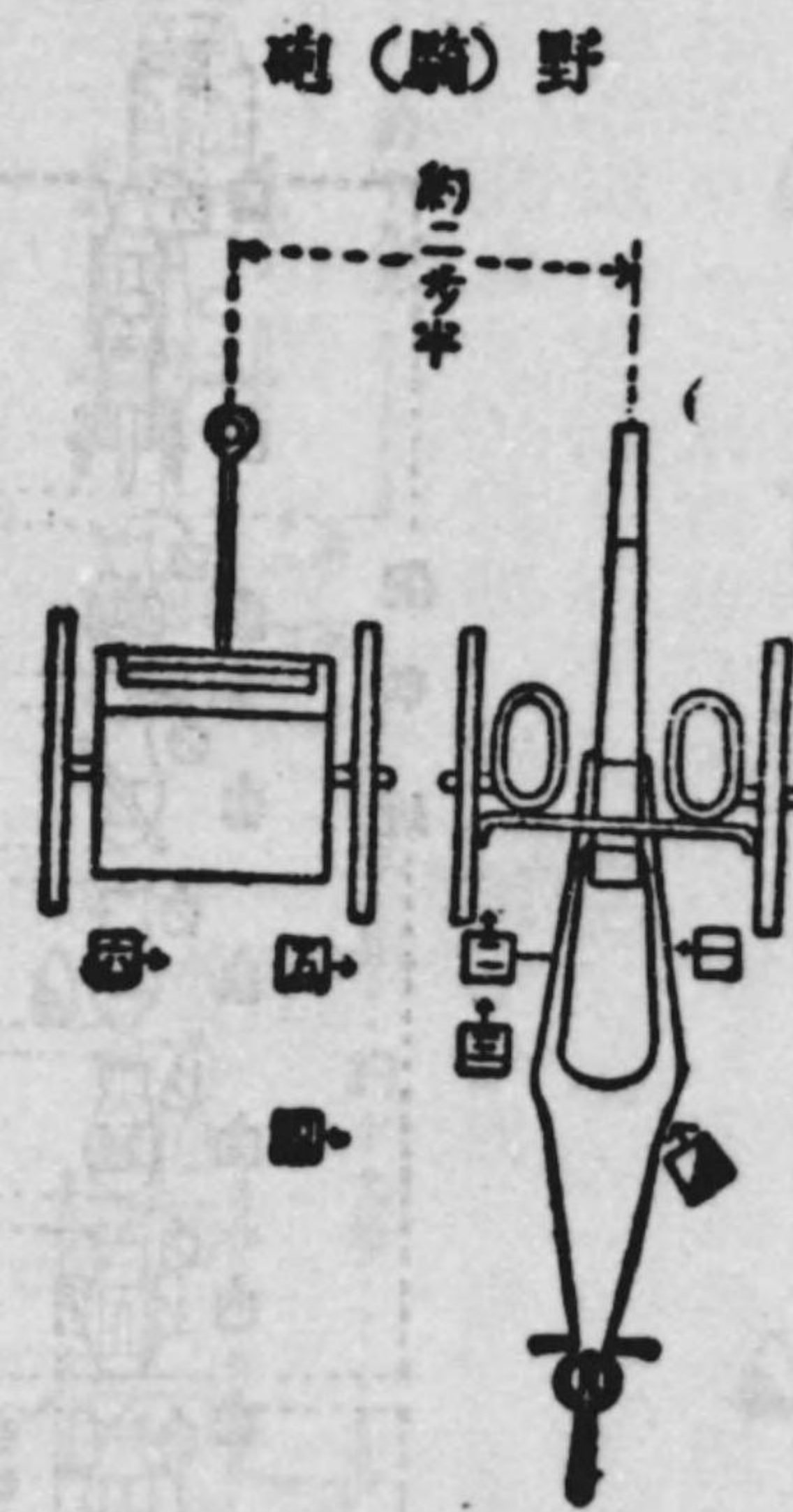
第七十五 分隊ノ隊形第二乃至第六圖ノ如シ

圖 八 第



諸 註
 第一器具箱
 第二器具箱
 (蓋板ヲ後方ニシタル彈藥箱)

圖 七 第



分隊長

第七十六 山砲ノ繫駕及馱載ノ隊形ニ於テ要スレハ砲手及馱者ヲ馱馬ノ右側又ハ前方ニ或ハ砲手ヲ砲車ノ後方ニ位置セシムルコトアリ又繫駕ニ於テハ砲車ヲ輓曳スル馬ヲ交換シ砲車ニ二馬ヲ繫架シ又ハ砲身或ハ砲身及砲身托架ヲ馱載ス

ルコトアリ
 第七十七 放列ニ於ケル彈藥車ノ後車 (山砲藥箱其他ノ材料) 及分隊長以下ノ定位第七、第八圖ノ如シ

第二款 運動

野、騎砲

繫駕及脱駕

第七十八 馬ヲ砲廠ニ就カシムルニハ砲車ノ轆馬ヲ先ニシ前、中、後馬ノ順序ニ各馬一步ノ距離ヲ以テ砲廠ニ導キ其先頭略、砲車ノ位置ニ達セントスルトキ左ノ號令ヲ下ス

砲廠ニ就ケ

前馬馭者ハ轆桿ノ方向ニ入り轆桿端ヨリ約七歩ヲ隔テテ止リ中、後馬馭者ハ之ニ隨ヒテ止リ各馭者ハ其馬ヲ後退シ繫駕ノ位置ニ就カシム分隊長及彈藥車長ハ通常各、前馬ノ前方ニ在リテ行進シ次テ其左側ニ到ル

騎砲ノ砲手ハ其車輛ノ轆馬ノ後方ニ續キテ行進シ車輛ノ後方ニ到ル
第七十九 繫駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
馬ヲ繫ケ

分隊長及彈藥車長ハ前馬馭者ヨリ必要ナル間隔ヲ取り其下馬ヲ容易ナラシメ馭者乘馬セハ舊位ニ復ス

馭者ハ同時ニ下馬ス

後馬馭者ハ先ツ提轆革ヲ服馬鞍ノ縛囊革條(鞍囊ナキトキハ鞍囊駐轆)ニ結ヒ轆鏈ヲ擔鉤ニ掛ケ驂馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ服馬鈎ニ掛ケ然ル後支桿ヲ吊鉤ニ掛ケ

中馬馭者ハ後馬馭者轆鏈ヲ掛ケ終レハ驂馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ後馬ノ轆革鈎鎖ニ掛ク而シテ中馬ノ内方轆索ハ轆鏈ノ上ヲ通過セシム
前馬馭者ハ中馬馭者ト同法ニ依リ轆鎖ヲ中馬ノ轆革鈎鎖ニ掛ク
操作終レハ馭者ハ同時ニ乘馬シ馬ノ位置ヲ正シ輕ク轆索ヲ張ル

第八十 脱駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
馬ヲ解ケ

下馬及乘馬

第八十二 下(乘)馬セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
下(乘)馬

分隊長及彈藥車長ハ下(乘)馬シ馭者及騎砲ノ砲手ハ同時ニ下(乘)馬ス但下馬ニ際シ分隊長及彈藥車長ハ前馬馭者ヨリ、騎砲ノ砲手ハ手馬兵ヨリ其下馬ヲ爲スニ必要ナル間隔ヲ取り乘馬セハ舊位ニ復ス

行進

第八十三 速度ハ一分間ニ常歩八十六米(騎百二十米)、速歩二百二十米、駈歩三百十米(騎三百二十米)ヲ基準トス
以上ノ速度ハ要スレハ之ヲ伸縮スルコトヲ得而シテ速歩ヲ永ク持續スルトキハ其速度ヲ約百九十米ニ縮ムルヲ可トス
第八十四 常(速)歩ニテ直行進ヲ起サシムルニ

分隊長及彈藥車長ハ第七十九ニ準シ動作ス

馭者ハ同時ニ下馬ス

前馬馭者ハ服馬ヨリ始メテ轆鎖ヲ中馬ノ轆革鈎鎖ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ轆索ヲ束ネ終リテ乘馬ス

中馬馭者ハ前馬馭者ト同法ニ依リ操作ス
後馬馭者ハ支桿ヲ吊鉤ヨリ脱シ服馬ヨリ始メテ轆鎖ヲ服馬鈎ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ之ヲ束ネ擔鉤ヨリ轆鏈ヲ脱シタル後提轆革ヲ解キ終リテ乘馬ス

後馬ノミヲ脱駕スルトキハ轆索ハ袴革鈎革ニ掛ケ支桿ハ吊鉤ヨリ脱スルコトナシ

第八十一 脱駕シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)ハ砲廠ヲ去レ

砲車ノ前馬馭者ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ馭者ハ一步ノ距離ヲ保チ之ニ隨フ
分隊長、彈藥車長及騎砲ノ砲手ハ第七十八ノ要領ニ依リ行進ス

ハ左ノ號令ヲ下ス

前(速歩) 進メ

分隊長ハ正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進シ彈藥車長ハ分隊長ニ隨ヒ同時ニ前進ス前馬馭者ハ分隊長又ハ彈藥車長ニ準ヒ中、後馬馭者ハ前方ノ馭者ニ重リ同時ニ前進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度ヲ伸ハシ速歩ニ移ル

第八十五 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊 止レ

分隊長及彈藥車長ハ漸次ニ停止ス後馬馭者ハ漸次ニ控制シテ車輛ヲ止メ前、中馬馭者ハ後馬馭者ノ控制ト相俟チテ漸次ニ停止ス但前馬馭者ハ分隊長又ハ彈藥車長ニ準ヒテ止ル

第八十六

歩度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

常(速)(駢)歩 進メ

漸次ニ所命ノ歩度ニ移ル

第八十七 常(速)(駢)歩行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

ムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩度ヲ伸ハセ

或ハ

歩度ヲ縮メ

徐ロニ速度ヲ伸ハシ或ハ縮ム

正規ノ歩度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

常(速)(駢)歩 進メ

徐ロニ正規ノ速度ニ復ス

第八十八 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 進メ

砲車ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ彈藥車ハ之ニ隨フ右(左)向ニ際シ前馬馭者ハ其内方馬ヲ歩度ノ基準トシ約十五歩ノ半徑ヲ以テ弧ヲ畫カシム中、後馬馭者ハ各馬協同輓曳ヲ爲シ得ル如ク輪線上ヲ通過ス

第八十九 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪に左へ 進メ

第八十八ノ要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ續キテ直進ス

此運動ハ駢歩ヲ以テ行フコトナシ

第九十 制轉機ヲ使用スルニハ五番及九番(砲)四番及七番)ハ轉把ヲ廻ハシテ之ヲ緊メ又ハ緩ム

第九十一 野砲ノ駐鋤ハ不齊地ヲ通過セントスルトキ上ケシムルモノトス

駐鋤ヲ上(下)クルニハ後馬馭者ハ提轅革ノ提把ヲ執リ轅桿ヲ上ケ四番「宜シ」ト唱フレハ之ヲ放ツ

四番ハ鋼鈕ヲ抽キ照準棍樞軸轉把ヲ廻ハシ三番ハ吊桿ヲ樞軸ヨリ脱シ共ニ架尾銀ヲ鋼鈕ヨリ脱シ駐鋤ヲ上(下)方ニ廻ハシ架尾銀ヲ鋼鈕ニ嵌メ四番ハ鋼鈕ヲ挿シ「宜シ」ト唱ヘ次テ三番ハ吊桿ヲ樞軸ニ嵌メ四番ハ駐鋤ヲ照準棍樞軸轉把ニ掛ク

乗車及下車

第九十二 野砲ノ乗車及下車ハ停止間ニ於テ行フモノトス要スレハ常歩行進間ニ於テモ之ヲ行フコトアリ

第九十三 乗車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

乗車

砲手ハ銃劍ヲ體ノ前方ニ致シ乗車ノ定位ニ就キ砲車ノ前車竝彈藥車ニ乗レル砲手中外側ニ位置スル者ハ各、外方ノ手ニテ倚欄ヲ握リ各砲手ハ互ニ臂ヲ組ム又一番及二番ハ外方ノ手ニテ倚欄ヲ、内方ノ手ニテ搖架握把ヲ握ル

第九十四 下車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

下車

砲手ハ下車ノ定位ニ就テ銃劍ヲ舊ニ復ス

第九十五 放列布置及撤去

放列布置ハ豫メ射擊用意ヲ爲サシメタル後之ヲ行フ

第九十六 前車ノ運動ハ特ニ指示ナキトキハ放
列布置ノ場合ニ於テハ其際探リアル歩度(駈歩
ニテ放列ヲ布置スルトキハ速歩)撤去ノ場合ニ
於テハ速歩ヲ以テ行フ
放列布置ノ號令アルトキ行進間ニ在リテハ砲車
ハ分隊長ノ指示ニ依リ停止シ彈藥車ハ現在ノ步
度(停止ヨリ放列ヲ布置スルトキハ常歩)ヲ以テ
右放列ニ在リテハ砲車ノ左側、左放列ニ在リテ
ハ砲車ノ右側ニ到ル
馭者乘馬ヲ牽クトキハ乘馬ノ小勒韁ヲ服馬ノ韁
ト共ニ左手ニ執リ之ヲ服馬ノ左側ニ馭ス
騎砲ノ手馬兵手馬ヲ導クニハ前項ニ準シ之ヲ兩
側ニ並ヘテ馭ス
第九十七 放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號令ヲ
下ス
右(左)擊方 放列
分隊長ハ砲車ヲ概ネ其占ムヘキ位置ニ止ラシメ
大勒韁ヲ前橋ニ掛ケ小勒韁ヲ前馬馭者ニ授ケテ
下馬シ砲車ヲ其位置ニ導ク

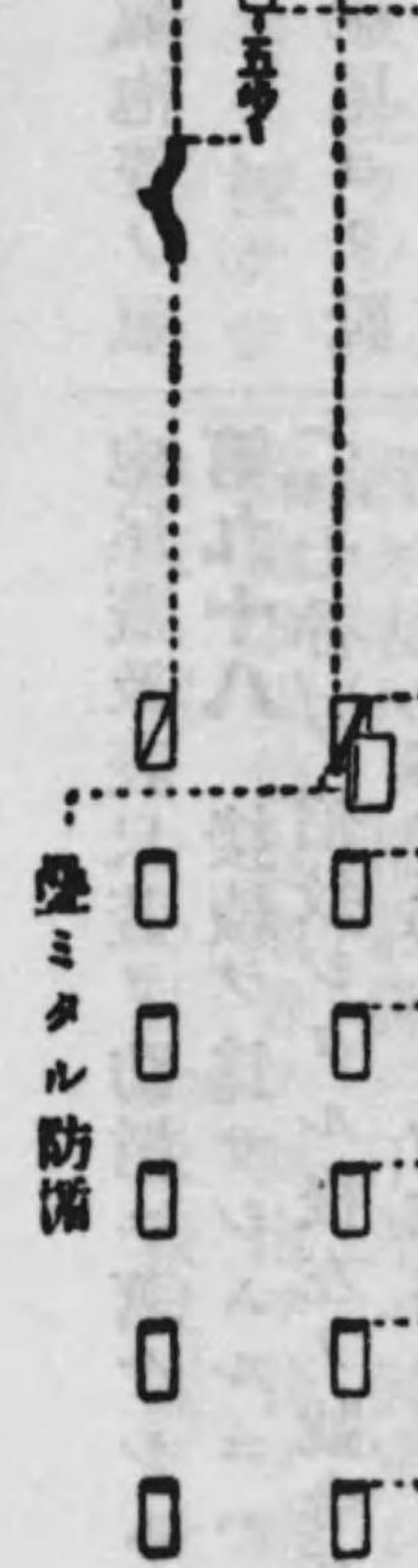
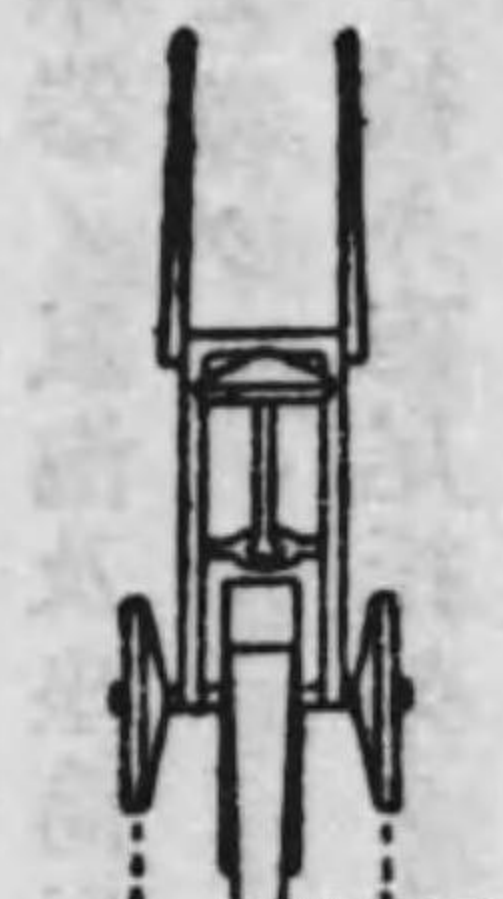
野砲ノ砲手乘車シアルトキハ下車ス
騎砲ノ一番乃至七番ハ大勒韁ヲ前橋ニ掛ケ小
勒韁ヲ同列ノ手馬兵ニ渡シ各々斜前方ニ飛ヒ下
後馬馭者ハ提轆革ノ提把ヲ執リ轆桿ヲ上ケ四番
又ハ九番(砲四番又ハ七番)「宜シ」ト唱フレハ
之ヲ放ツ
一番及二番ハ輻ヲ執ル四番ハ鋼鈕栓ヲ抽キ三番
ト共ニ架尾鑽ヲ鋼鈕ヨリ脱シ鋼鈕栓ヲ挿シ「宜
シ」ト唱ヘ一番及二番ト共ニ砲車ヲ左(右)ニ廻
ハシテ砲口ヲ右(左)方ニ向ハシメ分隊長ノ示ス
位置ニ砲車ヲ置ク
一番ハ野砲ニ在リテハ下方防楯ヲ下ロシ砲尾蓋
ヲ脱シテ己ノ傍ニ置キ騎砲ニ在リテハ砲尾蓋ヲ
脱シテ己ノ傍ニ置キ表尺ヲ三千米ニ裝定ス
二番ハ野砲ニ在リテハ表尺蓋ヲ脱シテ己ノ傍ニ
置キ表尺ヲ榴霰彈三千米ニ裝定シ高低水準器ノ
氣泡及坐筒氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導キ
騎砲ニ在リテハ駐鉤及表尺蓋ヲ脱シ表尺蓋ヲ己

ノ傍ニ置キ高低水準器ノ氣泡及坐筒氣泡管ノ氣
泡ヲ管ノ略、中央ニ導ク
野砲ノ三番ハ駐鉤ヲ抽キ砲尾托架ヲ砲尾ヨリ脱
シ大架側板ニ裝著ス
四番ハ照準棍ヲ起ス
六番及七番(砲五番)ハ彈藥車ノ後車ノ輻ヲ執
ル九番(砲七番)ハ鋼鈕栓ヲ抽キ八番(砲六番)ト
共ニ車尾鑽ヲ鋼鈕ヨリ脱シ鋼鈕栓ヲ挿シ「宜
シ」ト唱ヘ六番及七番(砲五番)ト共ニ彈藥車
ノ後車ヲ定位ニ置キ六番ハ通常彈藥匣二箇ヲ
出シ壓板ヲ開キ探出ニ便ナル如ク彈藥ヲ整フ
七番乃至九番(砲七番)ハ特ニ指示ナキトキハ操
作終ルヤ彈藥車ノ前車ノ位置ニ到リ其後方ニ位
置ス
彈藥車長ハ前車ノ離脱終ルヤ分隊長ノ前車ヲ導キ
所命ノ地點ニ到ル
騎砲ノ手馬兵ハ各々其前車ノ後方ニ續キテ行進
分隊長ハ放列布置ノ後操作ニ妨ナキトキニ於テ

砲尾蓋及表尺蓋ヲ防楯ニ著ケシム
第九十八 接續ヲ爲サシムルニハ七番乃至九番
(砲七番)ヲ招致シタル後左ノ號令ヲ下ス
右(左)へ 前車掛ケ
彈藥車長ハ分隊長ノ前車ヲ放列ニ導ク
砲車(彈藥車)ノ前車ハ左(右)ヨリ概ネ架尾鑽ト
車尾鑽トヲ連ヌル線ニ沿ヒテ進ミ其車輪ノ後端
架尾鑽(車尾鑽)ヨリ右(左)方約三步ヲ隔テテ止
リ得ル如ク後馬馭者ハ「宜シ」ト唱ヘテ停止ス彈
藥車(砲車)ノ前車ハ砲車(彈藥車)ノ前車ノ右
(左)側ニ出テ砲車(彈藥車)ノ前車ノ要領ニ依リ
停止ス
騎砲ノ後馬馭者ハ提轆革ノ提把ヲ執リ轆桿ヲ上
ケ四番「宜シ」ト唱フレハ之ヲ放ツ
一番ハ砲尾蓋ヲ裝シ(野)下方防楯ヲ上ケ)輻ヲ
執リ二番ハ表尺蓋ヲ裝シ野砲ニ在リテハ砲尾托
架ヲ砲尾ニ鉤シ駐鉤ヲ挿シ、騎砲ニ在リテハ砲
尾ヲ下ケ駐鉤ヲ搖架ニ掛ケ然ル後輻ヲ執ル
野砲ノ三番ハ砲尾托架ヲ大架側板ヨリ脱ス

四番ハ照準棍ヲ伏セ三番ト共ニ砲架ニ接シテ位置ス
 六番及七番(砲五番)ハ輻ヲ、八番及九番(砲六番及七番)ハ箭材ヲ執リ彈藥車ノ後車ヲ左ニ廻
 ハシ箭材ヲ後方ニ向ケ箭材ニ接シテ位置ス
 前車來ルヤ三番及四番ハ架尾ヲ執リ一番及二番ト共ニ砲車ヲ斜後方ニ下ケ其前車ニ導キ四番ハ鋼鈕栓ヲ抽キ一番及二番ト共ニ架尾環ヲ鋼鈕ニ嵌メ鋼鈕栓ヲ挿シ「宜シ」ト唱フ八番及九番(砲六番及七番)ハ箭材ヲ執リ六番及七番(砲五番)ト共ニ砲車ノ要領ニ依リ彈藥車ノ後車ヲ其前車ニ接續ス
 接續終ルヤ砲手ハ下車ノ定位ニ就ク
 分隊長ハ乘馬ス

第九圖



騎砲ニ在リテハ手馬兵ハ各々其前車ノ後方ニ續キテ行進シ車輛ノ後方ニ到リ砲手ハ乘馬ス
 分隊長ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル

山砲

第九十九 教練ヲ行フニ先タチ砲車ニハ輻桿ヲ裝シ支桿駐栓ヲ挿シ洗桿ヲ砲腔ニ挿シ軸駐楔ヲ「脱」字ニ反スル方ニ廻ハシテ鉤ヲ掛ケ安全栓ヲ安全ノ位置ニ置キ拉繩ヲ握把ニ掛ケ砲口蓋ハウビオホヒヘウシヤクオホヒワウリヤウオホヒ砲尾蓋 表尺蓋及橫梁被ヲ裝シ發射坐及照準坐ヲ内方ニ倒シ後砲架ヲ前砲架ノ上ニ載セ搖架ノ下面ヲ略々前砲架ノ方向ニ一致セシメ搖架轉把及高低照準機轉把ハ轉把駐革ヲ以テ縛ル而シテ材料ノ配置第九圖ノ如シ

繫駕、脱駕、駄載及卸下
 第一百 繫駕、脱駕、駄載及卸下ハ停止間ニ於テ行フモノトス
 駄載及卸下ノ操作間砲車班ノ砲手ハ背蓋ヲ卸シ操作終レハ之ヲ負フ
 繫駕及駄載ニ際シ操作ニ關係アル馭者ハ操作ニ便ナル如ク鉤輪索及諸革條ノ準備ヲ爲シ馬ニ面シテ韁ヲ兩手ニ執リ馬頭ヲ僅ニ高メ兩脚ヲ適度ニ開キテ馬ヲ保持シ要スレハ砲手ノ操作ヲ補助ス
 脱駕及卸下ニ於ケル馭者ノ操作モ亦前項ニ準ス
 第一百一 馬ヲ砲廠ニ就カシムニハ輪、大架、搖架、托架、砲、防楯、第一乃至第五彈藥馬ノ順序ニ各馬一步ノ距離ヲ以テ砲廠ニ導キ其先頭略々材料ノ位置ニ達セントスルトキ左ノ號令ヲ下ス
 砲廠ニ就ケ
 輪馬馭者ハ其馬ヲ轅桿ノ前方約一步ニ、其他ノ

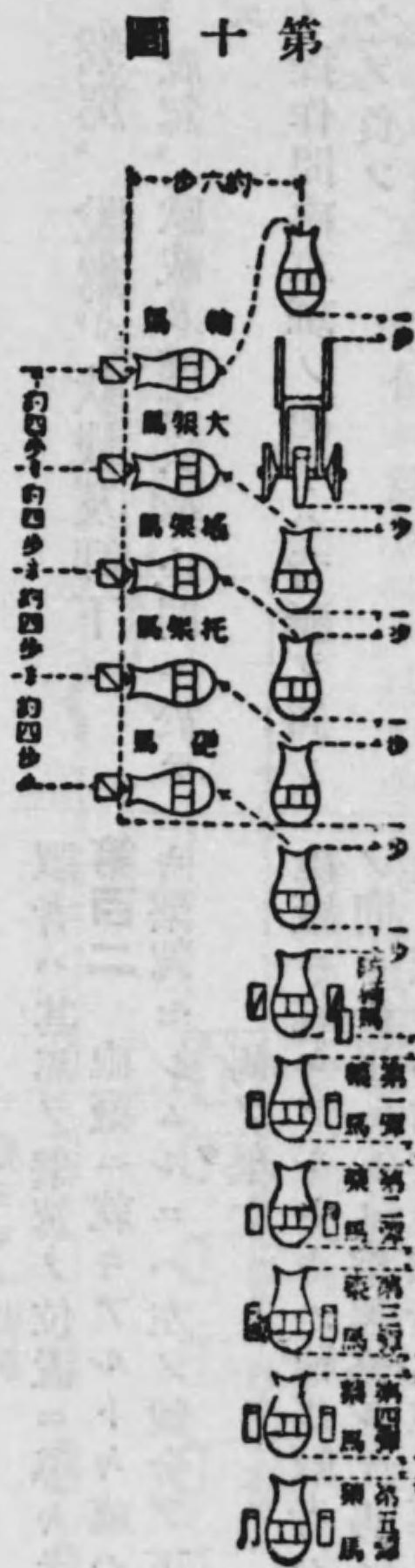
繫駕、脱駕、駄載及卸下

馭者ハ其馬ヲ繫駕ノ位置ニ導キテ止ル
 第一百二 砲廠ニ就キアルトキ或ハ駄載シアルトキ繫駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヲ繫ケ

砲廠ニ就キアルトキハ輪馬馭者ハ其馬ヲ兩轅桿ノ間ニ後退セシメ繫駕終ルヤ馬ノ位置ヲ正ス其
 他ノ馭者ハ前方ノ馭者ニ重リ馬ノ位置ヲ正ス
 繫駕ニ方リ砲手中奇數番號ノ者ハ駄馬ノ左側、偶數番號ノ者ハ駄馬ノ右側ニ於テ左ノ如ク操作ス
 一番及二番ハ轅桿ヲ停轅革ノ轅把ニ通シ丁字鏈ヲ雙脚環ニ掛ク
 三番ハ後砲架ノ提把ヲ後方ニシ大架馬ノ架匡ニ載セ四番ト共ニ駄裝革條ヲ以テ縛ル
 五番ハ擔棍ヲ搖架馬ノ架匡ニ載セ六番ト共ニ駄裝革條ヲ以テ縛ル
 七番乃至十番ハ防楯及器具箱ヲ防楯馬ニ、彈藥箱ヲ第一乃至第五彈藥馬ニ駄載ス
 駄載シアルトキハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ハ一旦

卸下シ砲車ヲ結合シタル後前諸項ニ準シテ繫駕ス
 分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル
 二馬繫駕ヲ爲スニハ前方馬ノ轆索ヲ脱シ停轆革ノ轆把ニ通シタル後瓢形銀ヲ前方馬ノ丁字鏈ニ、轆索鉤ヲ後方馬ノ丁字鏈ノ圓形銀ニ掛ク
 繫轆革條ヲ使用スルトキハ之ヲ脚環ニ通シテ轆桿ヲ縛ル
第三百 脱駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 馬ヲ解ケ





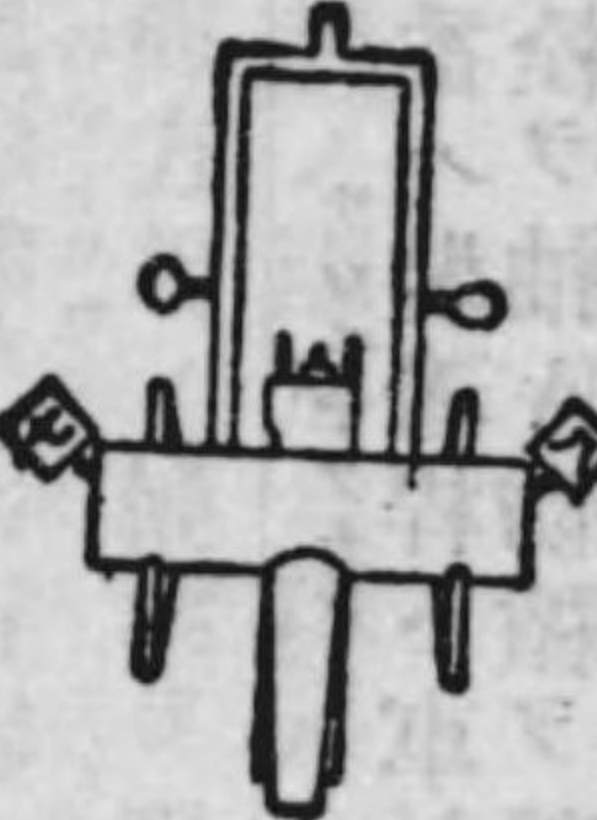


第二百二ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス
第四百 砲廠ニ就キアルトキ或ハ繫駕シアルトキ駄載セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 馬ニ駄セ
 砲廠ニ就キアルトキハ砲車班ノ馭者(防楯馬馭者ヲ除ク)ハ其馬ヲ第十圖ノ如ク導キ駄載終ルヤ左旋回ヲ爲シ輪馬馭者ニ重リ馬ノ位置ヲ正ス
 防楯馬馭者及彈藥班ノ馭者ハ其馬ヲ導キ前方ニ距離ヲ縮メ前方ノ馭者ニ重リ馬ノ位置ヲ正ス

一番及二番ハ轆桿ヲ脱シタル後一番ハ砲尾蓋ヲ、二番ハ表尺蓋ヲ脱シ三番ハ後砲架ヲ照準坐ノ外側約二步ノ所ニ置キ砲口蓋ヲ脱シ四番ハ轉把駐革ノ縛ヲ解キ箭材ノ間ニ入り砲車ヲ右ニ廻ハシテ反對ノ方向ニ向ハシメ照準坐及發射坐ヲ起ス
 五番ハ鉤帶ヲ第一器具箱ヨリ出シ擔棍一ヲ砲車ノ傍ニ運フ
 三番乃至六番ハ砲身ヲ離脱シ一番乃至三番ハ之ヲ砲馬ニ駄載ス
 四番乃至六番ハ砲身托架ヲ離脱シ之ヲ托架馬ニ駄載ス
 一番乃至三番ハ搖架ヲ離脱シ之ヲ搖架馬ニ駄載ス
第五 砲車ノ分解並駄載ノ操作左ノ如シ

四番乃至六番ハ前砲架ト小架及車軸トノ結合ヲ解キ一歩乃至三歩ハ前砲架及後砲架ヲ大架馬ニ駄載ス
 四番乃至六番ハ小架及車軸ト車輪トノ結合ヲ解キ三歩乃至六歩ハ小架及車軸並車輪ヲ輪馬ニ駄載ス
 七番乃至十番ハ防楯及器具箱ヲ防楯馬ニ、彈藥箱ヲ第一乃至第五彈藥馬ニ駄載ス
 六番ハ脱シアル諸蓋ヲ防楯馬ノ左前方支板ニ縛著シ五番ハ鉤帶ヲ第一器具箱ニ復ス
 繫駕シアルトキハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ハ脱駕シ砲車ヲ分解シタル後前諸項ニ準シテ駄載ス
第五 分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル

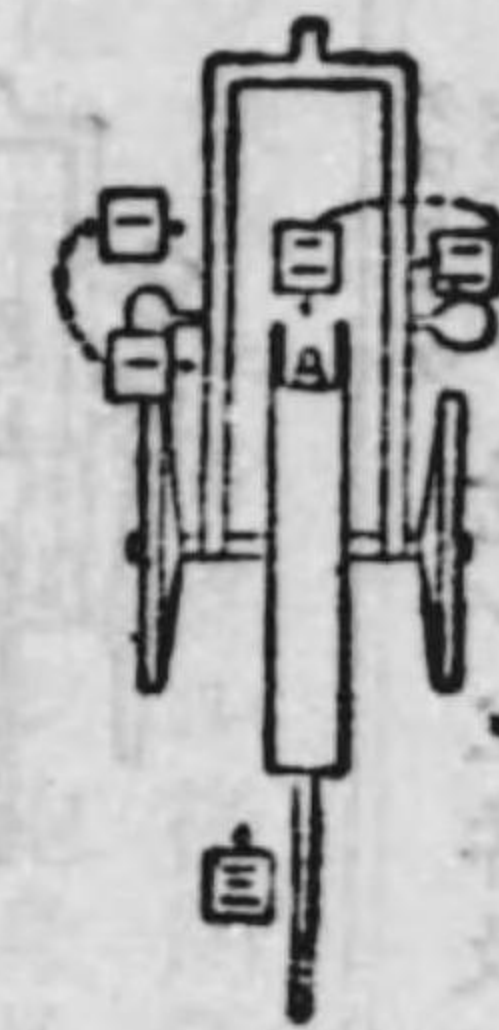
防	稱名	分	解	駄	載
七番及八番ハ裝著桿ト車軸トノ連結ヲ解キ各駐栓ヲ抽キ防楯ヲ離脱シ次テ諸駐栓ヲ挿シ防楯ヲ疊ム					
					七番及八番ハ防楯ヲ執リ七番ハ「上ケ」ト唱ヘ之ヲ防楯馬ノ架匡ニ上端ヲ前方ニスル如ク載セ七番乃至十番ハ駄裝革

搖	架 托 身 砲
<p>一番ハ搖架ノ攫爪ヲ脱シニ番及三番搖架ヲ離脱スレハ更ニ之ヲ裝スニ番ハ擔棍ヲ砲車ノ傍ニ運ヒ次テ駐退管底螺靴ヲ裝シ搖架ノ後端ヲ執ルニ三番ハ轆桿ヲ搖架ニ挿シ軸駐楔ヲ「脱」字ノ方ニ</p>	<p>四番ハ閉鎖機ヲ閉テ駐退管底螺靴螺輪ニテ駐退管底螺靴ヲ脱シ之ヲ高低照準機轉把ニ掛ケ砲身托架ヲ引キ出シ次テ擔棍ヲ砲身托架ニ嵌メ五番ト共ニ其各端ヲ執リ六番ハ衝爪ヲ上ケ砲身托架ノ前段ヲ支ヘ三砲手協力シテ之ヲ搖架ヨリ離脱ス</p> 
<p>一番乃至三番ハ搖架ヲ搖架馬ノ後ロニ運ヒ三番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ニ載セテ駐板及挿筒ニ依リテ其位置ヲ定メ三番ハ轆桿ヲ脱シ之ヲ搖架ノ左側ニ致シ一番及三番ハ駄裝革條ヲ以テ搖架ヲ轆桿</p>	<p>四番乃至六番ハ砲身托架ヲ托架馬ノ後ロニ運ヒ六番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ニ載セ駐爪ニテ其位置ヲ定メ五番及六番ハ駄裝革條ヲ以テ縛リ四番ハ擔棍ノ一端ヲ駄馬ノ右側方ヨリ架匡ノ下ニ挿入シ他端ヲ縛具革條ヲ以テ縛ル</p> 

身 砲	楯
<p>四番ハ砲身ヲ水平ニシタル後閉鎖機ヲ開クニ三番ハ砲身檣桿ヲ起シ砲身ヲ右ニ廻ハシタル後之ヲ前ニ抽キ出シ砲身檣桿ヲ舊ニ復シ洗桿ヲ其膨大部マテ抽キ出シ之ヲ執ルニ六番ハ轆桿ヲ執リ五番ハ鉤帶ヲ掛ケ共ニ轆桿ヲ以テ砲身ノ後端ヲ擔ヒ三番ト共ニ之ヲ砲身托架ヨリ離脱ス</p> 	
<p>三番、五番及六番ハ砲身ヲ砲馬ノ傍ニ運ヒ二番ハ擔棍ヲ砲身ニ嵌メ一番ト共ニ其各端ヲ執リ五番ハ鉤帶ヲ、六番ハ轆桿ヲ脱スニ三番ハ「上ケ」ト唱ヘ砲身ヲ架匡ニ載セ駐爪ニテ其位置ヲ定メ一番及三番ハ駄裝革條ヲ以テ縛ル</p> 	<p>條ヲ以テ縛ル</p> 

及 架 砲 前

廻ハシ轆桿ヲ執リ二番ト共ニ搖架ヲ小架ヨリ離脱シ搖架軸ヲ小架ノ上ニ置キ二番ハ擔棍ヲ搖架ニ嵌メ一番ト共ニ其各端ヲ執ル



四番及五番ハ架頭ヲ支ヘ四番ハ高低照準機内螺頭駐栓ヲ抽キ五番及六番ハ車軸室ノ蓋板ヲ開キ六番ハ小架及車軸ヲ車輪ト共ニ架頭ヨリ約二步離隔シ内螺頭駐栓ヲ挿シ四番及五番ハ前砲架ヲ地上ニ卸シ車軸室ノ蓋板ヲ閉ツ

ト共ニ縛リ二番ハ擔棍ノ一端ヲ駄馬ノ右側方ヨリ架匡ノ下ニ挿入シ他端ヲ縛具革條ヲ以テ縛ル

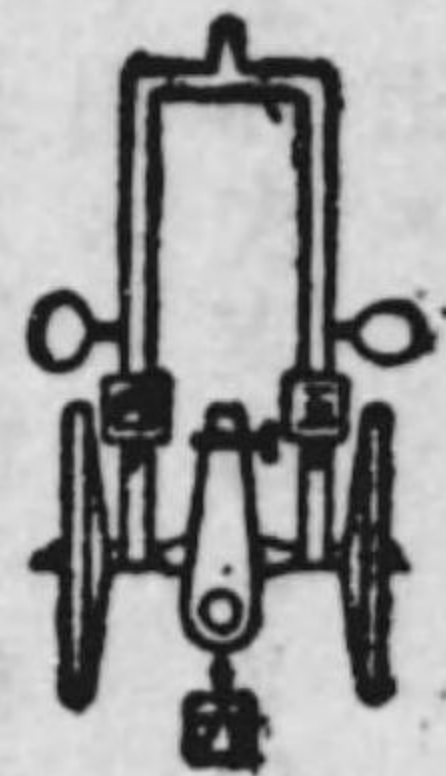
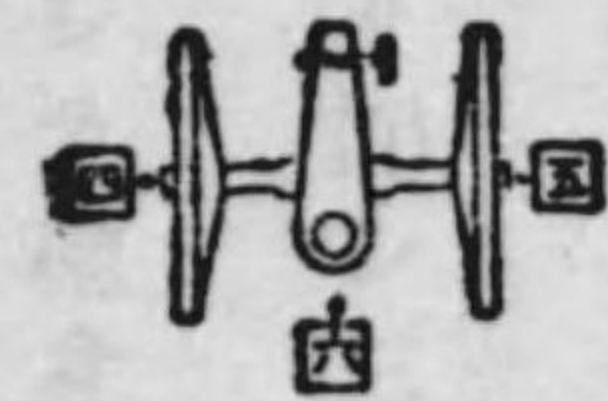


二番ハ轆桿ヲ執リ發射坐ノ傍ニ、一番ハ照準坐ノ傍ニ到リ三番ハ前砲架ノ後端ヲ執リ一番及二番ト共ニ前砲架ヲ反轉シ一番及二番ハ轆桿ヲ高低照準機轉把ノ前方ニテ箭材ノ下ニシ其各端ヲ、三番ハ橫梁ヲ執リ前砲架ヲ大架馬ノ後ロニ運ヒ三番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ニ載セ箭材駐鎖ニテ其位置ヲ定メ轆桿駐栓ヲ挿シ換ヘ一番ハ轆桿ヲ箭材ト共ニ駄裝

軸 車 及 架 小

架 砲 後


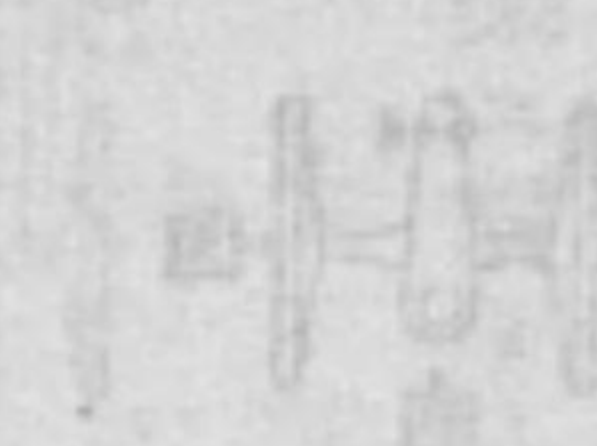


六番ハ小架及車軸ヲ支ヘ四番及五番ハ軸轉、轂帽及車輪ヲ脱シタル後轂帽及軸轉ヲ裝ス



革條ヲ以テ縛リ高低照準機内螺頭ヲ反轉シ三番ハ後砲架ヲ執リ提把ヲ下ニスル如ク前砲架ノ上ニ載セ駐鎖駐鉤ニテ其位置ヲ定メ二番ハ前砲架及後砲架ノ箭材ヲ駄裝革條ヲ以テ縛リ又高低照準機轉把ヲ轉把駐革ヲ以テ縛ル

四番ハ兩車輪ヲ支フ五番及六番ハ轂帽及小架ノ後端ヲ執リ小架ヲ反轉シ輪馬ノ後ロニ運ヒ六番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ニ載セ其室ニ致シ駄裝革條ヲ以テ縛リ四番及五番ハ車輪ヲ輪馬ノ兩側ニ運ヒ鉤輪索ヲ轂筒ノ下ニシ其兩端ヲ相對スル輻ノ下ニ通ス三番乃至六番ハ車輪ヲ



(箱具器) 箱 藥 彈	輪 車 位
	
<p>七番乃至十番ハ彈藥箱(器具箱)ノ提把ヲ執リ後方ノ砲手ハ「上ケ」ト唱ヘ同時ニ之ヲ彈藥馬(防楯馬)ニ載セ駄裝束條ヲ以テ縛ル</p> 	<p>上ケ鉤輪索ノ鏈ヲ懸鏈鉤ニ掛ケ四番及五番ハ駄裝束條ヲ以テ綱ヲ縛ル</p> 

第百六 卸下セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
馬ヨリ卸セ

砲車班ノ馭者(防楯馬馭者ヲ除ク)ハ右旋回ヲ爲シ卸下終ルヤ左旋回ヲ爲シ分隊ノ各馭者ハ輪馬馭者ニ重リ其馬ノ位置ヲ正ス

六番ハ諸蓋ヲ防楯馬ノ左前方支板ヨリ脱シ五番ハ鉤帶ヲ第一器具箱ヨリ出ス

三番乃至六番ハ車輪、小架及車軸ヲ輪馬ヨリ卸シ四番乃至六番ハ之ヲ結合ス

三番ハ後砲架ヲ、一番乃至三番ハ前砲架ヲ大架馬ヨリ卸シ四番乃至六番ハ前砲架ト小架及車軸トヲ結合ス

一番乃至三番ハ搖架ヲ搖架馬ヨリ卸シ之ヲ結合ス

四番乃至六番ハ砲身托架ヲ托架馬ヨリ卸シ之ヲ結合ス

一番乃至三番ハ砲身ヲ砲馬ヨリ卸シ三番乃至六番ハ之ヲ結合ス

四番ハ高低照準機轉把ヲ廻ハシテ砲身ヲ略、箭

材ノ方向ニ平行セシメタル後發射坐及照準坐ヲ倒シ箭材ノ間ニ入り砲車ヲ右ニ廻ハシテ反對ノ方向ニ向ハシメ轉把駐革ヲ以テ搖架轉把及高低照準機轉把ヲ縛リ一番及二番ハ轆桿ヲ裝シ一番ハ砲尾蓋ヲ、二番ハ表尺蓋ヲ、三番ハ砲口蓋ヲ裝ス次テ三番ハ後砲架ヲ、五番ハ擔棍ヲ定位ニ置キ鉤帶ヲ第一器具箱ニ復ス

七番乃至十番ハ器具箱及防楯ヲ防楯馬ヨリ、彈藥箱ヲ第一乃至第五彈藥馬ヨリ卸ス

第百七 卸下竝砲車結合ノ操作左ノ如シ而シテ此際ニ於ケル砲手ノ位置ハ駄載及分解ノ場合ニ準ス

架 托 身 砲	架 搖	架 砲
<p>五番及六番ハ砲身托架ノ縛ヲ解キ四番ハ擔棍ノ縛ヲ解キ之ヲ砲身托架ニ嵌メ五番ト共ニ擔棍ノ各端ヲ執リ六番ハ砲身托架ノ他端ヲ執リ「上ケ」ト唱ヘ三砲手協力シテ砲身托架ヲ架匡ヨリ卸ス</p>	<p>一番及三番ハ搖架及轆桿ノ縛ヲ解キ三番ハ轆桿ヲ搖架ニ挿スニ番ハ擔棍ノ縛ヲ解キ之ヲ搖架ニ嵌メ一番ト共ニ其各端ヲ執リ三番ハ「上ケ」ト唱ヘ三砲手協力シテ搖架ヲ架匡ヨリ卸シ搖架軸ヲ小架ノ上ニ置ク</p>	<p>ロニシ大架馬ノ後方約三步ノ所ニテ架頭ヲ馬尾ト略、同線上ニ置キ之ヲ反轉ス</p>
<p>六番ハ準溝ヲ搖架ノ準板ニ嵌メ四番ハ擔棍ヲ脱シテ砲身托架ヲ其位置ニ致シ駐退管底螺螺輪ニテ駐退管底螺螺ヲ裝シ閉鎖機ヲ開ク六番ハ衝爪ヲ下ク</p>	<p>二番ハ擔棍ヲ脱シ搖架ノ後端ヲ執リ一番ハ攫爪ヲ脱シ二番及三番ハ搖架ト小架トヲ結合スニ番ハ駐退管底螺螺ヲ脱シ一番ハ攫爪ヲ裝シ三番ハ軸駐楔ヲ「脱」字ニ反スル方ニ廻ハシ鉤ヲ掛ケ轆桿ヲ脱ス</p>	

前 及 架 砲 後	軸車及架小並輪車	稱名
<p>一番ハ高低照準機内螺頭ヲ反轉シニ番ハ後砲架、前砲架及高低照準機轉把ノ縛ヲ解キ一番ハ前砲架及轆桿ノ縛ヲ解キ轆桿ヲ高低照準機轉把ノ前ニテ箭材ノ下ニシニ番ト共ニ其各端ヲ執リ三番ハ後砲架ヲ卸シタル後轆桿駐栓ヲ抽キ橫梁ヲ執リ「上ケ」ト唱ヘ三砲手協力シテ前砲架ヲ架匡ヨリ卸シ橫梁ヲ後</p>	<p>四番及五番ハ輜ノ縛ヲ解キ三番乃至六番ハ車輪ヲ卸ス四番及五番ハ兩車輪ノ中央ヲ輪馬ノ左後方約三步ノ所ニ二歩ヲ間シテ地上ニ置キ四番ハ之ヲ支フ五番及六番ハ小架ノ縛ヲ解キ轂帽及小架ノ後端ヲ執リ六番ハ「上ケ」ト唱ヘ小架及車軸ヲ架匡ヨリ卸シ之ヲ兩車輪ノ間ニ運フ</p>	<p>卸 下 合</p>
<p>四番及五番ハ車軸室ノ蓋板ヲ開キ架頭ヲ支ヘ六番ハ小架及車軸ヲ車輪ト共ニ架頭ニ近ツケ車軸ヲ其室ニ入レ蓋板ヲ閉ツ四番ハ小架ト高低照準機内螺頭トヲ連結ス</p>	<p>六番ハ小架及車軸ヲ支フ四番及五番ハ軸轄及轂帽ヲ脱シ車輪ヲ嵌メ轂帽及軸轄ヲ裝ス</p>	

箱 藥 彈 (箱 具 器)	防 楯	身 砲
<p>駄載ト反對ノ操作ヲ爲ス</p>	<p>七番乃至十番ハ防楯ノ縛ヲ解キ七番及八番ハ防楯ヲ執リ七番ハ「上ケ」ト唱ヘ架匡ヨリ卸シ其上端ヲ前方ニスル如ク防楯馬ノ右側方ニ置ク</p>	<p>一番及三番ハ砲身ノ縛ヲ解キ二番ハ擔棍ヲ執リ砲馬ノ傍ニ運ヒ之ヲ砲身ニ嵌メ一番ト共ニ其各端ヲ執ル三番ハ洗桿ヲ執リ「上ケ」ト唱ヘ三砲手協力シテ砲身ヲ架匡ヨリ卸ス 六番ハ轆桿ヲ執リ五番ハ鉤帶ヲ掛ケ共ニ轆桿ヲ以テ砲身ノ後端ヲ擔ヒ一番ハ擔棍ヲ脱シ砲身ヲ前砲架ノ傍ニ運フ</p>
	<p>結合ヲ要スルトキハ七番及八番ハ防楯ヲ開キテ之ヲ裝シ諸駐栓ヲ挿シ裝著桿ト車軸トヲ連結ス</p>	<p>三番、五番及六番ハ砲身ヲ砲身托架ニ載セ五番ハ鉤帶ヲ、六番ハ轆桿ヲ脱ズ三番ハ砲身槓桿ヲ起シ砲身ヲ後方ニ押シタル後之ヲ廻ハシテ砲身托架ト結合シ砲身槓桿ヲ舊ニ復シ四番ハ閉鎖機ヲ閉チ搖架ノ下面ヲ略シ前砲架ノ方向ニ一致セシム</p>

第百八 脱駕或ハ卸下シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)ハ砲廠ヲ去レ
輪馬馭者ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ馭者ハ一步ノ距離ヲ保チ之ニ隨フ

行進及旋回

第百九 速度ハ一分時間ニ常歩八十六米、速歩百四十五米ヲ基準トス
以上ノ速度ハ要スレハ之ヲ伸縮スルコトヲ得(分一六三)

第百十 常(速)歩ニテ直行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
前(速)歩 進メ
分隊長ハ正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進シ彈藥班長ハ分隊長ニ隨ヒ同時ニ前進ス
輪馬馭者ハ分隊長ニ、第一彈藥馬馭者ハ彈藥班長ニ準ヒ後方ノ馭者ハ前方ノ馭者ニ重リ同時ニ前進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ

漸次ニ速度ヲ伸ハシ速歩ニ移ル

第百十一 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分隊長及彈藥班長ハ漸次ニ停止ス
各馭者ハ漸次ニ停止ス但輪馬馭者ハ分隊長ニ、第一彈藥馬馭者ハ彈藥班長ニ準ヒテ止ル

第百十二 速度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
常(速)歩 進メ
漸次ニ所命ノ速度ニ移ル

第百十三 常(速)歩行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
或ハ 速度ヲ伸ハセ
或ハ 速度ヲ縮ム
徐ロニ速度ヲ伸ハシ或ハ縮ム
正規ノ速度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
常(速)歩 進メ
徐ロニ正規ノ速度ニ復ス

第百十四 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ進メ
輪馬馭者ハ輪馬ヲシテ約七歩ノ半徑ヲ以テ弧ヲ畫キ右(左)向ヲ爲シテ直進セシメ其他ノ馭者ハ之ニ隨フ
第百十五 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪に左へ進メ

第百十四ノ要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ續キテ直進ス

第百十六 停止間各馬ヲ其場ニ於テ右(左)ニ旋回セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)旋回

各馭者ハ馬ニ面シ其前軀ヲ己ノ右(左)手ノ方向ニ約九十度旋回ス

放列布置及撤去

第百十七 馭馬ノ運動ハ特ニ指示ナキトキハ放

列布置ノ場合ニ於テハ其際採リアル歩度、撤去ノ場合ニ於テハ速歩ヲ以テ行フ

放列布置ノ號令アルトキ行進間ニ在リテハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ハ分隊長ノ指示ニ依リ停止シ彈藥班長ハ防楯馬及彈藥班ヲ導キ現在ノ歩度(停止ヨリ放列ヲ布置スルトキハ常歩)ヲ以テ右放列ニ在リテハ砲車班ノ左側、左放列ニ在リテハ砲車班ノ右側約八歩ニ到ル

放列布置ノ際分隊長及砲車班ノ砲手ハ先ツ背蓋ヲ卸シ分隊長ノ指示スル位置ニ置ク又撤去ノ際ニハ適時之ヲ負フ

馭者乘馬ヲ牽クニハ牽繩ノ端末ヲ右手ニ致シ左手ヲ以テ乘馬ノ小勒繩ヲ執リ兩馬ノ間ニ位置シテ之ヲ馭ス

第百十八 放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)撃方 放列

分隊長ハ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ヲ所望ノ位置ニ

導キ脱駕若ハ卸下及結合等ニ關シ所要ノ事項ヲ示シタル後砲車ヲ其占ムヘキ位置ニ導ク
繫駕セルトキハ第百三ニ從ヒ先ツ脱駕ス
一番及二番ハ轆桿ヲ脱シ一番ハ發射坐ヲ起シ砲尾蓋ヲ脱シ己ノ傍ニ置ク二番ハ照準坐ヲ起シ表尺蓋ヲ脱シ己ノ傍ニ置キ轉把駐革ノ縛ヲ解キ表尺及眼鏡ヲ六番ヨリ受取りテ之ヲ裝シ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位(俯仰分畫ヲ零位、鏡頭分畫ヲ百位ニ回轉盤分畫ヲ前視零位(鏡頭ヲ前方ニセルトキノ零位)ニ、高低水準器ノ指針ヲ百位ニ在ラシメ高低水準器ノ氣泡及坐筒氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導キ三番ハ四番砲車ヲ廻ハシタル後後砲架ヲ裝ス四番ハ箭材ノ間ニ入り砲車ヲ左(右)ニ廻ハシテ砲口ヲ右(左)方ニ向ハシメ前砲架ヲ支ヘ橫梁被ヲ脱シ前砲架ノ箭材ニ縛シ三番後砲架ヲ裝スルヤ架尾ヲ地上ニ卸ス一番ハ轆桿ヲ、三番ハ砲口蓋ト共ニ洗桿ヲ定位ニ運ヒ四番ハ信管廻ヲ五番ヨリ受取り之ヲ左肩ヨリ右脇ニ

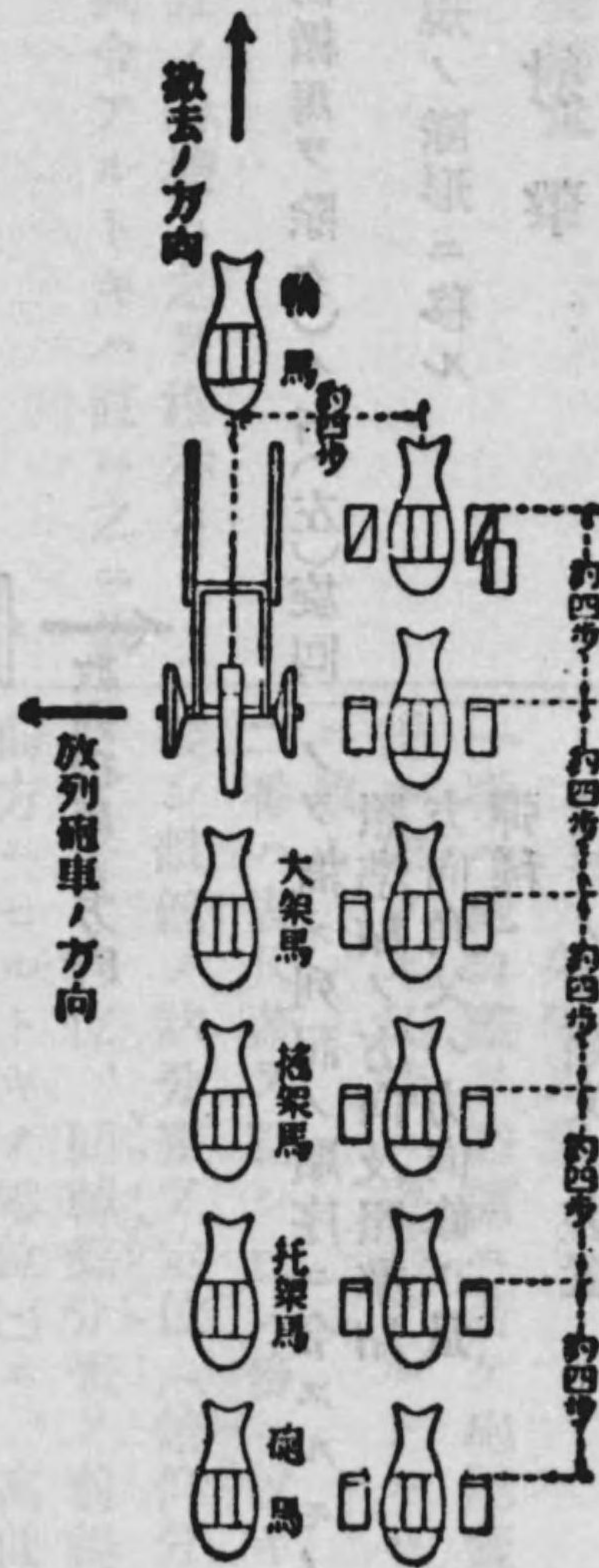
掛ケ體ノ指標ヲ信管修正分畫ノ零ニ一致セシム
五番及六番ハ器具箱ヲ定位ニ運ヒ五番ハ擔提ヲ定位ニ置キ器具箱ヨリ信管廻二箇ヲ出シ其一ヲ四番ニ渡シ他ノ一ヲ四番ニ準シテ操作ス六番ハ表尺及眼鏡ヲ器具箱ヨリ出シテ二番ニ渡シ砲尾蓋及表尺蓋ヲ纏メテ定位ニ置キ通常二彈藥箱ノ蓋板ヲ開キ探出ニ便ナル如ク彈藥ヲ整フ七番及八番ハ防楯ヲ裝シ七番乃至十番ハ彈藥箱ヲ定位ニ運フ
表尺及眼鏡ヲ裝スルニハ解脫管ノ爪ヲ後方ニ壓シ表尺ヲ表尺坐筒ノ溝ニ挿シ之ヲ壓下シテ略、三千米ノ高サニ置キ爪ヲ靜ニ蓄ニ復シカワシヤウツカ
蝸狀螺桿ノ轉把ヲ廻ハシテ表尺ヲ三千米ニ裝定シ眼鏡裝著發條ヲ壓シ眼鏡ヲ裝ス
防楯ヲ裝シタル後表尺ヲ裝スルニハ先ツ砲尾ヲ滿下ス
馭載セルトキハ先ツ第百六及第百七ニ從ヒテ卸

向ハシメ各砲手ハ前諸項ノ要領ニ依リ放列ヲ布置ス
 七番乃至十番ハ特ニ指示ナキトキハ操作終ルヤ分隊ノ駄馬ノ位置ニ到リ其後方ニ位置ス
 馭者ハ脱駕或ハ卸下終ルヤ彈藥班長ノ許ニ到リ彈藥班長ハ分隊ノ駄馬ヲ纏メテ所命ノ地點ニ到ル
第四百十九 放列ニ在ルトキ繫駕セシムルニハ七番乃至十番ヲ招致シタル後左ノ號令ヲ下ス
 右(左)ハ馬ヲ繫ケ
 一番ハ砲尾蓋ヲ裝シ發射坐ヲ倒シ轆桿ヲ前ニ運ヒ二番ハ搖架ノ下面ヲ略、前砲架ノ方向ニ一致セシメ轉把註革ヲ以テ搖架轉把及高低標準機轉把ヲ縛リ眼鏡及表尺ヲ脱シ之ヲ六番ニ渡シ表尺蓋ヲ裝シ照準坐ヲ倒ス三番ハ後砲架ヲ脱シ洗桿ヲ砲腔ニ挿シ砲口蓋ヲ裝シ四番ハ信管廻ヲ五番ニ渡シ箭材ノ間ニ入り前砲架ヲ支ヘ三番後砲架ヲ脱スルヤ橫梁被ヲ裝シ砲車ヲ廻ハシテ砲口ヲ左(右)方ニ向ハシメ橫梁ヲ地上ニ卸シ一番及二

番ハ轆桿ヲ裝ス五番ハ信管廻ヲ器具箱ニ收メ六番ハ砲尾蓋ヲ一番ニ、表尺蓋ヲ二番ニ渡シ表尺及眼鏡ヲ器具箱ニ收メ七番及八番ハ防楯ヲ脱ス
 五番及六番ハ器具箱ヲ、七番乃至十番ハ防楯及彈藥箱ヲ砲車ノ右(左)側ニシテ第十一圖ノ位置(右方繫駕ノ場合)ニ運フ
 彈藥班長ハ分隊ノ駄馬ヲ放列ニ導キ各馭者ハ第十一圖ノ位置ニ就キ第百二ニ從ヒ繫駕ス

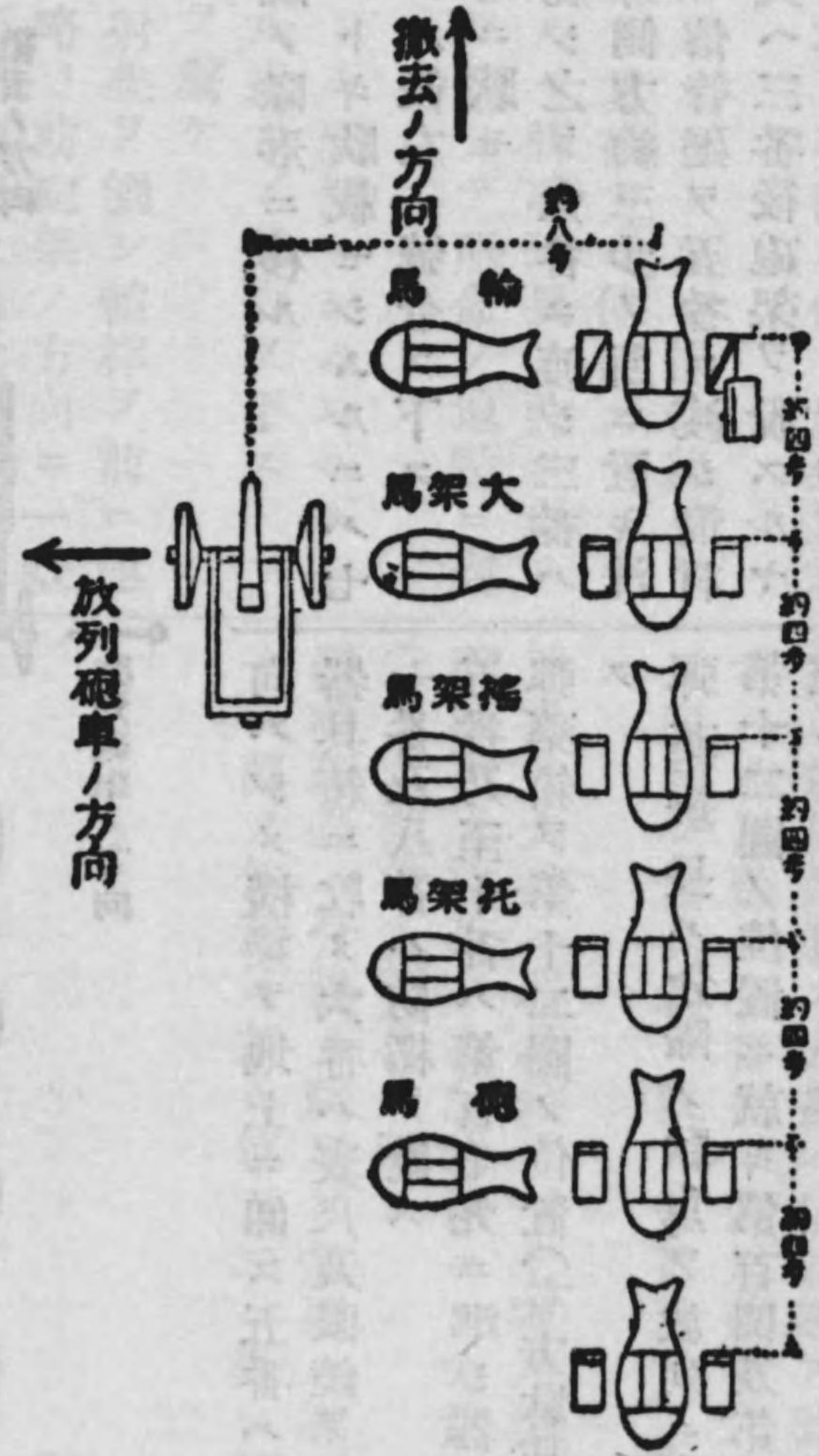
分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル
第四百二十 放列ニ在ルトキ馭載セシムルニハ七番乃至十番ヲ招致シタル後左ノ號令ヲ下ス
 右(左)ハ馬ニ馭セ
 二番ハ眼鏡及表尺ヲ脱シ之ヲ六番ニ渡シ三番ハ後砲架ヲ脱シ砲車ノ外側方約三步ノ所ニ置キ洗桿ヲ砲腔ニ挿ス四番ハ信管廻ヲ五番ニ渡シ箭材ノ間ニ入り前砲架ヲ支ヘ三番後砲架ヲ脱スルヤ橫梁被ヲ裝シ砲車ヲ廻ハシテ砲口ヲ右(左)方ニ

第十圖



向ハシメ橫梁ヲ地上ニ卸ス五番ハ信管廻ヲ第一器具箱ニ收メ六番ハ表尺及眼鏡ヲ器具箱ニ收メ七番及八番ハ防楯ヲ脱ス
 五番乃至十番ハ第百十九ニ準シ器具箱、防楯及彈藥箱ヲ第十二圖ノ位置(右方馭載ノ場合)ニ運フ
 彈藥班長ハ分隊ノ駄馬ヲ放列ニ導キ各馭者ハ第十二圖ノ位置ニ就キ第百四及第百五ニ從ヒ馭載ス

圖 二十 第



隊載終ルヤ砲車班(防楯馬ヲ除ク)ハ右(左)旋回
ヲ爲ス
分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル

第三款 射 擊

第二百二十一 射擊ノ號令ハ左記事項中所要ノモ

ノヲ概ネ列記ノ順序ニ令スルモノトス
照準點ノ方向及照準點
方向角又ハ方向修正量
彈種
信管ノ種類又ハ裝置
高低角又ハ高低修正量

信管修正量
射距離又ハ射距離變換量
散布、掃射ノ方法
裝填法
發射速度
發射法

射擊スヘキ目標ハ適宜ノ時機ニ之ヲ指示ス
分隊長以下ハ新ナル號令アルトキハ直ニ之ニ依
リ操作ス
砲手ハ射擊諸元ノ號令アル毎ニ之ヲ裝定又ハ修
正シタル後其結果ヲ分隊長ニ報告ス而シテ此報
告及操作間ニ用フル呼號ハ關係者ノ了解シ得ル
ヲ度トシ明確ニ發唱スルモノトス

第二百二十二 照準成ルヤ二番ハ「宜シ」ト唱フ方
向照準又ハ高低照準ノミヲ爲シタル場合ニ於テ
モ亦同シ

射擊用意及解除

第二百二十三 野、騎砲ニ在リテ射擊用意ヲ爲サ

シムルニハ左ノ號令ヲ下ス

射擊用意

一番ハ砲口蓋ヲ防楯ニ著ケ砲尾蓋ヲ容易ニ脱シ
得ル如クス又特ニ指示アルトキハ象限儀ヲ其蓋
ニ收ム

二番ハ表尺蓋ヲ脱シ己ノ傍ニ置キ表尺及眼鏡ヲ
裝シ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位(俯仰分畫ヲ零位、鏡
頭分畫ヲ百位、回轉盤分畫ヲ前視零位(鏡頭ヲ
前方ニセルトキノ零位)ニ、高低水準器ノ指針
ヲ百位ニ在ラシメ表尺蓋ヲ容易ニ脱シ得ル如ク
裝ス

三番ハ表尺補助桿ノ頭板ノ刻線ヲ一致セシメタ
ル後之ヲ防楯ニ著ク

四番及五番ハ信管廻ヲ左肩ヨリ右脇ニ掛ケ體ノ
指標ヲ信管修正分畫ノ零ニ一致セシム

表尺及眼鏡ヲ裝スルニハ(野)駐栓ヲ抽キテ砲尾
托架ヲ砲尾ヨリ脱シ砲尾ヲ下ケ(騎)解脫管ノ攪
爪ヲ前方ニ壓シ表尺ヲ表尺坐筒ノ溝ニ挿シ之

ヲ壓下シテ攫爪ヲ靜ニ蓄ニ復シ蝸狀螺桿ノ轉
輪ヲ廻ハシテ表尺ヲ滿下シテ眼鏡裝著發條
ヲ壓シ眼鏡ヲ裝ス(野次テ砲尾ヲ上ケ砲尾托
架ヲ砲尾ニ鈎シ駐栓ヲ挿ス)

第百二十四 野、騎砲ニ在リテ射擊用意ヲ解カ
シムルニハ左ノ號令ヲ下ス

射向附與

第百二十三ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス
第百二十五 射向ヲ與ヘシムルニハ例ヘハ左ノ
號令ヲ下ス

照準點右後方一本杉ノ頂上
方向四百五十

或ハ

照準點前方塔ノ頂上
八十右(左)ヘ

分隊長ハ照準具ノ裝定及照準ヲ監視ス又方向固
有修正量ヲ自ラ修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキ

ハ其修正ヲ命ス
二番ハ回轉盤ヲ裝定或ハ修正シ之ニ方向固有修
正量ヲ修正シタル後四番ト共ニ方向照準ヲ爲
ス

照準點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トス
ルトキハ通常分隊長ハ他ニ適當ナル地物ヲ選ヒ
標定點ト爲シ之ヲ二番ニ指示ス二番ハ射向ヲ換
フルコトナク回轉盤ヲ廻ハシテ眼鏡内十字ノ交
截點又ハ縱線ヲ標定點ニ一致セシメ標定點及方
向角ヲ分隊長ニ報告ス

標定點ハ發見及照準容易ニシテ埋滅變位ノ虞ナ
ク其位置ハ成ルヘク遠ク且後方ナルヲ可トス
標定點トシテ適當ナル地物ナキトキハ標桿ヲ立
ツ
夜間ニ在リテハ標定點トシテ通常携帶燈(騎砲
提燈)ヲ設置ス

回轉盤ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫子ノ
把子ヲ略々垂直ニ起シ右手ヲ以テ鏡頭ヲ撰ミ

眼鏡ノ向ヲ照準點ノ方向ニ廻ハシテ所命ノ本
分畫ヲ回轉盤室ノ指標ニ一致セシメ把子ヲ靜
ニ蓄ニ復シタル後右手ヲ以テ轉輪ヲ右ニ廻ハ
シテ所命ノ補助分畫ヲ指針盤ノ指標ニ一致セ
シム
回轉盤ヲ修正スルニハ現ニ回轉盤室及指針板
ノ指標ニ對スル刻線ヨリ起リ所命ノ數ヲ右
(左)ニシ補助分畫ノ刻線ヲ指標ニ一致セシム
而シテ回轉盤ノ本分畫ヲ右(左)ニスルニハ本
分畫ヲ指標ニ對シ右(左)ニ移シ補助分畫ヲ右
(左)ニスルニハ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハス但轉輪
ハ常ニ右ニ廻ハシテ止ムル如クスルヲ要ス
照準點ト共ニ方向修正量ヲ號令セラレタルト
キハ照準點ノ方向後(前)方ナルニ從ヒ後(前)
視零ヨリ修正ス

筒氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略々中央ニ導キ然ル後
眼ヲ眼鏡ヨリ約一指幅ヲ隔テテ狙ヒ手若ハ聲
ニテ合圖ヲ爲シ四番ヲシテ架尾ヲ左右セシメ
眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ略々照準點ニ
導キ次テ搖架轉把ヲ廻ハシ要スレハ鏡頭ヲ俯
仰シテ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ照準點
ニ一致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈(騎砲
提燈)ヲ以テ窓板若ハ照窓ヲ照ス

第百二十六 方向照準ノ爲眼鏡ヲ高メ或ハ回轉
盤ヲ俯仰セシムルヲ要スルトキハ表尺補助桿ヲ
用フ

表尺補助桿ヲ以テ照準ヲ爲シタルトキハ方向照
準終ルヤ之ヲ脱ス

表尺補助桿ヲ裝スルニハ二番ハ先ツ表尺ノ眼
鏡裝著發條ヲ壓シテ眼鏡ヲ脱シ之ヲ表尺補助
桿ノ眼鏡室ニ嵌メ右手ヲ以テ表尺補助桿ノ下
部ヲ握リ左手ヲ以テ眼鏡裝著發條ヲ壓シ底板
ヲ表尺ノ眼鏡室ニ裝ス

表尺補助桿ヲ脱スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ

爲ス

彈藥及信管ノ準備

第百二十七 彈藥ヲ準備セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

榴霰彈

六番要スレハ四番及五番ハ所命ノ彈藥ヲ砲側ニ準備ス

第百二十八 榴彈等ノ爲信管ヲ準備セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

瞬發(短延期)信管

三番ハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル

五番要スレハ四番及六番ハ所命ノ信管ヲ裝著シ通常五番ハ彈藥ヲ三番ニ渡ス

瞬發(短延期)信管ヲ裝著スルニハ彈口栓ノ麻網ヲ引キテ之ヲ脱シ信管ヲ啜螺ノ上ニ載セ少シク右ニ廻ハシ微音ニ依リ其吻合ヲ檢シタル後信管ヲ左ニ廻ハシテ十分緊ム

信管ヲ脱スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス

第百二十九 榴霰彈等ノ爲信管ヲ準備セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

曳火(著發)信管

三番ハ著發信管ニ在リテハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル

通常五番ハ彈藥ヲ取り曳火信管ニ在リテハ信管廻ヲ彈頭ニ冠シ著發信管ニ在リテハ安全ノ位置ニ在ル彈藥ヲ三番ニ渡ス

射角附與及信管測合

第百三十 射角ヲ與ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

高低九十五

四千六百

分隊長ハ照準具及信管廻ノ裝定並照準ヲ監視ス又高低固有修正量ヲ自ラ修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス
一番ハ安全栓ヲ發火ノ位置ニ置キ野、騎砲ニ在

リテハ閉鎖機ヲ開キ(砲表尺ヲ裝定シ)後方轉把ヲ廻ハシテ制轉機ヲ緊メ山砲ニ在リテハ拉繩ヲ執リ閉鎖機ヲ開ク

二番ハ高低水準器ニ高低角ヲ裝定シ之ニ高低固有修正量ヲ修正シ(野砲表尺ヲ裝定シ)タル後高低水準器ヲ以テ高低照準ヲ爲ス但騎砲ニ在リテハ六千五百米以上、山砲ニ在リテハ六千米以上ニ於テハ象限儀ニ依リ高低照準ヲ爲ス

三番ハ曳火信管ニ在リテハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル

四番及五番ハ榴霰彈ニ在リテハ信管廻ヲ裝定シ且曳火信管ニ在リテハ通常五番ハ信管ヲ測合シテ彈藥ヲ三番ニ渡ス

高低水準器ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ其轉輪ヲ廻ハシテ所命ノ分畫ヲ指針ニ導キ轉輪ヲ左(砲右)ニ廻ハシテ止メ分畫ノ刻線ト指針トヲ一致セシム

高低水準器ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ指針ニ對シ分畫ノ所命量ヲ増減ス

野砲ノ表尺ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ解脫管ノ攫爪ヲ前方ニ壓シ左手ヲ以テ表尺ノ下端ヲ、要スレハ右手ヲ以テ其上部ヲ握リ之ヲ略、所望ノ高サニ置キ攫爪ヲ靜ニ舊ニ復シ蝸狀螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシ最後ニ表尺ヲ上ケテ彈種ニ應スル所命ノ距離刻線ヲ坐筒上縁ニ一致セシム但表尺ノ移動量小ナルトキハ蝸狀螺桿ノ轉輪ノミヲ以テ之カ爲ニハ掌ヲ以テ轉輪ヲ押シ又ハ引ク如ク操作シ微量ノモノハ轉輪ヲ把持シテ拳ノ作用ニ依ルヲ可トス

騎砲ノ表尺ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ轉把ヲ廻ハシ表尺ヲ上下シ最後ニ表尺ヲ上ケテ所命ノ距離刻線ヲ坐筒上縁ニ一致セシム

山砲ノ表尺ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫管ノ爪ヲ後方ニ壓シ右手ヲ以テ表尺ノ下端ヲ、要スレハ左手ヲ以テ其上部ヲ握リ之ヲ略、所望ノ高サニ置キ爪ヲ靜ニ舊ニ復シ蝸狀螺桿ノ轉把ヲ廻ハシ最後ニ表尺ヲ上ケテ所命ノ距離刻線ヲ坐筒上縁ニ一致セシム但表尺ノ移動量

小ナルトキハ蝸狀螺桿ノ轉把ノミヲ以テス之
カ爲右手ヲ以テ轉把ノ握把ヲ握リ表尺ヲ上下
スル如ク操作シ微量ノモノハ轉把ヲ把持シテ
拳ノ作用ニ依ルヲ可トス
高低水準器ヲ以テ高低照準ヲ爲スニハ眼ヲ高
低水準器ノ上方ニシ左手ヲ以テ高低照準機轉
把ヲ廻ハシ要スレハ右手ヲ添ヘ氣泡管ノ刻線
ニ對シ氣泡ヲ前後對稱ナル如ク靜止セシム夜
間ニ在リテハ通常携帶燈(山砲提燈)ヲ用ヒ高
低水準器ノ下方ニ其光線ヲ反射セシムルカ若
ハ直接氣泡管ノ下方ヲ照ス
象限儀ニ依リ高低照準ヲ爲スニハ分隊長ハ象
限儀ヲ裝定シ其分畫面ヲ左ニシテ之ヲ砲尾上
面ニ在ル駐筒(山象限儀坐)ニ準シ靜ニ置キ
二番ハ前項ニ準シテ操作ス高低照準終ルヤ分
隊長ハ象限儀ヲ除ク
象限儀ヲ裝定スルニハ先ツ射距離ヲ之ニ取り
次テ高低角及高低固有修正量ヲ修正スルカ或

ハ直ニ之ニ射角及高低固有修正量ヲ取ル
象限儀ニ射距離ヲ裝定スルニハ先ツ其垂直
板ニ依リ所命ノ距離ニ應スル本分畫及副分畫
ヲ讀ミ次テ轉輪ヲ廻ハシテ角度板上ニ本分畫
ヲ、遊標上ニ副分畫ヲ取り其兩刻線ヲ一致セ
シム
射距離ヲ取りアル象限儀ニ高低角及高低固有
修正量ヲ修正スルニハ先ツ象限儀分畫ヲ讀ミ
之ニ高低角及高低固有修正量ヲ増減シテ得タ
ル角度ヲ象限儀ニ取ル
象限儀分畫ヲ讀ムニハ遊標ノ指標ノ示ス下位
最近ノ角度板分畫ニ兩分畫刻線ノ一致セル部
位ノ遊標分畫ヲ加ヘ例ヘハ「十五度十一」ト讀
ム
象限儀ニ射角及高低固有修正量ヲ裝定スルニ
ハ射角ニ高低固有修正量ヲ増減シテ得タル角
度ヲ之ニ取ル
象限儀ニ角度ヲ裝定スルニハ先ツ遊標ノ指標

ヲ半度單位ニ應スル角度板分畫ノ刻線ニ一致
セシメ次テ殘余ノ角度ニ應スル遊標分畫ノ刻
線ヲ上位最近ノ角度板分畫刻線ニ一致セシム
信管廻ヲ裝定スルニハ先ツ挿板螺ヲ緩メ挿板
ノ指針ヲ所命ノ距離刻線ニ一致セシメタル後
挿板螺ヲ緊ム
信管ヲ測合スルニハ右手ニ信管廻ノ握把ヲ、
左手ニ彈藥ヲ執リ信管廻ノ體ノ赤標ヲ信管小
藥盤ノ信管廻指標ニ一致セシムル如ク其突筒
ヲ信管廻用切溝ニ嵌メ右ニ廻ハシテ挿板ヲ
駐釘ニ合セシム
第三百三十一 信管修正分畫ヲ取ラシムルニハ例
ヘハ左ノ號令ヲ下ス
或ハ
信管三ツ高メ(下ケ)
信管修正高ク(下ケ)五ツ 或ハ 信管
修正零

四番及五番ハ信管廻ヲ修正シ通常五番ハ信管ヲ
測合シテ三番ニ渡ス
信管廻挿板ノ指針ヲ所望ノ距離刻線ニ一致セシ
ムル必要アルトキハ例ヘハ「信管千二百」ノ號令
ヲ下ス
信管廻ヲ修正スルニハ壓螺ヲ緩メ體ノ指標ニ
對シ修正分畫ヲ所命ノ量タケ移動シ刻線ヲ一
致セシムルカ或ハ指標ニ所命ノ修正分畫刻線
ヲ一致セシメタル後壓螺ヲ緊ム而シテ高ムル
場合ニハ「↑」下クル場合ニハ「↓」ノ符號
ヲ指標ニ近ツクルモノトス
裝 填
第三百三十二 所望ノ彈數ヲ裝填セシムルニハ例
ヘハ左ノ號令ヲ下ス
三發
通常五番ハ第百二十七乃至第百三十一ニ從ヒ彈
藥ヲ準備シ逐次之ヲ三番ニ渡ス三番ハ通常五番

ヨリ彈藥ヲ受取り彈藥ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱へ所命ノ彈數ニ至ルマテ逐次裝填ス
一番ハ三番彈藥ヲ裝填スルヤ閉鎖機ヲ閉チ二番
ハ一番閉鎖機ヲ閉ツルヤ照準ヲ點檢ス
散布並掃射ニ在リテハ一距離、一方向ニ應スル
彈數ヲ示ス

彈藥ヲ裝填スルニハ三番ハ要スレハ砲腔内ヲ
點檢、拭淨シタル後左手ヲ以テ彈藥ノ重心位
置ヲ支ヘ右手ヲ彈藥筒ノ底部ニ添ヘ駐釘ヲ上
方ニシテ砲身軸ノ方向ニ推進シ藥莢起緣部ヲ
身管(砲身)後端面ニ接著セシム一番ハ
閉鎖機ノ槓桿ヲ稍、(後方山砲前方)ニ押ス
如ク輕ク握リ藥莢起緣部抽筒子ニ衝突シテ
槓桿カ少シク前方(砲身後方)ニ回轉セント
スルトキ槓桿ヲ失セス閉鎖機ヲ閉チ三番ハ一
ノ閉鎖機ヲ始ムルト共ニ右手ヲ彈藥筒底部ヨリ
離ス

續イテ込メ
第三百三十二ニ從ヒ操作シ三番ハ連續裝填ス但彈
藥ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱フルコト
ナシ

發射
第三百三十四 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニ
ハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス(中三八五)
十秒 各個ニ擊テ
分隊長ハ準備成ルヤ直ニ「撃テ」ト號令シ爾後所
命ノ秒數ヲ間シ發射ヲ號令ス
分隊長ハ發射ニ際シ後復坐ノ景況ニ注意シ要ス
レハ一番ヲシテ後坐量ヲ測定セシム
一番ハ分隊長ノ號令ニテ拉繩ヲ引キテ發射シ發
射シ終ルヤ閉鎖機ヲ開ク(砲身閉鎖機ヲ開キ表尺
ヲ點檢ス)又分隊長ノ命令ニ從ヒ後坐量ヲ測定
發射終ルヤ二番ハ照準具ヲ點檢シ照準ヲ爲シ其
他ノ砲手ハ所命ノ裝填法ニ應シ第三百三十二又ハ

第三百三十三ニ從ヒ操作ス
發射ニ際シ砲車靜定セサル虞アルコトヲ認ムル
トキハ分隊長ハ豫メ「外」ト命シ砲手ヲシテ一
時車輪外ニ出テシム又不發アリタルトキハ分隊
長ハ約二秒ヲ間シ數回「撃テ」ト號令シ尙發火セ
サルトキハ約十五秒ノ後閉鎖機ヲ開カシム
後坐量ヲ測定スルニハ發射ニ先タチ後坐尺示
標匡ヲ(砲身後坐尺ヲ其室ヨリ僅ニ)前方ニ進
出セシメ發射後指標(砲身後坐尺ノ前端)ニ一
致スル分畫ヲ讀ム

第三百三十五 連續發射セシムルニハ左ノ號令ヲ
下ス
連續 各個ニ擊テ
第三百三十四ニ從ヒ操作シ分隊長ハ準備成ル毎ニ
直ニ發射ヲ號令ス(中三八三、中三八六)
第三百三十六 每發所望ノ時機ニ發射セシムルニ
ハ左ノ號令ヲ下ス
指令 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ發射ヲ號令ス爾後「次
キ」ノ號令若ハ記號ニ依リ直ニ發射ヲ號令スル
カ又ハ「何秒(連續)何回次キ」ノ號令ニ依リ第百
三十四(第三百三十五)ニ從ヒ所命ノ回數ニ應スル
彈數ヲ發射セシム(中三八四)
第三百三十七 所命ノ彈數ヲ發射中發射速度ヲ換
ヘシムルニハ單ニ發射速度ノミヲ號令ス
一發裝填ノ場合(散布及掃射ヲ除ク)ニハ發射速
度ヲ號令スルコトナシ

諸元ノ變更
第三百三十八 回轉盤ニ依リ射向ヲ變ヘシムルニ
ハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
四十右(左)へ
野、騎砲ニ在リテハ一番ハ架尾ノ移動ヲ要スル
トキハ制轉機ヲ緩メ四番ノ架尾移動終ルヤ之ヲ
緊ム
二番ハ回轉盤ヲ修正シタル後方向照準ヲ爲ス此
際架尾ノ移動ヲ要スルトキハ豫メ方向分畫ヲ零

ニ復シ置クモノトス又既ニ射角ヲ附與シアルト
キハ方向照準ヲ爲シタル後高低照準ヲ爲ス
四番ハ架尾ノ移動ヲ要スルトキハ照準棍(砲山提
把)ヲ執リ二番ト共ニ方向照準ヲ爲ス
射向變換ニ方リ照準點若ハ既ニ採用セル標定點
ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トスルトキ
ハ第百二十五ニ從ヒ新ニ標定點ヲ選定ス
第百三十九 搖架轉把ニ依リ射向ヲ換ヘシムル
ニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
右(左)二回
二番ハ射向ヲ右(左)ニ換フル如ク搖架轉把ヲ所
命ノ回数タケ廻ハシ高低照準ヲ爲ス
發射後二番ハ方向照準ヲ行フコトナシ
射向ヲ舊ニ復シ方向照準ヲ爲サシムルニハ「方
向舊ヘ」ノ號令ヲ下ス
第百四十 彈種並信管ノ種類若ハ裝置ヲ換ヘシ
ムルニハ第百二十七乃至第百二十九ニ從フ
第百四十一 高低角ヲ變ヘシムルニハ例ヘハ左

ノ號令ヲ下ス
高低百十五
或ハ
高低四増セ(減ケ)
二番ハ高低水準器ヲ裝定或ハ修正シタル後高低
照準ヲ爲ス
第百四十二 信管修正分畫ヲ換ヘ或ハ信管廻挿
板ノ指針ヲ所望ノ距離刻線ニ一致セシムルニハ
第百三十一ニ從フ
第百四十三 射距離ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左
ノ號令ヲ下ス
四千二百
或ハ
二百増セ(減ケ)
第百三十二ニ準シテ操作ス
第百四十四 回轉盤、高低水準器及表尺等ヲ同
時ニ裝定又ハ修正シ照準ヲ行フトキハ通常先ツ
方向及高低ノ順序ニ諸元ヲ裝定又ハ修正シ然ル

後方向照準ヲ行ヒ次テ高低照準ヲ行フ

散布

第百四十五 近(遠)方位ヨリ逐次數距離上ニ各
距離毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法
ノ號令ニ冠スルニ射距離又ハ其増(減)量ト共ニ
例ヘハ左ノ號令ヲ以テス但現在裝定セル射距離
ヨリ發射セシムル場合ニハ射距離ノ號令ヲ省略
スルコトヲ得
遠(近)ク百 三距離

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ所命ノ射距離若ハ
現在ノ射距離ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル
毎ニ所命ノ量ヲ増(減)シタル射距離若ハ所命ノ
射距離増(減)量並彈數ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

掃射

第百四十六 一距離上ニ於テ逐次射向ヲ換ヘ各
射向毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法

ノ號令ニ冠スルニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス
三方向 右(左)二回
分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ現在ノ射向ヨリ始
メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎ニ射向ヲ右(左)ニ
換フル如ク所命ノ搖架轉把ノ旋回方向及回数並
彈數ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

表尺照準

第百四十七 直接ニ目標ニ對シ表尺ヲ以テ照準
ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下シ次テ目標ヲ示
ス
表尺

分隊長ハ方向固有修正量及俯仰分畫ノ規正量ヲ
修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命
ス

二番ハ眼鏡ノ諸分畫ヲ一旦定位ニ復シタル後所
命ノ修正ヲ爲シ四番ト共ニ照準ヲ爲ス此際照準
點ニ關シ特ニ指示ナキトキハ眼鏡内十字ノ交截

點ヲ目標ノ中央下際ニ一致セシム
動目標ニ對シ表尺照準ヲ行フトキハ目標ノ運動
ニ追隨シテ發射ノ直前ニ至ルマテ照準ヲ繼續ス
第四百四十八 零距離ヲ以テ發射ノ準備ヲ爲サシ
ムルニハ左ノ號令ヲ下シ次テ目標ヲ示ス

零距離

二番ハ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位ニ復シ且表尺ヲ零距
離ニ裝定シ表尺照準ヲ爲ス但方向固有修正量及
俯仰分畫ノ規正量ヲ修正スルコトナシ

三番ハ通常五番ヨリ彈藥ヲ受取ル

五番ハ榴霰彈ヲ取り信管ヲ零距離ニ測合シ通常
之ヲ三番ニ渡ス榴霰彈ナキトキハ榴霰彈ヲ使用ス

信管ヲ零距離ニ測合スル爲信管廻ヲ用フルト
キハ信管修正分畫ヲモ零ト爲スヲ要ス又廻子
ヲ用フルトキハ之ヲ信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌
メ大藥盤ヲ右ニ廻シテ其圓孔ヲ駐釘ニ向ハシ
ム

諸元ノ保留及使用

第四百四十九 射擊諸元ヲ保留セシムルニハ例ヘ

ハ左ノ號令ヲ下ス

五十一砲兵諸元書ケ

或ハ

標點方向書ケ

分隊長ハ現在ノ射擊諸元即チ照準點若ハ標定
點、方向角、彈種、信管ノ種類若ハ裝置、高低
角、信管修正量、射距離ヲ記載ス但標點方向ヲ
書ク場合ニ於テハ照準點若ハ標定點並方向角ノ
ミヲ記載ス

第四百五十 保留セル諸元ヲ取ラシムルニハ例ヘ
ハ左ノ號令ヲ下ス

五十一砲兵諸元取レ

或ハ

標點方向取レ

分隊長ハ記載セル諸元ヲ號令ス
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

射擊ノ中止、再興及停止

第四百五十一 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令

ヲ下ス

擊方待テ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ中止ス但一番ハ閉鎖機
ヲ閉チ安全栓ヲ安全ノ位置ニ置ク

第四百五十二 射擊ヲ再興セシムルニハ射擊ニ關
スル號令若ハ左ノ號令ヲ下ス

擊方始メ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始ム

第四百五十三 射擊ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ
下ス

擊方止メ

一番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全栓ヲ安全ノ位置ニ置キ
野、騎砲ニ在リテハ制轉機ヲ緩メ山砲ニ在リテ
ハ拉繩ヲ握把ニ掛ク

二番ハ眼鏡ノ諸分畫ヲ定位ニ、高低水準器ノ指
針ヲ百位ニ、方向分畫ヲ零ニ復シ表尺ヲ滿下ス

四番及五番ハ信管修正分畫ヲ零ニ復シ信管ヲ測
合シアルトキハ之ヲ安全ノ位置ニ復ス又榴霰彈等

ニ信管ヲ裝著シアルトキハ之ヲ脱シ彈口栓ヲ裝

五番及六番ハ彈藥ヲ彈藥車ノ後車(山彈藥箱)ニ

復ス尙山砲ニ在リテハ四番乃至六番ハ彈藥箱ノ

蓋板ヲ閉ツ

信管ヲ安全ノ位置ニ復スル爲信管廻ヲ用フル

トキハ信管修正分畫ヲ零ニシ挿板ノ指針ヲ分

畫板ノ「十」字ニ一致セシメタル後信管測合ト

同一ニ操作ス又廻子ヲ用フルトキハ之ヲ信管

大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシテ

其指標ヲ駐釘右側ニ一致セシム

第二節 十五榴

第一款 編成、隊形及分隊

長(彈藥車長)以下
ノ定位

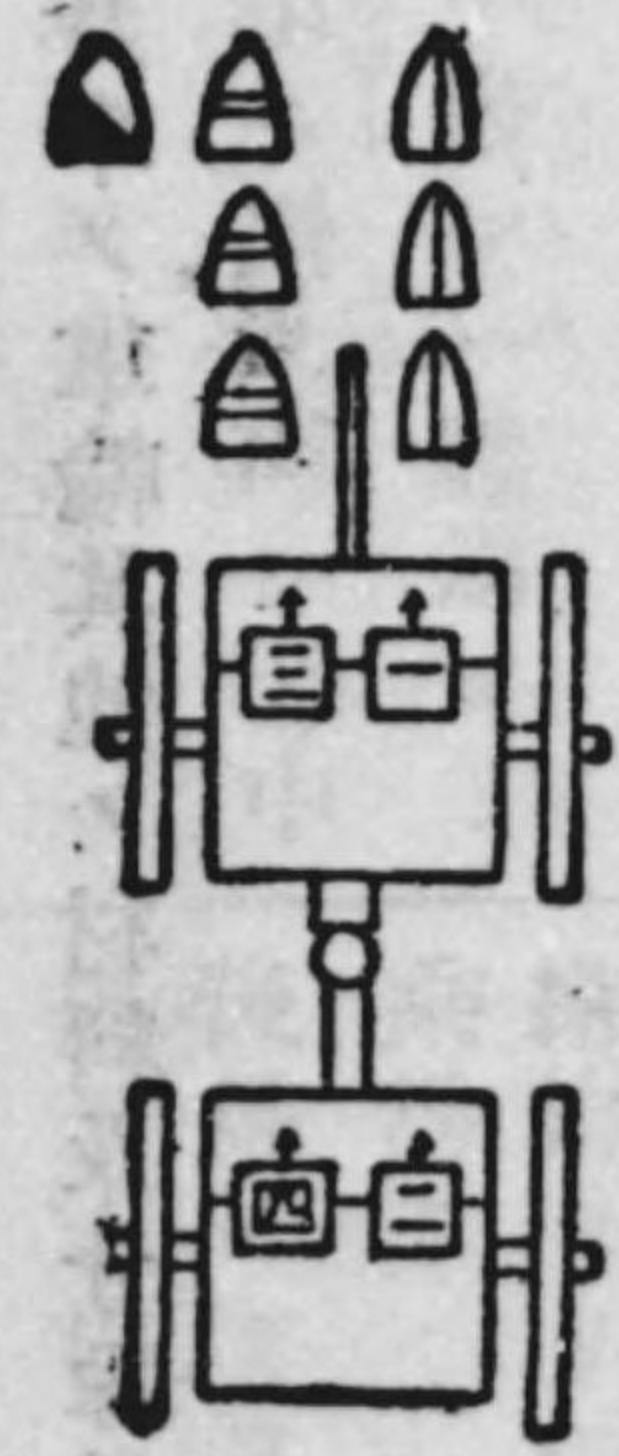
第四百五十四 分隊ノ砲手ニハ一番ヨリ十番ニ至
ル番號ヲ附シ馭者ニハ前、中、後馬馭者、輓馬
ニハ前、中、後馬ノ名稱ヲ附シ且馭者ノ乗ル馬

第四百五十六

彈藥車長以下ノ定位第十五、第十六圖ノ如シ

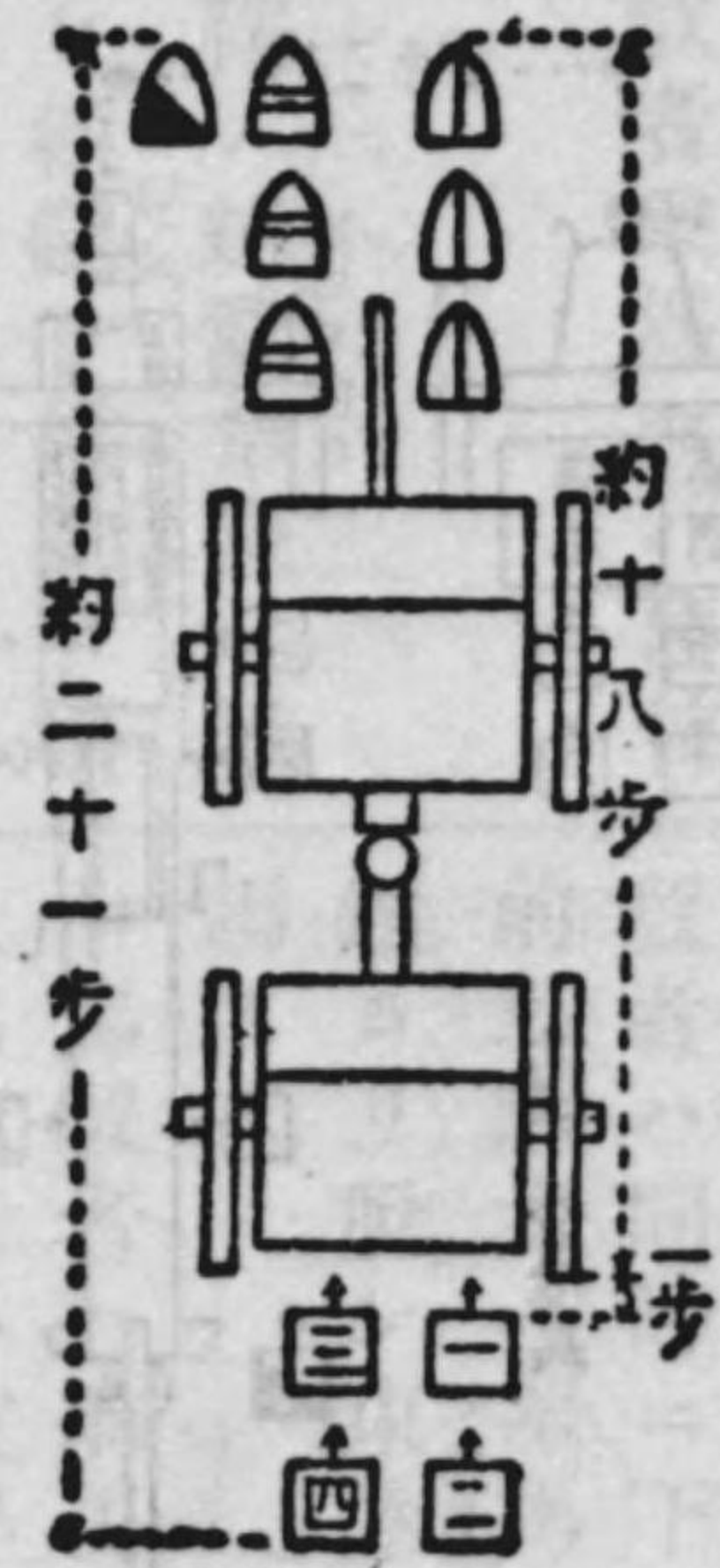
圖六十第

車 乘



圖五十第

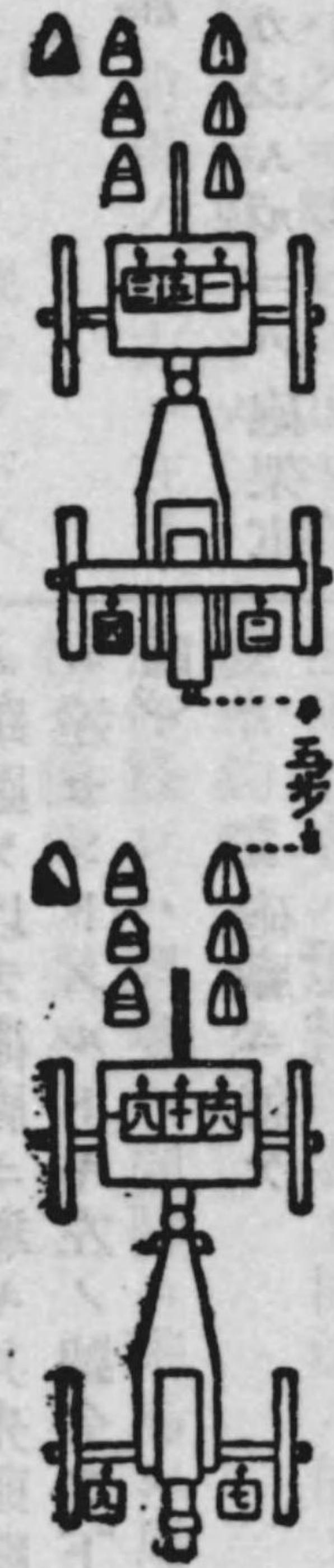
車 下



彈藥車長

圖四十第

車 乘

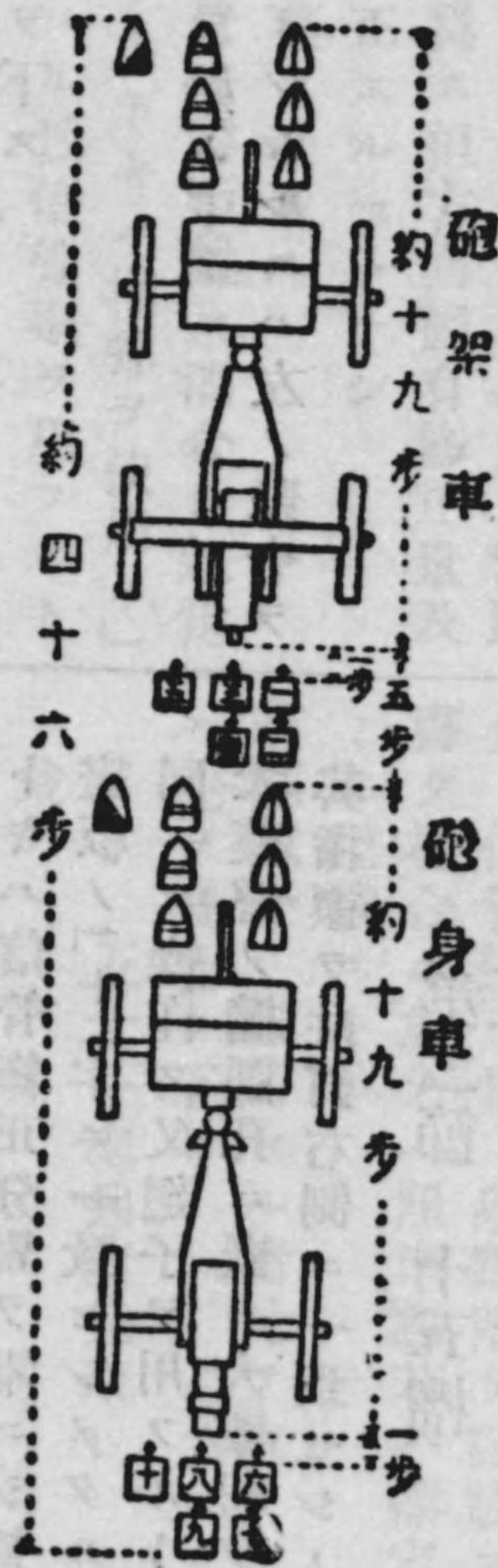


ヲ服馬ト謂ヒ其手馬ヲ駝馬ト謂フ
彈藥車ノ砲手ニハ一番ヨリ四番ニ至ル番號ヲ附
シ馭者及挽馬ノ名稱ハ前項ニ同シ

第四百五十五 分隊ノ隊形第十三、第十四圖ノ如

圖三十第

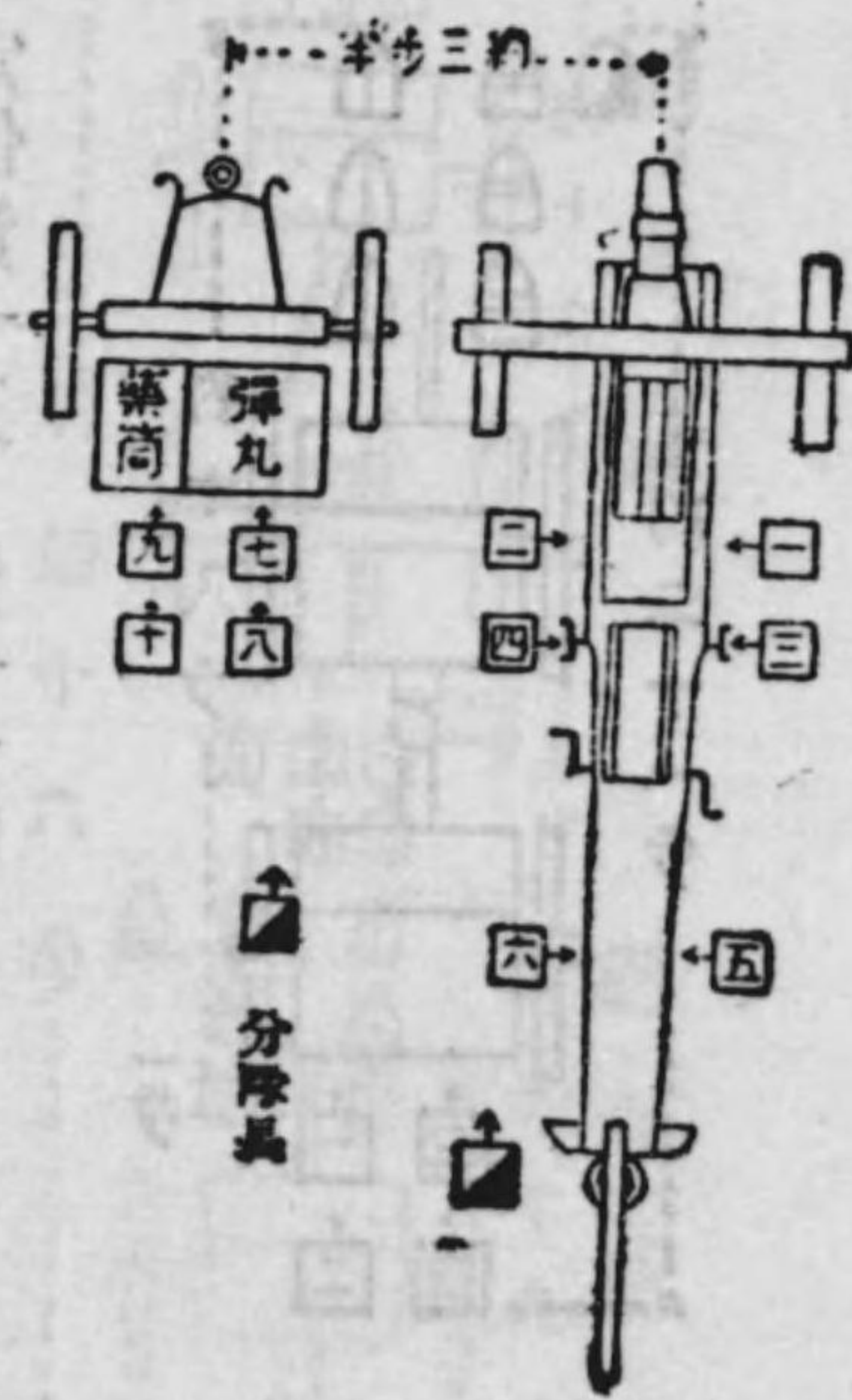
車 下



分隊長
砲手
馭馬
手馬

第五百五十七 放列ニ於ケル砲身車ノ車輪其他ノ材料及分隊長以下ノ定位第十七圖ノ如シ(野分一〇九、野中三一四)

圖七十第



第二款 運動 繫駕及脱駕

第五百五十八 馬ヲ砲廠ニ就カシムルニハ砲架車ノ轆馬ヲ先ニシ前、中、後馬ノ順序ニ各馬一步

ノ距離ヲ以テ砲廠ニ導キ其先頭略、砲車ノ位置ニ達セントスルトキ左ノ號令ヲ下ス(野中三一四) 砲廠ニ就ケ 前馬馭者ハ轆桿ノ方向ニ入り轆桿端ヨリ約七步

ヲ隔テテ止リ中、後馬馭者ハ之ニ隨ヒテ止リ各馭者ハ其馬ヲ後退シ繫駕ノ位置ニ就カシム 分隊長及砲身車長ハ通常各、前馬ノ前方ニ在リテ行進シ次テ其左側ニ到ル 第五百五十九 繫駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヲ繫ケ

分隊長及砲身車長ハ前馬馭者ヨリ必要ナル間隔ヲ取り其下馬ヲ容易ナラシメ馭者乗馬セハ舊位ニ復ス 馭者ハ同時ニ下馬ス 後馬馭者ハ先ツ提轆革ヲ服馬鞍ノ縛囊革條(鞍囊ナキトキハ鞍囊駐鑽)ニ結ヒ轆鏈ヲ擔鉤ニ掛ケ轆馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ服馬鉤ニ掛ケ然ル後支桿ヲ吊鉤ニ掛ク 中馬馭者ハ後馬馭者轆鏈ヲ掛ケ終レハ驂馬ヨリ始メテ其轆鎖ヲ後馬ノ轆革鉤鎖ニ掛ク而シテ中馬ノ内方轆索ハ轆鏈ノ上ヲ通過セシム

前馬馭者ハ中馬馭者ト同法ニ依リ轆鎖ヲ中馬ノ轆革鉤鎖ニ掛ク 操作終レハ馭者ハ同時ニ乗馬シ馬ノ位置ヲ正シ輕ク轆索ヲ張ル 第六十 脱駕セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

馬ヲ解ケ

分隊長及砲身車長ハ第五百五十九ニ準シ動作ス 馭者ハ同時ニ下馬ス 前馬馭者ハ服馬ヨリ始メテ轆鎖ヲ中馬ノ轆革鉤鎖ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ轆索ヲ束ネ終リテ乘馬ス 中馬馭者ハ前馬馭者ト同法ニ依リ操作ス 後馬馭者ハ支桿ヲ吊鉤ヨリ脱シ服馬ヨリ始メテ轆鎖ヲ服馬鉤ヨリ脱シ束索革條ヲ以テ之ヲ束ネ擔鉤ヨリ轆鏈ヲ脱シタル後提轆革ヲ解キ終リテ乘馬ス 後馬ノミヲ脱駕スルトキハ轆索ハ袴革釣革ニ掛ケ支桿ハ吊鉤ヨリ脱スルトナシ

第六十一 脱駕シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス(野中三一四)

砲架車ノ前馬馭者ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ馭者ハ一步ノ距離ヲ保チ之ニ隨フ
分隊長及砲身車長ハ第五十八ノ要領ニ依リ行進ス

下馬及乘馬

第六十二 下(乘)馬セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

下(乘)馬

分隊長及砲身車長ハ下(乘)馬シ馭者ハ同時ニ下(乘)馬ス但下馬ニ際シ分隊長及砲身車長ハ前馬馭者ヨリ其下馬ヲ爲スニ必要ナル間隔ヲ取り乘馬セハ舊位ニ復ス

行進

第六十三 速度ハ一分時間ニ常歩八十六米、速歩二百十米、駈歩三百十米ヲ基準トス(野分

一〇九

以上ノ速度ハ要スレハ之ヲ伸縮スルコトヲ得而シテ速歩ヲ永ク持續スルトキハ其速度ヲ約百八十米ニ縮ムルヲ可トス
第六十四 常(速)歩ニテ直行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前(速歩)進

分隊長ハ正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進シ砲身車長ハ分隊長ニ隨ヒ同時ニ前進ス
前馬馭者ハ分隊長又ハ砲身車長ニ準ヒ中、後馬馭者ハ前方ノ馭者ニ重リ同時ニ前進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度ヲ伸ハシ速歩ニ移ル

分隊 止

第六十五 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
分隊長及砲身車長ハ漸次ニ停止ス
後馬馭者ハ漸次ニ控制シテ車輛ヲ止メ前、中馬馭者ハ後馬馭者ノ控制ト相俟チテ漸次ニ停止ス但前馬馭者ハ分隊長又ハ砲身車長ニ準ヒテ止ル

第六十六 歩度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

常(速)(駈)歩 進

漸次ニ所命ノ歩度ニ移ル

第六十七 常(速)(駈)歩行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩度ヲ伸ハセ

或ハ

歩度ヲ縮メ

徐ロニ速度ヲ伸ハシ或ハ縮ム

正規ノ速度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

常(速)(駈)歩 進

徐ロニ正規ノ速度ニ復ス

第六十八 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ 進

砲架車ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ砲身車ハ之ニ隨フ

右(左)向ニ際シ前馬馭者ハ其内方馬ヲ歩度ノ基準トシ約十五歩ノ半徑ヲ以テ弧ヲ畫カシム中、後馬馭者ハ各馬協同輓曳ヲ爲シ得ル如ク輪線上ヲ通過ス

第六十九 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

半輪に左へ 進

第六十八ノ要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ續キテ直進ス

此運動ハ駈歩ヲ以テ行フコトナシ

第七十 制轉機ヲ使用スルニハ二番及七番ハ通常後車ノ踏板ニ上リ轉輪ヲ使用シテ之ヲ緊メ又ハ緩ム

乘車及下車

第七十一 乘車及下車ハ停止間ニ於テ行フモノトス要スレハ常歩行進間ニ於テモ之ヲ行フコトアリ

第七十二 乘車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

レハ反復之ヲ踏ミ著ケ各砲手協力シテ十分ニ
 架尾ヲ嵌ム此際三番ハ適時緊緩槓桿ヲ緩メ四
 番ト共ニ連結機ノ轉把ヲ廻ハシテ連結鉤ヲ確
 實ニ其孔ニ鉤シ緊緩槓桿ヲ緊メ「宜シ」ト唱
 フ
 臂力ニ依ル連結困難ナルトキハ分隊長ハ適宜
 砲手ノ位置ヲ變更シ砲身移動機ヲ使用セシム
 之カ爲四番ハ砲身移動機ノ鋼索ヲ執リ其端末
 ヲ砲架車左側板上面ノ鉤ニ掛ケ八番及九番ハ
 砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ兩車ヲ近ツカシ
 ム
 諸覆(蓋ヲ含ム)ノ除去並拭淨、塗油
 一番ハ搖架上板覆ノ後端並高低照準機覆
 ヲ脱シ高低照準機覆ヲ二番ニ渡シ二番ハ前方
 準梁覆、砲口蓋及方向照準機覆ヲ脱
 シ一番ヨリ受取りタル高低照準機覆ト共ニ假
 ニ之ヲ車軸上ニ置ク

五番ハ砲架匣ヨリ雜巾ヲ出シ之ヲ九番ニ渡シ
 接續螺化驛ヲ左ニ廻ハシ砲身ト砲尾托板トノ
 連結ヲ解キ接續螺化驛ノ内面ヲ拭淨ス
 七番ハ八番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ脱シ之ヲ假ニ
 砲架上ニ置ク
 九番ハ五番ヨリ雜巾ヲ受取り之ヲ三番及四番
 ニ渡シタル後搖架上板覆ヲ脱シ之ヲ假ニ防楯
 ニ掛ケ接續螺、搖架上板ノ準溝及上面ヲ拭淨
 ス
 三番及四番ハ砲身移動機ノ托梁ヲ脱シ托梁及
 前方準梁ヲ拭淨ス
 六番ハ砲架匣ヨリ油罐ヲ出シ接續螺化驛ノ内
 面ニ塗油シタル後之ヲ十番ニ渡ス
 十番ハ砲身移動機ノ托梁、搖架上板ノ準溝及
 上面並接續螺ニ塗油シタル後油罐ヲ砲架匣ニ
 收ム
 拭淨、塗油ハ放列布置ニ先タチ豫メ之ヲ行フ
 ヲ可トスルコトアリ

砲身移動準備

六番ハ砲架匣ヨリ補助鋼索及接續螺化驛螺化驛
 ヲ出シ補助鋼索ヲ八番ニ渡シ螺化驛ヲ假ニ砲尾
 上面ニ載ス八番ハ補助鋼索ヲ二番ニ渡シ其一
 端ヲ砲尾左側面ノ懸鈕ニ鉤シ次テ砲身移動機
 ノ轉把ヲ廻ハシテ鋼索ヲ緩ム四番ハ鋼索ヲ伸
 ハシ其端ヲ二番ニ渡シ二番ハ補助鋼索ヲ八番
 ヲ受取り之ヲ左方砲耳蓋板上ノ滑輪ニ通シ
 テ其鉤ヲ鋼索ニ鉤ス
 三番及四番ハ砲身移動機ノ托梁ヲ後端ヨリ始
 メテ砲身托板及搖架ニ架ス一番ハ搖架ノ傾斜
 ヲ規正シ「宜シ」ト唱フ
 五番ハ照準根ヲ脱シ之ヲ架尾ニ裝シ六番ト協
 カシテ駐劔ヲ下ロス之カ爲六番ハ右手ニ駐劔
 ノ轉把ヲ、五番ハ左手ニ駐劔ヲ執リ各、他手
 ニテ駐栓ヲ廻ハシテ之ヲ其孔ヨリ脱シ駐劔ヲ
 下ロシ駐栓ヲ廻ハシテ其孔ニ嵌ム

砲身ノ前進及砲身車車輪ノ離脱

七番及八番ハ砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ徐
 ロニ砲身ヲ前進セシム一番乃至四番ハ其前進
 ヲ助ケ砲身全ク搖架上板上ノ定位置ニ達スル
 ヤ二番ハ砲尾上面ニ載セアル螺化驛ヲ取リ接續
 螺化驛ヲ右ニ廻ハシテ連結臂ト活塞桿トヲ連
 結シ螺化驛ヲ假ニ砲架上ニ置ク
 一番及二番ハ砲架車車輪ヲ持チ三番乃至六番
 及八番ハ協力シテ架尾ヲ上ケ七番ハ緊拙桿ヲ
 執リ九番ハ防楯ノ前方ニ於テ砲身ノ前進ヲ助
 ケタル後十番ト共ニ砲身車車輪ヲ執リ之ヲ砲
 架ヨリ離脱シテ左側ニ引キ出シ放列ノ定位置
 置ク
 分隊長ハ要スレハ砲車ノ位置ヲ正ス
 砲側ノ整備
 一番ハ要スレハ砲身ニ若干ノ射角ヲ附與シ砲
 身移動機ノ托梁ノ離脱ヲ容易ナラシメ防楯ノ
 右方翼板ヲ開キ圓匙及十字鉞ヲ防楯ヨリ脱シ

乗車

砲手ハ銃劍ヲ體ノ前方ニ致シ乗車ノ定位ニ就キ
前車ニ乗レル砲手中外側ニ位置スル者ハ各々外
方ノ手ニテ倚權ヲ握リ各砲手ハ互ニ臂ヲ組ム又
二番、四番、七番及九番ハ踏板ヲ踏ミ二番及四
番ハ兩手ヲ以テ防楯ノ握把ヲ握リ七番及九番ハ
外方ノ手ニテ握桿頭ヲ、内方ノ手ニテ砲身ノ握
把ヲ握リ勉メテ身體ヲ内方ニ倚托ス
第百七十三 下車セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
下車
砲手ハ下車ノ定位ニ就キ銃劍ヲ舊ニ復ス

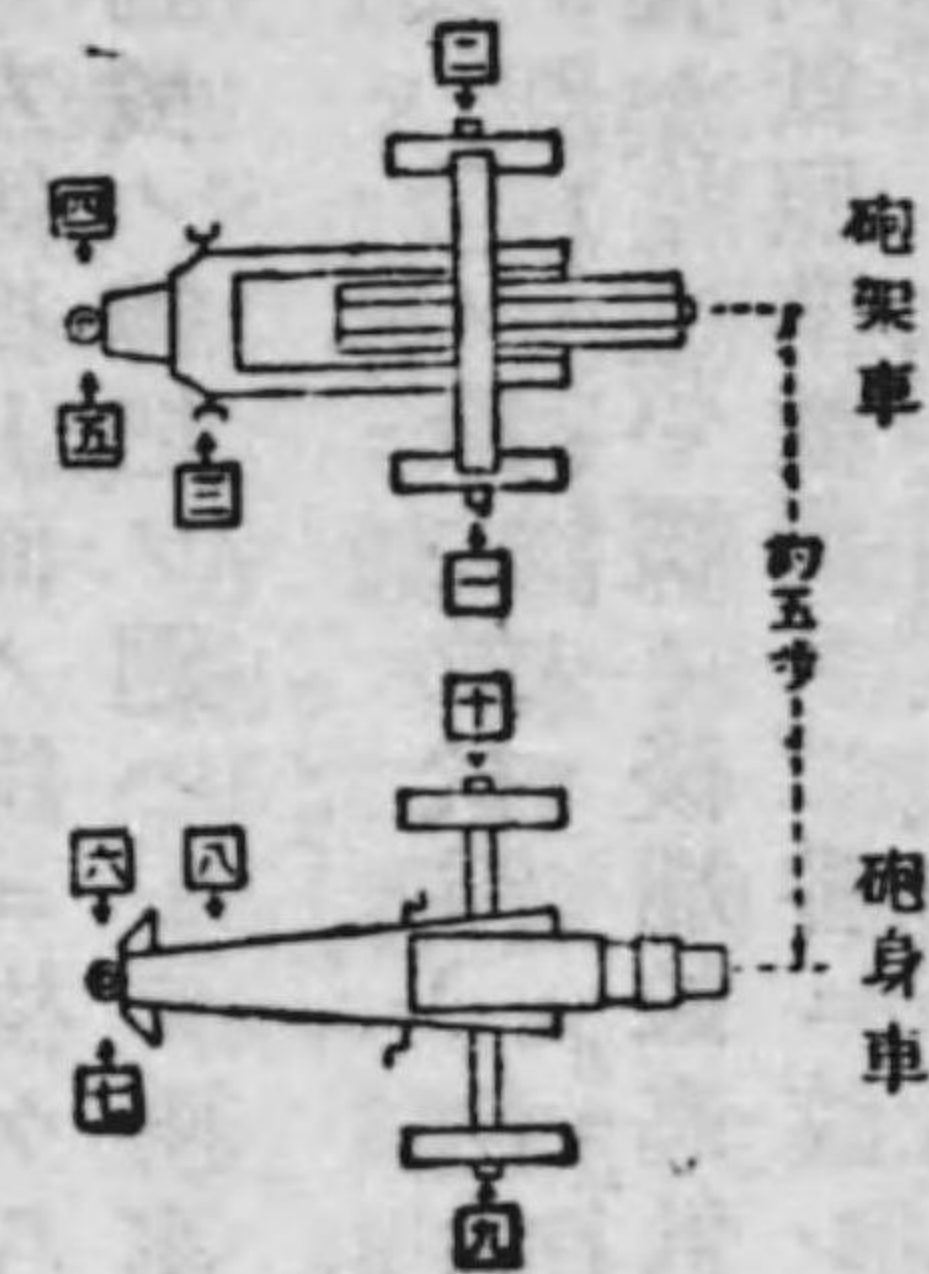
放列布置及撤去

第百七十四 放列布置ハ豫メ射擊用意ヲ爲サシ
メタル後之ヲ行フ
第百七十五 前車ノ運動ハ特ニ指示ナキトキハ
放列布置ノ場合ニ於テハ其際探リアル歩度(駈
歩ニテ放列ヲ布置スルトキハ速歩)、撤去ノ場合
ニ於テハ速歩ヲ以テ行フ

放列布置ノ號令アルトキ行進間ニ在リテハ砲架
車ハ分隊長ノ指示ニ依リ停止シ砲身車ハ現在ノ
歩度(停止ヨリ放列ヲ布置スルトキハ常歩)ヲ以
テ右放列ニ在リテハ砲架車ノ左側、左放列ニ在
リテハ砲架車ノ右側ニ約五歩ノ間隔ヲ保ツ如ク
前進シ砲架車ト同線上ニ到リテ停止ス
駈者乗馬ヲ牽クトキハ乘馬ノ小勒韁ヲ服馬ノ韁
ト共ニ左手ニ執リ之ヲ服馬ノ左側ニ馭ス
第百七十六 放列布置ニ方リ分隊長ハ適時篠袴
及支杖ヲ車輪下ニ裝ス
第百七十七 放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號令
ヲ下ス(中三二八)
右(左)擊方 放列
分隊長ハ連結ノ爲適當ナル位置ニ砲架車ヲ止ラ
シメタル後大勒韁ヲ前橋ニ掛ケ小勒韁ヲ前馬馭
者ニ授ケテ下馬ス
砲手乗車シアルトキハ下車ス
後車回轉

右放列後車回轉ニ於ケル砲手ノ位置第十八圖
ノ如シ

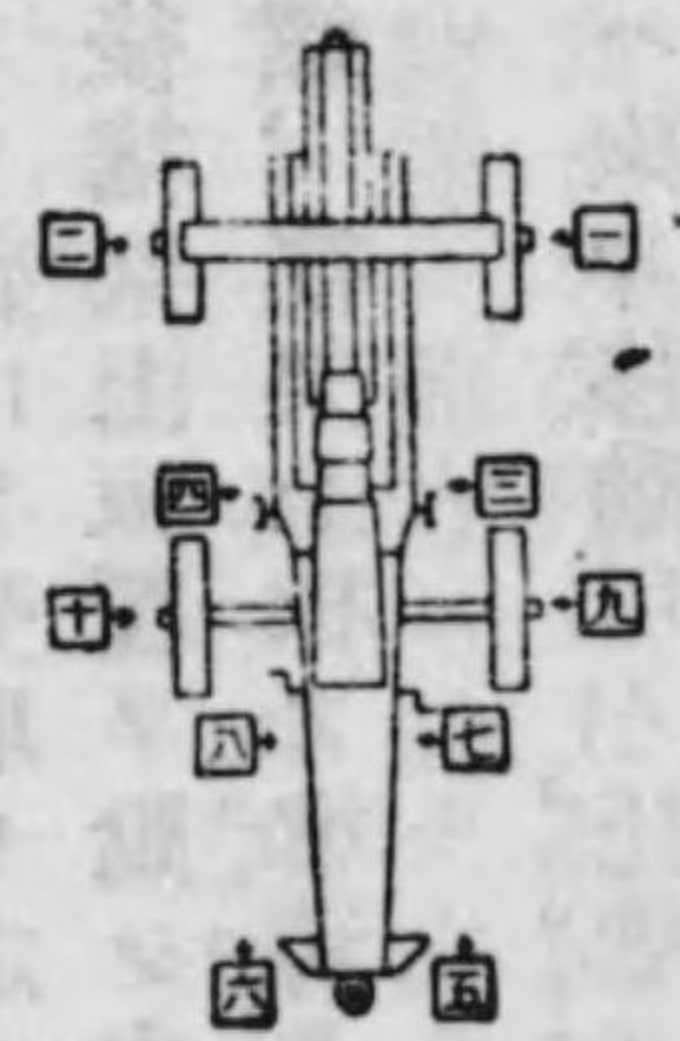
第十八圖



十番ハ砲身車架頭ノ蓋板ヲ開ク
後馬馭者ハ提轅革ノ提把ヲ執リ轅桿ヲ上ケ四
番又ハ六番「宜シ」ト唱フレハ之ヲ放ツ
砲手ハ後車回轉ノ位置ニ就キ四番及六番ハ鋼
鈕栓ノ轉把ヲ廻ハシ各砲手協力シテ架尾銀ヲ
鋼鈕ヨリ脱シタル後鋼鈕栓ヲ舊ニ復シ「宜シ」
ト唱フ

分隊長ハ前車ヨリ所要ノ材料ヲ卸下セシム
前車ハ砲身車、砲架車ノ順序ヲ以テ縱隊トナ
リ砲身車長ノ指揮ヲ以テ所命ノ地點ニ到ル
各砲手ハ協力シテ兩砲架ノ縱軸線ヲ一致セシ
ムル如ク各車ヲ左(右)ニ廻ハス
連結
連結ニ於ケル砲手ノ位置第十九圖ノ如シ

第十九圖



砲手ハ連結ノ位置ニ就キ通常砲身車ヲ前進セ
シメ砲架車ノ架尾ヲ砲身車架頭ノ方形匣内ニ
成ルヘク深く嵌入シタル後九番及十番ハ駐軸
板ヲ外側ニ解脫シ七番ハ緊拵桿ヲ離脱シ要ス

レハ反復之ヲ踏ミ著ケ各砲手協力シテ十分ニ架尾ヲ嵌ム此際三番ハ適時緊緩槓桿ヲ緩メ四番ト共ニ連結機ノ轉把ヲ廻ハシテ連結鉤ヲ確實ニ其孔ニ鉤シ緊緩槓桿ヲ緊メ「宜シ」ト唱フ

臂力ニ依ル連結困難ナルトキハ分隊長ハ適宜砲手ノ位置ヲ變更シ砲身移動機ヲ使用セシム之カ爲四番ハ砲身移動機ノ鋼索ヲ執リ其端末ヲ砲架車左側板上面ノ鉤ニ掛ケ八番及九番ハ砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ兩車ヲ近ツカシム

諸覆(蓋ヲ含ム)ノ除去並拭淨、塗油

一番ハ搖架上板覆ノ後端並高低照準機覆ヲ脱シ高低照準機覆ヲ二番ニ渡シ二番ハ前方準梁覆、砲口蓋及方向照準機覆ヲ脱シ一番ヨリ受取りタル高低照準機覆ト共ニ假ニ之ヲ車軸上ニ置ク

五番ハ砲架匣ヨリ雜巾ヲ出シ之ヲ九番ニ渡シ接続螺牝螺ヲ左ニ廻ハシ砲身ト砲尾托板トノ連結ヲ解キ接続螺牝螺ノ内面ヲ拭淨ス

七番ハ八番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ脱シ之ヲ假ニ砲架上ニ置ク

九番ハ五番ヨリ雜巾ヲ受取り之ヲ三番及四番ニ渡シタル後搖架上板覆ヲ脱シ之ヲ假ニ防楯ニ掛ケ接続螺、搖架上板ノ準溝及上面ヲ拭淨ス

三番及四番ハ砲身移動用ノ托梁ヲ脱シ托梁及前方準梁ヲ拭淨ス

六番ハ砲架匣ヨリ油罐ヲ出シ接続螺牝螺ノ内面ニ塗油シタル後之ヲ十番ニ渡ス

十番ハ砲身移動用ノ托梁、搖架上板ノ準溝及上面並接続螺ニ塗油シタル後油罐ヲ砲架匣ニ收ム

拭淨、塗油ハ放列布置ニ先タチ豫メ之ヲ行フヲ可トスルコトアリ

砲身移動準備

六番ハ砲架匣ヨリ補助鋼索及接続螺牝螺螺輪ヲ出シ補助鋼索ヲ八番ニ渡シ螺輪ヲ假ニ砲尾上面ニ載ス八番ハ補助鋼索ヲ二番ニ渡シ其一端ヲ砲尾左側面ノ懸鈕ニ鉤シ次テ砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ鋼索ヲ緩ム四番ハ鋼索ヲ伸ハシ其端ヲ二番ニ渡ス二番ハ補助鋼索ヲ八番ヨリ受取り之ヲ左方砲耳蓋板上ノ滑輪ニ通シテ其鉤ヲ鋼索ニ鉤ス

三番及四番ハ砲身移動用ノ托梁ヲ後端ヨリ始メテ砲身托板及搖架ニ架ス一番ハ搖架ノ傾斜ヲ規正シ「宜シ」ト唱フ

五番ハ照準機ヲ脱シ之ヲ架尾ニ裝シ六番ト協力シテ駐鋤ヲ下ロス之カ爲六番ハ右手ニ駐鋤ノ轉把ヲ、五番ハ左手ニ駐鋤ヲ執リ各、他手ニテ駐栓ヲ廻ハシテ之ヲ其孔ヨリ脱シ駐鋤ヲ下ロシ駐栓ヲ廻ハシテ其孔ニ嵌ム

砲身ノ前進及砲身車車輪ノ離脱

七番及八番ハ砲身移動機ノ轉把ヲ廻ハシテ徐ロニ砲身ヲ前進セシム一番乃至四番ハ其前進ヲ助ケ砲身全ク搖架上板上ノ定位位置ニ達スルヤ二番ハ砲尾上面ニ載セアル螺輪ヲ取り接続螺牝螺ヲ右ニ廻ハシテ連結臂ト活塞桿トヲ連結シ螺輪ヲ假ニ砲架上ニ置ク

一番及二番ハ砲架車車輪ヲ持チ三番乃至六番及八番ハ協力シテ架尾ヲ上ケ七番ハ緊扯桿ヲ執リ九番ハ防楯ノ前方ニ於テ砲身ノ前進ヲ助ケタル後十番ト共ニ砲身車車輪ヲ執リ之ヲ砲架ヨリ離脱シテ左側ニ引キ出シ放列ノ定位ニ置ク

分隊長ハ要スレハ砲車ノ位置ヲ正ス

砲側ノ整備

一番ハ要スレハ砲身ニ若干ノ射角ヲ附與シ砲身移動用ノ托梁ノ離脱ヲ容易ナラシメ防楯ノ右方翼板ヲ開キ圓匙及十字鐵ヲ防楯ヨリ脱シ

テ傍ニ置キ搖架上板覆ヲ取り之ヲ五番ニ渡シ
 五番ヨリ擴大鏡ヲ受取り之ヲ裝シ距離板ノ
 氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導ク
 三番及四番ハ砲身移動用ノ托架ヲ脱シテ之ヲ
 舊位ニ復シ槓桿ヲ離脱シテ其場ニ置キ四番ハ
 架頭ノ蓋板ヲ其駐鉤ニ鉤ス
 二番ハ八番ト協力シテ補助鋼索ヲ脱シ之ヲ卷
 キテ假ニ砲架上ニ置キ防楯ノ左方翼板ヲ開キ
 圓匙ヲ防楯ヨリ脱シ傍ニ置ク
 八番ハ鋼索ヲ緩メ其端末ヲ前砲架左側板上
 ノ鉤ニ鉤シ補助鋼索及螺輪ヲ假ニ砲架上ニ置
 キ信管廻、裝彈手套、藥筒攪、布片及離布ヲ
 出シテ之ヲ彈藥置場ニ置ク
 五番ハ砲架匣ヨリ擴大鏡ヲ出シ之ヲ一番ニ渡
 シ一番ヨリ搖架上板覆ヲ受取ル
 六番ハ五番ト共ニ搖架上板覆ヲ以テ砲身托板
 ヲ覆ヒ槓桿、圓匙及十字鉤ヲ架尾ノ傍ニ置キ
 タル後補助鋼索、接續螺牝螺輪ヲ砲架匣ニ

收ム
 三番ハ裝彈板ヲ前砲架ノ砲架匣ヨリ出シテ砲
 身托板上ニ置キ安全機ヲ發火ノ位置ニ爲シ拉
 繩ヲ閉鎖機ノ握把ニ掛ク
 七番ハ砲口蓋、前方準梁覆、高低照準機覆、
 方向照準機覆ヲ二番ヨリ受取り砲尾蓋ニ包ミ
 之ヲ彈藥置場ニ置ク
 七番及八番ハ裝彈手套ヲ、九番及十番ハ藥筒
 攪ヲ携フ
 分隊長ハ適時砲手ヲシテ各部ヲ檢シ要部ニ給
 油シ補助防楯ヲ砲身車ノ車輪ニ著ケシム
 第三百七十八 接續ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ
 下ス
 右(左)へ 前車掛ケ
 砲身車長ハ砲身車、砲架車ノ順序ヲ以テ前車ヲ
 放列ノ左(右)ヨリ導ク
 前馬馭者ハ先ツ概ネ後車ノ車輪ト架尾銀トヲ連
 ヌル線ニ沿ヒテ前進シ次テ前車ヲ後車ノ軸線方
 向ニ導キ得ル如ク進ミ後馬馭者ハ鋼鈕ヲ架尾銀

ニ對シテ止メ得ル如ク「宜シ」ト唱へ各馭者ハ停
 止ス
 砲手ハ第三百七十七ト概ネ反對ノ操作ヲ爲シテ連
 結ヲ解キ砲身車ヲ約五歩後退セシメタル後砲架
 車及砲身車ノ架尾ヲ約四十五度右(左)へ向ケ地
 上ニ置キ下車ノ定位ニ就ク
 前車來ルヤ砲手ハ後車回轉ノ位置ニ就キ協力シ
 テ前車ヲ接續シ四番及六番ハ「宜シ」ト唱へ馭者
 ハ馬ノ位置ヲ正シ輕ク轉索ヲ張ル
 接續終ルヤ砲手下車ノ定位ニ就ク
 分隊長ハ乘馬ス
 分隊ハ前進ニ方リ正規ノ隊形ニ移ル
 第三百七十九 兩砲架連結ノ儘放列布置及撤去ヲ
 行フコトヲ得此場合ニ於テハ之ヲ繫駕スルニ通
 常轉馬四駢ヲ以テシ第三百七十七及第三百八十
 準シテ操作ス
 第三百八十 彈藥車ノ運動ハ概ネ分隊ノ運動ニ準

第三款 射擊
 第三百八十一 射擊ノ號令ハ左記事項中所要ノモ
 ノヲ概ネ列記ノ順序ニ合スルモノトス
 照準點ノ方向及照準點
 方向角又ハ方向修正量
 彈種
 信管ノ種類又ハ裝置、信管修正量
 裝藥號
 裝填法
 高低角又ハ高低修正量
 高低射界
 射距離又ハ射距離變換量
 散布ノ方法
 發射速度
 發射法
 高低射界ニ關スル號令ナキトキハ低射界トス
 射擊スヘキ目標ハ適宜ノ時機ニ之ヲ指示ス
 分隊長以下ハ新ナル號令アルトキハ直ニ之ニ依

リ操作ス
砲手ハ射撃諸元ノ號令アル毎ニ之ヲ裝定又ハ修正シタル後其結果ヲ分隊長ニ報告ス而シテ此報告及操作間ニ用フル呼號ハ關係者ノ了解シ得ルヲ度トシ明確ニ發唱スルモノトス
第百八十二 照準成ルヤ一番及二番ハ「宜シ」ト唱フ

射撃用意及解除

第百八十三 射撃用意ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

射撃用意

一番ハ砲架車ノ前車ヨリ觀準儀ヲ出シ之ヲ二番ニ渡ス

二番ハ方向照準機ヲ脱シ觀準儀ヲ其室ニ裝シ諸分畫ヲ定位(諸分畫ヲ零位但分畫銀分畫ハ前視零位(鏡頭ヲ前方ニセルトキノ零位))ニ、觀準儀托坐分畫板ノ指針ヲ定位(裝藥二號ノ零位)ニシテ方向照準機ヲ裝ス

六番ハ七番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ脱シ後砲架匣ヨリ拉繩ヲ出シ其締鎖ヲ引鐵ノ鎖ニ鉤シ之ヲ閉鎖機ノ握把ニ纏ヒ砲尾蓋ヲ裝ス
觀準儀ヲ裝スルニハ先ツ觀準儀室ノ壓桿ノ轉輪ヲ左ニ廻ハシ次ニ一番ヨリ觀準儀ヲ受取り右手ヲ以テ分畫筒ノ下方儀ノ本體ヲ、左手ヲ以テ脚ノ下端ヲ握リ接眼鏡ヲ後方ニシ徐ロニ觀準儀ノ脚ヲ其室ニ挿入シ觀準儀ノ突筒ヲ室ノ上端切缺部ニ嵌メ壓桿ノ轉輪ヲ右ニ廻ハシテ之ヲ緊定ス
第百八十四 射撃用意ヲ解カシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
用意ヲ解ケ
第百八十三ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス
裝填及照準
第百八十五 裝填及照準ヲ爲サシムルニハ例ハ左ノ號令ヲ下ス

照準點後方一本杉ノ頂上
方向三千百五十或ハ五十左ハ

榴彈(榴霰彈)

瞬發信管或ハ短延期信管(著發信管或ハ曳火信管、信管修正千三百)

裝藥三號
三發或ハ續イテ込メ
高低十二度六
四千或ハ高射界四千

散布ニ在リテハ裝填ノ爲一距離ノ彈數ヲ號令ス
第百八十六 分隊長ハ第百八十五ノ號令ニ基キ砲手ノ操作特ニ照準具及信管廻ノ裝定又ハ修正、照準、彈藥及信管ノ準備ヲ監視ス又方向固有修正量及高低固有修正量ヲ自ら修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキハ其修正ヲ命ス

第百八十七 照準點及方向角ノ號令ニテ二番ハ分畫銀上ニ方向角ヲ裝定或ハ修正シ横表尺上ニ

方向固有修正量ヲ裝定シ四番乃至六番要スレハ一番及三番ト共ニ方向照準ヲ爲シ裝藥號、高低射界及射距離ノ號令ニテ觀準儀托坐分畫板ヲ裝定シタル後方向照準ヲ完了ス
四番ハ架尾ノ移動終ルヤ制轉機ヲ緊ム
方向照準ヲ爲スニ方リ照準點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トスルトキハ通常分隊長ハ他ニ適當ナル地物ヲ選ヒ標定點ト爲シ之ヲ二番ニ指示ス二番ハ射向ヲ換フルコトナク分畫銀ヲ廻ハシテ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ標定點ニ一致セシメ標定點及方向角ヲ分隊長ニ報告ス
標定點ハ發見及照準容易ニシテ埤減變位ノ虞ナク其位置ハ成ルヘク遠ク且後方ナルヲ可トス
標定點トシテ適當ナル地物ナキトキハ標桿ヲ立ツ
夜間ニ在リテハ標定點トシテ通常携帶燈ヲ設置ス
分畫銀ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫子ノ翼ヲ略、垂直ニ起シ右手ヲ以テ觀準儀頭部ノ兩

側ヲ攫ミ眼鏡ノ向ヲ照準點ノ方向ニ廻ハシテ
所命ノ分畫鏡分畫ヲ齒輪室上部ノ指標ニ一致
セシメ翼ヲ靜ニ舊ニ復シタル後右手ヲ以テ轉
輪ヲ右ニ廻ハシテ所命ノ分畫筒分畫ヲ同轉螺
室ノ指標ニ一致セシム
分畫鏡ヲ修正スルニハ現ニ齒輪室上部及同轉
螺室ノ指標ニ對スル刻線ヨリ起リ所命ノ數ヲ
右(左)ニシテ分畫筒分畫ノ刻線ヲ指標ニ一致セ
シム而シテ分畫鏡分畫ヲ右(左)ニスルニハ其
分畫ヲ指標ニ對シ右(左)ニ移シ分畫筒分畫ヲ
右(左)ニスルニハ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハス但轉
輪ハ常ニ右ニ廻ハシテ止ムル如クスルヲ要
ス
照準點ト共ニ方向修正量ヲ號令セラレタルト
キハ照準點ノ方向後(前)方ナルニ從ヒ後(前)
視零ヨリ修正ス
イラダウラカシ
橫表尺ヲ裝定スルニハ誘導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハ
シ所命ノ分畫右(左)ナルトキハ眼鏡托坐下端

ノ指標ヲ右(左)方分畫上所命ノ分畫ニ一致セ
シム
橫表尺ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ修
正量ニ應ジ指標ヲ右(左)ニ動かス
視準儀托坐分畫板ヲ裝定スルニハ指針托架ノ
轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ所命ノ裝藥號ニ置キ誘
導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ所命ノ高低射
界ニ應スル射距離ニ一致セシム
方向照準ヲ爲スニハ五番及六番ハ照準棍或ハ
槓桿ヲ執リ架尾ヲ左右シテ砲口ヲ略、所望ノ
方向ニ向ハシム此際要スレハ一番、三番及四
番ハ之ヲ助ク四番ハ車輪ノ外側ヨリ右手ヲ以
テ橫誘導螺桿ノ轉輪ヲ、左手ヲ以テ縱誘導螺
桿ノ轉輪ヲ握リ視準儀後方氣泡管ノ氣泡右
(左)ニ偏スルトキハ橫誘導螺桿ノ轉輪ヲ右
(左)ニ廻ハシ視準儀左方氣泡管ノ氣泡前(後)
方ニ偏スルトキハ縱誘導螺桿ノ轉輪ヲ右(左)
ニ廻ハシ氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導キ
二番ハ要スレハ俯仰裝置ノ轉輪ヲ使用シ視頭

ヲ俯仰シ眼ヲ眼鏡ヨリ約一指幅ヲ隔テテ狙ヒ
手若ハ聲ニテ合圖ヲ爲シ五番及六番ヲシテ架
尾ヲ左右セシメ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線
ヲ略、照準點ニ導キ次テ方向照準機ノ轉輪ヲ
廻ハシ要スレハ俯仰裝置ヲ使用シテ眼鏡内十
字ノ交截點又ハ縱線ヲ照準點ニ一致セシム夜
間ニ在リテハ通常携帶燈ヲ以テ窓板若ハ照窓
ヲ照ス
第百八十八 彈種ノ號令ニテ三番ハ閉鎖機ヲ開
キ裝彈板ヲ裝シ左手ヲ以テ其脚ヲ保持シ七番及
八番ハ所命ノ彈丸ヲ準備ス
信管ノ號令ニテ七番及八番ハ榴彈等ニ在リテハ
瞬發信管若ハ短延期信管ヲ裝著シ榴發彈ニ在リ
テハ信管ノ錫帽ト共ニ安全割栓ヲ脱シ著發信管
ノトキハ安全ノ位置ヲ檢シ曳火信管ノトキハ爾
後信管修正量、裝藥號、高低射界及射距離ノ號
令ニ應ジ信管廻ノ裝定及修正ヲ行ヒ信管ヲ測合
ス

裝藥號ノ號令ニテ九番及十番ハ裝藥ヲ編合シ藥
莢蓋ヲ以テ之ヲ壓定ス
裝填法ノ號令ニテ七番若ハ八番ハ彈丸ヲ、九番
若ハ十番ハ藥筒ヲ裝填ス三番ハ七番若ハ八番彈
丸ヲ裝填スルヤ裝彈板ヲ舊位ニ復シ九番若ハ十
番藥筒ヲ裝填スルヤ閉鎖機ヲ閉ツテシテ彈數ヲ
指定シ例ヘハ「三發」ト號令セラレタルトキハ七
番及八番ハ彈丸ヲ、九番及十番ハ藥筒ヲ所命ノ
數ニ至ルマテ逐次裝填ス但七番若ハ八番ハ彈丸
ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱フ又「續イ
テ込メ」ノ號令アリタルトキハ連續裝填ス
閉鎖機ヲ開クニハ右手ノ指ヲ以テ駐爪軸ノ翼
ヲ後方ニ引ク
閉鎖機ヲ閉ツルニハ右手ヲ以テ握把ヲ握リ之
ヲ下方ニ引キテ激突セシメサル如ク駐爪ヲ握
把ノ駐鉤ニ鉤ス
裝彈板ヲ裝スルニハ右手ヲ以テ前方突筈附近
ヲ、左手ヲ以テ後方支脚ヲ保持シ砲尾ニ近ツ

ケツツ之ヲ離シ表ヲ上ニシ注目シツツ閉鎖機
室ニ嵌装ス
裝彈板ヲ舊位ニ復スルニハ前項ト反對ノ操作
ヲ爲ス
瞬發(短延期)信管ヲ裝著スルニハ彈口栓ノ麻
網ヲ引キテ之ヲ脱シ信管ヲ啄螺ノ上ニ載セ少
シク右ニ廻ハシ微音ニ依リ其吻合ヲ檢シタル
後信管ヲ左ニ廻ハシテ十分緊ム
信管ヲ脱スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス
信管廻ヲ裝定スルニハ先ツ插板ノ遊標發條ヲ
壓シ插板ノ指針ヲ所命ノ裝藥號ニ合ハセタル
後插板螺ヲ緩メ插板ノ指針ヲ所命ノ距離刻線
ニ一致セシメ插板螺ヲ緊ム
信管廻ヲ修正スルニハ壓螺ヲ緩メ體ノ指標ニ
對シ修正分畫ヲ所命ノ量タケ移動シ刻線ヲ一
致セシムルカ或ハ指標ニ所命ノ修正分畫刻線
ヲ一致セシメタル後壓螺ヲ緊ム而シテ縮ムル
場合ニハ修正分畫數ヲ減少スル如ク又伸ハス

場合ニハ之ニ反スル如ク操作ス
信管ヲ測合スルニハ左手ニテ彈丸ヲ支ヘ右手
ニ信管廻ノ握把ヲ執リ其準備溝ヲ藥盤廻ニ嵌
入シタル後右ニ廻ハシテ插板ヲ駐釘ニ合セシ
ム
廻子ヲ以テ信管ヲ零距離ニ測合スルニハ之ヲ
信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハ
シテ其圓孔ヲ駐釘ニ向ハシム
彈丸ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒテ砲尾ニ運ヒ三
番裝彈板ヲ裝スルヤ其上ニ載セ駐爪ニ鈎スル
マテ彈底ヲ押シ右拳ヲ彈底ニ當テ一擧ニ力ヲ
加ヘ彈丸ヲ彈室ニ撞キ入ル
藥筒ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒ右手ニ藥筒握ヲ
執リ之ヲ藥筒ノ起線部ニ鈎シ左手ト共ニ藥筒
ヲ保持シテ砲尾ニ近ツキ三番裝填板ヲ脱スル
ヤ藥筒ヲ藥室內ニ押シ込ム
第百八十九 裝藥號、高低角、高低射界及距離
ノ號令ニテ一番ハ規正裝置上ニ高低角ヲ裝定シ

之ニ高低固有修正量ヲ修正シタル後距離板ヲ以
テ高低照準ヲ爲ス
規正裝置ヲ裝定スルニハ指針ノ誘導螺桿ノ
轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシ最後ニ之ヲ右ニ廻ハシ
テ止メ準板ノ指標ヲ分畫板上所命ノ度數ニ一
致セシム
規正裝置ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ
分畫ノ所命量ヲ増減スル如ク準板ノ指標ヲ動
カス
高低照準ヲ爲スニハ先ツ眼ヲ距離板ノ氣泡管
ノ直上ニシテ左手ヲ以テ距離板托架ノ轉輪ヲ握
リ距離板ノ氣泡管ノ氣泡前(後)方ニ偏スルト
キハ距離板托架ノ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシテ氣
泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導キタル後右手ヲ以テ指
針室ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ進退シ所命ノ裝
藥號ニ應スル位置ヲ占メシメ次テ高低照準機
ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ノ指針ヲ距離板上所
命ノ裝藥號及高低射界ニ應スル射距離ノ附近

ニ導キ眼ヲ正對シテ指針ヲ正シク所命ノ距離
刻線ニ一致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈
ヲ用ヒ氣泡管ノ下方ニ其光線ヲ反射セシムル
カ若ハ直接氣泡管ノ下方ヲ照ス
距離板ノ氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導クニ方
リ距離板ノ移動量大ナルトキハ先ツ左手ヲ以
テ解脫環ノ翼ヲ前方ニ壓シテ約九十度之ヲ廻
ハシ次テ左手ヲ以テ距離板ノ上端ヲ、右手ヲ
以テ其下端ヲ握リ距離板上ケ若ハ下ケ左手
ヲ以テ解脫環ノ翼ヲ後方ニ引キテ徐ロニ舊位
ニ復シ蝸狀螺ヲ啞合セシメタル後距離板托架
ノ轉輪ヲ使用ス
發射
第百九十 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニハ
例ヘハ左ノ號令ヲ下ス(中三八五)
三十秒 各個ニ擊テ
分隊長ハ準備成ルヤ直ニ「撃テ」ト號令シ爾後所

命ノ秒數ヲ間シ發射ヲ號令ス
 分隊長ハ發射ニ際シ後復坐ノ景況ニ注意シ要ス
 レハ三番ヲシテ後坐量ヲ測定セシム
 三番ハ分隊長ノ號令ニテ拉繩ヲ引キテ發射シ復
 坐終ルヤ拉繩ヲ閉鎖機ノ握把ニ輕ク掛ケ閉鎖機
 ヲ開キ裝彈板ヲ裝シタル後要スレハ腔内ヲ檢査
 ス又分隊長ノ命令ニ從ヒ後坐量ヲ測定ス
 一番ハ復坐終ルヤ照準具ヲ點檢シ照準ヲ爲ス但
 射角大ナルトキハ發射後射角ヲ約二十度ト爲ス
 二番ハ三番閉鎖機ヲ開クヤ藥莢ヲ抽出シタル後
 照準具ヲ點檢シ照準ヲ爲ス
 七番乃至十番ハ所命ノ如ク彈丸、信管及裝藥ヲ
 準備シ且所命ノ裝填法ニ從ヒ裝填ス九番若十
 番ハ藥莢ヲ指定セラレタル位置ニ置ク
 發射ニ際シ砲車靜定セサル虞アルコトヲ認ムル
 トキハ分隊長ハ豫メ「外」ト命シ砲手ヲシテ一
 時車輪外ニ出テシム又不發アリタルトキハ分隊
 長ハ約二秒ヲ間シ數回「撃テ」ト號令シ尙發火セ

サルトキハ約十五秒ノ後閉鎖機ヲ開カシム
 後坐量ヲ測定スルニハ發射ニ先タチ遊標ヲ前
 方ニ進出セシメ發射後遊標ニ一致スル分畫ヲ
 讀ム
 後坐量ノ限界ハ低射界射擊ニ在リテハ千三百
 十耗、高射界射擊ニ在リテハ九百六十耗トス
 第九十一 連續發射セシムルニハ左ノ號令ヲ
 下ス(中三八五)
 連續 各個ニ撃テ
 第九十二 每發所望ノ時機ニ發射セシムルニ
 ハ左ノ號令ヲ下ス(中三八四)
 指令 各個ニ撃テ
 分隊長ハ準備成ルヤ直ニ發射ヲ號令ス爾後「次
 キ」ノ號令若ハ記號ニ依リ直ニ發射ヲ號令スル
 カ又ハ「何秒(連續)何回次キ」ノ號令ニ依リ第百
 九十(第九十一)ニ從ヒ所命ノ回數ニ應スル彈

數ヲ發射セシム
 第九十三 所命ノ彈數ヲ發射中發射速度ヲ換
 ヘシムルニハ單ニ發射速度ノミヲ號令ス
 一發裝填ノ場合(散布ヲ除ク)ニハ發射速度ヲ號
 令スルコトナシ
 第九十四 裝填シアル彈藥ヲ擊拂ハシムニハ
 左ノ號令ヲ下ス
 急キ撃テ
 第九十五 準シテ操作シ爾後裝填法ノ號令アル
 マテ彈藥ヲ裝填スルトナシ
 諸元ノ變更
 第九十五 射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ
 號令ヲ下ス
 四十右(左)へ
 二番ハ分畫銀ヲ修正シタル後方向照準ヲ爲ス
 架尾ノ移動ヲ要スルトキハ四番ハ制轉機ヲ緩メ
 五番及六番ハ照準棍或ハ楯桿ヲ執リ架尾ヲ左右
 ス一番、三番及四番ハ要スレハ之ヲ助ク架尾ノ

移動ヲ終ルヤ四番ハ制轉機ヲ緊メ要スレハ觀準
 儀後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導
 ク
 既ニ射角ヲ附與シアルトキハ一番ハ高低照準ヲ
 爲ス
 射向變換ニ方リ照準點若ハ既ニ採用セル標定點
 ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トスルトキ
 ハ第九十七ニ從ヒ新ニ標定點ヲ選定ス
 第九十六 彈種並信管ノ種類若ハ裝置ヲ換ヘ
 シムルニハ第九十五、第九十六及第九十八
 八ニ從フ但榴霰彈著發信管ヨリ曳火信管ニ移ル
 場合ニハ一番ハ現在ノ裝藥號及射距離ヲ七番及
 八番ニ通報ス
 第九十七 信管修正分畫ヲ換ヘシムルニハ例
 ヘハ左ノ號令ヲ下ス
 信管百縮メ(伸ハセ)
 或ハ
 信管修正千百
 七番及八番ハ信管廻ヲ修正シ信管ヲ測合ス

第九十八 裝藥號ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

裝藥四號

一番ハ指針室ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針ヲ所命ノ裝藥號ニ應スル位置ニ移シ高低照準ヲ爲シ二番ハ觀準儀托坐分畫板ヲ改裝シ方向照準ヲ爲ス

七番及八番ハ榴霰彈曳火信管ニ在リテハ信管廻ヲ改裝シテ信管ヲ測合シ九番及十番ハ裝藥ヲ編合ス

既ニ裝藥ヲ裝填シアルトキハ分隊長ハ「裝藥筒出セ」ト號令シ裝藥筒ヲ出サシム此際射角大ナルトキハ一番ハ射角ヲ約二十度ト爲ス

第九十九 高低角ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

高低十度ニツ

或ハ

高低四増セ(減ケ)

一番ハ規正裝置上ニ高低角ヲ裝定或ハ修正シタ後高低照準ヲ爲ス

第二百 高低射界ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

高(低)射界

一番ハ距離板ヲ改裝シ高低照準ヲ爲ス二番ハ觀準儀托坐分畫板ヲ改裝シタル後方向照準ヲ爲ス

七番及八番ハ榴霰彈曳火信管ニ在リテハ信管廻ヲ改裝シ信管ヲ測合ス

第二百一 射距離ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

五千二百

或ハ

二百増セ(減ケ)

一番ハ距離板ヲ改裝シ高低照準ヲ爲ス二番ハ觀準儀托坐分畫板ヲ改裝シタル後方向照準ヲ爲ス

七番及八番ハ榴霰彈曳火信管ニ在リテハ信管廻ヲ改裝シ信管ヲ測合ス

觀準儀托坐分畫板ヲ修正スルニハ誘導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハシ射距離ヲ讀ミツツ指針ヲ所命ノ射距離ニ一致セシム

散布

第二百二 近(遠)方位ヨリ逐次數距離上ニ各距離毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ射距離又ハ其増(減)量ト共ニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス但現在裝定セル射距離ヨリ發射セシムル場合ニハ射距離ノ號令ヲ省略スルコトヲ得

遠(近)ク百 三距離

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ所命ノ射距離若ハ現在ノ射距離ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎ニ所命ノ量ヲ増(減)シタル射距離若ハ所命ノ射距離増(減)量並彈數ヲ號令ス

砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

諸元ノ保留及使用

第二百三 射擊諸元ヲ保留セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

五十一砲兵諸元書ケ

或ハ

標點方向書ケ

分隊長ハ現在ノ射擊諸元即チ照準點若ハ標定點、方向角、彈種、信管ノ種類若ハ裝置、信管修正量、裝藥號、高低角、高低射界、射距離ヲ記載ス但標點方向ヲ書ク場合ニ於テハ照準點若ハ標定點並方向角ノミヲ記載ス

第二百四 保留セル諸元ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

五十一砲兵諸元取レ

或ハ

標點方向取レ

分隊長ハ記載セル諸元ヲ號令ス

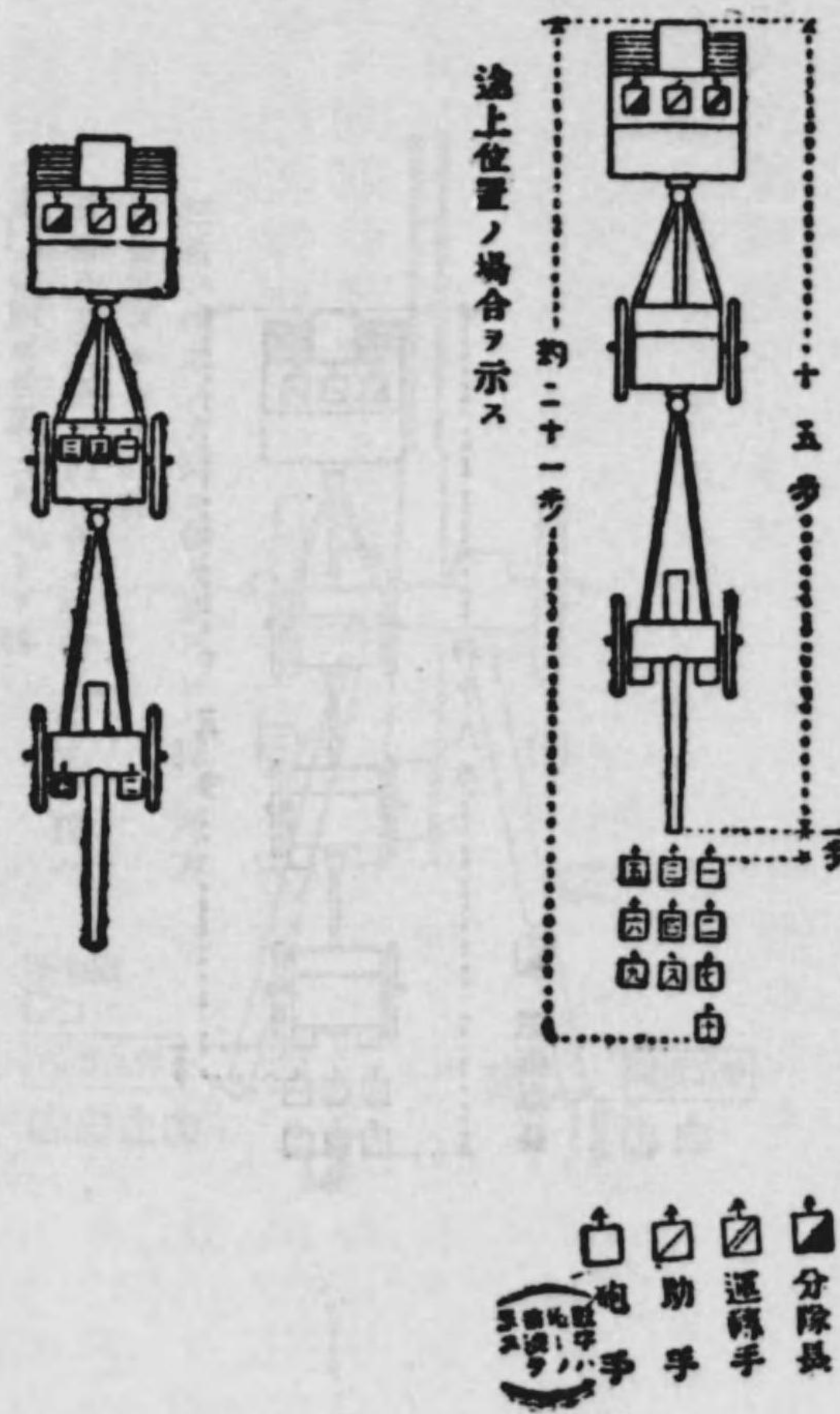
砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

射擊ノ中止、再興及停止

第二百五 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊長以下ノ定位第二十、第二十一圖ノ如シ但
牽引自動車ノ運轉ヲ停止シアルトキハ分隊長ハ
牽引自動車前ノ左側ニ歩ニ、運轉手ハ分隊長

圖一十二第 車乗
圖十二第 車下



ノ右側ニ、助手ハ牽引自動車後端ノ左側一步ニ
位置ス

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ中止ス但三番ハ閉鎖機
ヲ閉チ安全機ヲ安全ノ位置ニ爲ス
第二百六 射撃ヲ再興セシムルニハ射撃ニ關ス
ル號令若ハ左ノ號令ヲ下ス

擊方待テ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始ム
第二百七 射撃ヲ止メシムルニハ左ノ號令ヲ下
ス

擊方止メ

一番ハ射角ヲ約二十度ニ、指針ヲ裝藥四號ニ、
規正裝置ヲ十度ニ復シ二番ハ砲架ヲ略、車軸ノ
中央ニ復シ觀準儀ノ諸分畫竝觀準儀托坐分畫板
ノ指針ヲ定位ニ復ス
三番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全機ヲ安全ノ位置ニ爲シ
四番ハ觀準儀托坐ヲ舊位ニ復シ制轉機ヲ緩ム
七番及八番ハ信管修正分畫ヲ千二百ニ、挿板ノ
指針ヲ裝藥二號ノ零位ニ復シ信管ニ安全割栓ヲ

挿ス若信管ヲ測合シアルトキハ之ヲ安全ノ位置
ニ復シ且安全割栓ヲ挿ス又榴彈等ニ信管ヲ裝著
シアルトキハ之ヲ脱シ彈口栓ヲ裝ス
九番及十番ハ裝藥ノ編合ヲ換ヘアルトキハ之ヲ
一號ニ復ス

信管ヲ安全ノ位置ニ復スルニハ廻子ヲ信管大
藥盤ノ精圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシテ其
指標ヲ駐釘右側ニ一致セシム

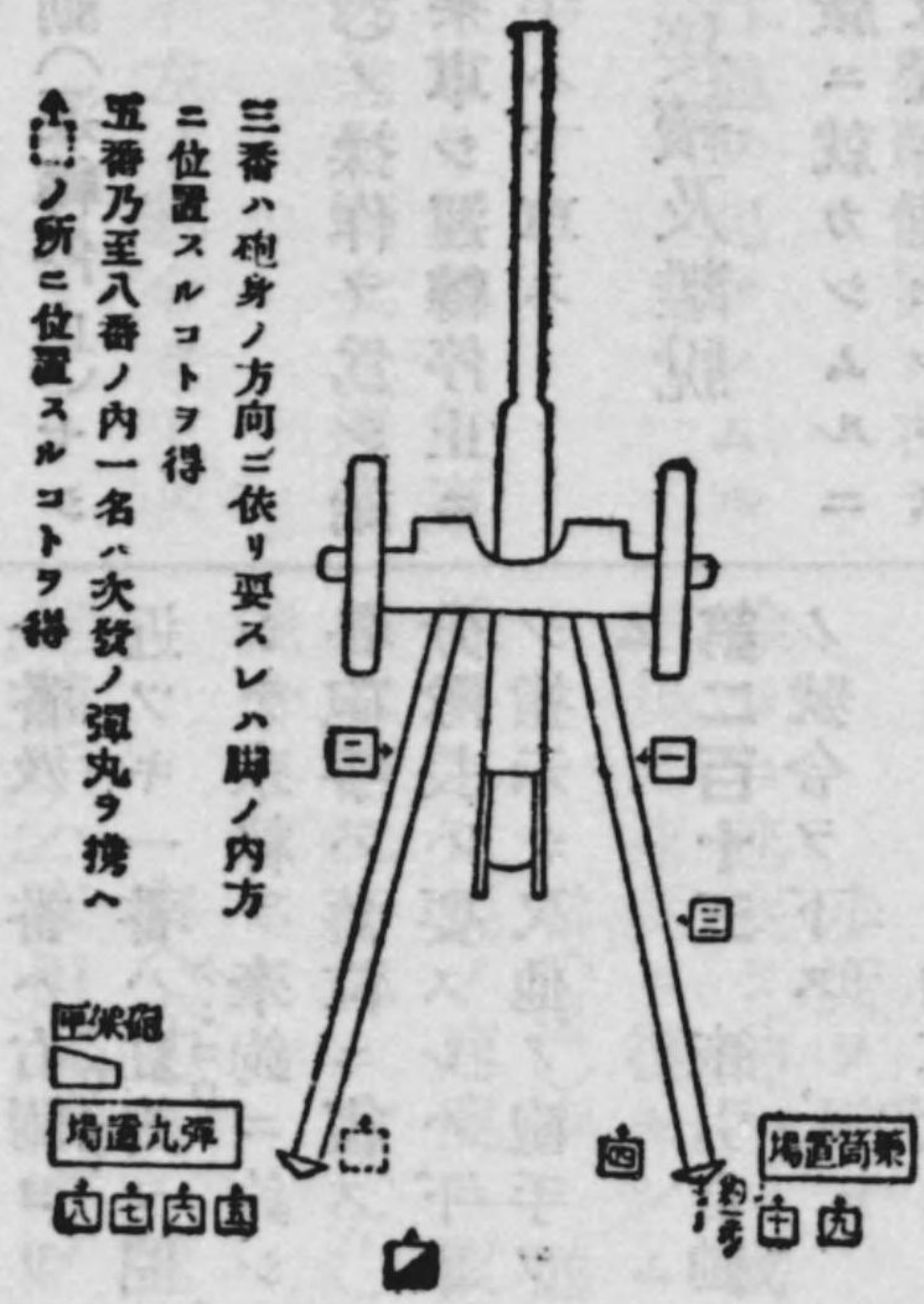
第三節 十加

第一款 編成及分隊長(彈
藥車長)以下ノ定位

第二百八 分隊ノ砲手ニハ一番ヨリ十番ニ至ル
番號ヲ附シ自動車手ニハ運轉手、助手ノ名稱ヲ
附ス
彈藥車ノ砲手ニハ一番ヨリ六番ニ至ル番號ヲ附
シ自動車手ノ名稱ハ前項ニ同シ
第二百九 牽引自動車ヲ接續スル場合ニ於ケル

牽引用自動貨車ヲ接続セル場合ニ於ケル彈藥車長以下ノ下車ノ定位ハ前項ニ從フモ乗車ニ在リテハ砲手ハ牽引用自動貨車ニ乗車スルモノトス

圖四十二第

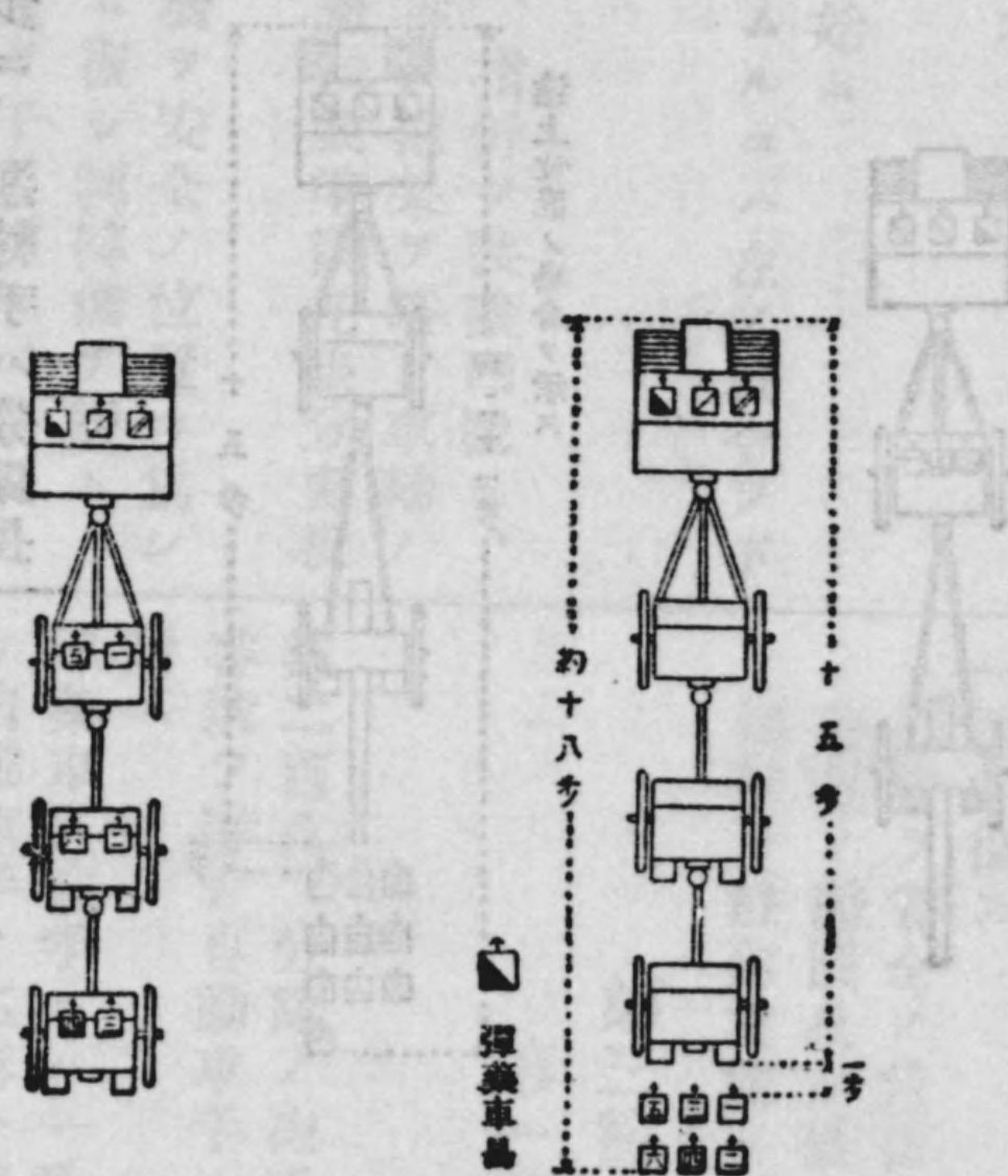


第二百一十一 放列ニ於ケル材料及分隊長以下ノ定位第二十四圖ノ如シ

第二百十 牽引自動車ヲ接続セル場合ニ於ケル彈藥車長以下ノ定位第二十二、第二十三圖ノ如

シ但牽引自動車ノ運轉ヲ停止シアルトキニ於ケル彈藥車長及自動車手ノ位置ハ第二百九ニ準ス

圖三十二第 圖二十二第
 車 乘 下 車 下



第二款 運動
始動及運轉停止

第二百十二 牽引自動車ヲ始動(運轉停止)セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

運轉始メ(運轉止メ)

運轉手及助手ハ始動(運轉停止)ノ操作ヲ爲シ始動ニ在リテハ分隊長及助手ハ乗車シ運轉停止ニ在リテハ分隊長、運轉手及助手ハ下車ス

牽引自動車ノ接続及離脱

第二百十三 牽引自動車ヲ砲廠ニ就カシムルニハ之ヲ砲廠ニ導キ略、砲車ノ位置ニ達セントスルトキ左ノ號令ヲ下ス(中三二八)

砲廠ニ就ケ

運轉手ハ牽引自動車ヲ前車ノ牽棒ノ方向ニ入レ牽棒ノ前端ヨリ約四歩ヲ隔テ止メ牽引自動車ヲ後退シ接続ノ位置ニ就カシム

第二百十四 牽引自動車ヲ接続セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

自動車掛ケ

一番及二番ハ右側ヨリ、三番ハ左側ヨリ牽棒ニ近ツキ一番ハ駐鉤ヲ開キ二番ハ支桿ヲ上ケ協力シテ牽棒ヲ牽鉤ニ鉤シ駐爪ヲ閉チ「宜シ」ト唱ヘ各砲手ハ舊位ニ復ス

分隊長ハ要スレハ下車シ牽引自動車ノ進退ニ關シ指示シ又他ノ砲手ヲシテ以上ノ操作ヲ助ケシム

第二百十五 牽引自動車ヲ離脱セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

自動車脱セ

第二百十四ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス

第二百十六 牽引自動車ヲ離脱シアルトキ砲廠ヲ去ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ノ砲廠ヲ去レ

牽引自動車ハ右(左)向ヲ爲シテ直進ス

行進

第二百十七 速度ハ一分時間ニ常歩八十六米、速歩百四十五米ヲ基準トス

以上ノ速度ハ要スレハ之ヲ伸縮スルコトヲ得短距離ノ行進ニ在リテハ砲身ヲ射撃位置ニ在ラシムルコトヲ得

第二百十八 常(速)歩ニテ直行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前(速歩)ノ進メ

正シキ方向ト齊一ナル速度トヲ以テ行進ス但速歩ニ在リテハ先ツ常歩ヲ以テ發進シ漸次ニ速度ヲ伸ハシ速歩ニ移ル

第二百十九 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊 止レ

分隊ハ漸次ニ停止ス
第二百二十 歩度ヲ變換セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

常(速)歩ノ進メ

漸次ニ所命ノ歩度ニ移ル

第二百二十一 常(速)歩行進間速度ヲ伸縮セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

歩度ヲ伸ハセ

或ハ

歩度ヲ縮メ

徐ロニ速度ヲ伸ハシ或ハ縮ム

正規ノ速度ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

常(速)歩ノ進メ

徐ロニ正規ノ速度ニ復ス
第二百二十二 右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ノ進メ

運轉手ハ牽引自動車ヲシテ内方軌道ニ於テ約十歩ノ半徑ヲ以テ弧ヲ畫キ右(左)向ヲ爲シテ直進セシム

第二百二十三 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令

ヲ下ス

二百二十二 半輪に左へ進メ
二百二十二ノ要領ニ依リ連續二回左向ヲ爲シ
續キテ直進ス

二百二十四 制轉機ヲ使用スルニハ下車ノ場
合ハ五番、乗車ノ場合ハ四番轉輪ヲ廻ハシテ之
ヲ緊メ又ハ緩ム

乗車及下車

二百二十五 乗車及下車ハ停止間ニ於テ行フ
モノトス要スレハ常歩行進間ニ於テモ之ヲ行フ
コトアリ

乗車

砲手ハ銃劍ヲ體ノ前方ニ致シ乗車ノ定位ニ就キ
前車ニ乗レル砲手中外側ニ位置スル者ハ各々外
方ノ手ニテ倚欄ヲ握リ各砲手ハ互ニ臂ヲ組ム又

二番及四番ハ踏板ヲ踏ミ兩手ヲ以テ防楯ノ握把
ヲ握リ勉メテ身體ヲ内方ニ倚トス

下車

砲手ハ下車ノ定位ニ就キ銃劍ヲ舊ニ復ス

射撃位置及途上位置

二百二十八 砲身ヲ射撃位置ニ移サシムルニ
ハ左ノ號令ヲ下ス

射撃位置

分隊長ハ下車ス

五番ハ制轉機ヲ緊メタル後三番及四番ト協力シ
テ後方ノ砲身ヲ脱シ之ヲ前車上ニ置ク一
番ハ砲身退却具ヲ砲架匣ヨリ出シ砲身退却具托板ニ
裝ス
三番ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋及聯接桿、聯接牝

螺ヲ脱シ聯接桿ヲ砲架匣内ニ入レ砲尾蓋及聯接
牝螺ヲ砲架匣上ニ置ク

二番ハ前方ノ砲身覆ヲ除キ之ヲ前車上ニ掛ケ
搖架準梁ヲ拭淨、塗油ス

四番ハ後方防擦板ヲ拭淨ス

分隊長ハ砲身移動準備成ルヤ「始メ」ト唱フ

一番ハ退却具槓桿ヲ使用シテ砲身ヲ前進セシム

二番乃至四番要スレハ五番ハ砲身ヲ押シ之ヲ補

助ス砲身射撃位置ニ達スルヤ三番ハ聯接牝螺ヲ

裝シ「宜シ」ト唱フ

一番ハ砲身退却具ヲ脱シ之ヲ砲架匣内ニ收メ蓋

板ヲ裝ス三番ハ砲尾托架ヲ脱シ二番ハ之ヲ駐桿

ニ裝シ一番及二番ハ砲身覆ヲ前車ニ縛著ス三番

ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ裝シ五番ハ制轉機ヲ

緩ム

二百二十九 砲身ヲ途上位置ニ移サシムルニ

ハ左ノ號令ヲ下ス

途上位置

分隊長ハ下車ス

砲手ハ二百二十八ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス但
二番ハ搖架後方ノ準梁ヲ拭淨、塗油シ一番ハ退
却具槓桿ヲ以テ砲身ヲ前方ニ押シ二番、四番及
五番ハ砲尾ヲ支持ス三番ハ聯接牝螺ヲ脱シ砲尾
ヲ支持シ一番ハ三番聯接牝螺ヲ脱スルヤ砲身退
却具ヲ脱シ「宜シ」ト唱フ二番乃至五番ハ砲身ノ
急激ナル後退ヲ制シ砲尾托架ニ連結臂ノ激突ス
ルヲ防ク

放列布置及撤去

二百三十 放列布置ハ豫メ射撃用意ヲ爲サシ
メタル後之ヲ行フ

二百三十一 前車ノ運動ハ特ニ指示ナキトキ
ハ放列布置ノ場合ニ於テハ其際探リアル歩度、
撤去ノ場合ニ於テハ速歩ヲ以テ行フ

行進間放列布置ノ號令アルトキハ分隊長ハ分隊長
ノ指示ニ依リ停止ス

二百三十二 放列ヲ布置セシムルニハ左ノ號

令ヲ下ス

右(本)撃方 放列

分隊長ハ下車シ砲口ヲ敵ニ對セシムル如ク分隊ヲシテ左(右)向ヲ爲サシメ其占ムヘキ位置ノ稍、手前ニ導キテ停止セシム
砲手乗車シアルトキハ下車ス
九番及十番ハ前車ヨリ籐梅ヲ卸シ分隊長ハ之ヲ車輪位置ニ置カシメ砲車ヲ其占ムヘキ位置ニ導ク
一番、三番、五番及七番ハ左側ヨリ、二番、四番、六番及八番ハ右側ヨリ架尾ニ近ツキ八番ハ鋼鈕栓ヲ抽キ一番乃至七番ト共ニ兩脚及其提把ヲ執リ協力シテ架尾ヲ鋼鈕ヨリ脱シ地上ニ置キ八番ハ鋼鈕栓ヲ挿シ「宜シト唱へ前車ハ數歩前進シテ停止ス九番ハ十番ノ助ヲ以テ前車ヨリ所要ノ器具ヲ卸シ「宜シト唱へ前車ハ指示セラレタル位置ニ到ル
四番ハ五番ノ助ヲ以テ砲架匣ヲ脱シ彈丸置場ニ

置ク

三番ハ一番ノ助ヲ以テ搖架尾托架ヲ脱シ二番ハ之ヲ駐桿ニ裝ス
七番ハ連結板駐桿ヲ引キテ吻合ヲ脱シ連結板ヲ其軸周ニ旋回シ三番、五番及七番ハ右方ヨリ、四番、六番及八番ハ左方ヨリ各、協力シテ架尾ヲ上ケ十分ニ兩脚ヲ開ク七番及八番ハ旋回駐桿ヲ其室ヨリ脱シテ駐鋤ヲ垂直旋回軸周ニ旋回シ駐鋤板ヲ下ロシタル後續轉駐桿ヲ裝シ架尾ヲ地上ニ置ク
架尾ノ位置定ルヤ一番及二番ハ駐定桿ヲ緊定ス一番ハ高低照準具覆ヲ、二番ハ觀準儀覆ヲ、三番ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ、八番ハ砲口蓋ヲ脱シ各、同方側ノ防楯ノ鉤ニ掛ク
一番ハ高低水準器ノ氣泡ヲ、二番ハ觀準儀後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導ク
三番ハ制轉機ヲ緊メ安全駐爪ヲ發火ノ位置ニ爲

シ拉繩ヲ鎖屏ノ樞軸ニ掛ク

四番ハ撞桿ヲ其室ヨリ脱シ之ヲ携フ

七番ハ十字鉄及圓匙ヲ脱シ分隊長ノ指示スル位置ニ置ク

八番ハ砲架匣ヨリ信管廻、布片及雜巾ヲ出シ布片ヲ九番ニ渡シ信管廻及雜巾ヲ彈丸置場ニ置キ

九番ハ布片ヲ藥筒置場ニ置ク

分隊長ハ適時砲手ヲシテ各部ヲ檢シ要部ニ給油セシム

第二百三十三 接續ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前車掛ケ

砲手ハ第二百三十二ト概ネ反對ノ操作ヲ爲シ駐鋤ヲ上ケ兩脚ヲ閉チ架尾ヲ地上ニ置ク

一番、三番、五番及七番ハ砲架ノ右側、二番、四番、六番及八番ハ砲架ノ左側ニテ砲架ニ接シテ位置ス

運轉手ハ前車ヲ放列ノ後方或ハ右後方ヨリ導キタルトキハ之ヲ後車ノ右側ヨリ、左後方ヨリ導

キタルトキハ後車ノ左側ヨリ其軸線方向ニ導キ鋼鈕ヲ架尾鎖ニ對セシムル如ク停止シ次テ前車ヲ後退ス

一番乃至八番ハ第二百三十二ト概ネ反對ノ操作ヲ爲シ前車ヲ接續シ終ルヤ八番ハ「宜シト唱へ分隊長ハ要スレハ牽引自動車ノ位置ヲ正サシム分隊長ハ乗車シ砲手ハ下車ノ定位ニ就ク

第二百三十四 彈藥車ノ運動ハ概ネ分隊ノ運動ニ準ス

第三款 射擊

第二百三十五 射擊ノ號令ハ左記事項中所要ノモノヲ概ネ列記ノ順序ニ令スルモノトス

照準點ノ方向及照準點

方向角又ハ方向修正量

彈種

信管ノ種類又ハ裝置

高低角又ハ高低修正量

信管修正量

射距離又ハ射距離變換量

散布、掃射ノ方法

裝填法

發射速度

發射法 射擊スヘキ目標ハ適宜ノ時機ニ之ヲ指示ス

分隊長以下ハ新ナル號令アルトキハ直ニ之ニ依

リ操作ス

砲手ハ射擊諸元ノ號令アル毎ニ之ヲ裝定又ハ修

正シタル後其結果ヲ分隊長ニ報告ス而シテ此報

告及操作間ニ用フル呼號ハ關係者ノ了解シ得ル

ヲ度トシ明確ニ發唱スルモノトス

第二百三十六 照準成ルヤ一番及二番ハ「宜シ」

ト唱フ方向照準又ハ高低照準ノミヲ爲シタル場

合ニ於テモ亦同シ

射擊用意及解除

第二百三十七 射擊用意ヲ爲サシムルニハ砲車

射擊位置ニ在ルトキ左ノ號令ヲ下ス

射擊用意

一番ハ砲架匣ヨリ拉繩ヲ出シ之ヲ三番ニ渡ス
二番ハ觀準儀ヲ脱シ觀準儀ヲ其室ニ裝シ諸分
畫ヲ定位(諸分畫ヲ零位但分畫分畫ハ前視零
位(鏡頭ヲ前方ニセルトキノ零位)ニシ觀準儀
覆ヲ裝ス
三番ハ四番ノ助ヲ以テ砲尾蓋ヲ脱シ一番ヨリ拉
繩ヲ受取り其茄子環ヲ引鐵ノ環ニ鈎シ之ヲ握把
ト鎖屏ノ樞軸トニ纏ヒ砲尾蓋ヲ裝ス
四番ハ前車ノ蓋板ヲ開キ二號箱ヨリ觀準儀ヲ出
シ之ヲ二番ニ渡シタル後二號箱ヲ前車ニ收メ蓋
板ヲ閉ツ
觀準儀ヲ裝スルニハ先ツ觀準儀室ノ壓螺ヲ左
ニ廻ハシ次ニ四番ヨリ觀準儀ヲ受取り右手ヲ
以テ分畫筒ノ下方儀ノ本體ヲ、左手ヲ以テ脚
ヲ握リ接眼環ヲ後方ニシ徐ロニ觀準儀ノ脚ヲ
其ノ下端室ニ挿入シ觀準儀ノ突筈ヲ室ノ上端
切缺部ニ嵌メ壓螺ヲ右ニ廻ハシテ之ヲ緊定ス
第二百三十八 射擊用意ヲ解カシムルニハ左ノ

號令ヲ下ス

用意ヲ解ケ

第二百三十七ト概ネ反對ノ操作ヲ爲ス

射向附與

第二百三十九 射向ヲ與ヘシムルニハ例ヘハ左

ノ號令ヲ下ス

照準點右後方一本杉ノ頂上

方向四百五十

或ハ

照準點前方塔ノ頂上

八十右(左)ヘ

分隊長ハ照準具ノ裝定及照準ヲ監視ス又方向固

有修正量ヲ自ラ修正スヘキ命令ヲ受ケアルトキ

ハ其修正ヲ命ス

二番ハ分畫鏡上ニ方向角ヲ裝定或ハ修正シ横表

尺上ニ方向固有修正量ヲ裝定シタル後方向照準

ヲ爲ス

照準點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不便トス
ルトキハ通常分隊長ハ他ニ適當ナル地物ヲ選ビ
標定點ト爲シ之ヲ二番ニ指示ス二番ハ射向ヲ換
フルコトナク分畫鏡ヲ廻ハシテ眼鏡内十字ノ交
截點又ハ縱線ヲ標定點ニ一致セシメ標定點及方
向角ヲ分隊長ニ報告ス
標定點ハ發見及照準容易ニシテ埋滅變位ノ虞ナ
ク其位置ハ成ルヘク遠ク且後方ナルヲ可トス
標定點トシテ適當ナル地物ナキトキハ標桿ヲ立
ツ
夜間ニ在リテハ標定點トシテ通常携帯燈ヲ設置
ス
分畫鏡ヲ裝定スルニハ左手ヲ以テ解脫子ノ翼
ヲ略ト垂直ニ起シ右手ヲ以テ觀準儀頭部ノ兩
側ヲ攪ミ眼鏡ノ向ヲ照準點ノ方向ニ廻ハシテ
所命ノ分畫鏡分畫ヲ齒輪室上部ノ指標ニ一致
セシメ翼ヲ靜ニ舊ニ復シタル後右手ヲ以テ轉
輪ヲ右ニ廻ハシテ所命ノ分畫筒分畫ヲ回轉螺

室ノ指標ニ一致セシム
 分畫鏡ヲ修正スルニハ現ニ齒輪室上部及同轉
 螺室ノ指標ニ對スル刻線ヨリ起リ所命ノ數ヲ
 右(左)ニシテ分畫筒分畫ノ刻線ヲ指標ニ一致セ
 シム而シテ分畫鏡分畫ヲ右(左)ニスルニハ其
 分畫ヲ指標ニ對シ右(左)ニ移シ分畫筒分畫
 ヲ右(左)ニスルニハ轉輪ヲ右左ニ廻ハス但
 轉輪ハ常ニ右ニ廻ハシテ止ムル如クスルヲ要
 ス
 照準點ト共ニ方向修正量ヲ號令セラレタルト
 キハ照準點ノ方向後(前)方ナルニ從ヒ後(前)
 視零ヨリ修正ス
 橫表尺ヲ裝定スルニハ誘導螺桿ノ轉輪ヲ廻ハ
 シ所命ノ分畫右(左)ナルトキハ眼鏡托坐下端
 ノ指標ヲ右(左)方分畫上所命ノ分畫ニ一致セ
 シム
 橫表尺ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ修
 正量ニ應シ指標ヲ右(左)ニ動カス

方向照準ヲ爲スニハ二番ハ方向照準機ノ轉輪
 ヲ廻ハシテ眼鏡ノ方向ヲ略、照準點ノ方向ニ
 向ハシメタル後右手ヲ以テ誘導螺桿ノ把子ヲ
 左手ヲ以テ蝸狀螺ノ轉輪ヲ握リ後方氣泡管ノ
 氣泡右(左)方ニ偏スルトキハ誘導螺桿ノ把子
 ヲ右(左)ニ廻ハシ左方氣泡管ノ氣泡後(前)方
 ニ偏スルトキハ蝸狀螺ノ轉輪ヲ左(右)ニ廻ハ
 シ兩氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ略、中央ニ導キ然ル
 後眼ヲ眼鏡ヨリ約一指幅ヲ隔テテ狙ヒ方向照
 準機ノ轉輪ヲ廻ハシ要スレハ俯仰裝置ヲ使用
 シ眼鏡内十字ノ交截點又ハ縱線ヲ照準點ニ一
 致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈ヲ以テ窓
 板若ハ照窓ヲ照ス
 繫留氣球等ノ如キ動目標ニ對シ方向照準ヲ爲
 ストキハ照準成リタル後ト雖發射ノ直前ニ至
 ルマテ照準ヲ繼續ス

彈藥及信管ノ準備

第二百四十 彈藥ヲ準備セシムルニハ例ヘハ左
 ノ號令ヲ下ス
 榴霰彈
 或ハ
 尖銳彈
 五番乃至八番ハ所命ノ彈丸ヲ砲側ニ準備ス
 九番及十番ハ尖銳彈ニ在リテハ裝藥一號ヲ、尖
 銳彈以外ノ彈種ニ在リテハ裝藥二號ヲ準備ス
 裝藥二號ヲ準備スルニハ裝藥一號ノ藥筒ヨリ
 結束藥ヲ抽キ出ス
 第二百四十一 榴彈等ノ爲信管ヲ準備セシムル
 ニハ左ノ號令ヲ下ス
 瞬發(短延期)信管
 五番乃至八番ハ所命ノ信管ヲ裝著ス
 瞬發(短延期)信管ヲ裝著スルニハ彈口栓ノ麻
 網ヲ引キテ之ヲ脱シ信管ヲ螺螺ノ上ニ載セ少
 シク右ニ廻ハシ微音ニ依リ其吻合ヲ檢シタル
 後信管ヲ左ニ廻ハシテ十分緊ム

信管ヲ脱スルニハ前項ト反對ノ操作ヲ爲ス
 第二百四十二 榴霰彈等ノ爲信管ヲ準備セシム
 ルニハ左ノ號令ヲ下ス
 曳火(著發)信管
 曳火信管ニ在リテハ五番乃至八番ノ内二名ハ信
 管廻リ彈頭ニ冠シ著發信管ニ在リテハ完全ノ位
 置ニ在ル彈丸ヲ砲側ニ準備ス
 射角附與及信管測合
 第二百四十三 射角ヲ與ヘシムルニハ例ヘハ左
 ノ號令ヲ下ス
 高低十度五ツ
 七千四百
 分隊長ハ照準具及信管廻ノ裝定並照準ヲ監視ス
 又高低固有修正量ヲ自ラ修正スヘキ命令ヲ受ケ
 アルトキハ其修正ヲ命ス
 一番ハ規正裝置ニ高低角ヲ裝定シ之ニ高低固有
 修正量ヲ修正シタル後距離板ヲ以テ高低照準ヲ
 爲ス

三番ハ閉鎖機槓桿ノ握把ヲ握リ其駐爪ヲ駐鈎ヨリ脱スルト同時ニ後方ニ引キツツ閉鎖機ヲ右ニ開ク

五番乃至八番ノ内二名ハ榴霰彈等ニ在リテハ信管廻ヲ裝定シ且曳火信管ニ在リテハ信管ヲ測合ス

規正裝置ヲ裝定スルニハ右手ヲ以テ距離板壓螺ノ把子ヲ緩メ分畫筒ノ握把ヲ廻ハシ指針板ノ托臂ノ指針ニ所命ノ分畫ヲ一致セシメ把子ヲ緊ム

規正裝置ヲ修正スルニハ裝定ト同要領ニ依リ指針ニ對シ分畫ノ所命量ヲ増減ス

高低照準ヲ爲スニハ先ツ眼ヲ距離板ノ氣泡管ノ直上ニシテ左手ヲ以テ水平規正螺桿ノ轉輪ヲ握リ距離板ノ氣泡管ノ氣泡前(後)方ニ偏入スルトキハ轉輪ヲ右(左)ニ廻ハシテ氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導キ次テ高低照準機ノ轉輪ヲ廻ハシテ指針托桿ノ指針ヲ距離板上所命ノ彈種ニ測合ス

應スル距離刻線ニ一致セシム夜間ニ在リテハ通常携帶燈ヲ用ヒ氣泡管ノ下方ニ其光線ヲ反射セシムルカ若ハ直接氣泡管ノ下方ヲ照ス

信管廻ヲ裝定スルニハ先ツ挿板螺ヲ緩メ挿板ノ指針ヲ所命ノ距離刻線ニ一致セシメタル後挿板螺ヲ緊ム

信管ヲ測合スルニハ左手ニテ彈丸ヲ支ヘ右手ニ信管廻ノ握把ヲ執リ其準溝ヲ藥盤廻ニ嵌入シタル後右ニ廻ハシテ挿板ヲ駐釘ニ合セシム廻子ヲ以テ信管ヲ零距離ニ測合スルニハ之ヲ信管大藥盤ノ橢圓孔ニ嵌メ大藥盤ヲ右ニ廻ハシ其圓孔ヲ駐釘ニ向ハシム

第二百四十四 信管修正分畫ヲ取ラシムルニハ例ハ左ノ號令ヲ下ス

或ハ 信管百縮メ(伸ハセ)

信管修正千百

五番乃至八番ノ内二名ハ信管廻ヲ修正シ信管ヲ測合ス

信管廻ヲ修正スルニハ壓螺ヲ緩メ體ノ指標ニ對シ修正分畫ヲ所命ノ量タケ移動シ刻線ヲ一致セシムルカ或ハ指標ニ所命ノ修正分畫刻線ヲ一致セシメタル後壓螺ヲ緊ム而シテ縮ムル場合ニハ修正分畫數ヲ減少スル如ク又伸ハス場合ニハ之ニ反スル如ク操作ス

裝 填

第二百四十五 所望ノ彈數ヲ裝填セシムルニハ例ハ左ノ號令ヲ下ス

三發

五番乃至十番ハ第二百四十乃至第二百四十四ニ從ヒ彈藥ヲ準備シ五番乃至八番ノ内一名ハ彈丸ヲ、九番若ハ十番ハ藥筒ヲ所命ノ數ニ至ルマテ逐次裝填シ五番乃至八番ノ内一名ハ彈丸ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱フ

四番ハ五番乃至八番ノ内一名彈丸ヲ腔内ニ入ルルヤ撞桿ヲ以テ之ヲ彈室ニ撞キ入レ三番ハ彈藥ノ裝填終ルヤ閉鎖機ヲ閉ツ

散布並掃射ニ在リテハ一距離、一方向ニ應スル彈數ヲ示ス

彈丸ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒテ砲尾ニ運ヒ兩手ヲ以テ螺體室ノ螺絲部ニ觸レサル如ク彈丸ヲ腔内ニ入レ四番ハ撞桿ヲ彈底ニ當テ之ヲ砲身軸ノ方向ニ保チ一舉ニ力ヲ加ヘ彈丸ヲ彈室ニ撞キ入ル

藥筒ヲ裝填スルニハ之ヲ拭ヒタル後砲尾ニ近ツキ兩手ヲ以テ藥室內ニ押シ込ム

彈藥ノ裝填間三番ハ右手ニテ閉鎖機槓桿ノ握把ヲ稍、後方ニ押ス如ク輕ク握リ藥筒ノ裝填終ルヤ握把ヲ後方ニ引キツツ閉鎖機ヲ廻ハシ螺體半ハ螺體室內ニ入ルヤ左手ニテ鎖扉ノ後面ヲ強ク壓シ鎖扉ノ前面砲尾面ニ接シタル後右手ニ力ヲ加ヘテ握把ヲ前方ニ壓ス

第二百四十六 連續裝填セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

續イテ込メ

第二百四十五ニ從ヒ操作シ四番乃至十番ハ連續裝填ス但彈丸ヲ裝填スル毎ニ「一、二、三」等ト唱フルコトナシ

發射

第二百四十七 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス(中三八五)

十五秒 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ「撃テ」ト號令シ爾後所命ノ秒數ヲ間シ發射ヲ號令ス

分隊長ハ發射ニ際シ後復坐ノ景況ニ注意シ要スレハ五番乃至八番ノ内一名ヲシテ後坐量ヲ測定セシム
三番ハ分隊長ノ號令ニテ拉繩ヲ引キテ發射シ復坐終ルヤ拉繩ヲ輕ク鎖扉ノ樞軸ニ掛ケ閉鎖機ヲ開キ右手ニテ之ヲ保チ左手ヲ以テ藥莢ヲ出シ之ヲ九番若ハ十番ニ渡シ腔内及擊針孔ヲ檢ス九番若ハ十番ハ藥莢ヲ指定セラレタル位置ニ置ク
一番及二番ハ發射終ルヤ照準具ヲ點檢シ照準ヲ

爲ス但一番ハ射角十五度以上ナルトキハ之ヲ約十五度ト爲ス
五番乃至八番ノ内一名ハ分隊長ノ命令ニ從ヒ後坐量ヲ測定ス又五番乃至十番ハ所命ノ如ク彈丸、信管及藥筒ヲ準備シ四番乃至十番ハ所命ノ裝填法ニ應シ第二百四十五又ハ第二百四十六ニ從ヒ操作ス

連續 各個ニ擊テ

第二百四十七ニ從ヒ操作シ分隊長ハ準備成ル毎ニ直ニ發射ヲ號令ス

第二百四十九 每發所望ノ時機ニ發射セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス(中三八四)

指令 各個ニ擊テ

分隊長ハ準備成ルヤ直ニ發射ヲ號令ス爾後「次キ」ノ號令若ハ記號ニ依リ直ニ發射ヲ號令スルカ又ハ「何秒、連續」何回次キ」ノ號令ニ依リ第二百四十七(第二百四十八)ニ從ヒ所命ノ回數ニ應スル彈數ヲ發射セシム
第二百五十 所命ノ彈數ヲ發射中發射速度ヲ換ヘシムルニハ單ニ發射速度ノミヲ號令ス
一發裝填ノ場合(散布及掃射ヲ除ク)ニハ發射速度ヲ號令スルコトナシ
第二百五十一 裝填シアル彈藥ヲ擊拂ハシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
急キ擊テ

第二百四十七ニ準シテ操作シ爾後裝填法ノ號令アルマテ彈藥ヲ裝填スルコトナシ

諸元ノ變更

第二百五十二 分畫銀ニ依リ射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス
八十右(左)

二番ハ分畫銀ヲ修正シタル後方向照準ヲ爲ス
架尾ノ移動ヲ要スルトキハ分隊長ハ其方向及量ヲ示ス二番ハ角度板ノ分畫ヲ零ニ復シ一番及二番ハ駐定桿ヲ、三番ハ制轉機ヲ緩メ三番及五番ハ車輪ニ、四番、六番乃至十番ハ脚ニ就キ架尾ヲ移動ス架尾ノ移動終ルヤ一番及二番ハ駐定桿ヲ、三番ハ制轉機ヲ緊ム
既ニ射角ヲ附與シアルトキハ一番ハ高低照準ヲ爲ス
射向變換ニ方リ照準點若ハ既ニ採用セル標定點ニ依リ爾後ノ照準ヲ繼續スルヲ不使トスルトキハ第二百三十九ニ從ヒ新ニ標定點ヲ選定ス

第二百五十三 方向照準機ノ轉輪ニ依リ射向ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)二回

二番ハ射向ヲ右(左)ニ換フル如ク方向照準機ノ轉輪ヲ所命ノ回數タケ廻ハシ一番ハ高低照準ヲ爲ス

發射後二番ハ方向照準ヲ行フコトナシ

射向ヲ舊ニ復シ方向照準ヲ爲サシムルニハ「方向舊ヘ」ノ號令ヲ下ス

第二百五十四 彈藥並信管ノ種類若ハ裝置ヲ換ヘシムルニハ第二百四十四乃至第二百四十二ニ從フ(一七九頁)

第二百五十五 高低角ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

高低十二度四

或ハ

高低四増セ(減ケ)

一番ハ規正裝置ヲ裝定或ハ修正シタル後高低照

準ヲ爲ス

第二百五十六 信管修正分畫ヲ換ヘシムルニハ第二百四十四ニ從フ(九六頁)

第二百五十七 射距離ヲ換ヘシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

五千六百

或ハ

二百増セ(減ケ)

第二百四十三ニ準シテ操作ス(九五頁)

散布

第二百五十八 近(遠)方位ヨリ逐次數距離上ニ各距離毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ射距離又ハ其増(減)量ト共ニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス但現在裝定セル射距離ヨリ發射セシムル場合ニハ射距離ノ號令ヲ省略スルコトヲ得

遠(近)ク百 三距離

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ所命ノ射距離若ハ

現在ノ射距離ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎ニ所命ノ量ヲ増(減)シタル射距離若ハ所命ノ射距離増(減)量並彈數ヲ號令ス

砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

掃射

第二百五十九 一距離上ニ於テ逐次射向ヲ換ヘ各射向毎ニ所望ノ彈數ヲ發射セシムルニハ裝填法ノ號令ニ冠スルニ例ヘハ左ノ號令ヲ以テス

三方向 右(左)二回

分隊長ハ發射法ノ號令ニ依リ現在ノ射向ヨリ始メ所命ノ彈數ヲ發射シ終ル毎ニ射向ヲ右(左)ニ換フル如ク所命ノ方向照準機轉輪ノ旋回方向及回數並彈數ヲ號令ス

砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

諸元ノ保留及使用

第二百六十 射擊諸元ヲ保留セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

五十一砲兵諸元書ケ

或ハ

標點方向書ケ

分隊長ハ現在ノ射擊諸元即チ照準點若ハ標點、方向角、彈種、信管ノ種類若ハ裝置、高低角、信管修正量、射距離ヲ記載ス但標點方向ヲ書ク場合ニ於テハ照準點若ハ標點並方向角ノミヲ記載ス

第二百六十一 保留セル諸元ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

五十一砲兵諸元取レ

或ハ

標點方向取レ

分隊長ハ記載セル諸元ヲ號令ス

砲手ハ分隊長ノ號令ニ應シ操作ス

射擊ノ中止、再興及停止

第二百六十二 射擊ヲ中止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ中止ス但三番ハ閉鎖機ヲ閉チ安全駐爪ヲ安全ノ位置ニ爲ス

擊方待テ

分隊長以下ハ直ニ操作ヲ始ム

擊方止メ

一番ハ射角ヲ約十度ニ、規正裝置ヲ十度ニ復シ

九番及十番ハ裝藥ヲ一號ニ復ス

第二章 戰闘

要則

第二百六十五 分隊戰闘教練ノ主眼トスルトコ

作及鞍馬(山砲駄馬十加車輛)ノ狀態ニ注意シ運

第一節 陣地占領及撤去

第二百六十九 中隊一齊ニ陣地ニ進入スル場合

放列布置ノ方法、放列布置後ニ於ケル前車(山

彈藥ヲ速ニ砲側ニ搬送スルコト緊要ナリ
第二百七十三 山砲ノ砲車ヲ分解シ臂力ヲ以テ之ヲ陣地ニ搬送スル場合ニハ分隊長ハ爲シ得レハ搬送ニ便ナル如ク材料ヲ排列シ個人ノ體力ヲ顧慮シテ材料ヲ砲手要スレハ馭者ニ配當シ且搬送ニ關シ所要ノ指示ヲ與ヘタル後通常先行シテ砲車ノ結合位置ヲ偵察スルモノトス而シテ搬送ノ順序ハ結合ニ便ナル如ク定メ特ニ放列布置後直ニ射撃開始ヲ必要トスル場合ニ於テハ照準具竝一部ノ彈藥ヲ速ニ砲側ニ搬送スルコト緊要ナリ(中三六七)

第二百七十四 分隊中隊ノ主力ニ後レテ陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ陣地ニ近接スルヤ通常自ラ先行シテ小隊長ヨリ砲車位置、進入ノ方法、射撃ノ準備等ニ關シ所要ノ命令ヲ受クルヲ要ス

第二百七十五 夜間陣地ニ進入スル場合ニハ分隊長ハ通常豫メ周密ナル偵察ヲ行ヒ且砲車位置、首線ノ方向、工事ノ經始、標定點ノ設置場所、

分隊ノ進入路等ヲ標示スルモノトス其他山砲ニ在リテハ脱駕若ハ卸下及結合位置ヲ、十五榴ニ在リテハ連結位置ヲ標示スルヲ要ス(中三七〇)

陣地進入ニ方リ分隊長及彈藥車長(砲彈藥班長)砲身車長ハ特ニ部下ヲ確實ニ掌握シ前後ノ連絡ヲ確保スルコト緊要ナリ又敵ヲシテ我カ企圖ヲ察知セシメサル爲分隊長以下常ニ靜肅ニ動作シ且燈火ノ使用ニ注意シ要スレハ音響防止ノ處置ヲ講スルモノトス

第二百七十六 陣地進入ニ方リ人馬ノ缺損ヲ生シタルトキハ分隊長ハ速ニ其狀況ヲ小隊長ニ報告スルト共ニ馭者(自動車手)ノ缺損ハ砲手ヲ以テ之ヲ補充シ故障アル馬ハ適宜之ヲ交換又ハ除去シ或ハ彈藥車ノ前車ヲ以テ砲車ヲ曳曳スル等其處置ヲ機宜ニ適シシメ總ヒ總テノ馬ヲ失ヒ或ハ牽引自動車破損シタル場合ニ於テモ分隊長以下協同一致臂力ヲ以テ速ニ砲車其他ノ材料ヲ陣地ニ就カシムルヲ要ス(總一三・分二七六・中

六八)
第二百七十七 砲車位置ヲ概示セラレタルトキハ分隊長ハ通常放列布置ニ方リ左ノ事項ヲ顧慮シ速ニ其附近ニ於テ火砲ノ威力ヲ發揚スルニ最モ適當ナル位置ヲ選定スルモノトス而シテ此位置ノ選定適當ナルトキハ放列布置後實施スヘキ諸設備ヲ著シク輕減シ得ヘシ

架尾位置ハ十分ナル抵抗力ヲ有シ且其抵抗力ハ左右等齊ナルコト

砲車位置特ニ兩車輪ノ位置ハ平坦ニシテ高低差ナク且其抵抗力等齊ナルコト

射撃ノ爲砂塵ヲ飛揚セサルコト

地形ノ利用ニ依リ成ルヘク掩蔽良好ニシテ且射撃設備並偽裝容易ナルコト

比隣砲車及砲口前ノ地形、地物ノ爲射撃ヲ妨害セラレサルコト

砲車位置ヲ指定セラレタルトキハ分隊長ハ放列布置ニ方リ砲車ノ眼鏡(十五榴觀準儀)ヲ略、

指定位置ノ直上ニ導クモノトス但特ニ指示アルトキハ砲車ノ眼鏡(十五榴觀準儀)ヲ指定位置ノ直上ニ導クヲ要ス

第二百七十八 十五榴ノ砲架車及砲身車連結位置ノ適否ハ放列布置ノ難易及遲速ニ影響スルコト大ナリ故ニ分隊長ハ迅速適切ニ地形ヲ判斷シ兩砲架ノ連結並爾後ノ搬送ニ便ナル如ク連結位置ヲ選定スルコト緊要ナリ

第二百七十九 放列ヲ布置スルヤ分隊長ハ指示セラレタル射界ニ對スル射撃ノ實施ヲ容易ニシ且精度良好ナル射撃ヲ繼續シ得ル如ク速ニ射撃設備ヲ行フヲ要ス而シテ放列布置後直ニ射撃ヲ開始スル場合ニ於テハ射撃ノ間斷ヲ利用シテ逐次射撃設備ヲ完成スルモノトス時トシテ放列布置ニ先ダテ此設備ヲ實施セシメラルルコトアリ(中三七一)

分隊長以下ノ實施スヘキ射撃設備ノ主要ナルモノ左ノ如シ

駐劔溝ヲ掘開シ野、騎、山砲ニ在リテハ爲シ得レハ束柴、束藁等ニ依リ、十五榴及十加ニ在リテハ束籐、束竹等ニ依リ火砲ノ後坐衝力ヲ緩和シ且爲シ得レハ植杭ニ依リ土地ノ抗力ヲ増大シ以テ砲車ノ安定ヲ良好ニシ射向變換ヲ容易ナラシム

車輪下ハ要スレハ之ヲ削リ且地面ヲ十分搗固シ爲シ得レハ糾草等ヲ敷キ尙十五榴ニ在リテハ籐褥及支楔ヲ、十加ニ在リテハ籐褥ヲ車輪下ニ裝シ架尾位置ノ設備ト相俟チテ砲車ノ安定ヲ良好ニシ射向變換ヲ容易ナラシム

射界ヲ清掃シ又照準ヲ妨クヘキ地物ヲ除去ス

砲口前ニ撒水シ或ハ編條等ヲ以テ所要ノ地域ヲ覆ヒ發射ノ爲生起スル砂塵ノ飛揚竝風塵力ニ依ル形跡ヲ防止ス

第二百八十八 分隊長以下常ニ巧ニ地形ヲ利用シ以テ人馬及其行動竝材料等ヲ掩蔽スルコト緊要ナリ(中三六四)

偽裝網ヲ設置スルニ方リテハ成ルヘク之ヲ低ク

シ各部ニ稜角ヲ生セシムルコトナク且其縁邊ハ緩傾斜ヲ以テ地面ニ接著セシムルヲ可トス

第二百八十一 放列撤去ニ方リ分隊長(山砲ヲ除ク)ハ地形ニ應シ車輛ヲ接續ニ便ナル位置ニ移シ前車來ルヤ要スレハ彈藥車長ト五 砲身車長ト運轉手)ニ前車ノ誘導ニ關シ指示ヲ與ヘ迅速圓滑ニ接續ヲ完了スルヲ要ス又山砲ノ分隊長ハ地形ニ應シ砲車其他ノ材料ヲ繫駕又ハ駄載ニ便ナル位置ニ移シ駄馬來ルヤ要スレハ彈藥班長ニ駄馬ノ誘導ニ關シ指示ヲ與ヘ迅速圓滑ニ繫駕又ハ駄載ヲ完了スルヲ要ス

砲側ニ彈藥ヲ集積シアル場合ニ於テハ野、騎、山砲ノ分隊長ハ其彈藥ヲ以テ分隊ノ彈藥ヲ補充シ且過剩ノ彈藥アルトキハ其種類及數量ヲ小隊長ニ報告スルモノトス

分隊長ハ砲側ニ在ル彈藥ノ種類及數量ヲ小隊長ニ報告スルモノトス

第二節 射擊

第二百八十二 分隊長ハ通常小隊長ノ指揮下ニ在リテ射擊ノ指揮ニ任スルモノトス然レトモ射擊操作ハ通常中隊長又ハ放列ニ在ル高級先任ノ砲車小隊長ノ號令ニ依リ直ニ開始スヘキモノナルヲ以テ常ニ此等指揮官ノ號令及記號ニ注意シアルヲ要ス

第二百八十三 分隊長ハ操作上ノ要點及砲手ノ誤リ易キ點ニ注意シ勉メテ操作間ニ過誤ヲ發見シテ之ヲ未然ニ防キ要スレハ實施ノ結果ヲ點檢シ以テ常ニ正確ナル射擊ヲ實施スルコトニ勉メサルヘカラス

放列布置後直ニ射擊ヲ開始スルカ或ハ大ナル射擊速度ヲ以テ射擊スル等狀況急ヲ要スル場合、射擊諸元ノ大ナル變更アリタル場合、號令複雜ナルカ或ハ其徹底不十分ナル場合、中隊長及小隊長トノ視目ニ依リ連絡困難ナル場合等ニ於テハ動モスレハ操作不正確トナリ或ハ過誤ヲ生シ易キヲ以テ注意ヲ倍從スルヲ要ス

第二百八十四 分隊長ハ不慮ノ危害ヲ防止スル

爲特ニ部下ヲ確實ニ掌握シ且絶エス部下分隊於比隣分隊ノ狀態ニ注意スルヲ要ス發射ノ前後ニ於テ特ニ然リトス

第二百八十五 分隊長ハ常ニ火砲特ニ照準具、閉鎖機及駐退機ノ機能ヲ完全ニシ以テ射擊ノ實施ヲ圓滑ニシ且其精度ヲ良好ナラシムルコトニ勉メサルヘカラス之カ爲射擊間各部ノ機能ニ注意シ又爲シ得レハ砲身ノ放熱ヲ圖リ且射擊ノ中止間等ヲ利用シテ各部ノ點檢、手入、注油等ヲ實施セシムルヲ要ス

第二百八十六 砲側ニ在ル彈藥取扱ノ良否ハ射擊ノ精度ニ影響ヲ及スコト大ナルヲ以テ分隊長以下常ニ所要ノ點檢、手入ヲ行ヒ且爲シ得ル限リ之ニ覆ヲ施シ日光ノ直射及砂塵ノ附著竝濕氣ヲ避クルコト緊要ナリ發煙彈等ニ在リテハ特ニ然リトス

第二百八十七 野、騎、山砲及十加ノ某地點ニ對スル高低角ハ左ノ要領ニ依リ通常分隊長之ヲ測定スルモノトス

野、騎、山砲 眼鏡ノ諸分畫ヲ定位ニシ俯仰分畫ニ其規正量ヲ取り次テ所命ノ地點ニ對シ表尺照準ヲ行ヒタル後高低水準器ノ轉輪ヲ廻ハシ其氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ指針ノ指分畫ヲ讀ミ要スレハ之ニ高低水準器ノ規正量ヲ修正ス

十加 觀準儀ノ後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キタル後分畫鏡ヲ廻ハシ俯仰裝置ノ轉輪ヲ使用シテ測定セントスル地點ニ眼鏡内十字ノ交截點ヲ導キ此際得タル俯仰分畫ニ其規正量ヲ修正ス

第二百八十八 野、騎、山砲及十加ノ某方向ニ對スル最低表尺ハ左ノ要領ニ依リ分隊長之ヲ測定スルモノトス

野、騎、山砲 表尺ヲ滿下シ測定スヘキ方向ノ遮蔽物ノ頂上ニ對シ表尺照準ヲ行ヒ高低水準器ニ所命ノ高低角ヲ裝定シ表尺ヲ抽出シテ高低水準器ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ坐筒上縁ニ一致スル距離ヲ讀ミ之ニ遮蔽物ニ

至ル距離ヲ增加ス
遮蔽物ニ至ル距離短小ナルトキハ眼鏡内十字ノ交截點ニ代フルニ砲腔最下母線ヲ以テスルヲ可トス

十加 第二百八十七ニ從ヒ測定スヘキ方向ノ遮蔽物ノ頂上ニ對シ高低角ヲ測定シ之ニ所命ノ高低角ヲ加減シタルモノヲ距離板上ニ於テ射距離ニ換算(特ニ指示ナキトキハ裝藥二號ニ應スルモノ)シ此距離ニ遮蔽物ニ至ル距離ヲ增加ス

遮蔽物ニ至ル距離短小ナルトキハ規正裝置上ニ所命ノ高低角ヲ裝定シ距離板ノ氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キタル後砲腔最下母線ヲ遮蔽物ノ頂上ニ導キ此際得タル射距離ニ遮蔽物ニ至ル距離ヲ增加ス

第二百八十九 騎、山砲ノ最高表尺ヲ測定スルニハ分隊長ハ架尾ヲ射擊スヘキ高サニ在ラシメ搖架ヲ移動シ得ル範圍ニ砲尾ヲ下ケ高低水準器ニ所命ノ高低角ヲ裝定シ表尺ヲ抽出シテ高低水

準器ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ坐筒上縁ニ一致スル距離ヲ讀ム若象限儀ヲ用フルトキハ砲尾上面ニ在ル駐筒(象限儀坐)ニ準シテ之ヲ置キ氣泡管ノ轉輪ヲ廻ハシテ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ角度ヲ讀ム

第二百九十 十五榴ノ某方向ニ對スル遮蔽角ヲ測定スルニハ分隊長ハ先ツ觀準儀ノ後方及左方氣泡管ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ導キ次テ分畫鏡ヲ廻ハシ且俯仰裝置ノ轉輪ヲ使用シ眼鏡内十字ノ交截點ヲ測定スヘキ方向ノ遮蔽物ノ頂上ニ導キ俯仰分畫ヲ讀ム若遮蔽角大ナルトキハ規正裝置ヲ十度トシ砲腔最下母線ヲ遮蔽物ノ頂上ニ導キ此際得タル距離板上ノ角度ヲ讀ム

第二百九十一 射向附與ニ方リ分隊長ハ照準點ヲ確認シ砲手ヲシテ照準點並回轉盤(十五加)分畫鏡ノ裝定又ハ修正ヲ誤ラシメサルコトニ注意シ又標定點ヲ選定スル場合ニハ之カ選定ヲ適切ナラシムルヲ要ス

標定點ハ天候又ハ爆煙等ノ爲照準ヲ妨害セラル

ルコトアルヲ顧慮シ要スレハ豫備ノ標定點ヲ準備スルモノトス

第二百九十二 反規法ニ依ル射向附與ニ於テハ分隊長ハ回轉盤ヲ略、水平(十五加)觀準儀ヲ略、垂直(十五加)標桿ヲ使用スル場合ニハ回轉盤(十五加)觀準儀)上ニ垂直ニ植立セシムルコト緊要ナリ又反規ノ爲架尾ヲ移動スルニ方リ砲車ノ眼鏡(十五加)觀準儀)位置ヲ偏移セシメサルヲ要ス

砲車基準ノ反規法ニ在リテハ前項ノ外爲シ得レハ砲車ノ方向ヲ豫メ基準ノ砲車ノ方向ニ平行セシムルヲ可トス

第二百九十三 射向變換ニ方リ架尾ノ移動ヲ要スルトキハ爲シ得ル限リ砲車ノ眼鏡(十五加)觀準儀)位置ノ偏移ヲ防キ以テ射擊精度ヲ良好ナラシメサルヘカラス之カ爲分隊長ハ射擊設備ノ狀態及方向修正量ヲ顧慮シ之ニ適應スル如ク各砲手ヲシテ協同動作セシムルヲ要ス

二筒以上ノ標定點ヲ使用シタルトキハ方向照準ニ方リ彼此混同セサルコトニ注意スルヲ要ス

第二百九十四 中隊長ヨリ豫メ射擊諸元及射擊ノ方法等ヲ指示セラレタル場合ニハ分隊長ハ所要ニ應ジ之ヲ其分隊ノ操作ニ適スル如ク記載スルモノトス而シテ其射擊ノ準備ヲ命セラレルヤ速ニ之ヲ完了シ且成ルヘク射擊ノ方法ヲ部下ニ了解セシメ發射ノ時機ヲ待ツヲ要ス

第二百九十五 偽裝網下ニ在リテハ小隊長及比隣分隊長等トノ連絡困難ニシテ號令、命令ノ徹底不十分トナリ又適時標定點ヲ變更スルコト困難ナリ故ニ分隊長ハ偽裝ノ狀態ヲ顧慮シ要スレハ偽裝網ノ一部ヲ開放シ得ル如クスル等連絡及照準ヲ容易ナラシムルノ處置ヲ講セサルヘカラス

第二百九十六 夜間射擊ニ方リテハ分隊長ハ特ニ部下ヲ確實ニ掌握シ常ニ靜肅ニ動作セシメ且燈火ノ使用ヲ適切ナラシムルコト緊要ナリ燈火ノ使用ニ方リテハ分隊長ハ偽裝並附近ノ地形ヲ顧慮シ外部ニ火光ヲ漏洩セシムルコトナク而モ照準具及信管廻ノ裝定又ハ修正並照準等ノ操作ニ便ナラシムルヲ要ス(中四一六)

第二百九十七 分隊長ハ射擊間人員、材料ノ缺損又ハ故障ヲ生シタルトキハ速ニ其狀況ヲ小隊長ニ報告スルト共ニ機宜ニ適スル處置ニ依リ射擊ヲ繼續スルコト緊要ナリ

砲手ノ缺損ニ際シテハ分隊長ハ射擊ノ狀態、砲手ノ任務等ヲ顧慮シ操作ニ便ナル如ク適宜砲手ニ任務ヲ命ス而シテ特ニ重要ナル任務ニ服スル砲手ニハ爲シ得ル限り他ノ任務ヲ兼ネシムルコトナク要スレハ分隊長自ラ砲手ノ操作ヲ兼ヌルモノトス

分隊長缺クルトキハ小隊長ノ命スル砲手ハ分隊長トナリ其分隊ヲ指揮スルモノトス

材料ノ故障又ハ缺損ニ對シテハ分隊長ハ應急ノ處置ヲ講シ爲シ得レハ豫備品ト交換スルヲ可トス而シテ駐退機ノ機能ニ異狀ヲ認ムルトキハ直ニ射擊ヲ中止シテ之ヲ點檢シ又不發アルトキハ

爆管要スレハ擊發機ヲ點檢スルモノトス

分隊長ハ常ニ砲側ニ在ル彈藥ニ注意シ適時之ニ關シ小隊長ニ報告スルヲ要ス

第三節 戰闘間兵卒一般
ノ心得

第二百九十八 戰闘ハ行軍及刺動ノ後開始スルヲ常トシ且數晝夜ニ互ルコト多シ故ニ兵卒ハ勇猛沈著能ク自信ト耐忍トヲ以テ有ユル困苦缺乏ニ堪ヘ戰闘ノ慘烈ナル感情ニ克チ以テ戰闘ノ要求ヲ充足シ得サルヘカラス

第二百九十九 兵卒ハ敵ノ火力熾ニシテ死傷極メテ多キトキト雖自己ノ責任ヲ自覺シ從容自若トシテ事ニ當リ最後ノ一人ニ至ルマテ戰闘ヲ繼續スルヲ要ス

第三百 敵兵我カ陣地ニ侵入シ射擊ヲ繼續シ得サルニ至レハ兵卒ハ有ユル手段ヲ盡シテ格闘シ敵ヲ擊退スルヲ要ス縱ヒ狀況不利ナル場合ニ於テモ陣地ニ止リ火砲ト運命ヲ俱ニスヘキモノト

第三百一 指揮官ノ死傷多キハ實ニ戰場ニ於ケル常態ナリ故ニ兵卒ハ縱ヒ指揮官ヲ失フニ至ルモ志氣ヲ阻喪スルカ如キコトナク益々勇奮奮闘スルヲ要ス此際戰勝ノ榮譽ヲ獲得シ得ルト否トハ一ニ懸リテ殘存セル者ノ雙肩ニ在ルコトヲ銘肝スヘシ

第三百二 兵卒ハ戰闘中負傷スルモ百方手段ヲ盡シテ戰闘ヲ繼續スヘシ而シテ遂ニ戰闘ニ堪ヘサルニ至レハ小隊長以上ノ指揮官ノ命ニ依リ徐ロニ後退スヘキモノトス

第三百三 瓦斯攻撃ヲ受クルカ或ハ之カ警報ヲ聞クカ若ハ撤毒シアルヲ豫察シタルトキハ直ニ比隣相傳ヘ別命ヲ待タス各自迅速確實ニ防毒面ヲ裝著スヘシ

防毒面ノ離脱ハ小隊長以上ノ指揮官ノ命令ニ依ルヲ本則トス

第三百四 兵卒ハ許可ナク其所屬部隊ヲ離ルルコトヲ得ス若任務ヲ帶ヒス或ハ尙戰闘ニ堪ヘ得

へキ輕傷ニシテ恣ニ所屬部隊ヲ去リ又ハ戰闘中
命令ヲ受ケケスシテ負傷者ヲ介護若ハ運搬シ其他
任務ヲ受ケテ一時所屬部隊ヲ離ルル場合ニ於テ
モ其任務遂行後速ニ復歸セサルカ如キハ卑怯ノ
行爲ニシテ軍人ノ本分ヲ傷クルモノトス
兵卒若所屬部隊ノ所在ヲ失ヒタルトキハ直ニ近
傍ニ於テ戰闘スル部隊ニ合シ其將校ニ届告シ其
命ニ從フヘシ而シテ戰闘終レハ直ニ其所屬部隊
ニ復歸スルヲ要ス

第二篇 中隊教練

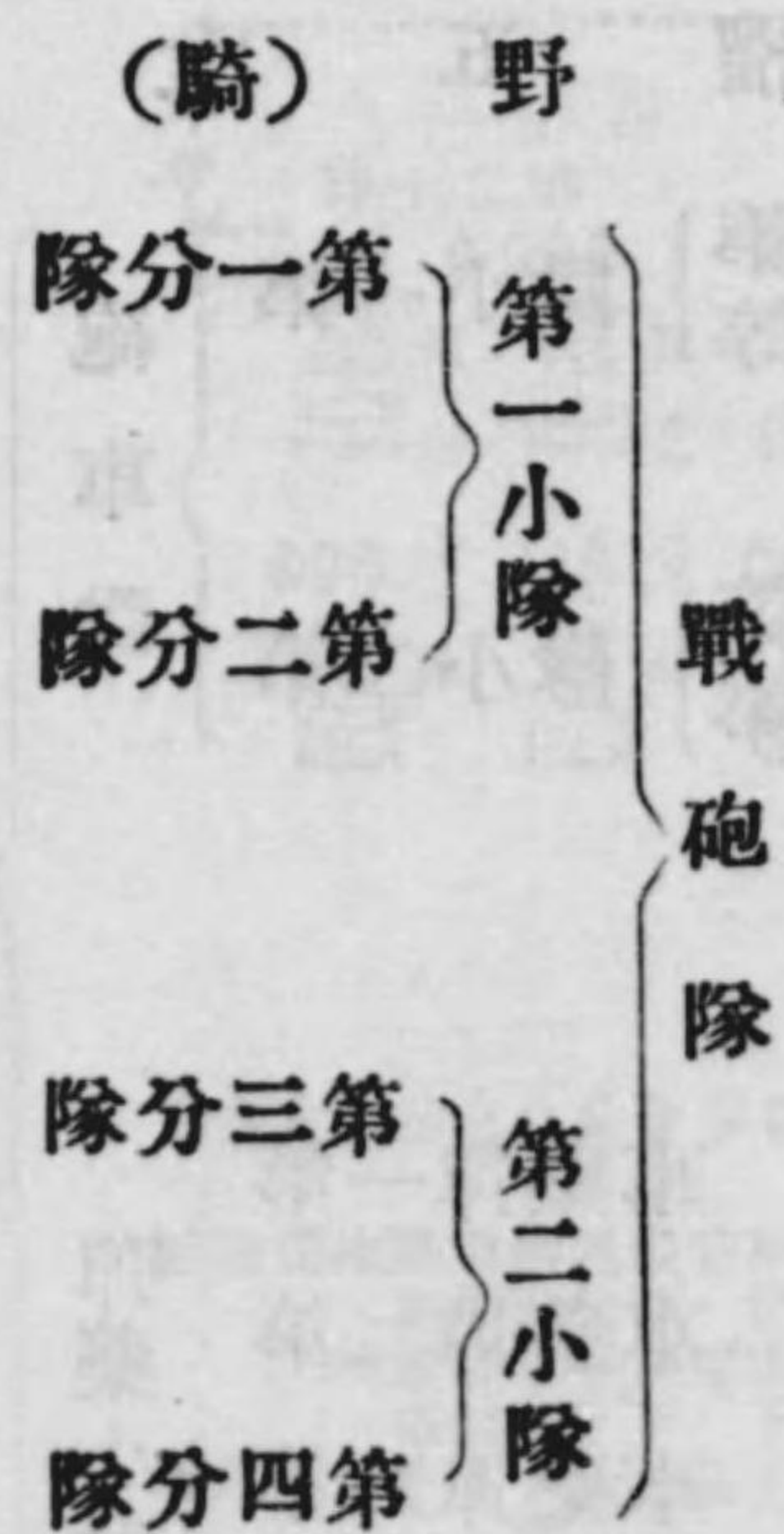
通 則

第三百五 中隊ハ戰闘單位ニシテ中隊長ヲ核
トセル志氣結合ノ基礎ナリ乃チ中隊教練ハ中隊
ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ衆心一致能ク攻撃
精神ヲ發揚シ中隊長ノ號令又ハ命令ニ從ヒ其意
圖ノ如ク戰闘ヲ實行シ得ル如ク練成スルヲ主眼
トス此趣旨ニ基キ善ク訓練セラレタル中隊ハ豫
メ修得セサルコトト雖能ク制式及法則ノ適當ナ
ル應用ニ依リ目的ヲ達シ得ルモノトス(大四四
四・聯四九七)
第三百六 中隊教練(騎砲ヲ除ク)ハ通常大隊内
ノ中隊トシテ演練スルモノトス然レトモ中隊獨
立シテ戰闘スル場合及野、山砲ニ在リテハ小隊
以下ニ分割シテ戰闘スル場合ヲモ訓練スルヲ要
ス
騎砲中隊教練ハ主トシテ獨立セル中隊トシテ演

練スヘキモ小隊以下ニ分割シテ戰闘スル場合及
大隊内ノ中隊トシテ戰闘スル場合ヲモ訓練スル
コト緊要ナリ

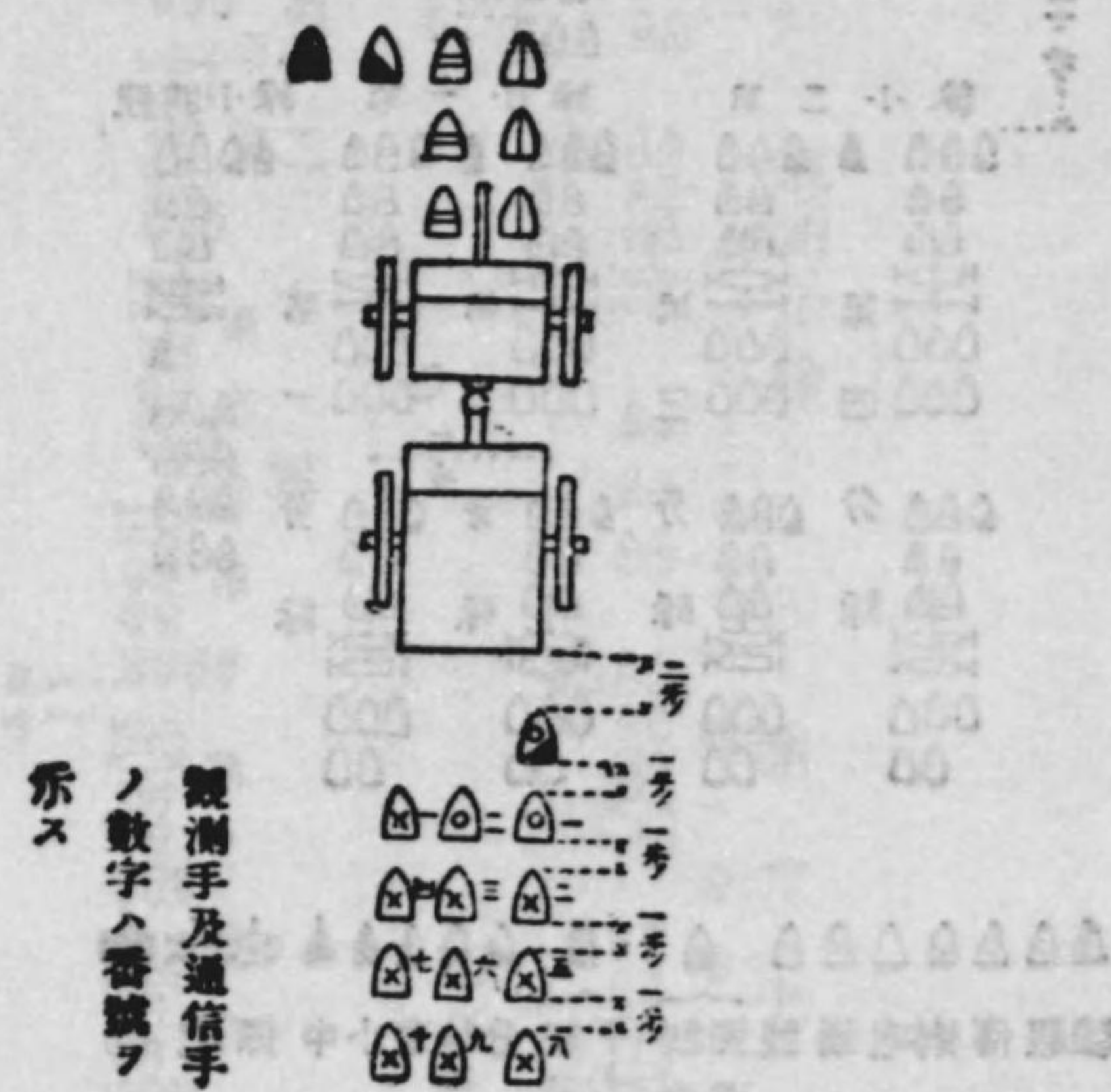
第一章 編成及隊形

第三百七 中隊ハ觀測小隊、戰砲隊及中隊段列
ニ區分ス
戰砲隊ハ之ヲ左ノ如ク區分ス但放列ニ在リテハ
小隊ハ通常右(左)小隊ト呼ビ分隊ハ右ヨリ順次
ニ番號ヲ附シ第一乃至第四ト呼フ





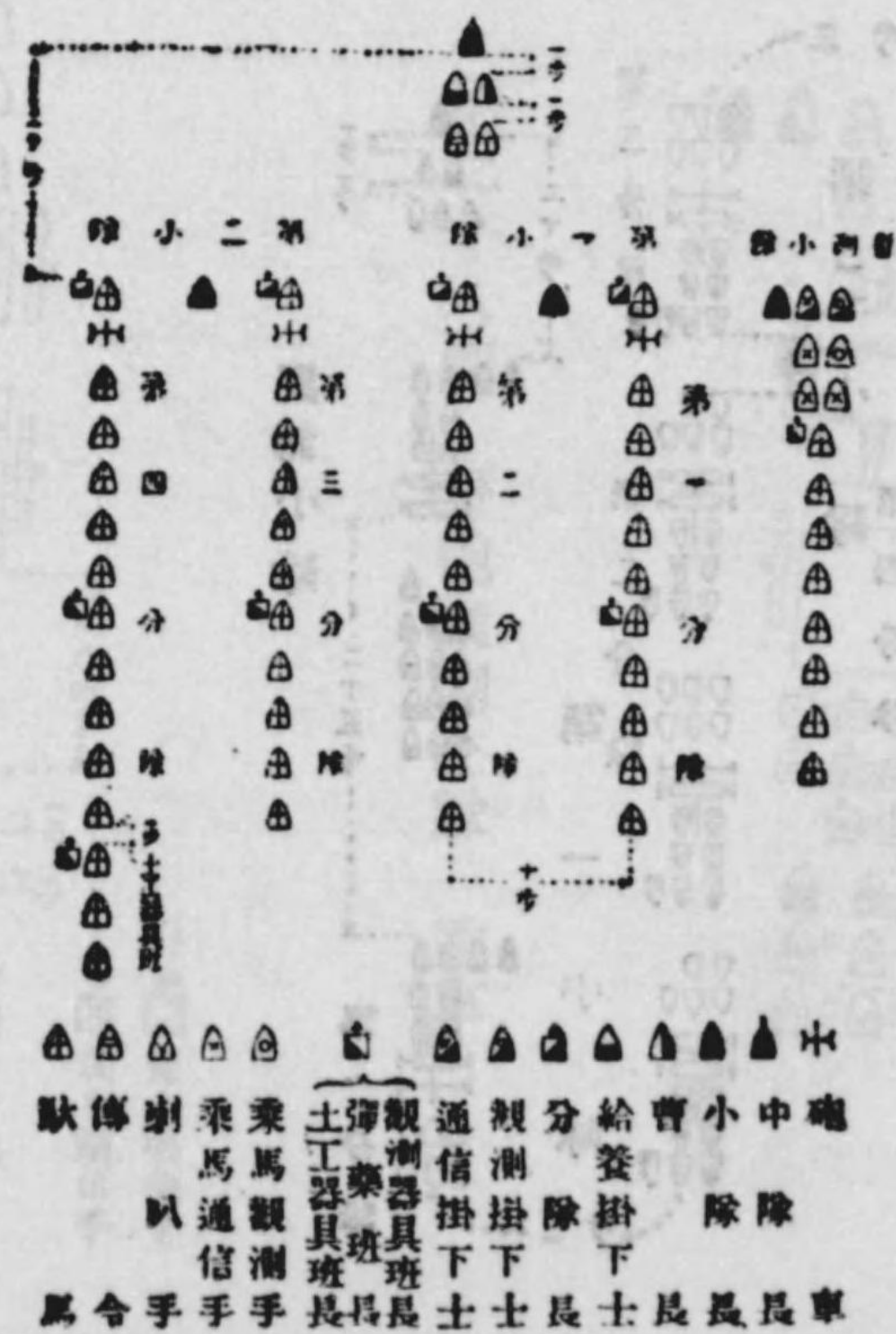
第三十三圖 山砲縱隊 馱載



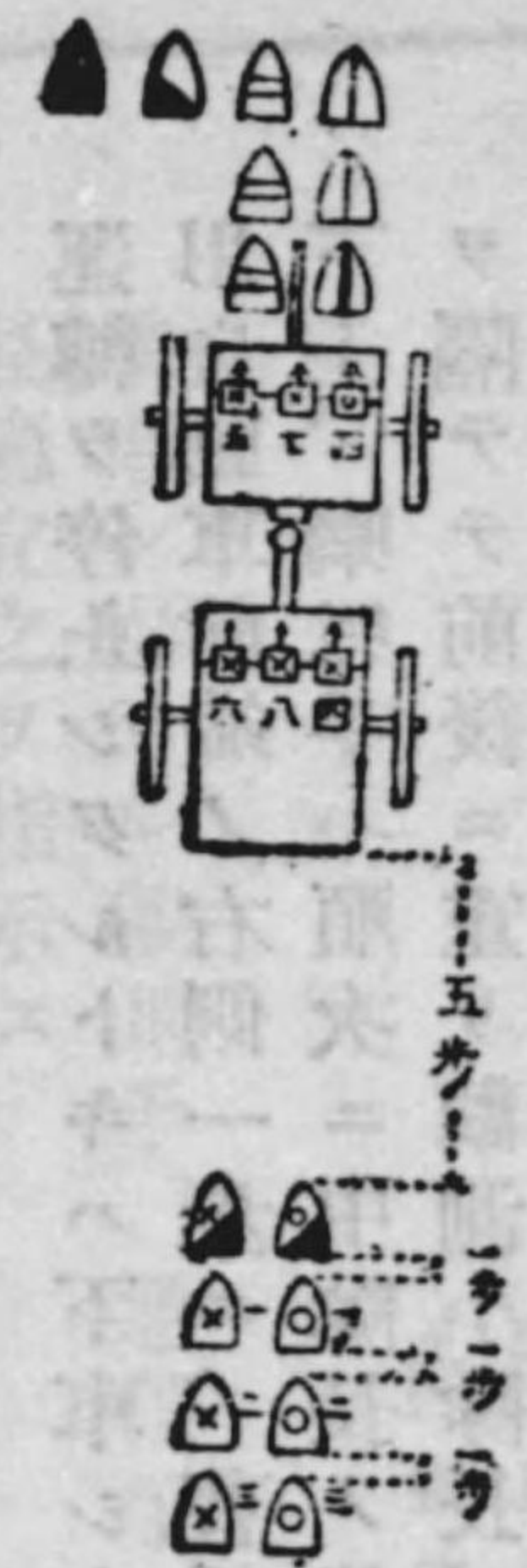
第三十一圖 騎砲觀測小隊



第三十四圖 山砲觀測小隊

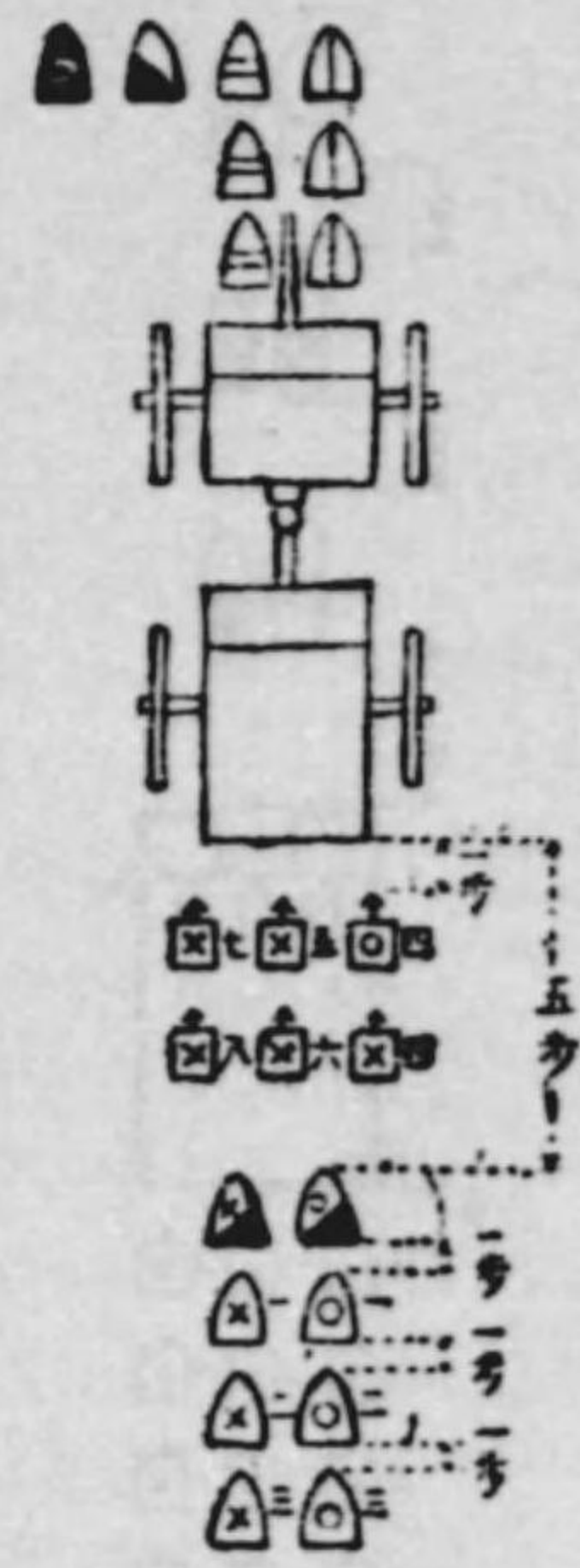


第三十二圖 山砲橫隊 繫駕

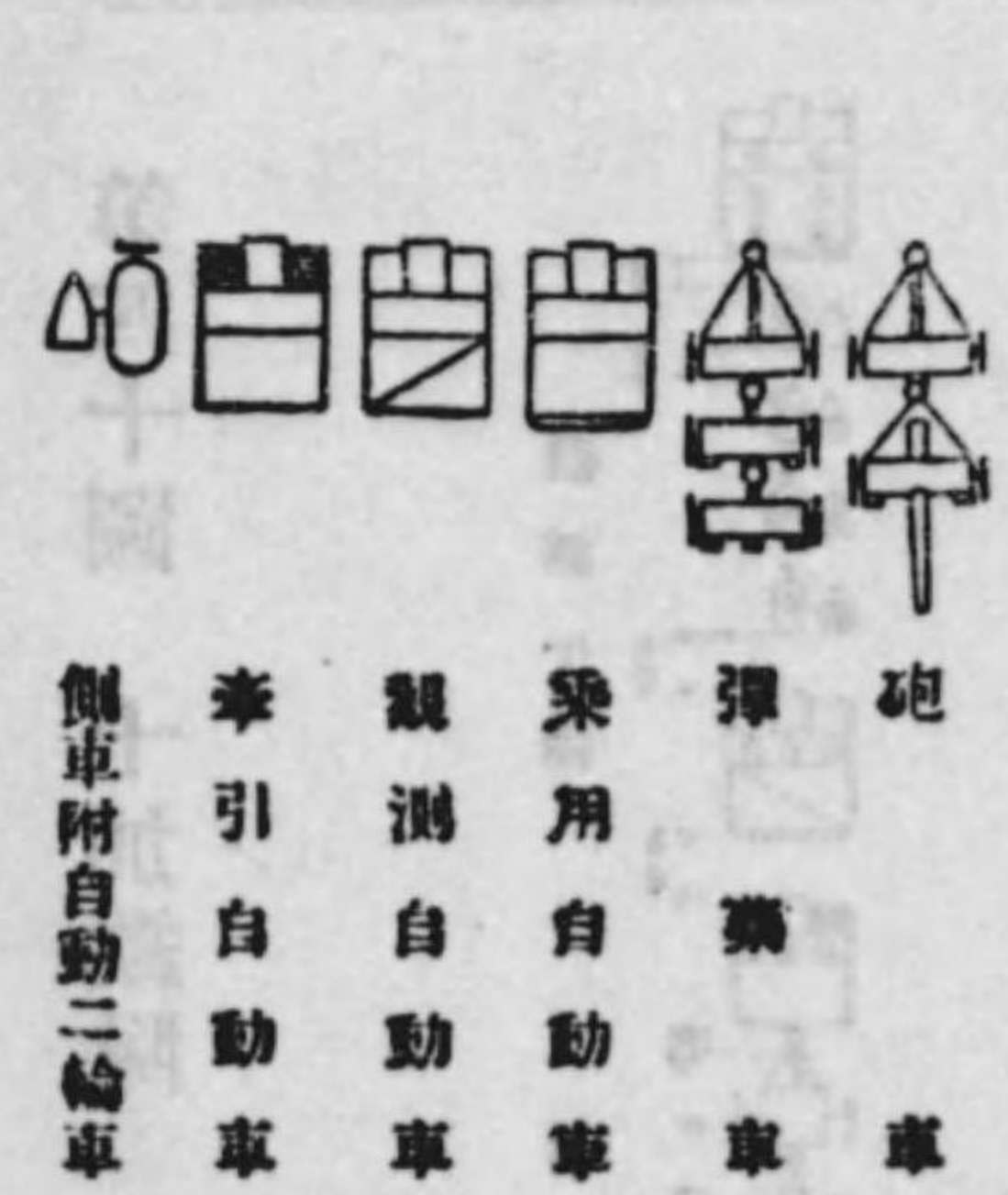


第三十八圖 十五榴觀測小隊 乘車

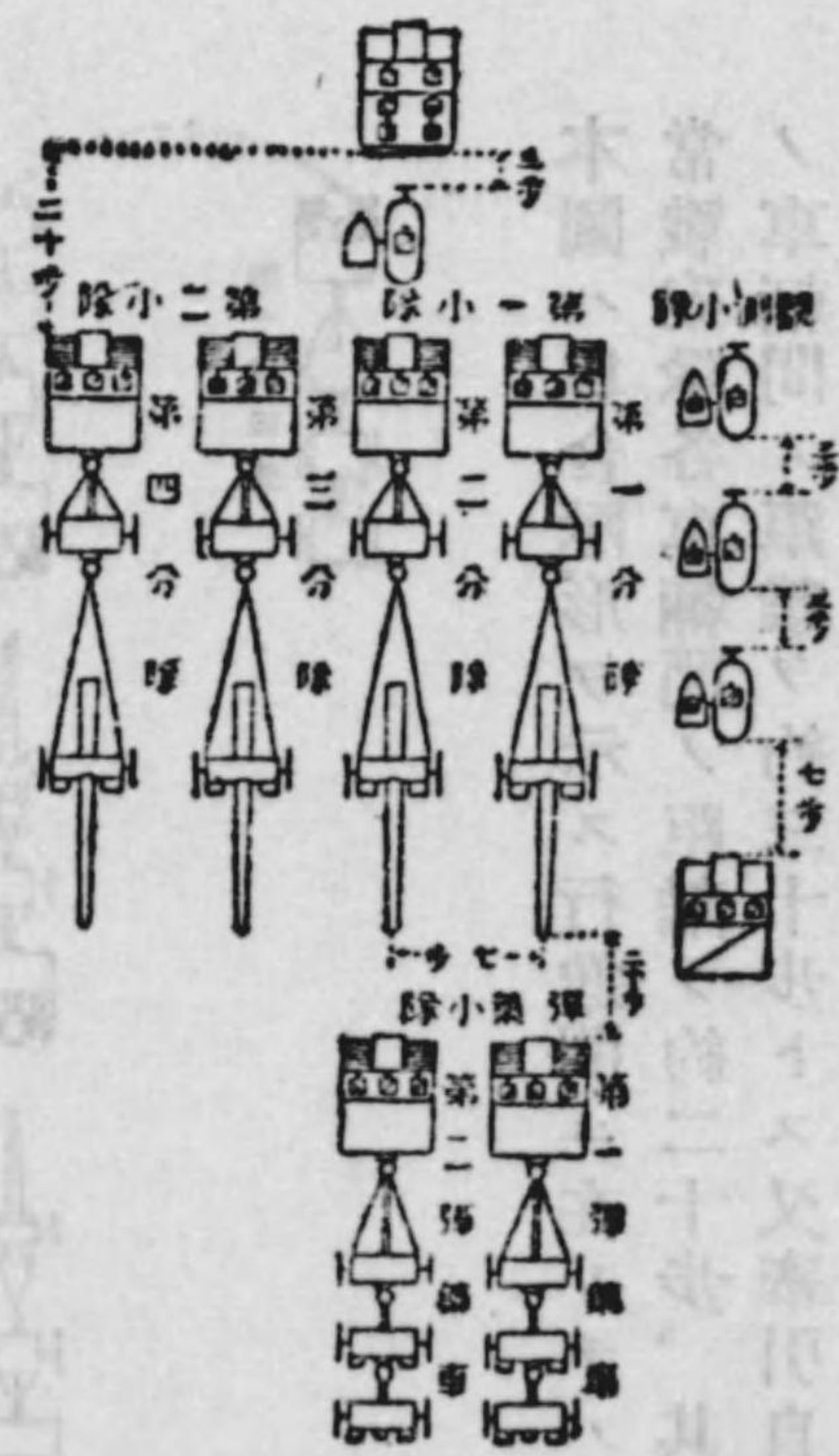
▲ 徒步觀測手
 □ 徒步通信手
 ○ 觀測手及通信手
 △ 番號ヲ示



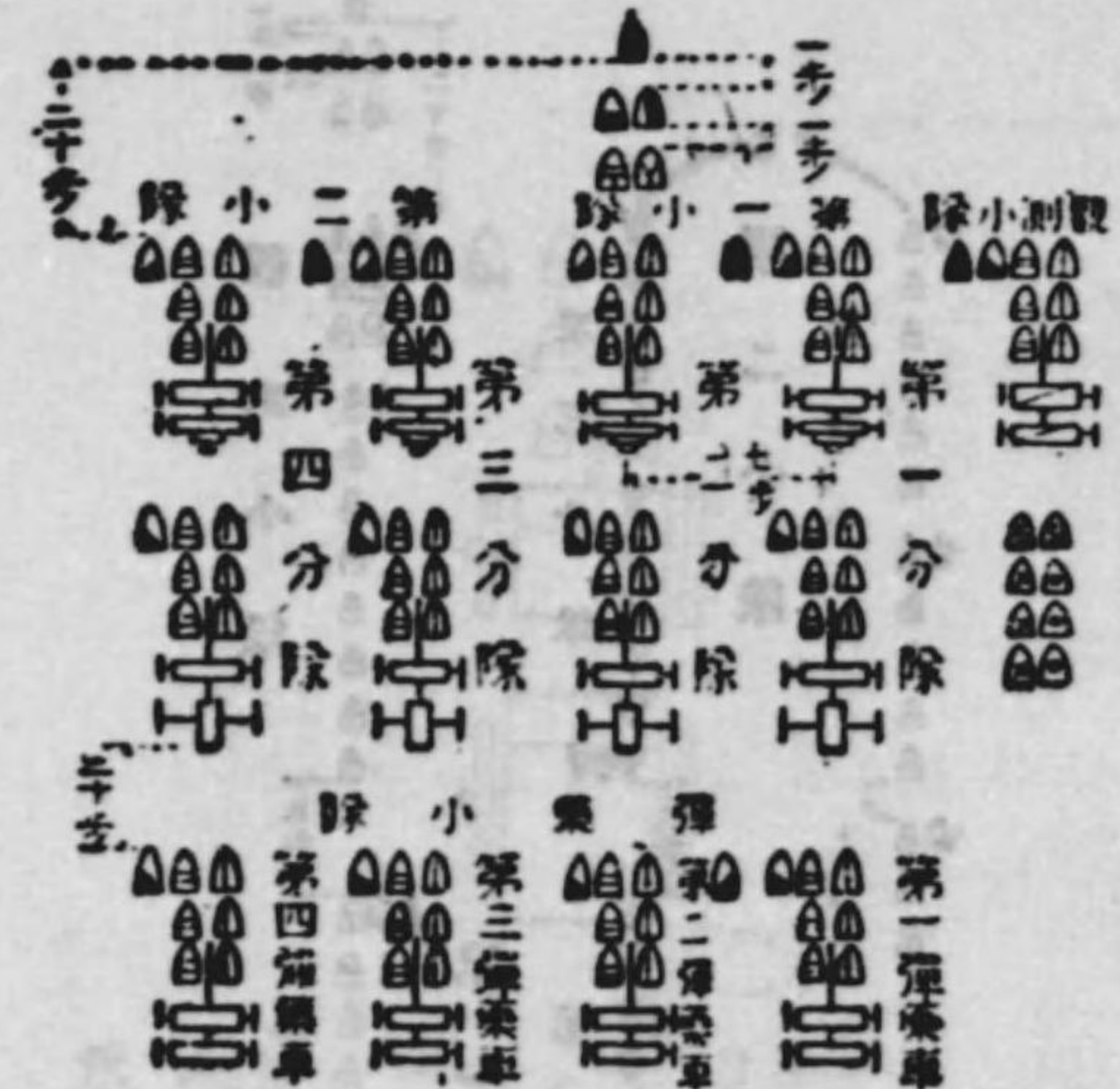
第三十七圖 十五榴觀測小隊 下車



▲ 砲車
 ○ 彈藥車
 □ 乘用自動車
 △ 觀測自動車
 ▽ 牽引自動車
 ⊕ 備車附自動二輪車



第三十九圖 十加橫隊



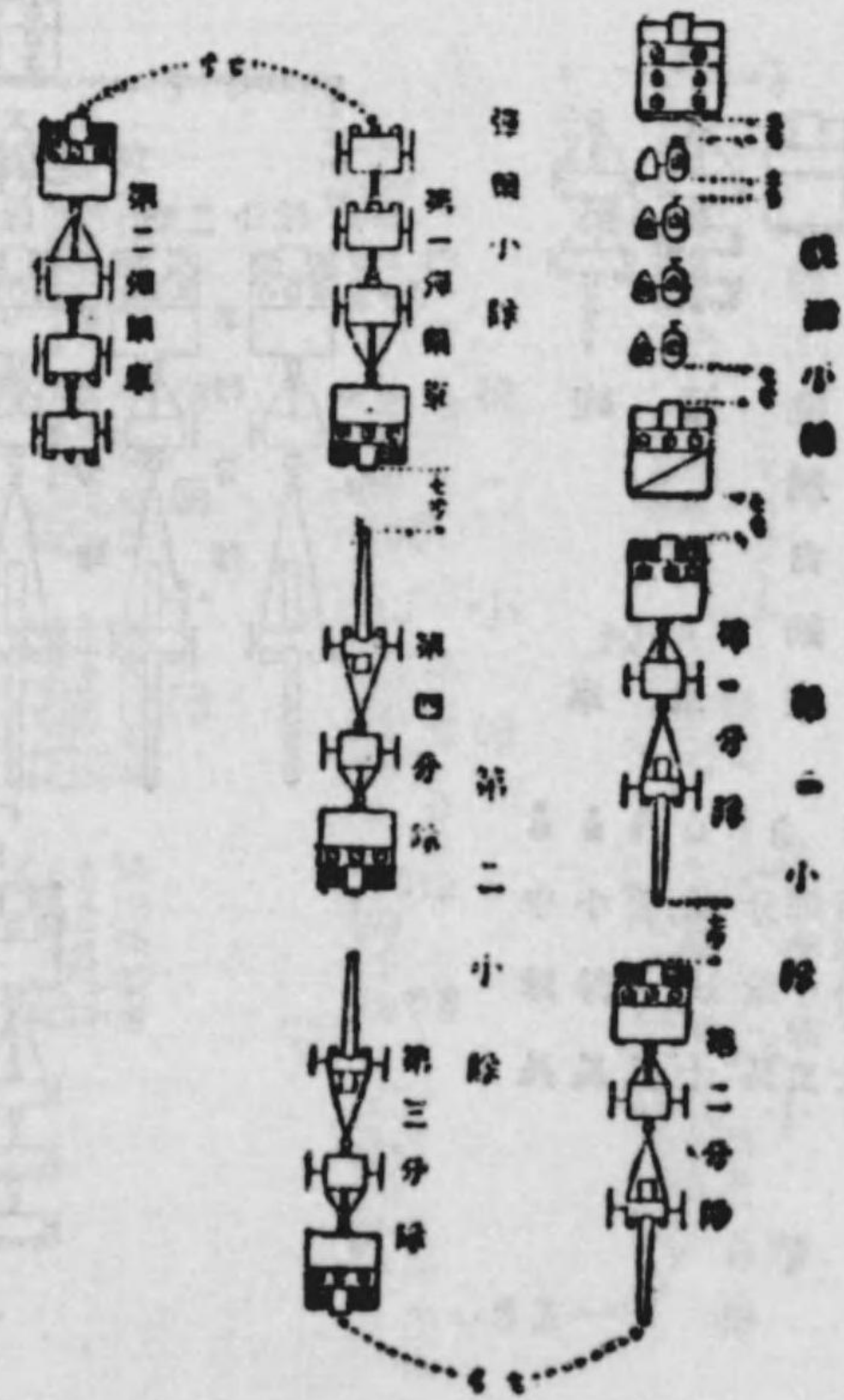
第三十五圖 十五榴橫隊

▲ 砲車
 ○ 彈藥車
 □ 乘用自動車
 △ 觀測自動車
 ▽ 牽引自動車
 ⊕ 備車附自動二輪車



第三十六圖 十五榴縱隊

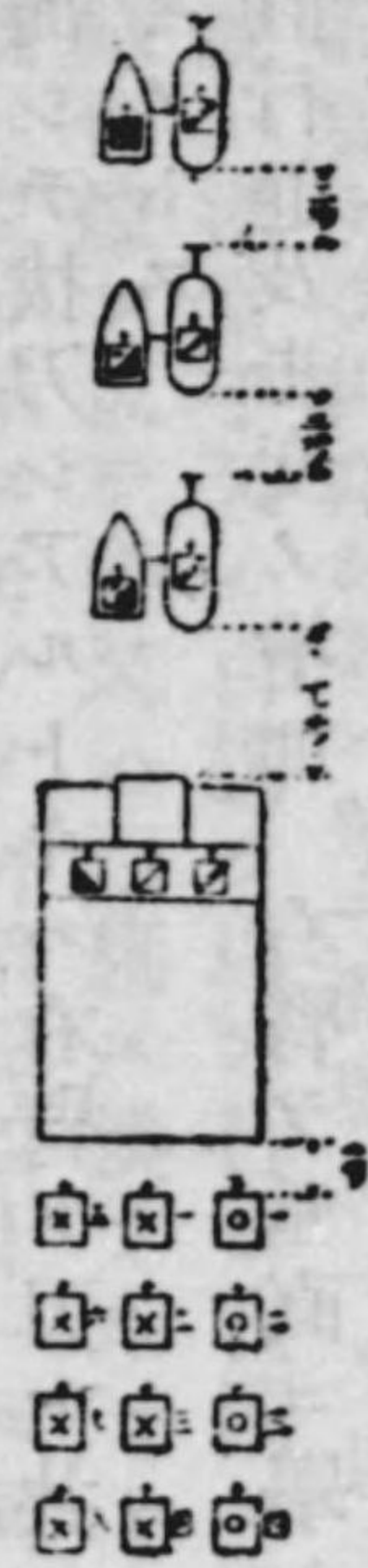
運轉ヲ停止シタルトキハ下車シ中隊長ハ乘用自動車前端ノ右側一步ニ、曹長、給養掛下士、喇叭手ハ順次ニ中隊長ノ後方ニ一步ヲ隔テテ前後ニ重リ觀測小隊長、觀測掛下士、通信掛下士ハ各、其側車附自動二輪車前端ノ左側一步ニ、觀測車長及自動車手ハ第二百九ニ準シ、砲車小隊長及彈藥小隊長ハ其小隊兩車輛ノ中央ニシテ牽引自動車前端ノ線ニ位置ス



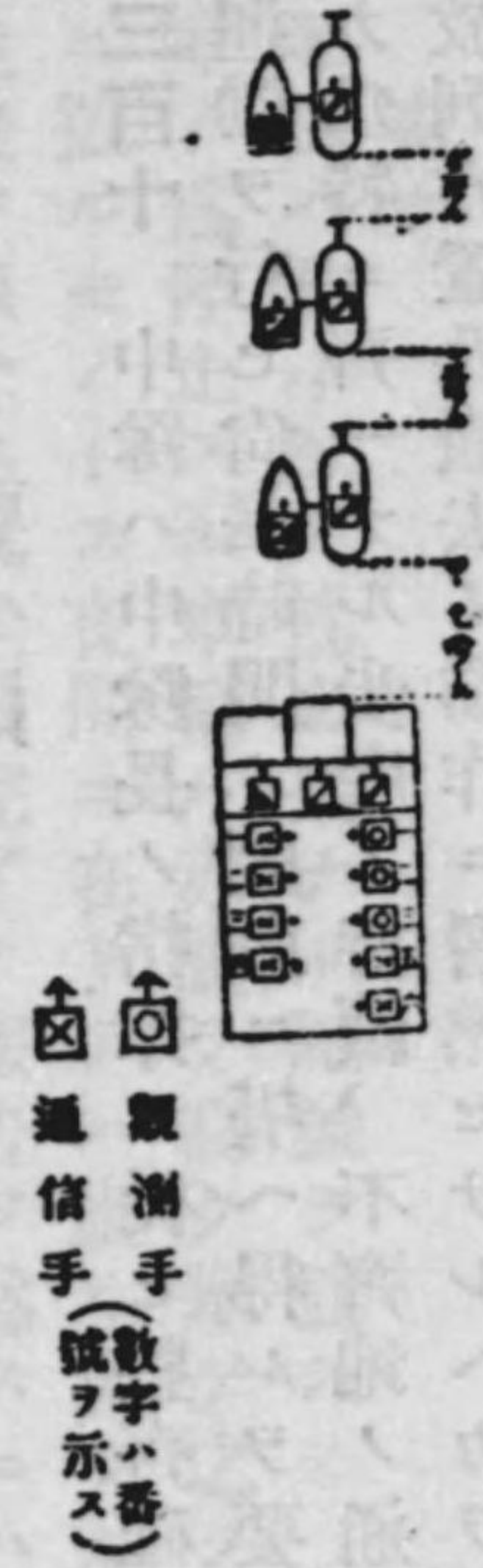
第四十圖 十加縱隊

本圖ハ集合隊形ヲ示ス行進間ニ在リテハ通常戰砲隊各車輛間ノ距離ヲ約二十步、其他ノ車輛間ノ距離ヲ約三十步トス又牽引自動車ト其他ノ車輛トヲ區分シテ行動セシムルコトヲ得

第四十一圖 十加觀測小隊 下車



第四十二圖 十加觀測小隊 乘車



乘車シ得サル觀測手、通信手ノ位置ハ中隊長適宜之ヲ指示ス

↑ 觀測手 (數字ハ番)
○ 通信手 (旗ヲ示ス)

第二章 運動

要 則

第三百十 中隊ハ中隊長ノ指揮ニ從ヒ整齊確實ニ運動ヲ行ヒ尙長時間ノ劇動ニ堪ヘ得ルヲ要ス之カ爲特ニ齊一ナル歩度ノ持續、不齊地ノ通過竝放列布置及撤去ノ動作ニ習熟セサルヘカラス三百十一 野、騎、山砲及十五榴ノ運動ハ通常號令ヲ以テ之ヲ行ヒ要スレハ同時ニ記號ヲ爲シ或ハ單ニ記號ノミヲ以テ行フコトアリ

記號ハ左ノ如ク行ヒ停止及放列布置ヲ除クノ外此記號ヲ以テ豫令トシ舊ニ復スルヲ以テ動令トス而シテ拔刀シアルトキハ右臂ヲ刀ト共ニ動カスモノトス

直行進及歩度ノ増加 右臂ヲ垂直ニ舉ケ行進方向ヘ水平ニ出シ之ヲ數回連續ス

歩度ノ減却 右臂ヲ垂直ニ舉ケ之ヲ數回上下ニ屈伸ス

方向變換 右臂ヲ水平ニ動翼ニ伸ハシ前方ニ半圓形ヲ畫ク

後向 右臂ヲ高く舉ケ頭上ニテ之ヲ數回後方ニ動カス

間隔ノ開閉 右臂ヲ水平ニ前方又ハ開閉スヘキ方向ヘ伸ハシ之ヲ數回廻ハス

前方分解(橫隊ヨリ前方ヘ縱隊) 右臂ヲ水平ニ分解スヘキ翼ノ方向ヘ伸ハシ之ヲ數回前後ニ動カス

側方分解(橫隊ヨリ側方ヘ縱隊) 右臂ヲ水平ニ分解スヘキ翼ノ方向ヘ伸ハシ之ヲ數回屈伸ス

前方及側方排開 前方及側方分解ト同一ノ記號ヲ爲ス

停止 右臂ヲ垂直ニ舉ケ之ヲ豫令トシ次テ之ヲ下ケ手先ヲ地ニ向クルヲ以テ動令トス

放列布置 右臂ヲ水平ニ敵方ヘ向ケ「放列」ノ動令ト同時ニ停止ノ記號ヲ爲ス

小隊長ハ其小隊ノ爲必要ナル記號ヲ爲シ又要ス

レハ小隊ノ爲スヘキ動作ヲ指示スルコトヲ得

第三百十二 十加ノ運動ハ通常號令ト之ニ應スル記號トヲ併用シ若ハ單ニ記號ノミヲ以テ行フ

記號ハ通常手又ハ白旗ヲ以テ行ヒ夜間ニ在リテハ綠色燈ヲ以テ手又ハ白旗ニ換フルコトアリ

記號ハ左ニ示スモノノ外第三百十一ニ同シ

直行進 初メヨリ速歩ニテ行進セシムルニハ右臂ヲ垂直ニ舉ケ左右ニ水平マテ數回振リタル後再ヒ垂直ニ舉ケ行進方向ヘ水平マテ數回振ル

始動 右臂ヲ水平ニ前方ニ伸ハシ數回圓形ヲ畫ク

小隊長ハ其小隊ノ爲必要ナル記號ヲ爲ス

故障ノ爲停止スル車輛ハ赤旗ヲ高く舉ケ之ヲ左右ニ振ルモノトス夜間ニ在リテハ旗ニ換フルニ赤色燈ヲ以テス又始動完了ノ報告ヲ爲スニハ白旗ヲ垂直ニ舉ク

第三百十三 觀測小隊、砲車小隊、彈藥小隊、前車(山駄馬)及中隊段列ノ運動ハ本章ノ規定ヲ

適用ス但觀測小隊、砲車小隊及彈藥小隊ノ運動ヲ行フトキハ號令中「中隊」ノ語ヲ「小隊」ニ又中隊段列ニ在リテハ號令中「中隊」ノ語ヲ「段列」ニ換フ

砲廠進入及退去

第三百十四 野、騎、山砲及十五榴ノ馬ヲ砲廠ニ進入セシムルニハ各馬ノ距離ヲ一步トシ車輛(山材料)ノ順序(反對順序)ニ導キ其先頭左(右)翼車輛(山材料)ノ傍ニ達セントスルトキ號令スルモノトス(分一五八・分一六一)

砲廠ヨリ退去スルニ方リ先頭ニアラサル車輛(山觀測器具班及分隊)ノ先頭ノモノハ先行馬ヨリ一步ノ距離ヲ保ツ如ク行進ヲ起スモノトス

第三百十五 十加ノ牽引自動車ヲ砲廠ニ進入セシムルニハ各牽引自動車ノ距離ヲ七步トシ車輛ノ順序(反對順序)ニ導キ其先頭左(右)翼車輛ノ傍ニ達セントスルトキ號令スルモノトス

砲廠ヨリ退去スルニ方リ先頭ニアラサル牽引自

動車ハ先行車輛ヨリ七歩ノ距離ヲ保ツ如ク行進ヲ起スモノトス(分二二三・分二一六)

整 頓

第三百十六 横隊ニ於ケル整頓完全ナルトキハ野、騎砲及十五榴ニ在リテハ小隊長、觀測車長、分隊長及前馬馭者、山砲ニ在リテハ最前線ノ各馬頭、十加ニ在リテハ各自動車ノ前線ハ整頓線上ニ在リテ間隔ヲ保チ各車輛(山觀測小隊及各分隊)ハ整頓線ト直角ニ位置スルモノトス
整頓ヲ爲スニ方リ特ニ指示ナキトキハ第一小隊長ヲ基準トス

第三百十七 横隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス但十加ニ在リテハ號令ニ先ダチ小隊長、觀測車長、分隊長及彈藥車長ヲ下車セシムルモノトス

小隊長前へ
止レ
準へ

「小隊長前へ」ノ號令ニテ小隊長(十五榴及十加彈藥小隊長ヲ除ク)ハ速ニ前進シ「止レ」ノ號令ニテ停止シ基準タル小隊長ニ整頓ス要スレハ中隊長ハ其位置ヲ正ス

野、騎砲及十五榴ニ在リテハ「準へ」ノ號令ニテ各車輛ハ前進ヲ起シ觀測車長ハ其小隊長ノ側ニ到リ又分隊長ハ其小隊長ヨリ間隔ヲ取り整頓線ニ就キ前馬馭者ハ整頓線ヲ越ユルコトナク觀測車長又ハ分隊長ノ側ニ到リテ停止ス

十五榴ノ彈藥小隊ノ各車輛ハ速度ヲ縮メテ前進シ小隊長及彈藥車長ハ前方車輛ニ重ル如ク其車輛ヲ導キ砲車隊ノ車輛止ラントスルヤ速ニ横隊ノ位置ニ就キ小隊長ハ要スレハ彈藥車長ノ位置ヲ正ス前馬馭者ハ砲車隊ニ於ケルト同要領ニ依リ整頓ス

山砲ニ在リテハ「準へ」ノ號令ニテ觀測小隊及各分隊ハ前進ヲ起シ通信掛下士ハ觀測小隊長ノ側ニ到リ又分隊長ハ其小隊長ヨリ間隔ヲ取り整頓線ニ就キ輪馬馭者ハ分隊長ノ側ニ到リテ停止ス

十加ニ在リテハ「準へ」ノ號令ニテ各車輛ハ前進ヲ起シ觀測車長及分隊長ハ其車輛ヲ誘導シ分隊長ハ其小隊長ヨリ間隔ヲ取り車輛ヲ整頓線ニ就カシム彈藥小隊ノ各車輛ハ速度ヲ縮メテ前進シ小隊長及彈藥車長ハ前方車輛ニ重ル如ク其車輛ヲ導キ横隊ノ位置ニ就カシム小隊長、觀測車長、分隊長及彈藥車長ハ中隊長ノ命令ニ依リ乘車ス

行 進

第三百十八 横隊行進ニ在リテハ第一小隊長(十右翼分隊)ヲ、縦隊行進ニ在リテハ先頭小隊長(十車輛)ヲ嚮導トス

中隊長ハ號令ヲ下スニ先ダチ通常行進目標或ハ行進方向ヲ嚮導ニ示ス

中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ハ正規ノ速度ヲ以テ示サレタル目標或ハ方向ニ向ヒ若ハ正面ト直角ニ行進ス

行進間横隊ニ在リテハ嚮導ヲ以テ整頓ノ基準ト

シ又野、騎、山砲及十五榴ノ縦隊ニ在リテハ先頭車輛(山觀測小隊又ハ分隊)ハ嚮導ニ準ヒ其他ノ車輛(山分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ先行車輛(山觀測小隊又ハ分隊)ニ重リテ定距離ヲ保チ十加ノ縦隊ニ在リテハ嚮導以外ノ車輛ハ先行車輛ニ重リテ定距離ヲ保ツ

行進間整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ距離間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ之ヲ恢復ス

縦隊行進間後向ヲ爲セハ砲車小隊長(十五榴砲車小隊長及彈藥小隊長、十加ヲ除ク)ハ新方向ニ於ケル定位ニ就ク

第三百十九 停止セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
中隊 止レ

間隔ノ開閉、方向變換
及隊形變換

第三百二十 間隔ノ開閉、横隊ノ方向變換及隊

形變換ハ駆歩(山速歩) 行進間之ヲ行フコトナシ
間隔ノ開閉、方向變換及隊形變換ヲ停止間ヨリ
行フニハ常歩行進間ト同一ニ動作ス
横隊ニ於テ方向變換ヲ行ヒ或ハ縦隊ヨリ横隊ニ
移ル場合同時ニ所望ノ間隔ヲ取ラシムルニハ豫
令ニ冠スルニ「間隔何歩」ヲ以テス
第三百二十一 所望ノ間隔ヲ取ラシムルニハ左
ノ號令ヲ下ス

間隔何歩

嚮導ハ直進ス觀測小隊及各分隊ハ速度ヲ伸ハシ
嚮導ノ方ヨリ所命ノ間隔ヲ取ル如ク行進シ嚮導
ト同線上ニ達セントスルトキ速度ヲ舊ニ復ス
十五榴及十加ノ彈藥小隊ノ各車輛ハ砲車隊ノ車
輛ニ準シテ間隔ヲ取ル
第三百二十二 方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令
ヲ下ス

右(五)ニ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令
ヲ下ス

横隊ニ在リテハ軸翼車輛(山觀測小隊又ハ分隊)
ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ車輛(山分隊又
ハ分隊)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ車輛(山分隊又

ハ分隊及觀測小隊)ハ適宜速度ヲ伸ハシ又ハ步
度ヲ換ヘ捷路ヲ經テ逐次ニ横隊線ニ就ク但十加
ノ速歩間ニ在リテハ軸翼車輛ハ速度ヲ縮メテ右
(左)向ヲ爲シ其他ノ車輛ハ適宜速度ヲ伸ハス十
五榴及十加ノ彈藥小隊ハ砲車隊ト同所ニ到リ之
ト同要領ニ依リ方向ヲ換ヘ砲車隊ニ續行ス
前項ノ運動間基準ハ軸翼車輛(山觀測小隊又ハ分
隊)トス

縦隊ニ在リテハ先頭車輛(山觀測小隊又ハ分隊)
ハ右(左)向ヲ爲シテ直進シ其他ノ車輛(山分隊又
ハ分隊及觀測小隊)ハ先頭車輛(山觀測小隊又ハ
分隊)ト同所ニ到リ逐次ニ方向ヲ換フ
少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標若ハ新
方向ヲ示ス
第三百二十三 横隊ヨリ前方分解ヲ爲サシムル
ニハ左ノ號令ヲ下ス

右(五)前へ縦隊 進メ

豫令ニテ砲車小隊長(十五榴)砲車小隊長及彈藥小隊
長、十加ヲ除ク)ハ右(左)分隊長(十五榴)分隊長又

ハ彈藥車長)ノ側ニ到ル動令ニテ右(左)翼車輛
(山觀測小隊又ハ分隊)ハ直進シ其他ノ車輛(山分
隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ適宜縦隊線ニ入ル
第三百二十四 横隊ヨリ側方分解ヲ爲サシムル
ニハ左ノ號令ヲ下ス

右(五)へ縦隊 進メ

第三百二十五 縦隊ヨリ前方排開ヲ爲サシムル
ニハ左ノ號令ヲ下ス

先頭車輛(山觀測小隊又ハ分隊)ハ直進シ其他ノ
車輛(山分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ適宜右(左)
前方ニ進ミ逐次ニ横隊線ニ就ク
十五榴及十加ノ彈藥小隊ハ適宜前進シ砲車隊ト
同要領ニ依リ横隊ノ位置ニ就ク
第三百二十六 縦隊ヨリ側方排開ヲ爲サシムル
ニハ左ノ號令ヲ下ス

右(五)へ前面横隊 進メ

先頭車輛(山觀測小隊又ハ分隊)ハ直進シ其他ノ
車輛(山分隊又ハ分隊及觀測小隊)ハ適宜右(左)
前方ニ進ミ逐次ニ横隊線ニ就ク
十五榴及十加ノ彈藥小隊ハ適宜前進シ砲車隊ト
同要領ニ依リ横隊ノ位置ニ就ク
第三百二十六 縦隊ヨリ側方排開ヲ爲サシムル
ニハ左ノ號令ヲ下ス

右(五)横隊 進メ

先頭車輛(山觀測小隊又ハ分隊)ハ右(左)向ヲ爲
シテ直進シ其他ノ車輛(山分隊又ハ分隊及觀測小
隊)ハ適宜横隊線ニ就ク
十五榴及十加ノ彈藥小隊ハ砲車隊ト同所ニ到リ
之ト同要領ニ依リ横隊ヲ作り砲車隊ニ追及ス

放列布置及撤去

第三百二十七 放列布置ニ方リ中隊長ハ自己及
隨從者ノ乘馬(十車輛)、觀測車(山觀測器具班、
加觀測小隊ノ車輛)ノ位置ヲ示シ又下士(前車
加馬)ノ指揮官)ヲシテ放列ニ留メサル車馬
ヲ中隊段列若ハ所望ノ位置ニ導カシム此際野、
騎砲ニ在リテハ要スレハ彈藥車前車ノ彈藥ヲ卸
下シ所望ノ地點ニ集積セシム
第三百二十八 放列布置ニ方リ野、騎、山砲及
十五榴ノ砲車小隊長ハ其馬ヲ己ニ近キ中馬(山輪
馬)馭者ニ渡ス(分一七七・分二二二)
各分隊ハ其占ムヘキ位置ニ到リ放列ヲ布置ス此

際先頭ニアラサル分隊ハ現在ノ歩度ヲ變換スルコトナシ又山砲ノ土工器具班長ハ所命ノ器具ヲ卸下ス

野、騎砲ノ彈藥車長、十五榴ノ砲身車長ハ前車及馬ヲ、山砲ノ彈藥班長及土工器具班長ハ馬ヲ導キ前車(砲馬)ノ指揮官ノ示ス位置ニ到リ其指揮ヲ受ク但野、騎、山砲ノ先頭彈藥車長(砲班長)ハ放列ニ留メサル砲手ヲ導キ別命ナケレハ前車(砲馬)ノ位置ニ到ル

十加ノ分隊ノ運轉手ハ前車ヲ導キ前車ノ指揮官ノ示ス位置ニ到リ其指揮ヲ受ク

前車(砲馬)ノ指揮官ハ車馬ヲ誘導シテ中隊段列長ノ指揮ニ屬セシム

第三百二十九 放列布置ニ方リ野、騎、山砲ノ中隊長ハ中隊段列ヨリ來ル彈藥車(砲班)ノ位置ヲ武器掛下士ニ示シ武器掛下士ハ之ヲ所命ノ位置ニ就カシメ其馬ヲ中隊段列ノ位置ニ到ラシム

十五榴及十加ノ彈藥小隊ノ彈藥ハ通常放列陣地

ニ卸下スルモノトス之カ爲彈藥小隊長ハ所命ノ位置若ハ放列ノ後方適宜ノ位置ニ彈藥車ヲ導キ彈藥及補助防楯(加彈藥)ヲ卸下シ要スレハ整備ニ任スル若干ノ人員ヲ殘置シ其他ノモノヲ指揮シテ中隊段列ノ位置ニ到リ段列長ノ指揮ヲ受ク若彈藥ヲ卸下セサルトキハ彈藥小隊長ハ彈藥車ヲ所命ノ位置ニ配置シ自ラ若干ノ人員ト共ニ放列ニ留リ彈藥ノ出納ニ任シ其他ノモノヲ中隊段列ノ位置ニ到ラシム

第三百三十 野、騎、山砲ノ中隊長ハ放列撤去ニ先タチ放列陣地ニ留メサリシ砲手ヲ招致シ前車(砲馬)ノ指揮官ヲシテ車馬ヲ放列陣地ニ誘導セシメ又適時武器掛下士要スレハ中隊段列長ニ彈藥ニ關シ命令スルモノトス

十五榴及十加ノ中隊長ハ放列撤去ニ先タチ前車ノ指揮官ヲシテ車馬要スレハ彈藥小隊ノ人馬、車輛ニシテ放列陣地ニ留メサリシモノヲ放列陣地ニ誘導セシメ又適時中隊段列長ニ彈藥ニ關シ命令スルモノトス

第三章 陣地偵察

第三百三十一 中隊長ハ陣地偵察ノ爲先行スルニ方リ通常觀測小隊ノ一部其他所要ノ人員ヲ伴フモノトス(大四四七)

第三百三十二 觀測小隊長ハ中隊長ニ隨行スルニ方リ野、騎、山砲及十五榴ニ在リテハ通常挺進班(觀測掛下士及通信掛下士)觀測通信掛下士(所要ノ觀測手並通信手)ヲ、十加ニ在リテハ觀測掛下士及通信掛下士要スレハ觀測小隊ノ大部ヲ伴フモノトス

第三百三十三 中隊長ハ陣地偵察ノ爲中隊ヲ離ルルニ方リ中隊ノ指揮官ヲ定メ之ニ中隊ノ前進路、到着地點及行進速度等ヲ命令スルモノトス

觀測小隊長ハ觀測小隊ヲ離ルルニ方リ前項ニ準シ處置スルモノトス

第三百三十四 陣地偵察ニ方リ中隊長ハ任務ニ基キ狀況特ニ地形ヲ考慮シ陣地ニ具備スヘキ諸性能ノ何レニ重キヲ置クヘキヲ定ムルヲ要ス

而シテ狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ概ネ戰闘ノ要求ヲ充タシ得ル觀測所及射界ヲ以テ満足セサルヘカラサルコトアリ(大四四八)

第三百三十五 陣地偵察ハ中隊長自ラ其大部ヲ實施シ部下ヲシテ其一部ヲ補助セシムルヲ通常トシ狀況急ヲ要スル場合ニ於テモ觀測所及放列陣地ノ偵察ハ勉メテ中隊長自ラ之ヲ行フヘキモノトス

中隊ノ陣地偵察ニ於テ偵察スヘキ主要ナル事項左ノ如シ

觀測所要スレハ補助觀測所

放列陣地

進入路

中隊段列ノ位置

射擊諸元ノ決定、敵情搜索、射彈觀測及連絡ノ施設並陣地設備等ニ關シテハ前項ノ事項ニ關聯シテ所要ノ偵察ヲ行フモノトス

第三百三十六 觀測所ハ射彈觀測ニ適シ戰況ノ觀察ニ便ニシテ且成ルヘク放列陣地ニ近ク互ニ

通視シ得相互ノ連絡容易ナル場所ニ選定スルヲ要ス而シテ狀況急ヲ要スル場合ニ於テハ觀測所ト放列陣地トハ互ニ近接シアルコト特ニ緊要ナリ(大四四九・原九〇六)

コト緊要ナリ 第三百三十七 中隊長及隨從者ノ乘馬(加車輛)並觀測小隊ノ車馬ノ位置ハ敵眼、敵火ニ掩蔽シ且爾後ニ於ケル車馬ノ使用ニ便ナルコトヲ願慮シ觀測所ノ近傍ニ選定スルモノトス

陣地附近ニ於テ迅速ニ進入シ得ル豫備陣地ヲ豫メ偵察シ且所要ノ準備ヲ爲シ置クモノトス 第三百三十九 放列陣地ニ於ケル各砲車ハ敵ノ搜索特ニ空中搜索ヲ困難ナラシメ且敵火ノ效力ヲ減殺スル爲メ地形ヲ利用シ不規則ニ配置スルヲ要ス然レトモ之カ爲相互ニ射撃ヲ妨害シ或ハ過度ニ分散シテ射撃指揮ヲ困難ナラシムルカ如キコトアルヘカラス而シテ中隊ノ正面ハ已ムヲ得サルモ百米ヲ超エサルヲ可トス

ノ要領ヲ定ムルヲ要ス之カ爲通常中隊ノ首線ノ方向ニ近ク一標點ヲ選定シ之ニ對スル基準砲車ノ射向附與法並射向東ノ成形法ヲ定メ又適時他ノ標點ヲ選定シテ之ニ對スル射撃諸元ヲ決定法ヲ定ムルモノトス尙大隊ノ測地成果ヲ使用スル場合ニハ觀測所、補助觀測所及基準砲車ノ位置並照準點方位角ノ測定法等ヲ定ムルモノトス 第三百四十一 標點ハ射向操縱ニ便ナル如ク各砲車ノ射向ヲ保留シ又ハ豫メ之ニ對シ決定セル射撃諸元ヲ基準トシ爾後射撃スヘキ目標ニ對スル射撃諸元ノ決定ヲ容易ナラシム爲選定スルモノトス之カ爲標點ハ發見容易ニシテ埋滅變位ノ虞ナク且目標又ハ其現出ヲ豫想スル地點ノ附近ニ選定スルヲ可トス

第三百四十二 照準點ノ適否ハ照準ノ難易及射撃ノ精度ニ影響スルコト大ナルヲ以テ勉メテ左ノ要件ヲ具備セル地物ヲ選定スルヲ要ス

各砲車ヨリ通視シ得ルコト

明瞭ニシテ附近ニ類似セルモノナク發見及照準容易ナルコト

放列陣地ヨリ成ルヘク遠隔シアルコト

埋滅變位ノ虞ナキコト

各砲車同一點ヲ照準シ得ル如ク成ルヘク一點ナルコト

防楯ニ依リ照準ヲ妨ケス且成ルヘク後方ナルコト

照準線ノ俯仰角ハ成ルヘク上下各百密位(十五密位及十密位)以内ナルコト

第三百四十三 野、騎、山砲ノ中隊段列ヨリ放列陣地ニ派遣スヘキ彈藥車(山砲彈藥班)ノ位置竝十五榴及十加ノ彈藥小隊ノ彈藥卸下地又ハ彈藥車ノ位置ハ勉メテ敵眼、敵火ニ掩蔽シ且彈藥ヲ砲側ニ搬送スルニ便ナル場所ニ之ヲ選定スルモ

ノトス

彈藥集積所ヲ設クル場合ニ於テハ前項ニ準シ選定スルヲ要スルモ特ニ濕氣ニ對スル防護確實ナルコトヲ顧慮スヘキモノトス又彈藥集積所ハ地形、集積スヘキ彈藥ノ種類及數量等ヲ顧慮シテ適宜之ヲ分置シ以テ敵火ニ依ル彈藥爆發ノ危害ヲ制限スルコト肝要ナリ

第三百四十四 進入路ハ機ヲ失セズ陣地ヲ占領シ得ルコトヲ主トシ且成ルヘク掩蔽良好ニシテ行動容易ナルモノヲ選定スルヲ要ス而シテ進入路ハ通常爾後ノ彈藥補充路トシテ使用セララルコトヲ顧慮スルヲ要ス(原九〇九)

進入路ノ偵察ト共ニ進入ノ方法及時機竝前車(山砲馬)ノ撤退法等ヲ決定スルモノトス

第三百四十五 中隊段列ノ位置ハ成ルヘク敵眼、敵火ニ掩蔽シ放列陣地及大隊段列トノ交通容易ニシテ車馬ノ出入竝自衛ニ便ナル場所ニ選定スルヲ要ス(大四五〇・原九一〇)

中隊段列ト放列陣地トノ距離ハ狀況特ニ地形ニ

依リ異ナルモ成ルヘク近接セシムルヲ可トス然レトモ豫メ彈藥ヲ放列陣地ニ集積シ中隊段列ヲ放列陣地ヨリ遠隔セシムルヲ有利トスルコトアリ

放列陣地ニ留メサル戰砲隊ノ車馬ハ中隊段列ト同所ニ位置セシムルヲ通常トス然レトモ狀況特ニ地形ニ依リ之ヲ分置スルヲ可トスルコトアリ

第四章 陣地占領

要則

第三百四十六 中隊長ハ陣地偵察ヲ終ルヤ觀測小隊長ニ所要ノ命令ヲ與ヘ又中隊段列長ニ段列ノ位置其他彈藥補充等ニ關スル事項ヲ命令シ適時中隊ヲ陣地ニ進入セシムルモノトス

第三百四十七 陣地占領ニ關スル動作特ニ射撃ノ諸準備ノ程度ハ狀況ニ依リ差異アルモ機ヲ失セズ射撃ヲ開始シ得ルコトヲ主眼トセサルヘカラス又狀況ノ變化ニ對應センカ爲中隊長ハ陣地

進入後速ニ方向準備(中隊ノ射向ヲ所望ノ方向ニ向クルコト)ヲ完了スルコト緊要ナリ

第三百四十八 陣地占領ヲ終ルヤ中隊長ハ直ニ之ヲ大隊長ニ報告スルヲ要ス

第三百四十九 中隊長ハ自衛ノ爲要スレハ斥候ヲ派遣シ或ハ歩哨ヲ配置シテ警戒セシメ其他所要ノ處置ヲ講スルモノトス

瓦斯防護ノ必要アルトキハ幹部ハ機ヲ失セズ之ニ應スル處置ヲ爲スコト肝要ナリ

第一節

射撃諸元ノ決定、敵情搜索、射彈觀測及連絡ノ施設

第三百五十 中隊長ハ觀測小隊長ニ觀測所、補助觀測所及砲車ノ位置、基點、標點及照準點、射撃諸元決定ノ方法及其完了ノ時機、敵情搜索及射彈觀測ノ爲特ニ必要ナル事項、連絡筒所、連絡法、通信網構成ノ順序及完成時機等ニ關シ所要ノ事項ヲ命令シ作業ニ著手セシムルモノト

ス
第三百五十一 中隊長ハ中隊ノ射界及觀測所ノ視界ニ就キ成ルヘク速ニ其概要ヲ大隊長ニ報告シ爾後其詳細ヲ報告スルモノトス
 中隊長ハ通信設備完成セハ通信網ノ概要及殘餘ノ人員、器材等ヲ大隊長ニ報告シ又觀測所、補助觀測所及砲車ノ位置等ヲ測定シタルトキハ所要ノ諸元ヲ報告スルモノトス
第三百五十二 觀測小隊長ハ中隊長ノ命令ニ基キ適時觀測掛下士及通信掛下士(附觀測通信掛下士)竝觀測車長(附觀測器具班長)以下ニ命令ヲ與ヘ觀測車(附觀測器具班)加觀測自動車ヲ招致スルト共ニ射擊諸元ノ決定、敵情搜索竝射彈觀測及連絡ノ施設ヲ實施スルモノトス
 挺進班ノミヲ以テ先ツ所要ノ施設ヲ行フ場合ニ於テハ觀測小隊長ハ其人員、器材ヲ以テ當初ノ戰闘實行ニ支障ナキ如ク所要ノ作業ヲ實施シ觀測車(附觀測器具班)ノ到着ヲ待チテ逐次ニ之ヲ完成スルモノトス

觀測小隊長ハ作業進捗ノ狀況ヲ時々中隊長ニ報告スルモノトス
第三百五十三 觀測小隊長ハ作業實施ノ爲觀測掛下士及通信掛下士(附觀測通信掛下士)以下ニ左記事項中所要ノ事項ヲ命令スルモノトス
 觀測所、補助觀測所及基準砲車其他ノ砲車ノ位置
 基準點、標點若ハ目標
 照準點、射向附與法竝射向東ノ成形成法
 射距離及高低角ノ測定法
 通信所ノ位置、通信ノ種類、電話線路
 作業ノ順序及完成時機
 氣温、氣壓、地上風ノ測定等
 大隊ノ測地成果ヲ使用スル場合ニハ前項ノ外陣地基準點及方向基線其他必要ナル地點若ハ目標ノ諸元、觀測所、補助觀測所及砲車ノ位置竝照準點方位角ノ測定法等ヲ命令スルヲ要ス
第三百五十四 射擊諸元ノ決定ニ方リテハ機ヲ失セズ確實ニ中隊ノ射向ヲ掌握スルコトヲ特ニ緊

要ナリ而シテ基準砲車ノ射向附與法竝射向東ノ成形成法ハ狀況特ニ地形、使用シ得ヘキ時間、中隊ノ配置等ヲ考慮シ之ヲ決定スルモノトス
第三百五十五 射擊諸元決定ノ爲ニハ通常右翼砲車ヲ基準トス
第三百五十六 觀測小隊長ハ下士以下ヲ補助トシ敵情搜索ニ任スルモノトス
 下士以下ヲシテ敵情ヲ搜索セシムルニハ之ニ搜索區域、搜索ノ目的及方法、基準點、標點要スレハ測角基準點等ヲ明示スルモノトス而シテ間斷アル視察若ハ廣正面ニ對スル漫然タル視察ハ價値少キヲ以テ搜索區域ハ適當ニ之ヲ制限スルヲ要ス(大四五六・攻中七三五・原九一三)
第三百五十七 敵情搜索ニ方リテハ目標ノ位置及狀態、目標附近ノ地形、目標ト主要ナル地形トノ關係等ヲ詳ニスルヲ要ス之カ爲地圖竝其他ノ搜索ニ任スル者ノ視察爲シ得レハ空中搜索ノ結果等ヲ利用スルヲ可トス(攻中七三三)
 我カ射彈ノ景況モ亦目標ノ位置及狀態竝目標附

近ノ地形ヲ判定スルノ資料トナリ又目標附近ノ地形特ニ道路ノ關係竝交通ノ狀態ハ往々遮蔽セル目標位置判定ノ基礎トナルヲ以テ此等ヲ利用スルノ著意緊要ナリ
 遮蔽セル目標位置ヲ探求シ能ハサル場合ニ於テハ目標ノ存在ヲ推定スル地域ノ範圍ヲ成ルヘク縮小シ得ル如ク目標ノ存在シアラサル地域ヲ確ムルコト必要ナリ
第三百五十八 觀測小隊長ハ射彈觀測ノ爲採用スヘキ觀測法ニ應シ所要ノ設備ヲ爲シ且射擊圖要スレハ寫景圖ヲ調製シ中隊長ノ射擊指揮ニ便ナラシムルヲ要ス而シテ射擊圖ハ爲シ得レハ大隊射擊圖ト時々照合スルヲ可トス
第三百五十九 連絡施設ハ主トシテ觀測所ト補助觀測所、大隊觀測所、放列陣地トノ間ニ之ヲ行フモノトス此際適宜電話、視號、遞傳等ヲ併用シ常ニ連絡ノ確實ヲ期セサルヘカラス
第三百六十 觀測小隊長ハ爾後ニ於ケル諸施設ノ變更及陣地變換等ヲ顧慮シ適時人員、器材ノ

集結及配置ノ變更等ヲ行ヒ以テ戰況ノ推移ニ應
スル準備ヲ整フルコト緊要ナリ而シテ敵情搜
索、射彈觀測及連絡ノ施設ノ撤收ハ中隊長ノ命
令ニ依リ實施スルモノトス之カ爲觀測小隊長ハ
撤收スヘキ箇所及區域並著手ノ時機、爾後ノ集
合地等ヲ明示シ速ニ部下ヲ集結スルコト緊要ナ
リ夜間ノ撤收ニ於テ特ニ然リトス

第二節 陣地進入及陣地

設備

第三百六十一 中隊長ハ自ら中隊ヲ指揮シテ陣
地ニ進入スルモノトス然レトモ狀況ニ依リ其指
揮ヲ小隊長ニ委スルコトアリ(原九一九)
中隊ノ陣地進入ヲ指揮スル小隊長ハ所要ニ應シ
先行シテ放列陣地ノ一般ヲ觀察スルモノトス
第三百六十二 中隊ヲ一齊ニ陣地ニ進入セシム
ル場合ニ於テハ中隊長若ハ中隊ヲ指揮スル小隊
長ノ號令ヲ以テ放列ヲ布置スルモノトス(分二
六九)

分隊ヲ各個ニ陣地ニ進入セシムル場合ニ於テハ
中隊ヲ放列陣地ノ直後マテ誘導シ通常小隊長
(觀測小隊長ヲ除ク)及分隊長等ヲ放列陣地ニ招
致シ之ニ砲車位置、進入路、彈藥ノ卸下地或ハ
集積所其他所要ノ事項ヲ示シ偵察ヲ行ハシメタ
ル後分隊長ノ號令ヲ以テ放列ヲ布置セシムルモ
ノトス(分二七〇)

砲車位置ハ之ヲ概示スルカ若ハ指定スルモノト
ス而シテ特ニ砲車ノ眼鏡(十五倍觀準儀)ヲ指定位
置ノ直上ニ導カシムルトキハ中隊長ハ砲車小隊
長以下ニ之ヲ明示スルヲ要ス

第三百六十三 陣地進入ニ方リ中隊長ハ適時砲
車小隊長ニ中隊ノ任務、配置、各砲車ノ位置、
首線ノ方向及射擊ヲ準備スヘキ範圍並方向準備
及陣地設備ノ要領等ヲ明示スルヲ要ス

第三百六十四 陣地進入ハ成ルヘク敵眼ニ遮蔽
シテ行フコト緊要ナリ之カ爲勉メテ地形ヲ利用
シ爲シ得レハ遮蔽物ヲ設クルヲ可トス又要スレ
ハ下馬シテ陣地ニ進入セシメ或ハ臂力ヲ以テ車

輻ヲ撤送セシムルコトアリ(分二八〇)

敵ノ空中搜索ヲ困難ナラシムル爲ニハ勉メテ林
縁、並木等ヲ利用スルヲ可トス又敵ノ飛行機上
空ニ活動スル場合ニ於テハ狀況之ヲ許セハ一時
停止スルヲ有利トスルコトアリ

第三百六十五 歩度ノ選擇ハ狀況ニ依ルモ通常
常歩若ハ速歩ヲ用フルモノトス
敵眼ニ暴露シ若ハ敵ノ烈シク射擊スル地域ヲ速
ニ前進シ或ハ狀況急ヲ要スルトキハ迅速ナル歩
度ヲ適用スルモノトス特ニ後者ノ場合ニ於ケル
陣地進入ノ迅速ハ戰鬪ノ全局ニ至大ノ影響ヲ與
フルコトヲ忘ルヘカラス

第三百六十六 隊形ノ選擇ハ狀況特ニ地形ニ關
ス縦隊ハ地形ニ適合シ易ク且運動及遮蔽ニ便ナ
ルヲ以テ陣地進入ニ有利ナルコト多シ

敵火ノ下ニ在リテ行動スル場合ニハ側面ヲ敵方
ニ現シ又ハ同一方向ニ永ク運動スルコトハ成ル
ヘク之ヲ避クルヲ可トス敵ノ烈シク射擊スル地
域ヲ通過スルニ際シ狀況之ヲ許セハ車馬ノ距離

ヲ増大スルヲ有利トス又一地域ヲ迅速ニ通過ス
ル爲横隊ヲ用フルヲ可トスルコトアリ

第三百六十七 山砲ニ在リテハ進入路狹隘ナル
カ或ハ峻峻ナルトキハ砲車ヲ分解シ臂力ヲ以テ
之ヲ陣地ニ搬送セシムルヲ可トスルコトアリ又
緊駕シテ進入スル場合ニハ必要ナラサル馬ヲ適
宜後方ニ留メ且放列布置後直ニ射擊開始ヲ必要
トスル場合ニハ砲車ニ防楯、表尺及眼鏡ヲ裝シ
砲手ニ信管廻ヲ携行セシムルヲ可トス(分二七
三)

第三百六十八 陣地進入ニ方リテハ縦ヒ人馬、
材料ノ損傷アルモノ之ニ顧慮スルコトナク勉メテ
速ニ陣地ニ就クヲ要ス砲車若運動ニ堪ヘサルニ
至レハ小隊長ハ之ヲ陣地ニ導ク爲必要ノ處置ヲ
爲シ他ノ分隊ト共ニ陣地ニ到ルモノトス(分二
七六)

第三百六十九 控置セラレタル中隊ハ上級指揮
官ノ命令ニ基キ機ヲ失セス戰鬪ニ加入スルヲ要
ス之カ爲中隊長ハ該指揮官ト密ニ連絡シ且所要

城ヲ通過スルニ際シ狀況之ヲ許セハ車馬ノ距離

ノ準備ヲ行ヒ爲シ得レハ豫メ小隊長及分隊長等ヲ豫定陣地ニ招致シ所要ノ命令ヲ與ヘ置クヲ可トス

第三百七十 夜間ノ陣地進入ノ爲ニハ中隊長ハ爲シ得ル限リ晝間豫メ所要ノ偵察ヲ行ヒ進入ノ方法ヲ詳細ニ決定スルト共ニ進入路、主要ナル射向、砲車位置、中隊段列ノ位置、彈藥集積所又ハ野、騎、山砲ニ在リテハ中隊段列ヨリ來ル彈藥車(山砲藥班)ノ位置、十五榴及十加ニ在リテハ彈藥卸下地等ヲ標示シ又勉メテ射擊ノ諸準備ヲ完了シ且現地ニ就キ小隊長及分隊長等ニ所要ノ事項ヲ指示スルヲ要ス(分二七五・大二五六・原九一九)

夜間ハ動モスレハ方向ヲ誤リ又ハ故障ヲ生シ或ハ連絡ヲ失ヒ易ク特ニ晝間豫メ諸準備ヲ爲ス能ハサル場合ニハ放列正面ノ決定並射向ノ附與ハ困難ナルヲ通常トス故ニ中隊長ハ成ルヘク平易ナル進入路ヲ選定シ要スレハ之ヲ補修シ且磁針、地圖、天體、地物等苟モ方向決定ノ資ト爲

第五章 射擊

要則

スヘキモノハ悉ク之ヲ利用シ尙關係部隊トノ連絡ニ勉メ或ハ案内者ヲ設クル等適切ナル處置ヲ講スルコト緊要ナリ

夜間ノ陣地進入ニ方リテハ人馬、車輛等ノ音響ニ依リ往々敵ニ我カ企圖ヲ察知セラハルコトアルヲ以テ勉メテ音響ヲ防止スル手段ヲ講スルヲ要ス又燈火ヲ用フルトキハ敵ニ認識セラレサル如ク特ニ注意スヘシ

第三百七十一 中隊陣地ニ進入スルヤ狀況ニ適應スル如ク速ニ射擊設備ヲ爲シ次テ其他ノ設備ニ及スモノトス而シテ此等設備ノ爲射擊ヲ忽セニスヘカラス狀況ニ依リ豫メ陣地設備ヲ實施シタル後陣地ニ進入スルコトアリ(分二七九)

第三百七十二 中隊ハ中隊長ノ指揮ニ從ヒ各部ノ確實ナル連繫及嚴肅ナル射擊軍紀ニ依リ恰モ一機關ノ運轉スル如ク整齊圓滑ニ動作シ以テ火

砲ノ最大威力ヲ發揚シ得ルヲ要ス

射擊軍紀トハ如何ナル場合ヲ問ハス射擊間號令、命令ヲ確實ニ實行シ射擊ニ關スル諸法則ヲ嚴守スルヲ謂フ

第三百七十三 中隊長ハ射擊效力及射擊ニ關スル諸法則ヲ熟知シ射彈觀測ニ熟達シ他兵種特ニ步兵ノ戰闘法ニ通曉シ如何ナル場合ニ於テモ確實ニ中隊ヲ掌握シ常ニ確乎タル自信ヲ以テ射擊ヲ實施シ完全ニ戰闘ノ要求ヲ充足シ得ルヲ要ス

第三百七十四 狀況ニ應シ迅速確實ニ射擊ノ諸準備ヲ整フルハ射擊成功ノ第一歩ナリ故ニ中隊長ハ其方法ニ精通シ且之ニ熟練シアルヲ要ス

第三百七十五 確實ナル射彈觀測ト射擊效果ノ觀察トハ射擊指揮上極メテ肝要ナル事項トス故ニ中隊長ハ各種ノ手段ヲ盡シ射彈ノ景況及目標ノ狀態ヲ觀察シ且目標附近ニ於ケル諸徵候ニ注意スルヲ要ス

第三百七十六 狀況ニ適合シ確實迅速ニ效力射準備ヲ終ルハ射擊ノ目的ヲ達成スル爲極メテ肝

第一節 射擊操作

要ナリ故ニ如何ナル場合ニ於テモ修正ノ爲準備スヘキ現象ハ十分ニ之ヲ利用シ且射擊ノ諸法則ヲ適當ニ應用スルヲ要ス而シテ修正ヲ遲疑シ或ハ修正量過小ナルハ多クノ場合ニ於テ效力射準備ヲ遲緩セシメ機ヲ失スルモノトス

第三百七十七 射擊ニ關スル中隊ノ動作ハ特ニ規定スルモノノ外中隊長ノ號令ニテ直ニ之ヲ始ム而シテ某小隊或ハ某分隊ニ限リ操作セシムルニハ號令ニ冠スルニ例ヘハ「右(左)小隊」或ハ「第三」等ヲ以テス

第三百七十八 射擊ニ關スル中隊長ノ號令ハ砲車小隊長之ヲ復唱ス此復唱ハ中隊長ニ近キ小隊長ヨリ逐次ニ之ヲ行フ但某小隊或ハ某分隊ニ關スル號令ハ通常其小隊長ノミ復唱ス

第三百七十九 中隊長ハ分隊長ヲシテ砲車ノ固有修正量ヲ修正セシムルトキハ適時之ヲ命令スルモノトス

第三百八十 裝填法ヲ彈數指定及連續ニ、發射速度ヲ秒數指定、連續及指令ニ、發射法ヲ翼次射及各個射ニ分ツ

第三百八十一 發射法ヲ令スルニハ發射速度ヲ冠シ又裝填法ヲ令スル毎ニ發射法ヲ令スルモノトス而シテ一旦發射速度ヲ號令セハ爾後之ヲ變更スルカ或ハ發射法ヲ變更スルマテ其號令ヲ省略スルコトヲ得

第三百八十二 翼次射ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ヨリ擊テ

連續裝填ニ在リテハ右(左)翼分隊ハ直ニ發射シ其他ノ分隊ハ所命ノ發射速度ヲ以テ順次ニ發射シ左(右)翼分隊ニ至リ爾後以上ノ動作ヲ反復ス

彈數指定ノ裝填ニ在リテハ各分隊ハ所命ノ彈數ヲ發射シ終ルマテ前項ヲ適用ス

左(右)翼分隊ノ發射終ルヤ其小隊長ハ要スレハ「擊終リ」ト唱ヘ右(左)小隊長ニ通報ス

發射スヘキ順次ニ在ル分隊所命ノ如ク發射シ得

サルトキハ分隊長ハ之ヲ小隊長ニ報告シ次ノ發射順次ノ分隊長ニ通報ス通報ヲ受ケタル分隊長ハ直ニ發射ス小隊長ハ發射シ得サリシ分隊長號ヲ中隊長ニ報告ス

順次ニ發射シ得サリシ分隊長ノ發射ニ關シテハ其小隊長之ヲ命令シ發射スルヤ直ニ中隊長ニ報告ス

第三百八十三 各個射ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス(分一三五・分一九一・分二四八)

各個ニ擊テ

各分隊ハ所命ノ發射速度ヲ以テ發射ス

第三百八十四 指令ニ發射セシムルニハ發射法ノ號令ニ左ノ號令ヲ冠シ且「次キ」ノ號令若ハ記號ヲ以テ二發目以後ノ發射ノ時機ヲ示ス

指令

翼次射ニ在リテハ各分隊ハ發射順次ニ從ヒ示サレタル時機ニ發射ス

各個射ニ在リテハ各分隊ニ示サレタル時機ニ發射ス

指令ニ發射中彈數ヲ限リ續イテ發射セシムルニハ「何秒(連續)何回次キ」ノ號令ヲ下ス翼次射ニ在リテハ發射順次相當ノ分隊ヨリ中隊ヲ通シテ順次ニ又各個射ニ在リテハ各分隊毎ニ所命ノ發射速度ヲ以テ所命ノ回數ニ等シキ彈數ヲ發射ス(分一三六・分一九二・分二四九)

第三百八十五 所望ノ秒數ヲ間シ發射セシムルニハ發射法ノ號令ニ例ヘハ左ノ號令ヲ冠ス(中三八五・分一三四・分一九〇・分二四七)

五秒

翼次射ニ在リテハ各分隊ハ所命ノ順次ニ從ヒ所命ノ秒數ヲ間シ發射ス

各個射ニ在リテハ各分隊ハ每發所命ノ秒數ヲ間シ發射ス

第三百八十六 連續ニ發射セシムルニハ發射法ノ號令ニ左ノ號令ヲ冠ス

連續

翼次射ニ在リテハ各分隊ハ所命ノ順次ニ從ヒ續イテ發射ス

各個射ニ在リテハ各分隊ハ發射準備成ル毎ニ發射ス

第三百八十七 中隊ノ一部ニテ射擊セシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下シ且發射法ヲ令スルモノトス

第一發射

或ハ

右(左)小隊長發射

所命ノ分隊或ハ小隊長ハ所命ノ發射法ニ從ヒ發射シ其他ノ分隊或ハ小隊長ハ裝填及發射ヲ行フコトナク諸元ノ裝定及修正其他所必要ノ準備ヲ爲スモノトス

中隊ノ一部ニテ射擊シアルトキ中隊ヲ以テスルニハ「中隊」ノ號令ヲ下シ且新ニ裝填法及發射法ヲ號令スルモノトス

第三百八十八 各分隊ヲシテ一翼分隊ヨリ逐次ニ等差アル級梯ノ射距離ヲ取ラシムルニハ例ヘハ左ノ號令ヲ下ス

右ヨリ百増セ(減ケ)

或ハ

基準タル分隊ハ射距離ヲ變換スルコトナク其他ノ分隊ハ放列ニ於ケル其分隊ノ番號ト基準タル分隊ノ番號トノ差ヲ所命ノ増減量ニ乘シ之ヲ基準タル分隊ノ射距離ニ増減シタルモノヲ取ル之カ爲基準ニアラサル分隊ノ分隊長ハ其分隊ノ取ルヘキ射距離又ハ其増(減)量ヲ令ス

第三基準 十閉ケ

基準タル分隊ハ射向ヲ變換スルコトナク其他ノ分隊ハ其位置基準タル分隊ノ右(左)ナルニ從ヒ放列ニ於ケル其分隊ノ番號ト基準タル分隊ノ番號トノ差ヲ所命ノ開閉量ニ乘シタル量ヲ右(左)へ或ハ左(右)へ修正ス之カ爲分隊長ハ其分

隊ノ取ルヘキ修正量ヲ令ス

第二節 射擊指揮

第三百九十 中隊長ハ戰闘間通常觀測所ニ位置シ射擊任務ニ基キ射擊ヲ實行ス狀況ニ依リ射擊指揮ヲ一時小隊長ニ委スルコトアリ(大四七二) 第三百九十一 中隊長ハ危急ノ場合若ハ大隊ノ射擊任務ノ範圍内ニ在ル目標ニ對シ速ニ經過スヘキ好機ニ乘セントスル場合ニ於テ大隊長ノ命令ヲ待ツノ違ナキトキハ自ら目標ヲ變換スルコトヲ得然ルトキハ直ニ之ヲ大隊長ニ報告スルモノトス

第三百九十二 中隊長ハ試射ヲ終ルヤ直ニ其結果ヲ又適時射擊ノ效果並射擊ニ依リ知り得タル目標ノ狀態等ヲ大隊長ニ報告スルモノトス 第三百九十三 中隊長ハ小隊長ヲシテ常ニ狀況ヲ明ニシ中隊ノ任務ヲ了解セシムルコトニ勉ムルヲ要ス之カ爲成ルヘク射擊ノ準備間彼我ノ狀況、基點、標點、中隊ノ射擊任務等ニ關シ所要

ノ事項ヲ示シ尙射擊間ト雖適時之ヲ補足スルモノトス

第三百九十四 野、騎、山砲ニ在リテハ中隊長ハ任務及地形ニ應ジ最低表尺(山砲)最低表尺又ハ最高表尺)ヲ測定セシムルモノトス而シテ最低表尺測定ノ爲ニハ測定セントスル方向並高低角ヲ分隊長ニ示スヲ要ス

十加ニ在リテハ前項ニ準シ最低表尺ヲ測定スルモノトス

十五榴ニ在リテハ砲車小隊長ハ要スレハ分隊長ニ測定セントスル方向ヲ示シ遮蔽角ヲ測定セシメ之ヲ中隊長ニ報告スルモノトス

第三百九十五 中隊長ハ射擊ノ實施ヲ容易ニスル爲爲シ得レハ附屬下士等ヲシテ必要ノ事項ヲ記録セシムルヲ可トス

第三百九十六 觀測小隊長ハ敵情及地形ノ搜索、射擊諸元ノ決定、射彈觀測及連絡等ニ關シ中隊長ヲ輔佐ス

第三百九十七 砲車小隊長ハ射擊間中隊長トノ

連絡ヲ顧慮シ小隊ノ指揮ニ便ナル所ニ位置シ部下ノ操作ヲ監視シ中隊長ノ意圖ヲ確實ニ實施セシムルヲ以テ主要ナル任務トス

中隊長若其位置ヨリ直接ニ放列ヲ指揮シ得サルトキハ高級先任ノ砲車小隊長ハ中隊長ノ命令ニ從ヒ放列全般ノ指揮ニ任スルモノトス此際該小隊長ハ中隊長トノ連絡及放列全般ノ指揮ニ便ナル所ニ位置スルヲ可トス

野、騎、山砲ニ在リテハ中隊若表尺照準ヲ行フトキハ砲車小隊長ハ分火ニ任ス

第三百九十八 中隊長ハ射擊任務ニ基キ射擊目標、射擊ノ目的、試射點、射擊ノ方法、射彈觀測ノ方法、射擊地域、彈藥ノ種類及數量等ニ關シ所要ノ事項ヲ決定シ射擊ヲ實施スルモノトス

第三百九十九 效力射準備ノ爲ニハ射擊ノ結果ニ依ル法ヲ用フルヲ通常トスルモ狀況ニ依リ計算法ニ依ルコトアリ

第四百 射擊ノ結果ニ依リ放力射準備ヲ行フニハ中隊長ハ通常大隊長ノ命令ニ基キ效力射ノ目

的ニ適應スル如ク試射ノ程度、彈藥ノ種類及數量、使用砲數並射彈觀測ノ方法等ヲ定メ所望ノ射擊諸元ヲ確實迅速ニ求メ得ル如ク射擊ヲ實施シ且其結果ヲ利用シ其他ノ目標又ハ地點ニ對スル效力射ノ基準諸元ヲ求ムルモノトス

中隊未タ效力射準備ノ爲メ射擊ヲ行ハサルトキニ在リテモ中隊長ハ爲シ得レハ他部隊ノ射擊結果ヲ利用シ射擊ヲ準備スヘキ目標又ハ地點ニ對スル基礎諸元ニ所要ノ修正ヲ施スモノトス

第四百一 直接目標ニ對シ試射スル場合ノ試射點ハ目標ノ景況、其附近ノ地形並風向及火砲ノ精度等ヲ考慮シ射彈觀測最モ容易ナル部分ニ之ヲ選定スルヲ有利トス而シテ射彈觀測ニ大ナル難易ナキトキハ爾後行ハントスル效力射ヲ容易ナラシムル如ク定ムルヲ要ス

轉移射ノ爲メ試射點ハ前項並標點選定ノ要領ニ準シ選定スルノ外目標トノ關係位置ヲ成ルヘク精密ニ測定シ得ル點ニ之ヲ定ムルヲ要ス

第四百二 效力射準備ノ爲メ射擊ニ於ケル發射

法ハ射彈觀測ノ容易ナルコトヲ主眼トシテ決定シ其發射速度ハ射彈ヲ觀測シ且必要ノ修正ヲ爲シ得ル餘裕アルヲ以テ標準トスヘキモノトス

效力射準備ノ爲メ射擊ニ用フヘキ砲數ハ狀況ニ依リ異ナルモ射彈ノ觀測及修正ノ便否等ヲ考慮シテ決定スヘキモノニシテ射擊間ニ於テモ實施ノ現況ニ鑑ミ適宜砲數ヲ増減スルヲ要ス

第四百三 計算法ニ依リ效力射準備ヲ行フニハ測地成果ヲ使用シテ求メタル基礎諸元ニ彈道ニ及ス各種偏差ノ修正ヲ施シ效力射ノ基準諸元ヲ求ムルモノトス

第四百四 效力射ニ於ケル發射速度並發射法ハ射擊ノ目的、目標ノ狀態及使用シ得ヘキ彈藥數ニ適應セシメサルヘカラス而シテ長時間射擊ヲ繼續スルトキハ火砲ノ衰損ヲ顧慮シ發射速度ヲ適宜減スルヲ可トス

效力射ハ中隊ノ全砲車ヲ以テ行フヲ通常トス然レトモ長時間ニ互ル射擊ニ於テハ中隊ノ一部ヲシテ射擊ヲ中止シ火砲ノ冷却若ハ拭淨等ヲ行ハ

シムルヲ可トスルコトアリ

第四百五 大隊長ヨリ射擊目標ヲ指示セラルルカ又ハ自ラ射擊目標ヲ選定シテ射擊ヲ實施スル場合ニ於テハ中隊長ハ射擊地域ヲ定メ其大小ニ應シ距離若ハ一距離上ニ效力射ヲ行フモノトス而シテ一距離上ニ行フ效力射ハ通常直接目標ニ對シ精密ニ試射シ爾後射彈ヲ觀測シ得ル場合ニ適用スヘキモノトス

射擊地域ヲ定ムルニハ射擊ノ目的、目標ノ種類及狀態、效力射準備ノ程度並射彈觀測ノ難易等ヲ考慮シ目標若ハ其存在ヲ判定シタル地域ノ幅員ニ所要ノ正面及縱長ヲ增加スルモノトス

第四百六 大隊長ヨリ射擊地域ヲ示サレタル場合ニ於テハ中隊長ハ效力射ノ方法ヲ詳細ニ定メ要スレハ所要ノ事項ヲ豫メ小隊長以下ニ示シ彈藥其他ノ準備ヲ整ヘシメ射擊開始ノ命令ヲ受クルヤ直ニ效力射ヲ實施スルモノトス

第四百七 一射擊ニ使用スヘキ彈藥ノ種類及數量ヲ決定スレハ射擊ノ目的、目標ノ種類及狀

態、地形、射距離等ヲ考慮スルヲ要ス而シテ彈藥ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ節用スルコト緊要ナリ

第四百八 十五榴ノ裝藥號及高低射界ハ射擊ノ目的、目標ノ種類及狀態ニ鑑ミ存速、命中角、命中精度、射擊速度、效力界及遮蔽角並火砲ノ愛惜等ヲ顧慮シ且射擊間多少射距離ヲ増減スルモ裝藥ノ變更ヲ要セサル如ク之ヲ選定スルヲ要ス

第四百九 效力射ハ狀況ノ許ス限り射彈ノ觀測ヲ行ヒ實施スヘキモノトス而シテ射彈ヲ觀測セシテ射擊セサルヘカラサル場合ニ於テハ特ニ氣象ノ變化ニ依ル平均點ノ移動ヲ顧慮スルコト緊要ナリ

第四百十 正面及縱深大ナル目標ニ對シテハ火力ヲ其要點ニ指向スルカ適宜區劃ヲ定メ一區劃毎ニ射擊シ或ハ同時ニ火力ヲ全地域ニ指向スルモノトス而シテ其何レニ依ルヘキヤ又何レノ區劃ヨリ射擊スヘキヤハ主トシテ狀況特ニ射擊ノ

目的及目標ノ状態ニ依リ決定スヘキモノトス
 第四百十一 停止セル活目標ニ對シテハ射撃ノ目的、目標ノ種類及状態等ニ應シ速ニ效果ヲ收メ得ル如ク射撃ノ方法ヲ定メ效力射ヲ行フモノトス
 敵ノ自動火器ハ我カ射撃ヲ受クルヤ屢、其位置ヲ移動スルコトアルヲ以テ之ニ對スル射撃ハ特ニ短時間ニ所期ノ效果ヲ收ムルコトニ勉メサルヘカラス
 第四百十二 移動スル目標ニ對シテハ其状態特ニ移動方向及速度ヲ顧慮シ通常至短時間ニ所期ノ效果ヲ收メ得ル如ク射撃ノ方法及射撃地域ヲ決定シテ效力射ヲ行ヒ要スレハ其移動ニ伴ヒ逐次射撃諸元ヲ修正シテ射撃スルモノトス
 目標ノ速度大ナル場合ニ於テハ之ヲ效力界内ニ確實ニ捕捉スル爲待撃的ニ射撃スルヲ可トスルコトアリ
 我カ放列陣地ニ對シ攻撃シ來ル敵ニ對シテハ確實ニ近キ表尺ヲ取り敵ノ近接ヲ待チテ急速ナル

射撃ヲ行フヲ可トス
 敵ノ必ス通過スヘシト豫想スル場所ニ於テ之ヲ射撃セントスル場合ニハ豫メ其場所ニ對シ射撃諸元ヲ決定シ置キ適時效力射ヲ行フモノトス
 第四百十三 超過射撃ニ方リテハ友軍ニ危害ヲ及スコトナク且成ルヘク永ク射撃ヲ繼續シ得ルヲ要ス之カ爲彼我ノ識別及射撃觀測ノ難易、地形、彈種、友軍ト射線トノ關係、彼我ノ歩兵近接ノ状態並射撃ノ精度等ニ注意シ且彼我ノ歩兵距離ヲ増大スルヲ要ス
 第四百十四 目標斜交スルカ或ハ其配置不規ナルトキハ通常各分隊毎ニ異ナル射距離ヲ以テ射撃セシムルモノトス然レトモ狀況急ヲ要スルトキハ目標ヲ含ム全地域ニ對シ數距離射撃ヲ行フコトアリ
 第四百十五 高等司令部等ニ對シテハ最初ヨリ確實ニ之ヲ蔽フ如ク射撃地域並正確ナル射撃諸

元ヲ決定シ好機ニ乘シ迅速ニ射撃スルヲ可トス之カ爲要スレハ豫メ他ノ地點ニ試射シ轉移射ヲ行フモノトス
 第四百十六 夜間射撃ハ晝間ノ射撃ヲ繼續スルカ晝間豫メ所要ノ準備ヲ整ヘアルカ電燈若ハ照明彈ヲ利用スルカ夜間火光ヲ認メ得ルカ又ハ計算法ニ依ル等ノ場合ニ於テ之ヲ施行シ得ルモノトス而シテ通常至短時間ニ效果ヲ收メ得ル如ク效力射ヲ實施スルヲ可トス(分二九六・原九七七)
 電燈若ハ照明彈ヲ用フルトキハ其照明期間ヲ巧ニ利用スルコト緊要ナリ
 第四百十七 各種目標ニ對スル射撃ニ關シテハ本節ニ示スモノノ外「戰鬥原則」第一篇第六章第二節ニ據ルモノトス
 第四百十八 一旦射撃シタル目標ニ對シテハ所要ニ應シ其射撃諸元ヲ保留シ置クモノトス
 第四百十九 長時間激烈ナル戰鬥ヲ繼續スル場合特ニ瓦斯内ニ於テ動作スルニ方リテハ放列陣

地ニ在ル者ヲ適宜交代セシムルヲ可トス之カ爲砲手ノ操作ノ難易ヲ顧慮シ交代ノ方法ヲ定ムルモノトス
 第四百二十 陣地記録ヲ調製スルトキハ概ネ左ノ事項ヲ之ニ輯録スルモノトス(原九二三)
 基準點一覽圖及基準點成果表
 方向基線、陣地基準點其他陣地各部ノ諸元
 中隊ニ關係アル敵情搜索、射撃觀測及連絡ノ施設
 危險方向ニ對スル遮蔽度
 遮蔽距離若ハ遮蔽角
 進入及進出路並彈藥補充ニ關スル事項
 交通制限其他特別規定
 第六章 陣地變換
 第四百二十一 陣地變換ハ通常中隊一齊ニ之ヲ行フモノトス
 第四百二十二 中隊長ハ通常大隊長ノ命令ニ基キ機ヲ失セス陣地ヲ變換シ得ル如ク所要ノ準備

ヲ整へ置クヲ要ス此際我カ企圖ノ秘匿ニ留意スルコト緊要ナリ(大四八六・原一〇二一)
第四百二十三 中隊長ハ陣地變換ニ先ダテ觀測小隊中挺進セシムヘキモノヲ集結シ又機ヲ尖セス斥候ヲ派遣シテ前進路ヲ偵察セシメ日彈藥補充及放列撤去等ニ關シ所要ノ事項ヲ部下ニ指示シ置クモノトス(大六八七)

第四百二十六 陣地變換ニ方リ中隊長自ラ中隊ヲ率キテ前進スヘキヤ或ハ砲車小隊長ヲシテ之ヲ指揮セシムヘキヤハ狀況ニ依ルモノトス而シテ戰況ニ依リ豫定ノ地點ニ到着シ難キ虞アルカ或ハ敵火ノ下ニ在リテ陣地ヲ變換セサルヘカ積サルトキ等ニ於テハ中隊長自ラ中隊ヲ指揮スヘキモノトス
第四百二十七 陣地變換ニ方リテハ戰砲隊ノ彈藥ヲ充實スルヲ要ス特ニ第一線歩兵ニ近ク陣地ヲ變換セントスル場合ニ於テ然リトス之カ爲一

第四百二十八 陣地變換ニ方リテハ警戒ノ處置ヲ講スルコト必要ナリ
第四百二十九 歩兵配屬砲兵又ハ隨伴砲兵ニシテ歩兵ノ攻撃ニ最モ適切ナル協カヲ爲サンカ爲第一線ニ近ク陣地ヲ變換セントスル場合ニ於テハ爲シ得ル限り協同スヘキ歩兵ノ指揮官ト協定ヲ遂ケ且所要ノ準備ヲ整ヘ勉メテ地形ヲ利用シテ前進シ敵ノ不意ニ乘シテ射撃ヲ開始スルコトニ勉ムルヲ要ス

第七章 人馬、材料及彈藥ノ補充
第四百三十一 中隊ハ總テノ方法、手段ヲ盡シ戰闘ヲ繼續スルヲ緊要トス故ニ幹部ハ如何ナル場合ニ於テモ補充及修理ノ爲速ニ必要ナル處置ヲ爲シ常ニ中隊ノ戰闘力ヲ充實スルコトニ勉メサルヘカラス(攻中七五二・攻大八四九・原一〇二八)
中隊自ラ所要ノ補充ヲ爲ス能ハサルニ至レハ中隊長ハ之ヲ大隊長ニ報告スルモノトス
第四百三十二 人馬、材料ノ損傷多キ場合ニハ中隊長ハ中隊段列ヨリ之ヲ補充セシメ或ハ各小隊間ニ於テ彼此融通セシムルモノトス(大四九〇)
第四百三十三 中隊長ハ中隊段列長ニ中隊段列ノ位置、彈藥ノ整備及補充等ニ關シ所要ノ事項

ヲ命令スルモノトス而シテ放列陣地ニ彈藥ヲ集積スル場合ニハ其種類及數量並衛後ノ補充等ニ關シ所要ノ事項ヲ示スヲ要ス(大四九一) 中隊長ハ大隊段列要スレハ聯隊段列ノ位置ヲ中隊長列長ニ通報スルモノトス 第四百三十四 中隊長列長ハ中隊長ノ命令ニ基キ要スレハ中隊長列ノ配置ニ關スル細部ノ偵察ヲ爲シ中隊長列ヲ所命ノ位置ニ誘導シ或ハ所命ノ彈藥及器具ヲ放列陣地ニ集積シ戰砲隊ノ車馬來ルヤ之ヲ併セ指揮ス(野大四九六・攻中七五四) 彈藥集積所ヲ設ケサル場合ニ於テ野、騎、山砲ノ中隊長列長ハ彈藥車一輛(山砲彈藥二班)ヲ放列陣地ニ派遣シ武器掛下士ノ指揮ヲ受ケシメ又十五榴及十加ノ中隊長列長ハ中隊長ノ命令ニ基キ速ニ豫備品車ヲ放列陣地ニ到ラシムルヲ要ス 彈藥集積所ヲ設ケタル場合ニハ武器掛下士(十五加下士)ヲシテ若干ノ人員ヲ指揮シ彈藥ノ整備、出納等ニ任セシムルモノトス

各中隊ノ段列同一地域ニ位置スル場合ニ於テハ高級先任ノ段列長ハ其配置及警戒等ニ關シ所要ノ區處ヲ爲スモノトス 第四百三十五 中隊長列及戰砲隊ノ車馬ヲ配置スルニハ勉メテ地形ヲ利用シテ敵眼、敵火ニ掩蔽セシメ且彈藥補充又ハ前進ニ方リ混雜ヲ生セサルコトニ注意スルヲ要ス 戰砲隊ノ車馬ヲ中隊長列ト分離シテ置クトキハ中隊長列長ハ下士又ハ上等兵ヲシテ之ヲ指揮セシムルモノトス 第四百三十六 中隊長列其位置ヲ占ムルヤ中隊長列長ハ中隊長ニ之ヲ報告シ爾後視號其他ノ方法ニ依リ放列陣地及大隊段列トノ連絡ヲ確保シ要スレハ彈藥補充路ヲ補修シ絶エス戰砲隊ノ車馬及中隊長列ノ整理、充實ニ勉メ時々彈藥ノ現況ヲ中隊長ニ報告シ中隊長ノ命令アルヤ機ヲ失セス彈藥又ハ人馬、材料ヲ補充シ得ル如ク準備シアルヲ要ス 中隊長列長ハ敵襲ニ對シ自ら警戒スルヲ要ス

第四百三十七 中隊長列ノ幹部ハ特ニ軍紀ヲ嚴正ニ維持スルコトニ勉ムルヲ要ス蓋シ戰線ノ後方ニ在ル車馬ノ規律正シカラサル爲友軍ノ配置及企圖ヲ敵ニ暴露スルノ端緒トナリ或ハ通路、狹隘等ヲ梗塞シ友軍ノ行動ヲ妨害スルコトアレハナリ 第四百三十八 彈藥補充ハ勉メテ敵眼ニ遮蔽シテ行フヲ要ス之カ爲夜暗ヲ利用シ得ハ有利ナルモ晝間補充スルヲ要スルトキハ巧ニ地形ヲ利用シ隊形及歩度ノ撰擇ヲ適切ニシ要スレハ臂力ニ依リ彈藥ヲ搬送スル等ノ處置ヲ講スルモノトス而シテ狀況之ヲ要スレハ猛烈ナル敵火ヲモ忌避スルコトナク中隊長列長以下毅然トシテ補充ヲ敢行シ以テ中隊ノ戰鬥力ヲ遺憾ナク發揮セシメサルヘカラス 第四百三十九 野、騎砲ノ砲車ノ前車ノ彈藥、山砲ノ中隊長列ニ屬スル二彈藥班ノ彈藥ハ之ヲ貯存シ置クヲ要ス是彈藥ノ補充滯シタルトキニ於テ始メテ使用センカ爲ナリ

第四百四十 野、騎、山砲ノ砲側ノ彈藥ハ中隊長列ヨリ放列陣地ニ派遣シアル彈藥車(山砲彈藥班)或ハ彈藥集積所ヨリ之ヲ補充スルモノトス之カ爲中隊長ハ補充スヘキ時機ヲ武器掛下士ニ命令ス武器掛下士ハ砲手ヲシテ彈藥ヲ砲側ニ搬送セシメ又常ニ彈藥消費ノ景況ヲ明ニシ適時之ヲ中隊長ニ報告スルモノトス 中隊長列ヨリ放列陣地ニ派遣シアル彈藥車(山砲彈藥班)ノ彈藥或ハ彈藥集積所ノ彈藥ハ中隊長列ニ在ル彈藥車(山砲彈藥班)ヨリ之ヲ補充ス之カ爲中隊長ハ彈藥消費ノ景況ニ依リ適時中隊長列長ニ補充ヲ命スルヲ要ス 中隊長列長ハ通常下士ヲシテ彈藥車(山砲彈藥班)ヲ指揮シテ放列陣地ニ到リ空虛トナリタル彈藥車(山砲彈藥班)ト交換スルカ若ハ彈藥ヲ彈藥集積所ニ卸下シ中隊長列ニ復歸セシム狀況ニ依リ遮蔽物ノ後方マテ彈藥車(山砲彈藥班)ヲ前進セシメ爾後臂力ヲ以テ彈藥匣(山砲彈藥箱)ヲ搬送スルヲ有利トスルコトアリ

第四百四十一 十五榴及十加ノ放列陣地ニ於ケル彈藥ハ中隊段列ヨリ之ヲ補充ス之カ爲中隊長ハ彈藥消費ノ景況ニ依リ適時中隊段列長ニ其補充ヲ命スルヲ要ス
中隊段列長ハ下士ヲシテ所要ノ彈藥車ヲ指揮シテ放列陣地ニ到リ所命ノ位置ニ彈藥ヲ卸下シ中隊段列ニ復歸スルモノトス
第四百四十二 中隊ノ彈藥ハ大隊長ノ命令ニ基キ之ヲ補充ス之カ爲中隊長ハ適時彈藥ノ現況ヲ大隊長ニ報告シ要スレハ其補充ヲ請求スルモノトス狀況特ニ急ヲ要スルトキハ中隊長ハ直接大隊段列長ニ彈藥補充ヲ請求シ且大隊長ニ報告スルモノトス(大四九四・攻中七五六)
中隊ノ彈藥補充ノ爲中隊段列長ハ中隊長ノ命令ニ依リ野、山砲ニ在リテハ中隊段列ノ車輛(山砲馬)要スレハ戰砲隊ノ彈藥車(山砲馬)等ヲ大隊段列ニ送り通常彈藥匣(山砲藥箱)ヲ交換シ十五榴及十加ニ在リテハ中隊段列及彈藥小隊ノ車輛ヲ大隊段列ニ送り彈藥ヲ受領セシムルモノトス

狀況ニ依リ大隊段列ヨリ所要ノ車輛(山砲藥班)ヲ中隊段列若ハ放列陣地ニ送り彈藥ヲ補充セラハルコトアリ
第四百四十三 戰闘後ニ於ケル中隊(十加ヲ除ク)ノ彈藥補充ハ通常直接ニ輜重兵中隊ヨリ行ハルモノトス

第三篇 大隊教練

通則

第四百四十四 大隊ハ戰術單位ニシテ大隊長統一指揮ノ下ニ各部隊並各機關ノ緊密ナル協同連繫ニ依リ各種ノ狀況ニ於テ諸般ノ任務ヲ遂行シ得ルモノトス(中三〇五・聯四九七)
第四百四十五 大隊指揮ノ要領ハ本當ノ外本操典「戰闘原則」並戰闘綱要ニ掲クル戰闘ノ原則ニ據ルモノトス

第一章 集合隊形

第四百四十六 大隊ノ集合隊形ハ併立縱隊及橫隊トス(中三〇八・聯四九八)
併立縱隊ハ縱隊ニ於ケル各中隊ヲ、橫隊ハ橫隊ニ於ケル各中隊ヲ十歩ノ間隔ヲ保チ併列スルモノトス
野、騎、山砲及十五榴
觀測班並連絡掛將校ノ位置左ノ如シ

觀測車(山砲觀測器具班)ハ縱隊トナリ右翼中隊ノ右方十歩ニ位置ス

觀測班長ハ先頭觀測車前馬(山砲先頭馬)ノ右側三歩ニ、觀測掛、通信掛及連絡掛ノ各將校ハ順次觀測班長ノ後方ニ一歩ヲ隔テテ重リ其他ノ者ハ觀測車(山砲其他ノ乘馬者ハ連絡掛將校、徒歩者ハ觀測器具班)ノ後方ニ適宜位置ス

大隊長ハ大隊ノ中央ニシテ中隊長ノ線ノ前方二十歩ニ、大隊副官ハ大隊長ノ後方一歩ニ、大隊書記ハ大隊副官ノ後方一歩ニ位置ス

十加
觀測班並連絡掛將校ノ位置左ノ如シ

側車附自動二輪車、觀測自動車、自動貨車ハ其順序ニ縱隊トナリ右翼中隊ノ右方十歩ニ位置ス

觀測班長ハ先頭ノ側車附自動二輪車ニ、觀測掛、通信掛及連絡掛ノ各將校ハ順次其後方ノ側車附自動二輪車ニ乘車シ其他ノ者ハ

觀測班並連絡掛將校ノ位置左ノ如シ
側車附自動二輪車、觀測自動車、自動貨車ハ其順序ニ縱隊トナリ右翼中隊ノ右方十歩ニ位置ス
觀測班長ハ先頭ノ側車附自動二輪車ニ、觀測掛、通信掛及連絡掛ノ各將校ハ順次其後方ノ側車附自動二輪車ニ乘車シ其他ノ者ハ

乘車區分ニ縱ヒ側車附自動二輪車ニ乘車スルカ或ハ觀測自動車若ハ自動貨車ノ後方ニ位置ス

大隊長ハ大隊ノ中央ニシテ中隊長ノ線ノ前方二十歩ニ位置シ大隊副官及大隊書記ハ大隊長ト同一乗用自動車ニ乘車ス
以上ノ距離間隔ハ適宜之ヲ伸縮スルコトヲ得
大隊段列ノ位置ハ大隊長之ヲ定ム而シテ其隊形ハ概ネ中隊ニ準ス

第二章 陣地偵察

第四百四十七 大隊長ハ陣地偵察ノ爲大隊ヲ離ルルニ方リ大隊ノ指揮官ヲ定メ之ニ前進路、到着地點、行進速度要スレハ警戒及連絡ノ方法等ヲ命令スルモノトス(中三三三)

觀測班長觀測班ヲ離ルルニ方リテハ前項ニ準シ處置スルモノトス
第四百四十八 大隊長ハ任務ニ基キ大隊ノ觀測所要スレハ補助觀測所、各中隊ノ陣地、進入路

又ハ進入地域竝大隊段列ノ位置ヲ偵察スルト共ニ此等ノ事項ニ關聯シテ敵情搜索、射彈觀測及連絡ノ施設竝測地等ニ就キ所要ノ偵察ヲ行ヒ且成ルヘク速ニ敵情搜索及前地ノ偵察ヲ開始セシムルヲ要ス(中三三四・中三三五)

第四百四十九 大隊ノ觀測所ハ戰況及射擊效果ノ觀察ニ適シ大隊ノ指揮ニ便ニシテ且連絡容易ナル位置ニ、大隊ノ補助觀測所ハ其任務ニ應シ適當ナル視界ヲ有シ且連絡容易ナル位置ニ選定スルモノトス(中三三六・原九〇六・原九〇七)

標定ノ爲補助觀測所ノ配置ヲ定ムルニハ相互ノ間隔ヲ成ルヘク大ナラシメ且重要ナル地域ハ三方ヨリスル交會法ニ依リ標定シ得ル如クシ以テ標定ノ精度ヲ良好ナラシムルヲ要ス
觀測所及補助觀測所ノ位置決定スルヤ此等ニ於ケル人員、器材ノ配置、通信所ノ位置竝各方面トノ連絡法等ヲ定ムルヲ要ス(原九〇八)

第四百五十 各中隊ノ陣地ヲ決定スルニ方リテハ少クモ一中隊ニハ直接ニ命令ヲ與ヘ得ル如ク

シ又放列陣地ハ相互ニ射撃ヲ妨害セサルニ注意スルコト緊要ナリ

第四百五十一 測地ヲ行フ場合ニ於テハ大隊自ラ實施スル基礎測地又ハ上級指揮官ヨリ附與セラルル測地成果ニ基キ陣地及前地ノ測地ヲ實施スルモノトス

第四百五十二 測地ヲ行フ場合ニ於テハ大隊長ハ偵察ニ先タチ最初ヨリ測地ヲ實施スヘキヤ又ハ狀況ノ推移ニ伴ヒ逐次時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ之ヲ實施スヘキヤヲ決定スルヲ要ス

最初ヨリ測地ヲ行フ場合ニ於テハ大隊ノ觀測所及補助觀測所、各中隊陣地ノ偵察ニ關聯シテ基礎測地、陣地及前地ノ測地ノ爲陣地基準點、方向基準線及測角基準點竝此等ノ測定ニ必要ナル基準、基準點等ニ就キ所要ノ事項ヲ偵察シ且作業實施ノ要領ヲ決定スルモノトス

狀況ノ推移ニ伴ヒ逐次時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ測地ヲ行フ場合ニ於テハ適時前項ニ準シテ偵察スルモノトス

第四百五十三 陣地基準點及方向基準線ハ狀況特ニ地形ニ鑑ミ觀測所、補助觀測所及放列陣地ニ於ケル測地作業ニ便ナル如ク選定スルモノトス

而シテ方向基準線ハ大隊各部ヲシテ同一線ヲ利用セシメ得ハ有利ナリ

第四百五十四 大隊段列ハ概ネ中隊段列ニ準シ其位置ヲ選定スヘシト雖特ニ彈藥ノ授受ニ便ニシテ各中隊及聯隊段列トノ交通自在ナルヲ要ス(中三四五・原九一〇)

彈藥集積所ヲ設置スル場合ニハ前項ニ準シ其位置ヲ選定スルモノトス

第三章 展開

第四百五十五 大隊長ハ展開ノ爲通常中隊長ヲ招致シ彼我ノ狀況、大隊ノ任務、各中隊ノ陣地、進入路又ハ進入地域、進入ノ時機及方法、射撃ノ準備、敵情搜索、射彈觀測、連絡、大隊段列ノ位置、彈藥ノ整備及補充等ニ關シ所要ノ事項ヲ命令ス此際要スレハ射撃任務ヲ附與スルモノ

トス(攻大八二八・原九一五)
 大隊長ハ狀況ニ適應スル如ク觀測班長ニ敵情捜索、射彈觀測、連絡要スレハ測地ニ關シ又大隊段列長ニ大隊段列ノ位置、分進ノ時機、前進路等ニ關シ命令スルモノトス
 大隊長ノ中隊長ヲ招致スル時機ハ狀況ニ依リ異ナルモ中隊長ヲシテ中隊ノ陣地ニ戰砲隊ノ到着スルマテニ所要ノ偵察及準備ヲ爲シ得シムルヲ度トシ過早ナラサルヲ要ス
 第四百五十六 夜間大隊ヲ展開セントスル場合ニハ大隊長ハ機ヲ失セス中隊長ニ所要ノ命令ヲ與ヘ爲シ得ル限リ中隊長ヲシテ晝間所要ノ偵察及準備ヲ行フノ餘裕ヲ得シムルヲ要ス(中三七〇・原九一三・原九一九)
 夜間ノ展開ハ動モスレハ混雜ヲ生シ易キヲ以テ各中隊ニ對シ進入路若ハ進入地域、進入ノ時機要スレハ順序並車馬ノ撤退方法、大、中隊間ノ連絡等ニ關シ明確ニ命令スルコト特ニ肝要ナリ
 第四百五十七 大隊長ハ大隊ノ展開進歩ノ狀態

ヲ詳細シ且必要ノ事項ヲ聯隊長ニ報告スルト共ニ關係部隊ニ通報シ相互ノ連絡ヲ緊密ナラシムルコト必要ナリ
 第四百五十八 大隊長ハ要スレハ警戒ノ爲自ラ斥候ヲ派遣シ或ハ大隊ノ自衛ヲ統一スルモノトス
 大隊長ハ常ニ敵ノ飛行機並瓦斯攻撃ニ對シ警戒シ且之ニ對應スル爲所要ノ處置ヲ講スルヲ要ス
 第四百五十九 大隊長ハ敵情捜索ノ爲通常各中隊ニ搜索區域ヲ配當シ且觀測班及各中隊ニ搜索ニ關スル準據ヲ與ヘ又狀況之ヲ許セハ觀測班ヲシテ標定ヲ行ハシムルモノトス
 標定ヲ行ハシムルニハ大隊長ハ特ニ標定スヘキ方面要スレハ目標又ハ地點、補助觀測所ノ配置、連絡施設、各中隊觀測小隊中觀測班長ノ指揮ニ屬スヘキ人員、器材等ニ關シ觀測班長ニ命令スルト共ニ所要ノ事項ヲ中隊長ニ示スモノトス
 第四百六十 標定ヲ行フニハ觀測班長ハ大隊長ノ命令ニ基キ觀測掛將校ヲシテ中隊觀測小隊ノ

一部ヲ併セ指揮シ通常大隊補助觀測所ノ外中隊ノ觀測所及補助觀測所中所要ノモノヲ利用シ且作業實施ニ便ナル如ク連絡施設ヲ完備シテ作業ヲ實施セシムルモノトス
 第四百六十一 交會法ニ依ル射彈觀測ノ施設ニ關シテハ第四百五十九、第四百六十ヲ準用スルモノトス但大隊長ハ準備スヘキ觀測法ノ種類ヲ明示シ又各中隊ヲシテ適時之ヲ利用シ得シムル如ク連絡施設ヲ行フヲ要ス
 第四百六十二 大隊長ハ連絡ニ關シテハ連絡網構成ノ擔任區分、順序、完成ノ時機、連絡班ノ編成、電話線路、通信ニ關スル規定、約束信號等ニ就キ所要ノ事項ヲ觀測班長及中隊長ニ命令スルモノトス
 第四百六十三 通信掛將校ハ觀測班長ノ命令ニ基キ連絡ノ緩急及要度、距離ノ遠近、地形特ニ交通ノ便否等ヲ考慮シ連絡法、通信所ノ位置、電話線路、通信網構成ノ順序及完成ノ時機、人員、器材ノ配當等ヲ定メ同時若ハ逐次ニ之カ實

行ニ著手スルモノトス
 第四百六十四 通信掛將校ハ通信設備ノ進歩ニ伴ヒ時々豫定完成ノ時刻ヲ觀測班長ニ報告シ作業完成セハ更ニ通信網ノ概要、殘餘ノ人員、器材等ニ關シ報告シ且爾後ニ於ケル通信網ノ改變ヲ願慮シテ豫メ適當ナル處置ヲ爲シ置クヲ要ス
 第四百六十五 連絡掛將校ハ通常大隊ト密接ナル關係ヲ有スル指揮官ノ許ニ派遣セラレ連絡ニ任スルモノトス
 第四百六十六 最初ヨリ測地ヲ行フ場合ニ於テハ大隊長ハ機ヲ失セス觀測班長ニ大隊ノ配置、測定スヘキ前地、作業ノ順序及進度並各中隊觀測小隊ノ使用等作業ノ準據トナルヘキ事項ヲ命令シ速ニ作業ニ著手セシムルヲ要ス
 狀況ノ推移ニ伴ヒ逐次時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ測地ヲ行フ場合ニ於テハ大隊長ハ爾後ノ作業ニ便ナル如ク豫メ所要ノ事項ヲ命令スルヲ要ス
 第四百六十七 觀測班長ハ大隊長ノ命令ニ基キ觀測掛將校ニ觀測所、補助觀測所、放列陣地、

陣地基準點及方向基線並此等ノ測定ニ必要ナル
基線、基準點、測定スヘキ前地ノ要點、作業ノ
爲使用シ得ヘキ時間、人員、器材ノ配當及其使
用期間、作業ノ順序及精度等ニ關シ所要ノ事項
ヲ命令シ測地作業ヲ實施セシムルモノトス(原
九三八)

第四百六十八 觀測掛將校ハ觀測班長ノ命令ニ
基キ所要ノ偵察ヲ行ヒ測地作業實施ノ方法ヲ定
メ陣地基準點、方向基線、觀測所及補助觀測所
ノ位置、測角基準點、測角基線等ヲ測定シテ
敵情搜索、射彈觀測及各中隊射擊諸元決定ノ基
礎ヲ成形スルモノトス而シテ作業ノ實施ニ方リ
テハ特ニ作業者ノ連繫ニ注意シ且重要ナル方面
ノ作業ヲ指導シ速ニ作業ヲ進捗セシムルヲ要ス
(原九三九)

第四百六十九 陣地基準點、方向基線等ノ位置
ハ勉メテ現地ニ就キ的確ニ指示スルヲ要ス又測

地成果ハ各中隊ヲシテ機ヲ失セス使用セシムル
爲成ルヘク速ニ交付スルヲ可トス
第四百七十 測地ハ狀況ノ許ス限り其精度ヲ增
進スルヲ要ス之カ爲既ニ各中隊ニ測地成果ヲ交
付シタル後ニ於テモ爲シ得レハ更ニ之ヲ精測ス
ルヲ有利トス

第四章 射擊指揮

第四百七十一 大隊長ハ戰鬪間通常觀測所ニ位
置シ彼我ノ狀況特ニ射擊效果ヲ觀察シ各中隊ノ
射擊ヲ指導シ且其實行ヲ監督シ以テ火力ヲ適切
ニ操縱スルヲ要ス(中三九〇)

第四百七十二 大隊長ハ適時各中隊ニ射擊任務
ヲ附與スルモノトス然レトモ狀況ニ依リ先ツ目
標又ハ地點若ハ區域ヲ配當シ且射擊ノ目的及準
備ノ緩急度ヲ示シテ射擊ヲ準備セシムルコトア
リ
第四百七十三 中隊ニ射擊任務ヲ附與スルニハ通
常目標若ハ射擊地域ヲ配當シ且射擊ノ目的、射

擊ノ時機若ハ順序、彈種、彈數、信管ノ種類、
射擊ノ繼續時間及約束信號等ニ就キ所要ノ事項
ヲ命令スルモノトス狀況ニ依リ射擊ノ目的及中
隊各個ノ戰鬪區域ヲ示シ若ハ單ニ中隊ノ達成ス
ヘキ目的ノミヲ示スコトアリ

第四百七十四 效力射準備ノ爲ノ射擊ヲ行フニ
ハ大隊長ハ其目的、試射點若ハ其選定區域、射
擊ノ時機及順序、射彈觀測ノ方法、彈藥ノ種類
及數量、使用砲數等ニ關シ所要ノ事項ヲ中隊長
ニ命令スルモノトス

第四百七十五 大隊射擊任務ノ範圍内ニ於ケル
目標ノ選擇及變換ハ大隊長自ラ之ニ任シ要スレ
ハ之ヲ關係部隊ニ通報シ大隊射擊任務ノ範圍外
ニ在ル目標ニ對シテハ戰況特ニ之ヲ要シ且其效
果ヲ確信スル場合ニ限リ獨斷射擊スルコトヲ得
然ルトキハ直ニ之ヲ聯隊長ニ報告シ且關係部隊
ニ通報スルモノトス

第四百七十六 目標ヲ指示スルニハ基點又ハ其
他ノ地物ノ媒介ニ依ルカ或ハ目標番號若ハ座標

ヲ以テスルモノトス時トシテ射彈ヲ利用シテ目
標ヲ指示スルヲ有利トスルコトアリ
基點ハ通常大隊ノ戰鬪區域内ニ於テ著明ナル地
物ニ之ヲ選定シ必要ニ應シ數箇ヲ設クルモノト
ス

第四百七十七 大隊長ハ目標ノ位置、種類、狀
態及附近ノ地形等ニ關シ確認シタル事項ヲ速ニ
中隊長ニ通報シ其射擊ノ準備並實施ヲ容易ナラ
シムルコトニ勉メ尙各中隊ヨリ報告セル射擊ノ
結果ハ之ヲ關係中隊ニ通報スルヲ要ス

第四百七十八 空中觀測ヲ利用シテ行フ射擊ノ
點檢ハ大隊ニ於テ之ヲ統一スルヲ通常トス而シ
テ此場合ニハ之カ實施ニ關シ主トシテ左ノ事項
ヲ各中隊及空中觀測機關ニ命令又ハ通報スルヲ
要ス

目標、射擊ノ順序及實施時刻
彈藥ノ種類及數量、射擊速度並發射法
時トシテ各中隊效力射ノ中止及再興ノ時刻其
他必要ト認ムル特別規定

交會法ニ依ル射擊觀測ノ施設ヲ利用シテ行フ射擊ニ關シテモ亦前項ヲ準用ス

第四百七十九 空中觀測ヲ利用シテ射擊スル場合ニハ大隊長ハ目標、射擊ノ目的、時機及方法並偵察者トノ連絡等ニ關シ所要ノ事項ヲ各中隊長、觀測班長及偵察者ニ命令又ハ通報シ十分ナル準備ヲ整ヘシムルヲ要ス

空中偵察者ヨリ射擊ノ要求ヲ受ケ之ニ應スル場合ニハ大隊長ハ直ニ射擊部隊其他必要ノ事項ヲ偵察者ニ通報スルヲ要ス

第四百八十 某目標ニ對スル射擊ノ目的ヲ達成セハ大隊自ラ之ヲ監視スルカ又ハ監視ノ任務ヲ有スル他部隊ニ通報スルヲ要ス而シテ大隊自ラ監視スル場合ニ於テハ通常之ヲ射擊シタル中隊ヲシテ擔任セシムルヲ可トス

第四百八十一 照明部隊ト協力シテ夜間射擊ヲ行フ場合ニハ大隊長ハ晝間豫メ所要ノ中隊ニ任務ヲ與ヘ該中隊ヲシテ照明部隊ト周密ナル協定ヲ遂ケ且連絡施設ヲ完備シ尙觀測位置ノ選定ヲ

適切ニスル等十分ナル準備ヲ整ヘシムルコト緊要ナリ

第四百八十二 大隊長ノ射擊指揮ヲ適切ニシ且中隊ノ射擊ヲ一層有效ナラシムル爲適時大隊及中隊ノ補助觀測所ヲ前進セシムルヲ可トス之カ爲大隊ニ於テ豫メ偵察ヲ行フカ或ハ各中隊ニ地域ヲ配當シテ偵察セシムルモノトス又狀況ニ依リ大隊及中隊ノ觀測所ヲ前進セシムルヲ可トスルコトアリ(中四二六)

第四百八十三 觀測班長ハ諸情報ヲ收集查覈シ且射擊效果ヲ觀察シ又本部ノ各機關並各中隊ニ適時敵情搜索、射擊觀測、連絡要スレハ測地等ニ關シ必要ナル事項ヲ通報シ準據ヲ得シムルヲ要ス

觀測班長ハ觀測掛將校ヲ補助トシ大隊射擊圖爲シ得レハ情報記錄ヲ調製シ大隊長ノ射擊指揮ニ便ナラシムルヲ要ス

第四百八十四 觀測掛將校ハ敵情搜索、射擊觀測、測地作業ノ擴張、測地精度ノ増進、座標圖

ノ補修等ニ任シ尙大隊及各中隊ノ得タル測地諸元ヲ整理シ且上級指揮官並比隣部隊ヨリ得タル成果ヲ遺憾ナク利用スルコトヲ圖ルヲ要ス

第四百八十五 通信掛將校ハ命令、報告等ノ傳達、通信網ノ維持、整理並通信勤務ノ監督ニ任スルモノトス(中四二二・原一〇二一)

第五章 陣地變換

第四百八十六 大隊長ハ聯隊長ノ命令又ハ自己ノ判斷ニ基キ陣地變換ノ爲豫メ所要ノ偵察ヲ行ヒ周到ナル準備ヲ整ヘ置クヲ要ス

第四百八十七 大隊長ハ陣地變換ノ爲狀況ノ許ス限リ觀測班及觀測小隊ノ一部若ハ主力ヲ新陣地ニ先遣シ豫メ敵情搜索、射擊觀測及連絡ノ施設ヲ要スレハ測地ヲ行ハシムルヲ有利トス(中四二五・中四二六)

第四百八十八 大隊長ハ陣地變換ニ先ダチ大隊段列及中隊ノ彈藥ヲ充實セシメ又爲シ得レハ豫メ新陣地ニ彈藥ヲ集積セシメ且新陣地到着後ニ

於ケル彈藥ノ補充ニ關シ處置スル等各種ノ手段ヲ講シ彈藥ノ缺乏ヲ來サシメサルヲ要ス又現陣地ニ集積シタル彈藥ニシテ陣地變換ノ際携行シ得サルモノハ速ニ之ヲ搬送スルノ處置ヲ講スルコト必要ナリ(中四二七)

第四百八十九 陣地變換ノ爲各中隊現陣地出發ノ時機ハ豫メ時刻ヲ以テ之ヲ規定シ置クカ或ハ機ヲ見テ之ヲ命令スルモノトス

大隊長ハ適時新陣地ニ到リ大隊ノ戰鬥ヲ指揮スルモノトス

第六章 人馬、材料及彈藥

ノ整備、補充

第四百九十 大隊長ハ常ニ人馬、材料ノ補充ニ注意シ中隊自ラ之ヲ補充ヲ爲ス能ハサルトキハ大隊段列ヲシテ補充セシメ稀ニ各中隊ヲシテ彼此融通セシムルコトアリ

大隊自ラ人馬、材料ノ補充ヲ爲ス能ハサルニ至レハ之ヲ聯隊長ニ報告スルモノトス(中四三二)

攻大七五二・攻大八四九・原一〇二八）
第四百九十一 大隊長ハ戰闘各期ニ於ケル使用
彈藥ト各中隊ノ射撃任務トヲ考慮シ各中隊ニ配
當スヘキ彈藥並豫備彈藥ノ種類及數量ヲ決定シ
大隊段列長ヲシテ之カ整備及補充ニ任セシメ且
中隊長ニ彈藥ノ整備ニ關シ所要ノ命令ヲ與フル
モノトス（中四三三・攻大八五〇・原一〇三二）
彈藥集積所ヲ設クル場合ニハ大隊長ハ大隊段列
長ニ其集積スヘキ彈藥ノ種類及數量、搬送ノ方
法並爾後ノ補充等ニ關シ所要ノ事項ヲ命令スル
モノトス
大隊長ハ彈藥ノ整備及補充ノ爲要スレハ大隊段
列長ヲシテ各中隊ノ段列ヲ統一指揮セシムルコ
トアリ
第四百九十二 大隊長ハ勉メテ同一口ノ彈藥ヲ
同一中隊ニ配當シテ其射撃ヲ容易ナラシムルヲ
可トス
第四百九十三 大隊長ハ絶エス各中隊彈藥ノ現
況ヲ知悉シ適時所要ノ中隊ニ之ヲ補充スルモノ

トス（攻大八五一・原一〇三二）
狀況急ヲ要スル場合ニハ大隊段列ヲシテ所要ノ
車馬ヲ中隊ニ送り其彈藥ヲ補充セシムルコトアリ
第四百九十四 大隊ノ彈藥ハ聯隊長ノ命令ニ基
キ之ヲ補充ス之カ爲大隊長ハ適時彈藥ノ現況ヲ
聯隊長ニ報告シ要スレハ其補充ヲ請求スルモノ
トス但狀況特ニ急ヲ要スルトキハ大隊長ハ直接
聯隊段列ニ請求シ之ヲ聯隊長ニ報告スルモノト
ス（中四四二・攻大八五二）
第四百九十五 大隊長ハ混雜ヲ豫防シ或ハ我カ
配置及企圖ヲ秘匿スル等ノ爲要スレハ彈藥補充
ニ任スル車馬ノ行動ニ關シ規定スルモノトス
第四百九十六 大隊段列長ハ絶エス大隊長ト連
絡ヲ保持スルヲ要ス若自ラ大隊段列ヲ離レ大隊
長ノ許ニ先行セントスルトキハ段列ノ指揮官ヲ
定メ之ニ前進路、到着地點、行進速度要スレハ
警戒及連絡ノ方法等ヲ命令スルモノトス（中四
三四・二九五・三〇二）

前項ノ外大隊段列長ハ大隊長ノ命令ニ基キ第二
篇第七章ニ準シ動作スルモノトス

第四篇 聯隊及聯隊以上ノ

教練

四百九十七 聯隊ハ聯隊長統一指揮ノ下ニ各部
隊竝各機關ノ緊密ナル協同連繫ニ依リ各種ノ狀
況ニ於テ諸般ノ任務ヲ遂行シ得ルモノトス(中
三〇五・大四四四)
第四百九十八 聯隊ノ集合隊形ハ大隊ノ集合隊
形ヲ一線若ハ三(二)線ニ配置ス其距離間隔ハ適
宜之ヲ定ムルモノトス
聯隊長及聯隊觀測班其他ノ位置ハ大隊ノ集合隊
形ニ準ス(中三〇二・大四四六)
第四百九十九 聯隊指揮ノ要領ハ第三篇ニ示ス
諸法則ヲ準用スルノ外本操典「戰鬪原則」竝戰鬪
綱要ニ掲クル戰鬪ノ原則ニ據ルモノトス
第五百 聯隊以上ノ部隊ヲ以テ行フ教練ハ第四
百九十七乃至第四百九十九ノ趣旨ヲ準用スヘキ
モノトス

重砲兵第一篇乃至第四篇(第五百一乃至第八百
七十八)省略

戰鬪原則

第一篇 野戰砲兵及攻城重砲兵

通則

第八百七十九 砲兵ハ高級指揮官ノ企圖ニ基キ
協力スヘキ他兵種特ニ歩兵ト絶エス緊密ナル連
繫ヲ保持シ常ニ機先ヲ制シ適時適所ニ其特性ヲ
發揮シテ敵ヲ壓倒スルモノトス
第八百八十 砲兵ハ其種類ニ依リ各ノ特性ヲ異
ニス
野砲ノ特性ハ運動ノ輕捷、射擊速度ノ大、彈道
ノ低伸、射距離ノ長大、方向移動ノ容易ナルニ
在リ而シテ野砲兵ハ暴露セルカ若ハ掩護不十分
ナル各種活目標ヲ殺傷シ或ハ障碍物ヲ破壊スル
ニ適ス
騎砲ノ特性ハ野砲ニ比シ一層運動ノ輕快ナルニ
在リ

山砲ノ特性ハ野砲ニ比シ射距離短小ナルモ彈道
比較的彎曲シ且各種ノ地形ニ於ケル行動容易ニ
シテ而モ地形ノ利用便ナルニ在リ而シテ山砲兵
ハ第一線歩兵ニ近ク行動セシメ或ハ特種ノ地形
ニ於テ使用スルニ適ス
十五榴ノ特性ハ野砲ニ比シ運動性及射擊速度共
ニ小ナルモ彈道彎曲シ彈丸ノ威力強大ナルニ在
リ而シテ此砲兵ハ野、山砲ノ死角内ニ在ル目標
又ハ稍、堅固ナル術工物ヲ射擊シ若ハ野、山砲
兵ト併用シテ精神的效果ヲ増大スルニ適ス
十加ノ特性ハ射距離ノ長大、彈道ノ低伸、長距
離運動ノ迅速、方向移動ノ容易ナルニ在リ而シ
テ此砲兵ハ遠距離對砲兵戰其他ノ遠戰ヲ行フニ
適ス
二十四榴ノ特性ハ方向射界廣ク其移動モ亦容易
ニシテ且彈道彎曲シ特ニ彈丸ノ威力強大ナルニ
在リ然レトモ運搬及備砲作業等ノ爲特種ノ材料
竝時日ヲ要ス而シテ此砲兵ハ堅固ナル術工物ノ
破壊竝之ニ據レル敵ヲ殺傷スルニ適ス

十五加ハ運動性概ネ二十四榴ニ同シキモ射距離ノ長大、彈道ノ低伸、射擊速度ノ大ナルヲ異ナリトス而シテ此砲兵ハ遠距離ノ對砲兵戰其他ノ遠戰ヲ行フニ適ス

第八百八十三 砲兵配置一般ノ要領ハ高級指揮官ノ企圖ニ基キ各種砲兵ノ特性ヲ遺憾ナク發揮シ適時必要ナル方面就中決戰ヲ企圖スル方面ニ砲火ノ最大威力ヲ發揚シ得ル如クスルニ在リ然レトモ狀況ノ變化ニ對應シ得ルコトヲモ顧慮セサルヘカラス又一部ノ砲兵ヲ以テ斜射、側射シ得ル如ク配置スルヲ有利トスルコトアリ特ニ防禦ニ於テ然リトス(戰二九)

第八百八十四 砲兵ハ狀況之ヲ要スルトキハ猛烈ナル敵歩火ヲモ敢テ忌避スルコトナク敵ニ近接シテ砲火ノ最大威力ヲ發揚シ或ハ敵ノ肉薄ニ對シ毅然トシテ戰鬪ヲ繼續シ以テ友軍歩兵ニ有形無形上至大ノ援助ヲ與ヘサルヘカラス

第一章 軍隊區分、任務及戰鬪區域

障礙物其他ノ陣地設備ノ破壞
對砲兵戰、交通遮斷、擾亂等ノ遠戰
第八百九十一 師團砲兵指揮官ハ師團長ノ企圖
ニ基キ通常部下諸隊ヲ特ニ區分スルコトナク概
ネ建制ノ各部隊ニ對シ機ヲ失セス狀況ノ推移ニ
應スル任務ヲ與ヘ戰闘セシムルモノトス而シテ
戰闘ニ關スル諸準備ヲ周到ナラシムル爲所要ノ
事項ハ成ルヘク速ニ之ヲ指示スルヲ要ス特ニ步
砲兵ノ協同ヲ適切ナラシムル爲必要ノ部隊ニ對
シテハ主トシテ其直接協同スヘキ一定ノ步兵部
隊及之カ時期ヲ豫メ指定シ置クヲ要ス(戰三〇)
狀況就中豫期スル戰況、砲兵ノ兵力、編組等ニ
依リテハ必要ノ部隊ヲ當初ヨリ區分シ直接協同
砲兵群(以下直協砲兵群ト稱ス)ト爲シ之ニ戰闘
ノ主要ナル各期ヲ通シ主トシテ一定ノ步兵部隊
ニ對シ直接協同スヘキ任務ヲ與フルヲ有利トス
而シテ直協砲兵群ニハ勉メテ師團固有ノ砲兵ヲ
以テ充ツルヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ直協砲兵群ハ主トシテ其直接

協同スヘキ步兵部隊ノ爲直接支援、阻止並障礙
物其他ノ陣地設備ノ破壞等直接協同ノ任務ニ服
スルモノトス然レトモ師團砲兵指揮官ハ直協砲
兵群ヲシテ戰闘ノ初期ニ於テハ對砲兵戰等ノ任
務ニ又狀況ニ依リ他ノ步兵部隊ノ爲直接協同ノ
任務ニ服セシムルコトアリ而シテ爾後ノ砲兵部
隊ヲシテ所要ニ應シ其火力ヲ直協砲兵群ニ増加
セシム
師團砲兵隣接兵團ノ戰闘ニ協力スルヲ要スルト
キハ通常直協砲兵群以外ノ部隊ヲシテ之ニ當ラ
シムルモノトス
第八百九十二 軍直轄砲兵ハ主トシテ遠距離ノ
對砲兵戰ニ、所要ニ應シ陣地設備ノ破壞並交通
遮斷、擾亂等ノ遠戰ニ任シ且戰機ニ應シ第一線
師團ノ戰闘ニ協力スルモノトス(戰二八)
第八百九十三 砲兵ノ軍隊區分ヲ爲スニ方リテ
ハ高級指揮官ノ企圖、狀況就中豫期スル戰況、
砲兵ノ兵力、編組並戰闘準備ノ爲使用シ得ヘキ
時間ノ長短等ヲ考慮シ特ニ主要ナル時期ニ於テ

最モ適切ニ任務ヲ遂行シ得ル如ク之ヲ定ムルノ
外左ノ事項ニ著意スルヲ要ス
同一若ハ近似セル任務ニ使用スヘキ砲兵ハ勉
メテ之ヲ同一區分内ニ編合スルコト
勉メテ建制ヲ維持スルコト
一指揮官ノ指揮單位數ハ指揮ヲ容易ナラシム
ル爲成ルヘク四箇ヲ超過セサルコト
戰況ノ推移ニ應シ特ニ一區分内ノ編組ニ變更
ヲ要スルカ又ハ第一線步兵部隊ニ砲兵ノ配屬
ヲ豫期スル場合ニ於テハ當初ノ區分ニ方リ豫
メ之ヲ顧慮シ置クコト
第八百九十四 戰闘區域ハ射擊ヲ擔任スヘキ範
圍ヲ明ナラシムルモノニシテ高級指揮官及砲兵
各級指揮官ハ所要ニ應シ之ヲ命令スルモノトス
師團砲兵ノ戰闘區域左右ノ限界ハ別命ナケレハ
直協砲兵群ニ在リテハ協同スヘキ步兵部隊ノ戰
闘區域ノ境界ニ、爾餘ノ部隊ニ在リテハ師團作
戰地域ノ境界ニ一致スルモノトス而シテ直協砲
兵群ノ協同スヘキ步兵部隊ノ行動ヲ其戰闘區域

外ヨリ妨害スル敵ノ近戰火器、側防機能等ヲ射
擊スルハ通常當該直協砲兵群ノ任務トス
軍司令官ハ師團砲兵ト軍直轄砲兵トノ任務ノ分
界ヲ示ス爲戰闘區域ヲ以テ之ヲ律シ或ハ軍直轄
砲兵ニ目標ノ種類時トシテ單ニ達成スヘキ目的
ノミヲ示シ戰闘セシムルモノトス
師團砲兵ト軍直轄砲兵トノ任務ノ分界ヲ戰闘區
域ヲ以テ律スル場合ニ於テハ其境界ハ軍司令官
ノ企圖、戰闘ノ特質、敵情、師團砲兵及軍直轄
砲兵ノ兵力、編組等ニ基キ定メラルモノトス
テ要スルハ戰況ノ推移ニ應シ之ヲ變更シ又時ト
シテ對砲兵戰ノ爲別ニ戰闘區域ヲ定メラルコ
トアリ
軍直轄砲兵ノ戰闘區域左右ノ限界ハ戰術上ノ要
求、正面ノ廣狹、軍直轄砲兵ノ兵力、編組等ニ依
リ軍ノ重要ナル方面ニ限定シ或ハ全正面ト爲ス
第八百九十五 高級指揮官及砲兵各級指揮官ハ
所要ニ應シ戰闘區域以外ニ對シ射擊ヲ準備スヘ
キ區域ヲ命令スルモノトス

第二章 陣地偵察及展開

第八百九十六 陣地偵察及展開機宜ニ適シ且之ヲ敵ニ秘匿シ得ハ既ニ成功ノ第一歩ヲ占メタルモノトス

第八百九十七 砲兵指揮官ハ戰闘ノ爲ノ前進間機ヲ失セス高級指揮官ノ企圖、彼我ノ狀況並一般ノ地形ヲ知ルノ便ヲ得ンカ爲必要ナル人員ヲ隨ヘ通常高級指揮官ト同行スルモノトス(戰八三)

第八百九十八 砲兵指揮官ハ前進ニ方リ進路偵察ノ目的ヲ以テ要スレハ斥候ヲ先遣スルモノトス(戰七五)

主力縱隊以外ノ縱隊ノ高級先任ノ砲兵ノ指揮官モ亦前項ニ準ス
第八百九十九 砲兵指揮官ハ概ネ戰場ヲ豫想シ得ルニ至レハ全般ノ狀況ヲ判斷シ展開ヲ準備スル爲適時斥候ヲ派遣シ地形一般ノ狀況ヲ偵察シテ砲兵ノ使用ニ關スル資料ヲ收集スルヲ要ス

敵ニ接觸ノ機近ツクニ至レハ砲兵指揮官ハ既ニ得タル諸情報ヲ綜合シ且彼我ノ狀況並地形ヲ觀察シ機ヲ失セス高級指揮官ニ所要ノ意見ヲ具申スルヲ要ス

第九百 砲兵指揮官ハ狀況特ニ高級指揮官ノ企圖ニ基キ陣地偵察ヲ行ヒ且適時部下指揮官ヲ招致シ之ニ所要ノ命令ヲ與ヘ機ヲ失セス偵察及諸準備ニ著手セシムルヲ要ス

砲兵指揮官ニアラサル砲兵各級指揮官ハ上級指揮官ノ命令ニ基キ各、其任務達成ニ必要ナル陣地偵察ヲ行フモノトス

第九百一 砲兵各級指揮官ノ陣地偵察ハ其職域及狀況ニ依リ精粗ノ差アルモ自ラ現地ニ就キテ行フヲ本則トス然レトモ狀況ニ依リ自ラ行フ現地偵察ノ一部若ハ大部ヲ省略シ部下ヲシテ實施セシムルコトアリ

第九百二 砲兵各級指揮官ハ陣地偵察ヲ完全ナラシメ若ハ特ニ戰機ニ適合セシメンカ爲所要ニ應シ斥候ヲ派遣シ或ハ部下諸隊ニ偵察地域ヲ配

當シテ偵察ヲ實施セシムルモノトス此際任務ヲ明確ニ示スコト必要ナリ

第九百三 砲兵陣地ハ常ニ任務、狀況及火砲ノ特性ニ適合シ且同一陣地ヨリ戰闘ノ經過ニ伴ヒ其任務ヲ達成シ得ルコト肝要ナリ然レトモ完全ナル陣地ヲ發見スルハ通常期シ難キヲ以テ強ヒテ最良ノ陣地ヲ求メント欲シ却テ戰機ヲ逸スルカ如キコトアルヘカラス

第九百四 陣地偵察ニ方リ偵察スヘキ主要ナル事項左ノ如シ
自己ノ觀測所要スレハ補助觀測所

部下諸隊ノ占領地域
進入地域又ハ進入路

段列ノ位置
射撃ノ準備、敵情搜索、射彈觀測、連絡等ニ關シテハ前項ノ事項ニ關聯シテ所要ノ偵察ヲ行フヲ要ス

第九百五 砲兵各部隊ノ占領地域ハ各、其任務ニ基キ指揮、敵情搜索、射彈觀測及連絡ノ便ヲ

主トシ尙他兵種部隊ノ行動、他ノ砲兵部隊ノ占領地域等ヲ顧慮シテ選定スルモノトス而シテ直協砲兵群ノ陣地ハ歩兵トノ連絡ノ保持ヲ容易ニシ協同ニ最モ便ナラシムル爲協同スヘキ歩兵部隊ノ後方ニ選定スルヲ通常トス

第九百六 觀測所ハ砲兵各級指揮官ノ職域並任務ニ應シ彼我ノ狀況及射撃效果ノ觀察又ハ射彈觀測ニ便ニシテ且連絡容易ナルコトヲ考慮シテ選定スルモノトス而シテ砲兵指揮官ノ位置ハ成ルヘク高級指揮官ノ位置附近ニ選定スルコトニ勉ムルヲ要ス(中三六六・大四四九)

觀測所ハ戰況ノ推移又ハ敵火ノ狀態ニ依リ其用ヲ爲ササルニ至ルコトアルヲ以テ豫メ別ニ之カ位置ヲ選定シ且所要ノ設備ヲ爲シ置クヲ可トスルコトアリ

第九百七 戰況並射撃效果ノ觀察、射彈觀測、敵情搜索等ノ爲所要ニ應シ補助觀測所ヲ設備ス

ルモノトス而シテ其位置ハ任務ニ應シ適當ナル
 視界ヲ有シ且連絡ニ便ナルヲ要ス(中三三六)
第九百八 觀測所及補助觀測所ハ敵ノ搜索ヲ困
 難ナラシメ且敵火ノ效力ヲ減殺スル爲メ地
 形ヲ利用シ適宜之ヲ分散シテ配置スルコト必
 ナリ而シテ觀測所ヲ高所ニ集團セシムルハ特
 之ヲ避クルヲ要ス又山地等ニ於テ各部隊ノ觀測
 所及補助觀測所ヲ同標高ノ地點ニ配置スルトキ
 ハ雲霧ノ爲同時ニ目視ヲ奪ハルルコトアルニ注
 意スヘシ
 各觀測所及補助觀測所内部ノ配置モ亦適宜分散
 セシムルヲ可トス
 地形上各觀測所ノ視界小ナルトキハ特ニ此等ノ
 配置及連絡施設ヲ適切ニシ以テ綜合視界ヲ大
 ラシムルヲ要ス
第九百九 進入地域又ハ進入路ハ砲兵ノ種類及
 兵力、進入時期ニ於ケル明暗ノ度等ニ依リ異ナ
 ルモ能ク戰機ニ適合シ且成ルヘク掩蔽良好ニシ
 テ行動容易ナルコトヲ主眼トシテ選定スルモノ

トス(野中三三四・大八三〇)
第九百十 段列ノ位置ハ成ルヘク敵眼、敵火ニ
 掩蔽シ交通自在ニシテ且彈藥補充及自衛ニ便ナ
 ルヲ要ス而シテ狀況特ニ地形ニ依リ之ヲ數箇所
 ニ分置スルヲ可トスルコトアリ(野中三三五四)
 彈藥集積所ノ位置選定ノ要領モ亦前項ニ準ス
第九百十一 陣地偵察ノ動作ハ最モ敏活ナルヲ
 要スルト共ニ周到ナル注意ヲ以テ我カ企圖ノ秘
 匿ニ勉ムルコト肝要ナリ之カ爲陣地附近ノ往復
 ハ之ヲ最小限ニ止メ馬及車輛ハ成ルヘク集團ヲ
 避ケ且爲シ得ル限リ掩蔽セシムルヲ要ス
第九百十二 陣地偵察ニ方リテハ他部隊特ニ既
 ニ戰鬪中ノ砲兵並直接協同スヘキ歩兵部隊トノ
 連絡ニ勉ムルヲ要ス
第九百十三 夜暗ヲ利用シテ展開シ又ハ陣地ヲ
 推進セントスルトキハ爲シ得ル限リ晝間ニ於テ
 又增加砲兵ノ陣地或ハ爾後占領ヲ企圖スル陣地
 ハ緊要ノ度ニ應シテ豫メ偵察ヲ行ヒ且爲シ得ル

限リ諸設備ヲ實施シ置クヲ要ス(中三七〇・大四
 五六)
第九百十四 砲兵指揮官ハ高級指揮官ノ命令ニ
 基キ敵情、地形、自己及關係部隊ノ任務並兵力
 等ヲ考慮シテ部下諸隊ノ部署ヲ定メ展開ヲ行フ
 モノトス(野大四五乃至四七〇・攻大八二八乃
 至八四七)
第九百十五 砲兵指揮官ハ展開ノ爲彼我一般ノ
 狀況、高級指揮官ノ企圖、關係アル兵團若ハ
 歩、砲兵部隊ノ行動ノ概要、自己ノ企圖、軍隊
 區分、各部隊ノ任務、戰鬪區域、占領區域要ス
 レハ觀測所配置地域、進入地域又ハ進入路、進
 入ノ時機及方法、射撃ノ諸準備特ニ其實施要領
 及效力射準備ノ爲ノ射撃時期等ニ關シ戰機ニ適
 合スル如ク所要ノ事項ヲ命令スルモノトス(野
 大四五・攻大八二八)
 前項ノ外射撃任務、效力射開始ノ時機、敵情搜
 索及情報收集、連絡、歩兵配屬砲兵、陣地設備
 陣地變換、彈藥等ニ關スル事項ハ狀況ニ應シ適

宜命令スルモノトス
第九百十六 砲兵指揮官ニアラサル大隊長以下
 ノ砲兵各級指揮官ハ第九百十四及第九百十五ニ
 準シテ展開ノ爲所要ノ事項ヲ命令スルモノトス
第九百十七 砲兵ハ機ヲ失セテ優勢ナル火力ヲ
 發揚シテ敵ヲ壓倒スル爲最初ヨリ全部ヲ展開ス
 ルヲ本則トス然レトモ狀況特ニ之ヲ要スル場合
 ニ於テハ砲兵指揮官ハ稀ニ其一部ヲ控置シ使用
 上ノ自由ヲ確保スルコトアリ此場合ニハ行動敏
 速容易ナル砲種ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス
第九百十八 砲兵指揮官砲兵ヲ控置セル場合ニ
 ハ控置部隊ノ指揮官ニ豫メ其目的、豫定占領地
 域、進入地域、控置ノ位置等ニ關シ所要ノ事項
 ヲ命令シ要スレハ關係指揮官ニ所要ノ事項ヲ通
 報シ且展開ヲシテ機ヲ失セシメサルヲ要ス
 控置部隊ノ指揮官ハ控置間敵情、地形ヲ搜索シ
 且所要ノ準備ヲ整ヘ機ヲ失セテ戰鬪ニ加入シ得
 ルコトニ勉メサルヘカラス
 控置部隊ノ展開ハ砲兵指揮官ノ命令ニ依ルヲ通

常トス
 第九百十九 陣地進入ハ勉メテ敵眼ニ遮蔽シ且
 行進交叉等ノ爲混雜ヲ生スルコトナク整齊迅速
 ニ之ヲ實施スルヲ要ス之カ爲進入地域又ハ進入
 路ノ選定、進入ノ時機及方法ヲ適切ナラシメ特
 ニ自動車部隊ノ爲ニハ勉メテ専用ノ道路ヲ配當
 スルカ否サレハ道路ノ専用時期ヲ規定スルコト
 必要ナリ(野中三六一・野大四五六・攻中七二四・
 攻大八三〇・乃至八三三)
 地形上展開ノ爲多クノ時間ヲ要スル場合ニ於テ
 ハ百方手段ヲ盡シテ火炮其他ノ材料ノ運搬方法
 ヲ適切ニシ且爲シ得ル限リ道路ヲ補修シ以テ展
 開時間ヲ短縮スルコトニ勉メサルヘカラス
 夜間ノ陣地進入ニ方リテハ特ニ平易ナル進入路
 ヲ選定シ又各種ノ手段ヲ盡シテ過誤ト混雜トヲ
 豫防シ要スレハ音響防止ノ處置ヲ講スルモノト
 ス
 堅固ナル陣地ヲ攻撃スル場合等ニ於テ攻撃準備
 ヲ敵ニ秘匿スル爲ニハ豫定陣地掩蔽ノ度ト進入

準備ニ要スル作業ノ程度トヲ顧慮シ特ニ進入ノ
 時機及方法ヲ適切ナラシムルコト肝要ナリ
 第九百二十 攻城重砲兵ノ展開ニ關スル計畫ハ
 特ニ火炮ノ種類、地形、運搬材料ノ種類及數量、
 運搬スヘキ距離等ヲ考慮シテ之ヲ定メ其實施ニ
 方リテハ我カ企圖ヲ暴露セサルコトニ就キ全幅
 ノ注意ヲ拂フヲ要ス之カ爲放列陣地及進入路ノ
 選定ヲ適切ナラシムルノ外勉メテ偽裝ヲ實施シ
 又輕便鐵道ヲ使用スル場合ニハ成ルヘク其端末
 ヲ眞陣地ノミニ止ムルコトナク之ヲ偽陣地ニ導
 クカ又ハ特ニ偽設線ヲ構成シ或ハ眞陣地ニハ夜
 間ノミ運送シ晝間ハ偽陣地ニ對シテ運送スル等
 各種ノ欺騙手段ヲ講スルヲ可トス
 第九百二十一 陣地ヲ占領シアル砲兵各部隊ハ
 自衛ノ爲所要ニ應シ斥候ヲ派遣シ其他適宜ノ處
 置ヲ講スルヲ要ス
 第九百二十二 砲兵ハ所要ニ應シ敵眼ニ遮蔽シ
 テ迅速ニ占領シ得ル豫備陣地ヲ選定シ且狀況ノ
 許ス限リ射撃ノ諸準備ヲ整ヘ彈藥ヲ整備シ置ク

コト肝要ナリ防禦ニ於テ特ニ然リトス(攻大八
 第九百二十三 長時日間同一陣地ニ在ル砲兵部
 隊特ニ中隊ハ各陣地毎ニ陣地記録ヲ作爲シ其陣
 地ニ在リテ戰闘スルニ必要ナル事項ヲ記載スル
 モノトス(野中四二〇)

第三章 連絡

第九百二十四 連絡施設ノ大綱並連絡上統制ヲ
 要スル事項ハ高級指揮官ヨリ命令セララルモノ
 トス
 第九百二十五 砲兵各級指揮官ハ上級指揮官、
 部下諸隊、直接協同スヘキ歩兵部隊要スレハ爾
 後配屬セラレヘキ部隊トノ間ニ又狀況ニ依リ隣
 接部隊トノ間ニ直接ニ連絡ヲ確保スルモノトス
 (戰六〇)
 砲兵ト他部隊トノ間ノ連絡施設ハ砲兵他部隊ニ
 協同スル場合ニ於テハ砲兵主トシテ之ヲ實施ス
 ルモノトス又砲兵ニ協力スヘキ部隊トノ間ノ連
 絡ニ關シテハ高級指揮官ヨリ命令セララルヲ通

常トス
 第九百二十六 砲兵各級指揮官ハ任務ニ基キ狀
 況及連絡機關ノ性能ヲ考慮シ戰闘各期ニ於ケル
 連絡箇所、連絡網構成ノ順序及完成又ハ變更ノ
 時機、連絡擔任區分、通信等ニ關シ所要ノ事項
 ヲ命令スルモノトス
 第九百二十七 砲兵ノ指揮用通信網ハ勉メテ之
 ヲ獨立セシメ又狀況之ヲ許ストキハ連絡並情報
 用通信網ヲモ各々獨立セシムルヲ可トス
 第九百二十八 砲兵指揮官高級指揮官ト離隔セ
 ル場合ニ於テハ該指揮官ノ許ニ連絡將校ヲ派遣
 スルモノトス
 第九百二十九 師團砲兵指揮官隣接兵團砲兵ノ
 協力ヲ受クル場合ニ於テハ該砲兵トノ間ニ所要
 ノ連絡施設ヲ完成シ置クコト必要ナリ
 第九百三十 砲兵ト砲兵任務ノ航空部隊(砲兵
 ニ協力若ハ配屬ノ航空部隊ヲ謂フ)トノ間ノ通
 信網ハ高級指揮官ノ位置ヲ經由スルヲ通常トス
 ルモ氣球隊トノ間ニハ爲シ得ル限リ直通ノ電話

網ヲ構成スルヲ要ス
第九百三十一 砲兵各級指揮官ハ砲兵上級指揮官トノ間ニ連絡施設ヲ爲スヲ通常トスルモ狀況ニ依リ上級指揮官ニ於テ之ヲ統制シ或ハ上級指揮官ヨリ下級指揮官ニ對シ構成スルコトアリ
第九百三十二 步兵ニ直接協同スヘキ砲兵ノ指揮官ハ戰闘開始前成ルヘク協同スヘキ第一線歩兵ノ指揮官ト會同シテ所要ノ協定ヲ遂ケ以テ協同ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス而シテ戰闘ニ方リ此等ノ指揮官同一地ニ位置シ得サルトキハ砲兵ノ指揮官ハ步兵ノ指揮官ト確實ナル連絡ノ手段ヲ講スルモノトス(步操八〇〇)
第九百三十三 步兵ニ直接協同スヘキ砲兵ノ指揮官ハ速ニ彼我第一線ノ狀況竝第一線部隊ノ企圖及要求ヲ知悉スルヲ要ス之カ爲大隊ヨリ其連絡班ヲ第一線歩兵聯隊長ノ許ニ派遣スルヲ通常トス若連絡班ヲ協同スヘキ第一線歩兵各聯隊ニ對シ派遣シ得サル場合ニハ重要ナル方面ニ之ヲ派遣ス此際其他ノ部隊ニ對シテモ勉メテ連絡ノ

手段ヲ講スヘキモノトス(步操八〇〇)
第九百三十四 隨伴砲兵及步兵配屬砲兵ハ常ニ第一線歩兵ノ指揮官ト密接ナル連絡ヲ保持スルヲ要ス而シテ彈藥及人馬、材料ノ補充ヲ適切ナラシムル爲隨伴砲兵及其所屬砲兵部隊ハ相互ニ緊密ニ連絡シ步兵配屬砲兵モ亦勉メテ原所屬部隊ト連絡ヲ保持スルヲ要ス(步操八〇〇)
第九百三十五 連絡班ハ將校ヲ長トシ之ニ所要ノ下士、兵卒及通信機關ヲ配屬スルモノトス連絡班ハ主トシテ步兵聯隊長ニ其所屬部隊ノ配置、戰闘力、射擊實行ニ關スル計畫竝陣地變換ニ關スル事項等ヲ通報シ又適時所屬砲兵ノ指揮官ニ彼我第一線ノ狀況、步兵ノ指揮官ノ企圖及行動竝第一線部隊ノ行動豫定、砲兵射擊ニ關スル要求要スレハ約東通信等ヲ報告スルヲ任トス而シテ連絡班ハ通常射彈觀測ノ任務ヲ兼ヌルモノトス
第九百三十六 連絡班長ハ連絡スヘキ步兵聯隊長ノ許ニ位置スルヲ通常トスルモ狀況ニ依リ自

ラ第一線歩兵大隊長ノ許ニ到リ或ハ連絡下士ヲ分派スルコトアリ
 連絡班長ト所屬砲兵ノ指揮官トノ間及連絡班長ト分派セル連絡下士トノ間ノ連絡ノ爲ニハ其通信機關ヲ使用スルモノトス
第九百三十七 連絡ニ任スル將校ハ所屬砲兵ノ指揮官ノ意圖ヲ詳知シ所屬部隊ノ狀況特ニ戰闘力及射擊實行ニ關スル計畫ニ通曉シ且連絡スヘキ部隊ノ狀況ヲ承知シ成ルヘク該部隊ノ指揮官ト相識ル者ナルヲ可トス從テ同一人ヲ以テ常ニ某部隊トノ連絡ニ充ツルヲ得ハ最モ有利ナリ(野大四五一・同四五二)

第四章 測地及氣象

第九百三十八 砲兵指揮官ハ高級指揮官ノ企圖ニ基キ狀況特ニ地形及戰闘準備ノ爲使用シ得ヘキ時間ノ長短等ヲ考慮シ測地ノ要領ヲ定ムルモノトス
 戰闘ノ主要ナル各期ヲ通シ火力運用ノ爲協同連

繫ヲ要スル各部隊ノ測地ハ狀況ノ許ス限り之ヲ統一スルヲ本則トス之カ爲最初ヨリ各部隊ノ測地ヲ統一スヘキヤ或ハ先ツ各部隊毎ニ之ヲ實施セシメ爾後適宜之ヲ統一スヘキヤハ一ニ狀況ニ依ルモノトス
 戰闘準備ノ爲時間ノ餘裕ヲ有スルトキハ砲兵上級指揮官又ハ軍司令官ハ最初ヨリ爲シ得ル限り廣範圍ニ互リ測地ヲ統一スルモノトス
第九百三十九 砲兵指揮官測地ノ要領ヲ決定セハ部下諸隊ニ測地統一ノ範圍、測地地域要スレハ特ニ重要ナル方面、作業開始及其完成ノ時機測地機關ノ使用、作業ノ順序等ニ關シ所要ノ命令ヲ與ヘ作業ヲ實施セシムルモノトス(野大四七六・攻八三八)